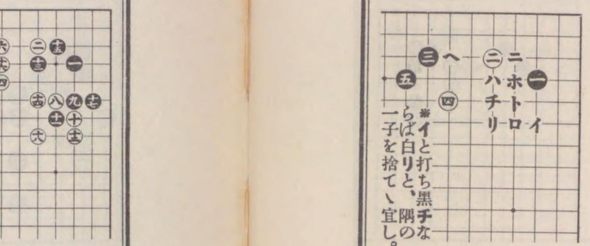
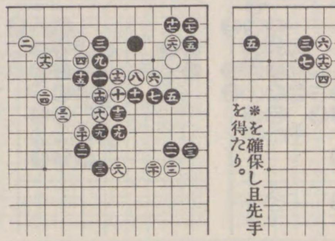
〔三五五一〕
黒惡しからず
橋本宇太郎五段
前田陳爾五段
先番勝
黒七と尖附け、九一と押す手、簡明にして形も亦惡しからず。

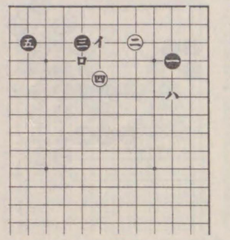
〔三五五二〕
要點約言（上）
（第三八型へのニ）
黒五なれば、白には臨機應變の種々なる手段あり。何れも四を活用して、黒一を攻撃すべく、之れにイロハニなどの手あり。

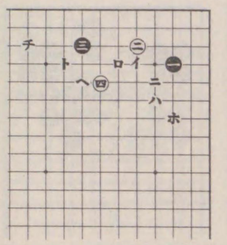
〔三五五三〕
要點約言（中）
（第三八型へのニ）
白イ或はロと打つ手は次に黒ハと尖めれば白ニ。又黒ハと白ヘ、黒ホ、白ニと打ち白の形善し。但し此場合白イよりはロを取※

〔三五五四〕
要點約言（下）
（第三八型へのニ）
次に白イ又はロと一路狭く攻むる手。黒一次にハならば、白ニ、黒ホ、白ヘと打ち前圖と同意味の結果、外勢白厚壮なれど黒は隅※を確保し且先手を得たり。

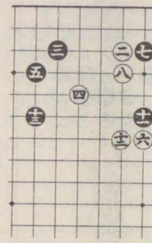




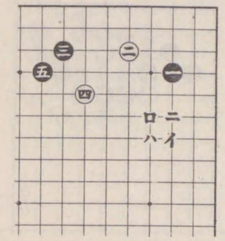




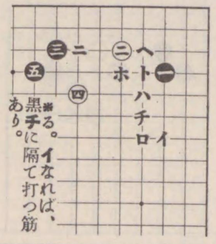
〔三五五五〕
基本圖
（第三八型へのニ）
黒五は前圖イの應なれど同意味の着一手、簡明にして形も亦惡しからず。



〔三五五六〕
白やゝ不可
黒■に應じたる時は白一と附けるを善し。黒二と行びれば白三と攻撃すべし。白十三まで黒イとなり、次に黒イに打たば白にロの筋あり。

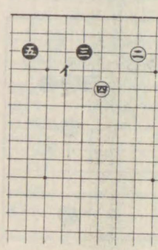


〔三五五七〕
黒嵌手に陷る
黒四惡し。白に五、七及び■の二子働きて黒の形甚だ拙し。

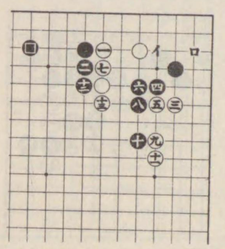


〔三五五八〕
黒分裂す
黒六ならば、白七と切るべし。白十一造となりては黒の石分せられ、猶隅の黒にも一着を要する形なり。

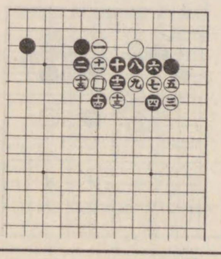
〔三五五九〕
白の勢善し
黒四ならば、白五手筋。黒六にて七に打たば白イ、黒一、白六、白八、黒ロ、白九、黒ニ、白ヘ、黒ト、白ホ、黒チと打つて、白の形善し。



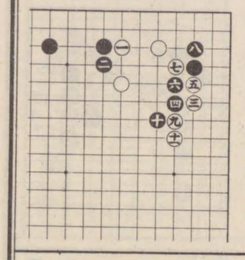
〔三五六〇〕
黒嵌手に陷る
黒二は白の手段に陷る。白三、五豫定の行動。黒十猶惡し。此手にては黒ロと白十、白イと打つ位のものなり。（八粘）（十粘）



〔三五六一〕
白働きある形
黒八に應じなば白劫提り次に十一に黒十二と攻撃すべし。十三と上隅の白輕快にして宜し。（九劫トル）



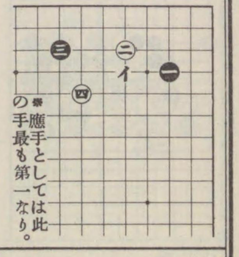
〔三五六二〕
白可なり
黒一堅實なれど白に三と打たれては如何にも善し。

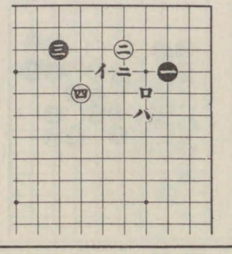


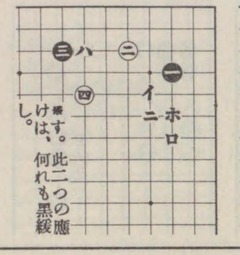
〔三五六三〕
互角の分れ
岩本　薫六段
先番前田陳爾三段
勝

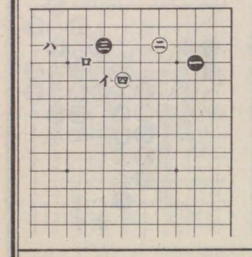
〔三五六四〕
形勢互角
勝　小島春一四段
先番鈴木秀子三段
勝

白八ならば黒九、十八迄の結果、外勢白厚壮なれど黒は隅※の手最も第一なり。









〔三五六五〕
要點約言（一）
（第三八型へのニ）
黒五と拓かば白イと附け黒ロの時白ハと攻めて白好調なり。

〔三五六六〕
要點約言（二）
（第三八型全部）
白四、時に面白き手段なり。黒これに對してイ以下チ迄八ッの應手あり。

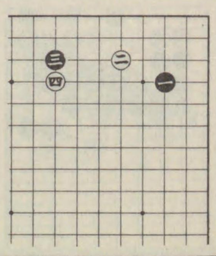
〔三五六七〕
要點約言（三）
（第三八型全部）
前變化に依りて以下研究する點の可否をイの附けは變化明にして、結果も亦惡しからず。故に白四に對する※

〔三五六八〕
要點約言（四）
（第三八型全部）
次に黒イは白にロと打たれて黒好まず。又ハと應ずる手も一造となりては意味を守るに於て前のニと共に此形に於ける善き應手なり。

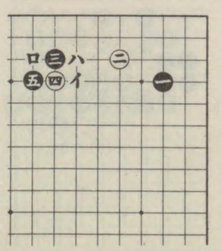
〔三五六九〕
要點約言（五）
（第三八型全部）
黒イと尖む手は白ハと附けて白の形宜しく、又黒ロと應ずるも手段なり。黒ホとなりて次に白は四の效力により三の黒を攻撃※

〔三五七〇〕
要點約言（六）
（第三八型全部）
次に黒イロハ等三の方面に應ずるの手は白より一形の石を攻めらるゝ故に、特別の場合の外は黒好まず。

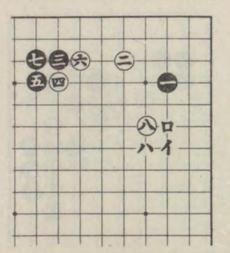
〔三五七一〕
基本圖
（第三九型）
白四と附る手あり。これは古來打ち來りし定型なれど、黒を堅くする故に、白好まず。



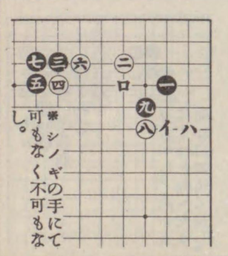
〔三五七二〕
基本圖
（第三九型イの一）
白四の時、黒に五、イ、ロの應手あり。此中五定型なれど、征はイは征の可否にロに依るべく、共に場合の手段なり。



〔三五七三〕
基本圖
（一三九型イの二）
黒五なれば白六、黒七共に必然。次に白ヨより八、イ、ロ等の手段あり。其中八の大斜掛手筋にして善し。



〔三五七四〕
基本圖
（第三九型イの一變化）
白八の時、黒九、イ、ロの應手最後あり。其中九はイは征も宜しく、ロは好まず、又ハは一時※シノギの手にても可もなく不可もなし。



〔三五七五〕
定石

白十二とアテ十四、十六と二段綿せし、は有力なる著理。黒十七、十九堅實なり。時には次圖以下の如く手強く打つも宜し。

〔三五七六〕
場合による

黒、手強く打たんとせば九の綿ね面白からず。次々圖の如く戰ふ形なり。

〔三五七七〕
白利勢

黒十七に取らば、白二十と切りて隅れ白良し。此分と替るべし。

〔三五七八〕
場合による

黒は強く戰はんとせば九、十三と綿ねべし。次に此場合に取るれど黒可なり。

〔三五七九〕
黒利勢

白十六、十八手筋。白三二はいろの征、に備へたるも、止むを得ざれど黒三三迄となりては黒有利。此形次に白ハなれば黒ニ。又白ハにてトは、黒ニ、白ヘ、黒チ。

〔三五八〇〕
黒善し

白四なれば、黒五以下九と平易に打つべし。斯くなりし時、白□△との交換を見るに白悪し。

〔三五八一〕
場合による

白四、奇策。無理に見ゆるも、時に甚だ面白し。黒五良し。白六なれば變化簡單にしてなる位のもの。

〔三五八二〕
形勢互角

白六と行びる手もあり。黒十三の押し、此場合に取る佳手。黒二一、緩し。此形好手筋。白二二、絶

〔三五八三〕
白善し

黒九、十一、好まず。然し斯く打たれば白四、次に十四と附くる手あり、黒悪し。故に前圖の如く打つか、或はイの出を見て十一をロに約へ＊

〔三五八四〕
白厚し

黒九、十一低し。白十二、十四となり白の形厚く、黒悪し。又初めより黒七にて九と綿れば白七、黒十一、白となりて之も白の形厚し。

〔三五八五〕
白悪しからず

黒九、十一と打たば、白十四に走りて結果白悪しからず。白二八以下、或は劫となる意味、或は此處白は着手を輕くすれば宜し。

〔三五八六〕
形勢不明

黒十五なれば白圖の如く二迄にて打ちて活なり。黒二五を白二五に、此二點は共に肝要。

〔三五八七〕
白好形

黒五悪し。又黒五に切るも白六と切りて隅れ白良し。此分と替るべし。

〔三五八八〕
中央戰となる

白二と行びる手あり。次に黒三と押し、五、七と切る手順善し。白十二黒二を□にて打抜かば黒十五の切、若し無事を欲れば次圖の如く打つて善し。

〔三五八九〕
黒やゝ利勢

黒十五の手順良し。白十六なれば黒十七にて隅の黒地確定せり。

〔三五九〇〕
黒優れり

白十六に粘がば黒十七の切りを打ち後に二、二三を利かす手順となりて良し。

〔三五九一〕
黒善し

白十六なれば、黒十七とアテ次に十九と切るべし。此形黒善し（次圖と比較）白十九、白二十、黒二一、白□、黒ハ。

〔三五九二〕
場合による

時には黒十三、十五と先づ隅を堅める手あり。此形、白厚くなりしも黒又イの方面に多少の手段あり。

〔三五九三〕
白可なり

黒七より綽れば、白八、十と取つて善し。黒十五の手順悪しとならば黒□の如き結果となら以下の三子甚だ弱し。白中の三子を捨つるも形勢白優利なり。

〔三五九四〕
力戰を要す

黒七と打ち以下十三、十五と切りて戰ふ手あり。黒二以下白十一止むを得ず。互角の結果なり。

〔三五九五〕
黒利勢

白五、打過ぎなり。黒六、次に八と切りて良し。

〔三五九六〕
形勢互角

黒三、五と打つ手あり。形より見るに黒三と打ち白に四と粘がすは黒悪しきも、白又六の形悪しければ互角の分れなり。

〔三五九七〕
場合による

黒は圖の如く九、十一と綽ね戰ふ手あり。斯くならば白の點黒共に要處。

〔三五九八〕
互角の分れ

白二と引きたる時は黒三以下先づ順當の應答。白八に黒九と飛ばし、白十止むを得ず。互角の結果なり。

〔三五九九〕
黒良し

白二と下る手、此形にては打過ぎなり。白六にて十一へ打たば黒イ。

〔三六〇〇〕
白の形重し

白四に粘ぐも黒五と打つべし。次に黒イ、ロの見合ひにて前圖よりも此形白悪し。

〔三六〇一〕
要點約言（第三九型イの一變化）

白八に對しては黒九の尖頂よし。次に白ハイなれば黒イ。又白ニ、黒ロ、白ホ、黒ヘ。或は白ハ※

〔三六〇二〕
基本圖（第三九型イの一變化）

黒九なれば白必ず十。次に黒十一に切るの可否に關係あり。此結果は

〔三六〇三〕
定石

白若し征悪しく十六にてイに引かば黒十六と活動して黒善し。

〔三六〇四〕
白やゝ有利

黒七と打たば白勿論八、十。此形白は隅に確固たる地を占領したれば、□□と●●との交換は白悪しきも、全體の形は白利勢なり。

〔三六〇五〕
黒勢善し

白四、六やゝ無理筋。黒九と行び十七までとなりては白悪し。

〔三六〇六〕
黒やゝ優勢

白四と引く手は圖の如く征に抱へられぬ場合止むを得ず用ゆる手にしかず。好くは三一七圖とはらず。三一七圖とは□□△△の有無の相違あれど變化略々同じ。

〔三六〇七〕
攻合黒敗

白六本這ひし時黒なほ一と行びれば白二と走りて攻合白勝なり。

〔三六〇八〕
白勝

黒三に約ふれば白四の突當りにて勝。又黒三をイなれば白ロにてやはり白勝なり。

〔三六〇九〕
白勝

黒三なれば白四と綿出して宜し。黒五をイなれば白五、黒ロ、白ハにて黒に手段なし。

〔三六一〇〕
白悪し

白十以下の手段は黒十五までとなりて白悪し。三三二八圖參照。白□共圖よりも、黒△の交換は一層白△の不利なり。

〔三六一〇〕
黒打過の形

黒十七はすこぶる危險。白十八と切られて窮し、若し上方に黒の配石有りとしても、イロハニ等にては何れも不可、白ホにては黒チ、白リ、黒ヌ、白ル、黒カ、白ヨにて黒四手、形一見白五手なり。此形白四手の如くなるも延びるなり。

〔三六一一〕
黒潰滅

黒イロハ等にあり、前述白のキにて黒負なれば斯く二引きなれば如何。白二と切り二四と打ちて白勝なり。即ち黒ヘにて白ニ、白ホ。黒ニにて白ヌ、黒ヘにて白チ、黒ヌにて白ト。又白リなれば黒オ、白ル、黒四の處ヌ、白ト、黒二、黒ホ、白ワと打つて、三子を閊かす。

〔三六一二〕
征の如何なり

本圖十四迄となりて黒征關係有利なればイに切りて良し。

〔三六一三〕
征の關係

黒七は十一と約へて不可なる場合成立する手段なれど多くは十一一段を優れりとす。白十は征れず。白十は黒イ、白ロの時黒イと尖附くる手あり。

〔三六一四〕
黒やゝ可なり

白四に尖むも、黒同じく五、七と打つ形にして其變化略ぼ三六〇六圖以下と同じ。

〔三六一五〕
白悪しからず

隅にやゝ味あれど、此形白悪しからず。

〔三六一六〕
白の形宜し

黒五、七俗筋にして甚だ悪し。黒十三にてイに綿れば白ロにて黒潰滅の勢。

〔三六一七〕
黒煩はしき形

黒九に粘がば白十、十二の手あり。白き筋なり。黒十三にて四と打たば白十三、黒十六となりて白先手なり。

〔三六一八〕
黒潰滅

白ヨより十八と切られを征に抱へ得ざれば、イと引く外なく、白ロ、黒ハの外なし。白となりては黒滅の形なり、さら黒九にてホと懸粘くの外なし。

〔三六一九〕
黒善し

白若し二と打たば黒三、五にて善し。又白二にて四或はイなれば黒ロと打ちて白□□悪手となれり。

〔三六二一〕
要點約言（上）
（第三九型イの一變化）
黒十一は征の可否による白若し征宜しき時は白イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホにて白可なり。（尤征當りの如何にもよる）。

〔三六二二〕
要點約言（下）
（第三九型イの一變化）
又白征悪しき場合は白イ或はロなれど、黒ハ、白ニ、黒ホにて黒やゝ可なり。

〔三六二三〕
基本圖
（第三九型イの一變化）
白八の時、黒は前二種の應け以外にイロハの應手あり。イは平着にてロは場合によるべし。

〔三六二四〕
定石
白八に對して黒九は著位低けれど、紛れ無き手なり。

〔三六二五〕
白輕快の形
黒一なれば白と暫く放置するも宜しけれど若し打つとすれば白二、四宜し。白六、手筋なり。

〔三六二六〕
白厚し
黒七の綽込みを打ちて九と粘がば白十と打つべし。後手なれど白の形厚し。

〔三六二七〕
黒優れり
白二、悪し。迄となりて黒の外形厚し。なほ隅にも多少の手段殘れり。

〔三六二八〕
黒やゝ有利
白二、四面白から ず。此形黒五と綽返して宜し。白十八にて十九なれば黒イ、白ロ、黒ハにて白の形薄し。

〔三六二九〕
黒勢やゝ優る
黒十三なれば白十四に粘くべし。白十六にては、無事に打たんとすれば十九のカケ。されば前變化と得失略同じ。

〔三六三〇〕
白低し
白四と二段綽する手は、前變化の中に此手あれども位低くして好まず。されば黒九の多く白ハ、黒ニ。又白イなれば黒ロ、白ホにて黒ハなれば（次圖）。

〔三六三一〕
黒優勢
白十なれば、黒十一以下隅の四子を捨て外勢を張るべし。

〔三六三二〕
場合による
（四手拔）
黒は三に先立ち一と堅實を主とする手あり場合に此手段善し。白二輕し。

〔三六三三〕
白の形整へり
黒三、五は白の手段に乗り。白四以下豫定の手段なり。十の掛粘となりては、白好形を得たり。（九粘）

〔三六三四〕
黒やゝ可なり
白二、かゝり形に於ける常用の手筋なれど此場合には效力薄し。白八にては九と行びれば、白ロ、黒イ、白二、黒十三。次に十四と打たば白ハに拓て此點は實に夾み返すべし。此形の最緊要の處なり。

〔三六三五〕
黒好まず
黒一好まず。此形白◎の一着有效。次に攻むるもロ或はハと拓て黒五、白五、黒六、白五、或はイと行びるも良し。

〔三六三六〕
黒可なり
白四と約ふる手は黒に五と行びらるゝ八の缺陷を狙はるる。此形白好まず。

〔三六三七〕
場合による
黒九にて十と約ふれば白イ、黒ロと綽ねて白悪しからず。十一まで の形次に黒ハと置く筋あり。

〔三六三八〕
黒悪しからず
黒九と約へ、十一手に切取りを先手に打ち次に十三と打つも手なり。斯く打つて十七と打て五、十七と打てば上邊の黒堅し。

〔三六三九〕
白可なり
黒三の手あり。白四を活用する意味あり、若し黒八と堅實なれば黒四と綽ねて黒五と緩く戰ふべし。黒若し強く出しどや〳〵戰ふべし。黒若しば白九と行きなり。他に打たば白次に九の約に好點。白イ、黒ロ、白ハと切る手あり。黒ロと見る形にて十までの白◎の蠢に活用せられた黒◎以下の四手を重き委と稍なれり。

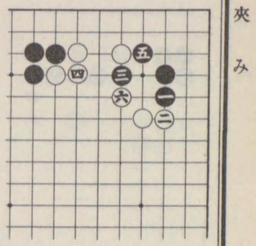
〔三六四〇〕
黒悪しからず
黒五と行びたる時は白六以下十二と下るに白堅實を望むなれば黒イと攻むるに當初の黒◎の著子を見る重複の愚に陥れり。

〔三六四一〕
黒善し
白二常型に似たれど七と斜に一手掛けたる◎の子に働きに乏しき一委となればなり。

〔三六四二〕
黒宜し
白二も通例に似たれど此場合適切なる歸結にあらず。九迄の歸結に於ける白二も通例に似たれど此場合適切なる歸結にあらず。九迄の當初の黒◎の著子を見る重複の愚に陥れり。

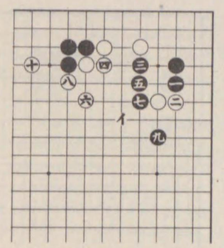
〔三六四三〕
白優勢

黒一姑息の誘りを免れず黒五も亦緩し。白より六迄と封鎖されては黒大いに面白からず。



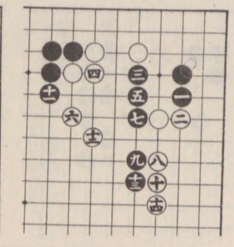
〔三六四四〕
黒やゝ形を得

黒五善し。黒七にて八なれば白イに斜走すべし。



〔三六四五〕
場合による

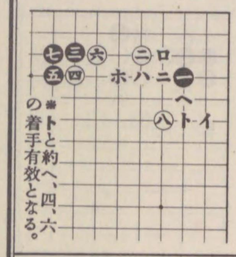
白八手強し。黒九、十一必然の着手。此白十四となり、此形の優劣は中央の戰ひに依りて決す。



〔三六四六〕
要點約言

（第三九型イの一）

白八の時、黒イ或は低きも守る手、位はロと打つ手は白ハと打つ手も確實なり。黒ニ、白ホにて白好形。又黒ハにてヘなれば白トと約へ、四、六の着手有效となる。



〔三六四七〕
基本圖

（第三九型イの二）

白八の夾返しは古來よりの定石なれど、黒よりイと斜走せられて面白からざれば、近時には此手を用ふる事少し。

〔三六四八〕
基本圖

（第三九型イの二變化）

黒九の斜走最善なり。

〔三六四九〕
定石

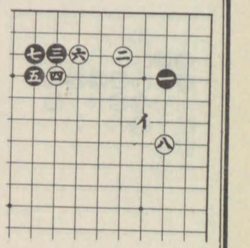
白十の時、黒イと綰る手あれど圖の如く一と約ゆる手宜し。黒十七迄の二着惡化せり。

〔三六五〇〕
定石

白十六なれば黒十七。五の綰に妙味ある以所にして此綰あれば、黒十七の次にて白イなるも黒ロにて白にハの盤無し。

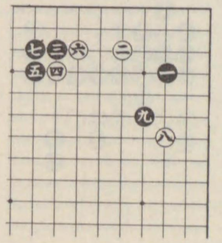
〔三六五一〕
黒可なり

白三は黒に調子を與へず徐々に黒を攻めんとする手なれど、黒四と打ちて差支へなし。



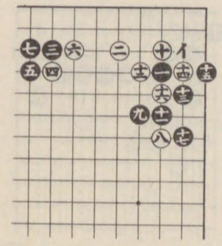
〔三六五二〕
黒優れり

黒四と切る手もあり。白五なれば黒六と打抜きて形勢黒善し。



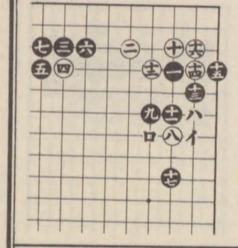
〔三六五三〕
黒優勢

白五、打過ぎなり。黒八良し。黒十二、十四厚き手なり。黒十八に形を整ふる事となりては、黒の外勢甚だ善し。



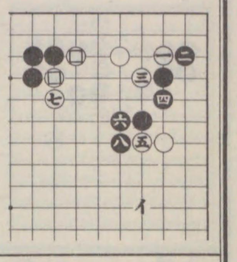
〔三六五四〕
黒有利の形

白九に盤ぎれば、黒十に綰込み、次に十二と下りて隅を取るべし。此形前圖に比すれば白可なれど、然し白隅の黒の實益大なり。



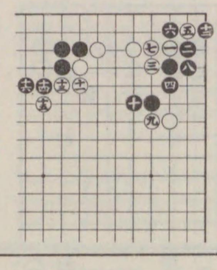
〔三六五五〕
形勢互角

黒二と打つ手もあり、白一と迄の結果白□有用の着手となれり。黒八にては右下邊の配置に依り、イと攻撃する手もあり。



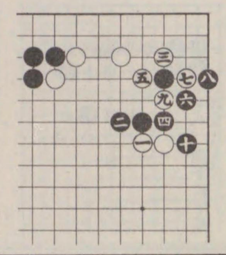
〔三六五六〕
黒確實なり

白五の二段綰は後に黒十二と取られ黒の眼形確かなる故に多く惡し。



〔三六五七〕
白の形惡し

白一の押を打ちて三と頂く手は圖の如くなりて、三六の比四九圖の定石に比すれば一、二の交換は白重くして惡し。

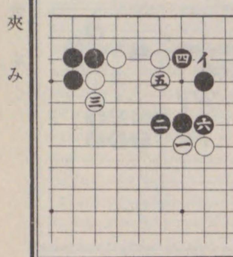


〔三六五八〕
黒の形善し

本因坊秀策七段當時
巖崎儀造三段
二子勝

兩氏の對局圖

白二六、普通無理なれど二子局にては此一子を活動せざれば平易なる局面となる故に、白止むを得ず黒二七、三九迄の形となりては、黒堅く之れに反して白は低く黒有利の形勢なり。

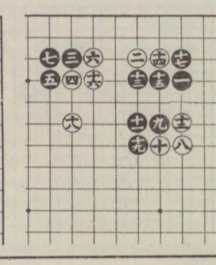


〔三六五九〕
黒確實なり

白イと頂けず單に三に行けば黒四と尖頂け次に六と約して黒の形確實なり。

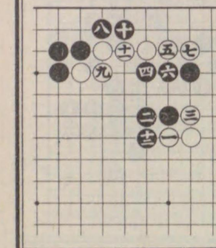
〔三六六〇〕
定石

白十二、黒より約込むるを嫌つて黒十七の要點を占領する事となりては、黒の形確となれり。



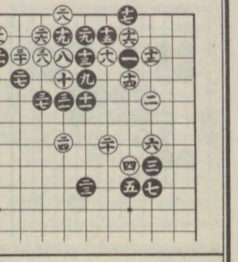
〔三六六一〕
白の形好まず

白七の約へ惡し。黒より八と綰られ白應手に窮したり。



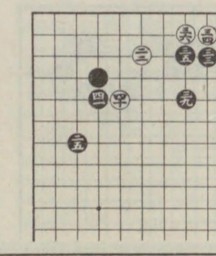
〔三六六二〕
黒優れり

白九に約ふれば黒十、十二にて黒の勢大いにイなれば、黒九、白十一、黒十二。或は白イを十二にて善し。



〔三六六三〕
黒緩し

白七も好まず。黒八堅實なれど、今少しきびしき手段に出でたきものなり。（次圖）



〔三六六四〕
黒大いに優れり

黒二、四嚴しくして良し。白三にて五なれば黒イ。又白一にて五なれば黒一にて白の形惡し。

〔三六六五〕
白分裂の姿

白九、十一無理なり。黒十六迄となりて白收拾の途なし。

〔三六六六〕
白厚し

勝　宮坂榮二六段
先番　關田正義五段

白十一と突もあり、黒十二、白十四、如何。十二にては㋑の切を粗して先づ㋺と掛べし。

〔三六六七〕
要點約言
（第三九型㋑の二變化）

白八には黒九の斜走最善。此時白㋑なれば黒㋺と約へて良く、又白㋑にてハなれば黒ニ、白㋺、黒ホ、白※

〔三六六八〕
基本圖
（第三九型㋑の二變化）

黒八古風。白に㋑の好點を打たれ、其形黒好ましからず。

〔三六六九〕
古風の定石

白八、十は四、六よりの使命。かゝる形となりては白四、六の效力適切にして白正形を得たり。

〔三六七〇〕
場合による

黒八の時白九と夾む手もあり、黒十は十一に出て切。白二變化もあり。黒六に㋑の綿を見る。黒若し㋺の劫味を綿れば白ハの劫を先づ粘くべし。斯くも打つも、かゝる形勢にては、白悪しく、黒要點なれば、白九要からざれども、何となく白手薄く普通ゆ。故に白九はニと粘くべし。斯くも打つも、かゝる形勢にては、白悪しく、黒要點なれば、白九要からざれども、何となく白手薄く普通ゆ。故に白九はニと粘くべしを厚くして可なりとす。

〔三六七一〕
古風の定石

黒十一なれば、白十二、白十四迄となりては、白の形厚くして良し。

〔三六七二〕
白好まず

（白五を前圖の如く抜きし場合）白十一、十三と打つ手もあれど、十二一迄となりて白好まず。

〔三六七三〕
場合の手段

白五と夾み撃つ。黒六、八は絶好の點。白三、五は八を抜きし場合）白十一、十三と打つ手もあれど、十二一迄となりて白好まず。

〔三六七四〕
黒凝形

此場合白三は附くる手。黒六、八は絶好の點。白三、五は八を抜きし場合）白十一、十三と打つ手もあれど、十二一迄となりて白好まず。

〔三六七五〕
白やゝ優れり

黒二は、白に三と粘がれて面白からず。黒六にて㋑に次に黒八に突出せば、白六に突出せば、白

〔三六七六〕
參考圖

黒九は、白より十と粘ねられて、白四、六をして好形となしむる故に黒悪し。十六迄の形白完全。無缺と言ふべし。

〔三六七七〕
要點約言
（第三九型㋑の二變化）

黒九、白に十と掛られ、隅に活るも外勢、白厚くなりて黒悪し。

〔三六七八〕
基本圖
（第三九型㋑の三）

此形白は㋑、㋺の外ハ及びニ手を抜くもあれど、其中ハは急。ニは場合による。又手抜は白好まず。

〔三六七九〕
黒優れり

白一、急に過ぐ。黒より二と尖れて白無理なれば、白三に打ちて㋑に飛ばゝ綿、黒十ハにて㋺に尖附けて宜し。

〔三六八〇〕
黒確實なり

黒十八、要點。此形白より㋑に置く筋あれど、黒㋺、白ホ、黒ヘとの虧りあり。

〔三六八一〕
黒善し

白若し單に五と尖附くれば黒六、十一、三の二子甚だ窮せり。

〔三六八二〕
場合による

前圖の如く、白㋺、ハと急撃して白面白から場合は如く一路ユルク攻めて五は形、白は包圍稍緩なれど、時に面白し。

〔三六八三〕
黒可なり

白三に附くる手あれど無理筋なり。黒四と綿出し、白五に結ばゞ、黒可なり。白以下二迄にて白の種々の變化を要す。

〔三六八四〕
黒勝

白一、打過。黒二と切りて勝なり。白三、五にし、黒六なれば黒㋑にて白三、七、黒三、五にて黒勝。

〔三六八五〕
黒勝

又白三に黒四と切れば黒㋑にて白四、六を提つて宜し。黒六迄にて黒勝。白若し強ばらば黒㋺に打つ手あり。白ホ、黒ヘ。㊁劫トル

〔三六八六〕
黒大いに優る

白二、五も悪し。白二にて黒六なれば黒㋑にて二、白三、五にて黒㋺、白四、六迄にて黒大いに優れり。黒十一迄にて白ニと打たれば劫なり。

〔三六八七〕
黒確かなり
先番勝　高橋重行四段　鈴木秀子四段

白十にてはイと尖む筋なり。黒十三、十五と隅を堅め而し順善し。て十七と押す手

〔三六八八〕
定石

(八)手抜

止むを得ざる場合白八にて手抜する事あれど黒九と形を整へられては、白面白からず。

〔三六八九〕
白好まず

白二、以下八迄常形なれど、白□黒△の交換あれば白悪し。

〔三六九〇〕
黒一好まず

黒一、イ何れに打つも白は結局二の事となり方面に打つ事となれば黒一はイに有れば方優れり。

〔三六九一〕
黒厚く善し

黒一と切る手も有り。厳くして面白し。黒三、最善。白六、シノギとして止むを得ざる手なれど、黒を厚くするが故に好まず。

〔三六九二〕
黒善し

白八の時黒九以下十三迄の手順宜し。黒にては、外勢撃ち殺れては、外勢の獨占する處、白は一着を他に打ちても、斯くなりて白甚だ悪し。

〔三六九三〕
黒優れり

白十二、十四は此場合十六に斯く打ちあるも故に斯く打ちたるなるも此十六と十七との交換は白甚だ悪し。黒は劫に敗るも十九、黒勢二一と打ちて優勢なり。(六)劫トル

〔三六九四〕
白可なり

黒三悪し。白好調を得て六、八と包圍す。斯くなりては、白は其形を整ふるを得たり。

〔三六九五〕
黒善し

白二、四と打たば堅實なれど、黒を堅めて悪し。斯く白は活を專らにし、黒に外を整へさせしては、如何なる場合と雖白悪し。

〔三六九六〕
白悪し

黒一と切りたる時には一と二打過ぎなり。白四にて五ならば黒イ、白ロ此戰ひ白必ず敗なり。(三〇八八圖以下參照)

〔三六九七〕
互角の分れ

先勝　奥貫智策五段
鈴木知清四段

白十、無理。十一に十ナラベ黒三にし十七は十八にて行かず。此行ざるべからず。結果黒劫に白甚だ勝つ。

〔三六九八〕
要點約言(一)
(第三九型イの三)

白(4)は黒ハにて白悪しく、又ロはやや緩し、又黒ニより急の手段なし。又手抜は黒ホと切られ白或は悪し。

〔三六九九〕
要點約言(一)
(第三九型イ之部)

白四以下七迄の形に於ては白イ、ロ、ハ、ニ及び手抜あり。其中イは定型。ロは黒にイと打たれて悪しく。ハは急場。ニは場合。手抜は白悪し。

〔三七〇〇〕
基本圖
(第三九型ロの一)

黒五は白イを覺悟せざるべからず。征關係の如何は妓に重大なる影響を與す。輕々に下すべきにあらず。

〔三七〇一〕
基本圖
(第三九型ロの一)

黒七、九は夾出しとロの突出しと兩睨みにして白の征手筋なり。此たる成立せざる時は黒の悪し。

〔三七〇二〕
定石

白十は黒十四の征場合、その成立すをの征を妨げんと意味にして十四迄、其目的を達する、に似たれど依て黒十一邊に黒勢を得たり。

〔三七〇三〕
黒一策なり

黒二と征に抱へ白三を導いて四と打抜く事は可能なり。白五、黒六以降、變化多かれど此形黒に臨機應變の手段あり。(三七一圖以下參照)

〔三七〇四〕
黒の破綻

征關係の黒に不利なる時は白一と平易に盤る。夾いで出三、五と攻ぐ、黒は勢好く出る手順は分裂の姿となれり。

〔三七〇五〕
内外に働く

黒二と征に抱へ時白三と夾撃せば黒四の斜走吉し。黒十二迄、外には厚壯を加へ、内には實利を收む。白三にて一層白無理なり。

〔三七〇六〕
白薄し

白三に夾めは黒四に尖むべし。此形は白は石を左右に隔てられ、又白三をイとなれば、黒十三に對し隅を拾て外勢の厚壯を期して黒吉。

〔三七〇七〕
黒外勢の大

白三、五に對して黒は四、六と應じて黒善し。白七を省略せば機を得て七と下る要點と外勢を張つて可なり。

〔三七〇八〕
黒有利の形

白一と抱ふれば黒二、四は絶也。この對也、結果黒後手等なる隅に何ほどの味なく劃したる地大なり。

〔三七〇九〕
互角の別れ

黒五にて單に七に引かず、七ならば、白は必然なり。八一迄、前圖に比し、五と六との交換ある白の滿足する所。

〔三七一〇〕
黒稍優る

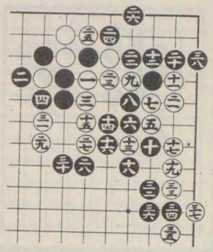
先番　勝　高橋重行四段
鈴木秀子四段

兩氏の實戰に出づ。白十一、十三に對し、黒十四以下は隅を拾て外勢の厚壯を期して黒吉。

黒十六、要點也。

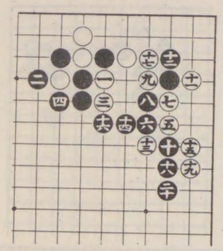
〔三七一一〕
白左右、不安

白十七より變化す。此時は黒も隅に活路を求め、結局三八と下つて確實に治まる結果に不安を左右にせざるを得ず。白は大いに劣る。



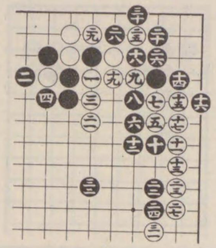
〔三七一二〕
黒先手封鎖

白十五と單に綿れば黒は先手に十六と封鎖し、次いで十八、二十と壯行びて外勢の厚且壯を期すべく黒の優勢は明らかなり。



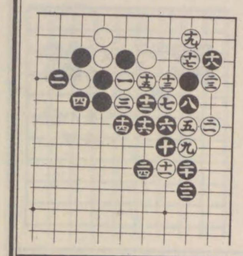
〔三七一三〕
白形悪し

白十一、十三も打過ぎなり。黒三迄となり、形不備。就中白の委三を十四ならば黒十四と約へて善しは十三と約へて黒要する白の態度如何に依り隅を捨てゝ宜し。



〔三七一四〕
比較を超越す

黒二四迄、中原に張りたる厚勢は、隅に興へたる白地と比較にもなり、二十數目ざる效果を收めたり。



〔三七一五〕
黒絶對優勢

白十一に行びれば、以下黒二迄の結果と結ばれ、一以下の黒と、白八以下の黒と、共に勢如何と見るも、外治りたる時は白に比して數倍黒外勢の優勢を確立す。

〔三七一六〕
要點約言
（第三九型ロの二）

征關係の黒に不利なる場合は、白六と切られたる時黒イ若しくはロと打つ手段あれど、前型ロの一程の好※

〔三七一七〕
基本圖
（第三九型ロの二）

〔三七一八〕
形勢に依る

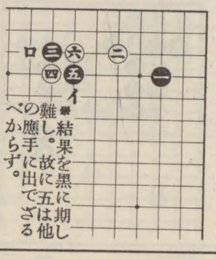
黒七は征好くば十六を切り白十五立、黒イと白十三に手段ロに頂す。黒十九、白十八と約へて攻合黒敗なり。白十七は行びた時そこ白十九、黒ホ、白ニ、黒ヘにて白十一、黒ハ、白二、黒ロ、白十、黒ト好點。二一然に打つべき形勢の如圖黒ハ、白攻合黒勝つ。白十は差つべしの時は黒ロと拘へるも甚だ可也。

〔三七一九〕
場合に依る

黒一と引くは上邊を手厚くして打つの意味なり。白二のツケを手筋とす。白六迄の功罪は矢張り外勢の如何によりて決すべし。

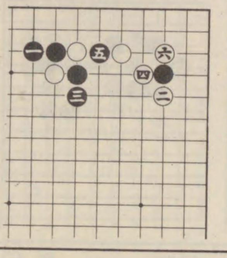
〔三七二〇〕
後に活路あり

白六、黒七と約へて後に黒イ、白ロと活きる手段殘らば黒ロを切つて隅は捨つるも黒悪しからず。



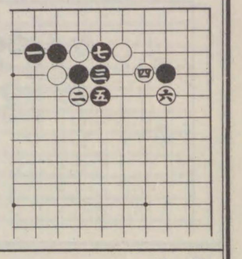
〔三七二一〕
白に乘ぜらる

黒三、五は白二の手筋なる所以を證するに過ぎず。十二迄となり、黒大いに所謂ハメられたる形也。



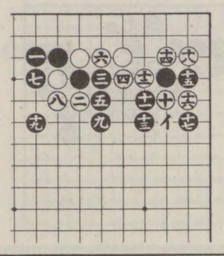
〔三七二二〕
黒幾分優る

白二、手順宜しからず。黒七迄の果は三七一九圖に比し黒稍可なり。



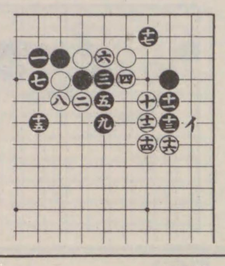
〔三七二三〕
黒外勢頗る大

白四、六、打過ぎの意味あり七、九と行びて黒可し。白十四をイならば、又白十六を黒十七ならば黒十六と打つべく、熟れも黒良し。



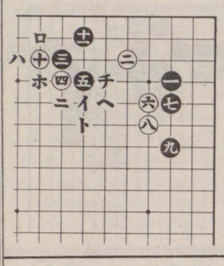
〔三七二四〕
黒好形

白十に尖ば、黒十一、十三と押し次に十五に迄べつつ黒形最も好ましく、若も白十七と打つならば黒は二に走るを輕妙とす。



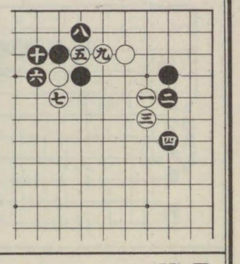
〔三七二五〕
白無理形

白六、八好ず。黒九、次いで白は十と約へる一のなれど黒十一の位にて此形無理なり。白ハ、黒イ、白ロ、黒ヘ、白ト、黒チ。



〔三七二六〕
白重複せり

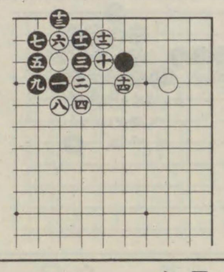
白五より變化す。此時は黒六、八と當て十と粘いで良し。白重複の姿なるを否定し得ず。



〔三七二七〕
互角の別れ

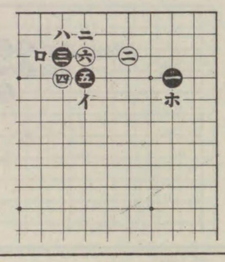
橋本宇太郎五段
鈴木　秀子四段
先番

兩氏の實戰に現る。黒七より約込めば白十四迄となる位のものにて先づ互角と觀らる。



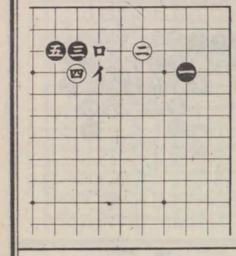
〔三七二八〕
要點約言
（第三九型ロの二）

此形、白六に次いで黒イ、白ならば白ロ、黒ハ、白ニなるべく。又黒イを白ロに引くか、されば白ホの筋あり。さば黒ロは時に有力とす。



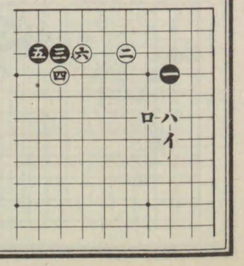
〔三七二九〕
基本圖
（第三九型ハ）

左方の具合に依り黒五と引く場合あれば一般にイ若しくはロの强硬手段に及ばず。



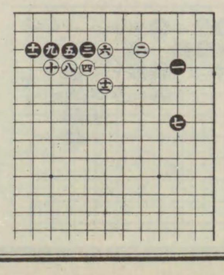
〔三七三〇〕
基本圖
（第三九型ハの一）

黒五に對しては白六を定型とす。ほ六にてイ、ロ、ハ等の中を選ぶは場合の手段なり。



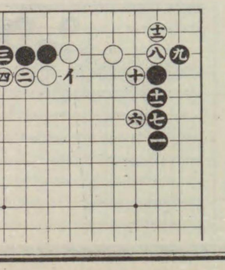
〔三七三一〕
定石

黒七は五と關聯せる豫定行動なり。此に曲ら八に歸す。白八、十と押す手段可なり。



〔三七三二〕
白此手もあり

白六は前圖の確實に及ばざれど、本圖六、八も亦無きに非ず。これに依りイの切りを防ぎたる時に黒イは成立せざるにあらず。



〔三七三三〕
白善し

白十二より變化す。左上隅に白□在る場合、十二と□をツメる。これを常形に泥んで十二と掛粘ぐが如きは黒好勢。拡かれると黒二と拡らるに對して白十四と切りに十六が最も確實な十六と掛粘ぎ、黒十七と十八と運ぶなどもの白ホと面白し。

三粘

〔三七三四〕
白有利

白六と黒七と交換したるも盡にて八と詰めるもあり。黒二に白二と打つ。圖の白ハ、黒ニ、白二と二四に挟いたるも黒ホに粘ぐなら白ヘと掛粘ぐべく、又黒トを切らば白チを續いて黒リ、白イと應ずなり。何れも白有利なり。

三粘

〔三七三五〕
白優勢

黒十七より變化す。白二五と黒イを切らば白二六、黒ロ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒トと掛粘ぐべく、白第十七圖の定石より白の一働きある姿なりとす。

三粘

〔三七三六〕
白不充分

白六より變化す。白斯く單に直ちに黒に詰めらるる時は七と切つて良しとの説あるも、黒は直ちに三に構へて白結ばず。果して白十一と出でず。黒は十三と充分に分結なり。白ヘと突出でたるも黒ニ、白ニ、黒ホ、白ニ、黒ヘ、白ニ、黒ヘ、白ニ、黒ヘ

〔三七五一〕黒潰滅の形

黒十より變化す。以下の行は此の十九迄となり黒破綻なり。黒十二を若し十五なら白イ、黒ロなら白十二、黒三に粘ぎ白十八、黒十七、白ハとなり白優勢。

〔三七五二〕白三緩し

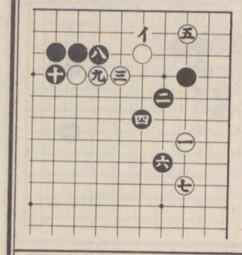
白三、五の形確かなれど箱綴し。迄の結果、黒は隅に實利を收め、且中央の委勢も悪しからず。

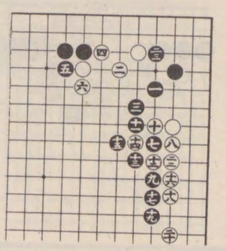
〔三七五三〕黒優勢

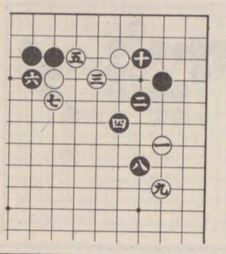
白八に押せば、黒九の手筋より二三迄となり黒可。白十六と約込んで良し。（變化尖の中二一四圖以下參照）（ニ）劫提

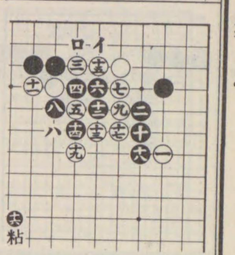
〔三七五四〕肝要の出

白五と隅に走れば、黒六に續いて八の出肝要なり。黒十の後、イと頂る筋あり。白好まずしからず。









〔三七五五〕互角の勢

先番田中不二男段　島村　利博　四段

兩氏の對局に見ゆ。黒五と引かば白六と運ぶべく、黒九迄、先づ互角の形勢なり。

〔三七五六〕黒優る

白一稍無理筋也。黒は平易二以下と應じ白を隔て打つて優勢。（此形三六八一圖と同じ）

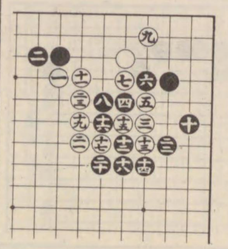
〔三七五七〕白やゝ好

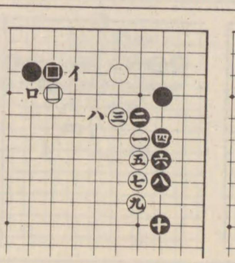
まず白一の大斜に對しては黒二以下を簡明とす。□と■の交換あるだけ、是が無き通常の大斜定石に比し白悪し。白三をイなら黒ロ、白四、黒ハにて前圖に歸す。

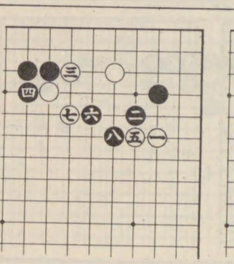
〔三七五八〕互角の形

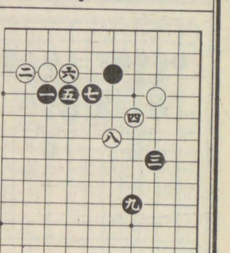
先番篠原正美五段　村島誼紀五段

兩氏の對局にて五は一の交換ありては無理の一手。十二以下十四迄、黒十三の指置最も佳し。









〔三七五九〕要點約言

（第三九型ハの二）

黒五の次に白はロイの外ハニの手段あり。其中ロは時に面白く、ハは無理にしてニは好まずしからず。

〔三七六〇〕基本圖

（第三九型ニ）

黒五と打つ手もあり。これは四圍の形勢により、白にイと打たしめ、黒ロに拓かんとする策戰なり。

〔三七六一〕定石

白六、止むを得ず。黒七にては時に有もイと應ずる手も有り。黒十の次に白ロ、黒ハとなる。此形位のものなり。局部としては黒の方やゝ有利。

〔三七六二〕白大いに悪し

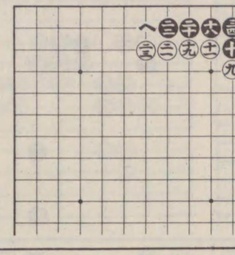
白五、甚だしき無理。黒六、八と打ちて、白の形崩れたり。黒十迄となりては白大いに悪し。

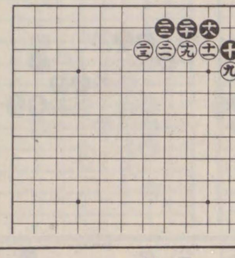
〔三七六三〕黒勝

白三、上邊で五と打ちて、以下の戰ひ十と約ふれば、黒先一下十と二手善し。白七と出づれば、黒先づ二に八に切らば、黒先づ二に九に綴るべし。白三一なら黒二に九に、白ロ、黒イ、白ハ、黒ニ、白劫取り、黒ホに又圖の三の次黒ホに白劫取りし、黒ヘに白盤眼無し。黒ホに打つて攻合黒勝なり。（ホ）劫トル

〔三七六四〕黒勝

黒三一に約ふれば白二に打抜くべく、斯くては黒假令形勢を活かすとも隅の白を活かすに三七にて三八に打ち抜かれども、黒二に手を拔かすとれば隅の白は死なり。圖の如くなれば、黒最早全なり。





〔三七六五〕黒攻合勝

白十五に粘ぐり。黒二十は白の征良き場合の切りの手。黒征悪しき時は黒十に飛びて輕く初めの打一に白二にかよりて白ロの二子を捨つるは白の得なり。

〔三七六六〕黒やゝ有利

白九の手筋輕し。黒十八迄の形、黒やゝ有利なれど白も亦外形を得たり。

〔三七六七〕定石

黒七なれば、白は無論ハにケて宜し。此形は實戰に見ること多し。圖の如く定石に隅を包圍せらるゝ故に、黒好まず。

〔三七六八〕黒悪しからず

黒一嚴しき手段なり。之れを宜しとして、黒は隅を包圍せんとするも、外を拾ひて甚だ白し。

〔三七六九〕場合の手段

白六ならば、黒七に押すべし。ほゞ白八にてイに綴れば、黒ロ、白ハの切りて黒悪しからず。黒なれば、黒八と切りて隅を拾ひ、黒悪しからず。

〔三七七〇〕黒豫定の手段

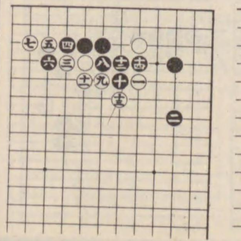
圖の如き結果は黒□及び△と打ちし時より豫想したる形にして、黒は先づ隅外に強き戰を活かんとする策なり。

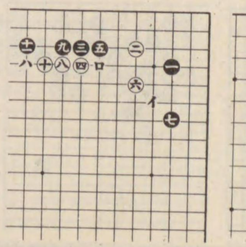
〔三七七一〕中央戰による

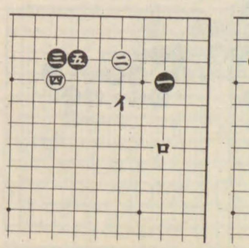
白八にて九。又十ならば、黒イ、白ロ、黒ハにて攻合黒勝なり。

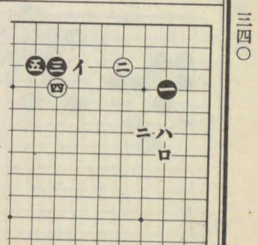
〔三七七二〕白苦戰

白二、此種々變化あれど何れにしても白苦戰なり。黒十一の次に白イを黒ロなれば、黒ニ、白ホ、黒ヘ。四と切るも黒五形宜しく黒イなれば、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘ。









〔三七七三〕
黒堅實なり

白一、稍重き筋なり。黒六に輕く十二に斜走するも可能。黒一、八と十、十二と打たば白八と約へて圖よりも白優る。

〔三七七四〕
白稍好まず

圖の形は三六二、五圖に比較するに、三の方面の形白一、三重し。又白や、にてイに應じ二、八、四圖定石の如く打ちて黒宜し。

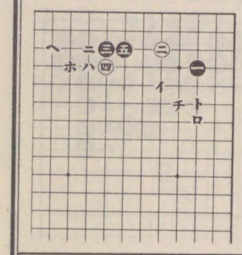
〔三七七五〕
白有利の形

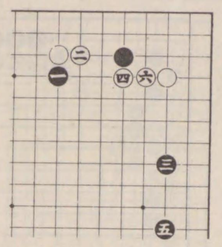
勝本因坊丈和六段當時先番　井上　安節五段當時

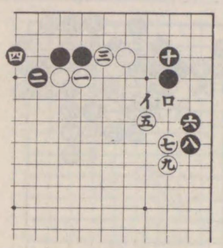
黒三の夾返しは圖の如く白に四、六と隅を確保されては黒不利。

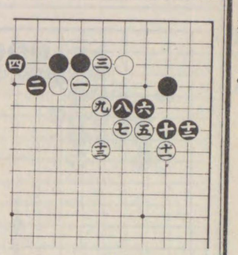
〔三七七六〕
要點約言（一）
（第三九型ニ）

黒五ならば、白イ、黒ニ、黒ロ、白ハ、黒ヘと又白ホ、黒トを定石とす。又時に應じ二、八圖定石の如く打ちて黒チの嚴しき手を狙ふ意味もあり。









〔三七七七〕
要點約言（二）
（第三九型全部）

前變化の如く、白四は先づ三に挑ひ、而して間に接ひしに、黒一を攻めんとする策戰なれど、黒正しく應答さるれば效果を上げ得る場合少し。

〔三七七八〕
要點約言（三）
（第三九型全部）

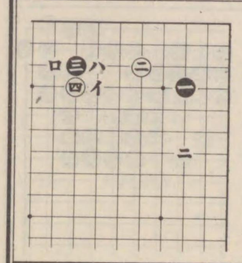
白、四の次に黒にイ、ロ、ハ、ニの四つの應手あり。その可否は場合に依れども、其中イ定型なり。

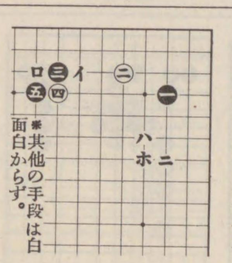
〔三七七九〕
要點約言（四）
（第三九型全部）

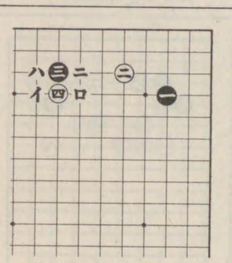
黒五ならば、白イ、黒ロとなりて、次に白ハ、ニ、ホ其他の手段あり。ホ其中最善。ニには黒ハハと打たれて好まず。ホは場合。※

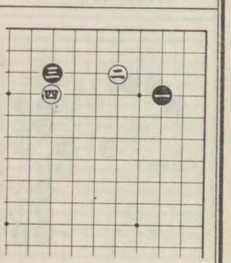
〔三七八〇〕
要點約言（五）
（第三九型全部）

黒イは征の可否に依るべく、又ロ可否に次にるニなら白ハんとすれば黒策戰。黒の應手段に隨ひ、白一の手を守らんとする意味なり。









〔三七八一〕
基本圖
（第四十型）

黒三の二間夾に對して白イロハの手段は、何れも筋違ひにして白好まず。

〔三七八二〕
黒の勢善し

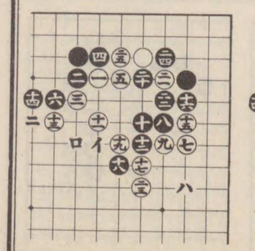
白一と打たば黒は必ず二と押すべし。白三に綿れば黒四。以下六迄は必然。白七の次黒に八及び白イの應手あれど、圖は簡明にして善し。

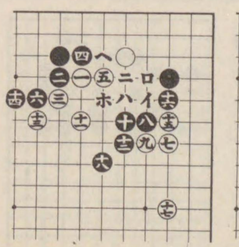
〔三七八三〕
黒有力なる形

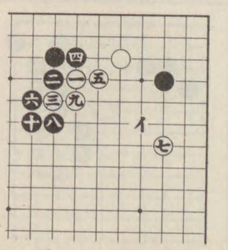
黒八と手強く戰ふも善し。此形次に白イと切らば黒ロ、白ホ、黒ヘにて假令中の黒を捨るとも黒善し。

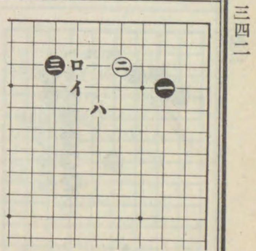
〔三七八四〕
黒堅實

白十七、十九に打過ぎ。又白十九にて黒イと掛行けば黒二三に粘りて黒五の形に善し。白ロ、ハ、ニ等の次手段あり。









〔三七八五〕
白大敗

白後手にて二、二三と打抜かば、黒二四と打ちて善し。白二六と三六を三六なら黒三六と三七を三六なら黒三六と三七を三六なら黒三六と三七

〔三七九七〕
基本圖
白四の二間夾返しは三がイに在る三間夾に對しては非ず。圖の二間夾に於ては場合に依るべきものとす。

〔三七九八〕
基本圖
（第四一型）
白四の二間夾返しに對し黒はイ、ロ、ハの應手あり。就中、五他の尖み正形なり。他の場合に依り可否岐る。

〔三七九九〕
基本圖
（第四一型イの一）
黒五に對し白六を通型とす。他にイ、ロ、ハ等あれど之等は三が間夾の際に多く用ゐられ、二間夾にては好まず。

〔三八〇〇〕
基本圖
（第四一型イの一變化）
黒七最善なり。此時ほぼ形三がイの餘地あれど二間及一間夾にては是れなきだけ黒理想的なり。

〔三八〇一〕
定石
黒七にて一段落とす。これ迄は定石なり。後にイ、ロ、ハ等の筋あり。

〔三八〇二〕
機を見るべし
白一と走れば隅には必ず手あり。然れども機を得ざれば徒に黒を厚壯ならしめ、若しくは黒に先手を奪はるる嫌あるものとす。（次圖以下）

〔三八〇三〕
黒先手を占む
黒二、四は先手を取らんとする時最も良し。なほ二に別にイ及び三の應手あり。

〔三八〇四〕
黒手厚し
白三と下らば黒四は絶對なり。白十三迄活さるも黒の外形厚し。白自ら棄ひ、白を薄からしむる故、白は時機を見定めざるべからず。

〔三八〇五〕
手抜は損
白一は何に元來黒の應手を抜く意味なれど圖の黒二に對し尖手抜せば黒四と尖く、此結果隅に手なれて白一と黒二の交換は白損なり。

〔三八〇六〕
得失なし
黒二は白十一の盤手を許すも初めの一切一子を八、十と取る一佳し。白十一に飛ぶは多少の味を後に遺す。（三八二三圖以下參照）

〔三八〇七〕
白悪し
白五輕卒なり。十一、十三圖の如く十一と活きざるを得ざるに至り、此形白悪し。右邊の二子を薄弱ならしむ。

〔三八〇八〕
劫爭は疑問
黒四と夾頂る變化。白七をイに打ち黒八、白九となる形黒は前々圖より白劣る。白十一を十二にて白潰滅す。

〔三八〇九〕
場合の手段
黒二と大いで白三手抜は隅を取るも可し。黒は四の外なく此形比し第三八〇五圖白可なり。但、黒四をイならば白ロの利く意味あり。

〔三八一〇〕
隅に活かす
黒二と變化して白の右邊への連絡を妨げ、隅に活かして外勢の厚壯を期す。白三、五、七の手順肝要なり。

〔三八一一〕
白同じく活
黒八より綽れば、黒九、十一、十三の手順によりて活く。

〔三八一二〕
黒無理手段
上邊左方に圖の如き黒の拓はれる場合も黒十四以下無理なり。十九迄、白は地ある上に、黒の外形佳觀ならず。

〔三八一三〕
劫爭に導く
白七手順悪し。黒十迄劫爭となる。白十三を十四の黒はイ。又白十三にてロならば黒ハにて孰れも白死。

〔三八一四〕
白活るも黒善し
白七亦手順悪し。黒十肝要なり。白十五の時若しイの邊に黒の石あらば黒十六を十九に打ち劫なり。

〔三八一五〕
白宜しからず
白十七に取れば、黒二十迄、白は隅に黒二十一以下此方面の石に關係ありては配石となりて斯る形は悪し。（三目トル）

〔三八一六〕
白活路なし
白五と單に約へるは黒に六と尖まれて無條件の死に歸す。十一ならば黒イと綽込む。

〔三八一七〕
白危地を脱す
黒十輕卒なり。前圖に比し白其弛む故に白一以下に依り總に活路を得。

〔三八一八〕
白支離滅裂
白九に對しては黒十と單に綽ねて白に活路無し。白十一以下への途を遮る。

〔三八一九〕
黒無理
黒二、四は外形既に厚壯なる場合の過ぎず。白五は無謀にして七は通常にては活路無き時の良策とす。

〔三八二〇〕
白逸走す
黒劫敗と見て八と下らば白は隅を拾て逸走して此結果黒悪し。

〔三八二一〕
連絡して白不利

白三より變化。斯く外して打たば連絡し得るも此分れ黒佳し。

〔三八二二〕
白嫌味あり

白一は隅に直接著手し難う時、（即ち、隅に打つも、黒に包圍せられて場合など）已むを得ずして打つ手段也。白九迄となりて後黒イの味※

〔三八二三〕
常形の手筋

（前圖の變化）

黒の一、三良し。黒五はイの約へ、若しくは手強く六と突當る手段もあり。場合に依るも白の有利なる理なし。

〔三八二四〕
場合に依る

白四と下より綽れば、黒の切違ひ。白六をイならば黒ロ白九、黒六にて大利を收む。白八、白イの時黒には劫争の意味にて妙趣湧出せん。

〔三八二五〕
劫争となる

黒若し十一迄の劫争に勝つ成算黒に無くば五の手に七を先にし白イ、黒九、白十一、黒五、白八、黒六と變化するも黒可なり。

〔三八二六〕
白一策

白一、三の二段綽も往々行はるゝ手筋なり。場合に依り白として一策也。

〔三八二七〕
白先手活

黒十と二子を取る手もあり。白十七迄、先手活となる。黒十若し十五なら白は十一と頂けて後にイと約へて活く。

〔三八二八〕
容易に活く

黒十二打過ぎ也。白は十三乃至十九に依り容易に活路を見出し得ん。黒不利の形なり。

〔三八二九〕
白有利

黒六、無謀の手段也。此形ほゞ變化二、三あれど何れにせよ、斯く斯くに目を取るは其結果黒宜しからず。

（ヌウチカウ　チトル）

〔三八三〇〕
白活

黒四に綽込み、六と約へるも手もあり。斯く打てば黒確なり。黒六をイに約ふれば、白八と切り後に白は六の手殘る。白十三佳し。

〔三八三一〕
是亦白活

黒六なれば、白は無論七。白十五迄同じく。後手なれど活く。黒十四を十五に綽れば白イ。

〔三八三二〕
白勝

黒八打過ぎなり。白九の手を十に粘よし、此手を白九、黒十二にて白死。白は征の處。（次圖參照）

（ツグ　チツグ）

〔三八三三〕
互角の分れ

白征惡しき時或は形勢の如何に依り、七と出る手段あり。十三迄黒を兩斷したれども大目を取られしも大也。

〔三八三四〕
黒有利の形

黒八より變化。九打過ぎ也。此は十に約へ黒九、白十一、黒イ、白ロ、黒ハ、白ニ打つて白良し。又初め黒八を十一ならば白十二にて活。

〔三八三五〕
定型

瀬越憲作七段

三子菊池次郎初當時

三子の菲にありては十六迄となり其形治まる故に、黒惡しからず。黒十四確也。（第三八〇八圖參照）

〔三八三六〕
白面白し

勝田正義五段　先番長谷川章五段

白三と約へる手段嚴しくして此場合最も適切なり。

〔三八三七〕
場合の良形

加藤信七段　小野田千代太郎六段　先番勝

黒七以下特に隅を厚拾て外勢を整へて導く手段に出し。黒先手。

〔三八三八〕
要點約言（上）

（第四一型イの變化）

黒七迄の形普通は白好まざるも二間夾の一つの定型也。扨此形後に白イ、ロ、ハ等の手段を隅に藏す。

〔三八三九〕
要點約言（中）

（第四一型イの變化）

白八と走し時、黒にはイ、ロ、ハ、ニ等の應手あり。イは先手を取る意味。ロは隅に活かし、ハは白を盤ら せて二を取込む※

〔三八四〇〕
要點約言（下）

（第四一型イの變化）

次に白④は二を拾て四に連絡せんとする手。ロは黒⑤の時白ハと活き二に綽ねて隅に活き手にして、此手段時に面白し。

〔三八四一〕
基本圖

（第四一型イの變化）

白六の時、黒にはイ及びロの應けあり。普通はハの定型へ及ばざれば、定場合により却て白し。

〔三八四二〕
定石

白八と黒九は共に定石なり。此形黒九をイ或はロなどは白に隅も白に活きられて、黒好まず。

〔三八四三〕
黒稍可なり

此振替りとなれば黒■はイに在るより働きあり。白七をロならば黒八、白九と黒ハとなり白惡し。（三八〇八圖と比較）

〔三八四四〕
黒の勢善し

四圖の形勢により ては、白三と逃出す手段あれど、直ちに斯く打つは概ね白打過ぎなり。

〔三八四五〕
白好まず

白四、六に對して黒五、七と打つは悪形なれど已むを得ず。

〔三八四六〕
黒優勢

白四悪し。黒一あるを以て五の綿出し成立し、白に手段無し。白十二を十三ならば黒十二。

〔三八四七〕
形勢に依る定石

黒四は雙方の根據に關す。怠つて白イを許しては悪し。白七、九手順なり。九ニで黒ロならば白ハ。又黒ハで白ニならば白九の他に轉ずるを可とす。

〔三八四八〕
形勢觀望

白二、四の如きを直ちに下すは打過ぎなり。形勢を觀望するは暫く二は三を先にすべきなり。

〔三八四九〕
重き姿

白二、四は如何にも重き姿なり。黒は三、五と攻勢に出て良し。之れは黒一と尖附けし時よりの、豫定の策戰なり。

〔三八五〇〕
互角の分れ

勝 先番 岩佐 銓七段
瀬越憲作七段

上邊イに白の拓きある場合、黒八を利かせて十以下振替る手段成立す。

〔三八五一〕
著想雄大

瀬越憲作七段
某初段
松尾 某初段

黒三子、黒四、六悪し。白九迄行動より、最初より豫定の效果を極度に發揮し雄大なる構へを得たりしなり。

〔三八五二〕
要點約言
（第四一型イの一變化）

此形黒にイロの手あり。黒はイを主とし、ロは先づ隅を占領するの意。

〔三八五三〕
基本圖
（第四一型イの一變化）

白六に次いで黒イを一擊に好形とするも實戰には特に手を拔く場合あり。

〔三八五四〕
定石

七手拔

白八と走る手は、堅實なれど、同時に黒も堅くなる放に、白を持ちては稍緩し。

〔三八五五〕
黒好まず

黒二と頂けるは、それ自身一種の利かされなり。絶無にては非ざるも黒として好まず。白十七と問題なり。十七にてイに打拔くは雙方の根據に關する要點とす。

〔三八五六〕
棒粘ぎ良し

白七に對しては黒八を手筋とす。黒十亦良し。これをイにふくれ白ロと交換するは白ハの利き殘りて黒に眼形無し。

〔三八五七〕
定石

黒四は雙方の根據に關す。怠つて白イを許しては悪し。白七、九手順なり。九ニで黒ロならば白ハ。又黒ハで白ニならば白九の他に轉ずるを可とす。

〔三八五八〕
黒手厚き姿

白三は五の前提也。然れども黒六、八と打拔くに至りその外勢の手厚きを見る爲し、白は五の走りを爲したるも形勢白好まず。

〔三八五九〕
手順の先後

黒二を急げば白に三と封鎖されて一般に面白からず。二は三を先にすべきなり。

〔三八六〇〕
場合に依る

黒二は四に先鞭する意味に於て前々圖の白と共通するも黒十二迄の形、白に一手を打拔かれたり。前々圖とは其得失轉倒せり。

〔三八六一〕
黒悪しからず

白一は稍無謀に近き嫌ひあるも時に成立せざるに非ず。但白七迄となれば◎印の拓き稍重複に傾けるを見る。（三六九圖と比較）

〔三八六二〕
黒確なり

黒二と綿返して振替る手段嚴しく善筋。黒四、六は手段。

〔三八六三〕
黒優る

黒四、六と粘くは、筋としては重き形なれど征の可否如何に依る。黒十と抱へる征成立せば、黒優勢なり。

〔三八六四〕
場合に依る

白九、十一と押して征を防ぐも時に一策。黒十四形なり。

〔三八六五〕
絶對劫

白十三迄劫立する處に黒イが顧みずして劫を粘ぐ抑も初めより無理なり。若し劫立に白ロと黒劫提ならば白イ、應じ黒ロとなりては白低く、黒悪し。

〔三八六六〕
互角の形勢

前々圖十四の變化なり。黒十六は此場合にも形とさる。黒可。

〔三八六七〕
場合の手段

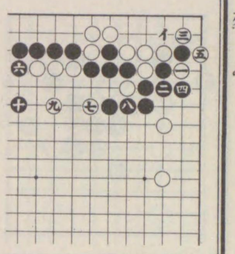
白十七と頂越して先手を取る手段。白二、二と一目を取るも、黒又悪しからず。黒二四にて他に劫あれば劫拋あれば黒面に當てイ一層黒面白し。

〔三八六八〕
劫拋如何

黒二と粘く、手もあれどその可否は劫材の如何によるべし。

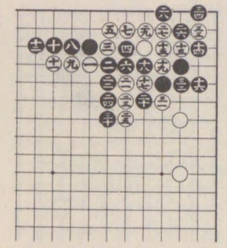
〔三八六九〕
黒の勢可なり

白一と切れば、次に四の先手二約へ、黒堅實に三し悪しからず。黒イと綽ねて四に打たば善し。



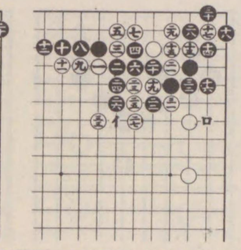
〔三八七〇〕
劫材如何なり

白十七と頂越す手は厳しき筋。劫の數により可否は決すべく、若し黒に劫抛多き場合は、黒十六以下斯く打つ手段面白し。



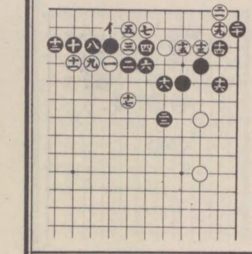
〔三八七一〕
黒潰波

白十七は、劫となるを避けし手。黒十八は二五に守れば、三に堅し。黒二八にて十悪し。白三にては、黒イ、白十、黒ロに活きるの位のもの。



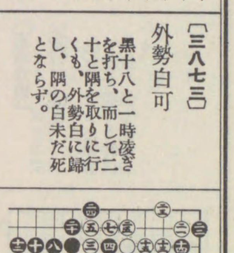
〔三八七二〕
互角の形勢

白十七なれば黒十八。此交換やすきなれど、此キズを攻めるは白も十七に五に中に得失あり。二一で角を得、二二で黒イに先手約への利あり。此形勢互角の形。



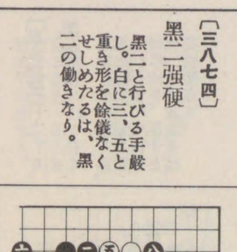
〔三八七三〕
外勢白可

黒十八と一時凌ぎを打ち、而して二十と隅を取りに行くも、隅の白未だ死とならず。外勢白に帰し、隅の白未だ死とならず。



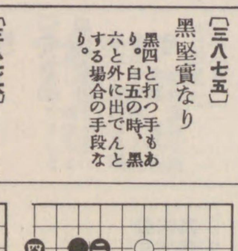
〔三八七四〕
黒二強硬

黒二と行びる手厳し。白に三、五と重き形を餘儀なくせしめたるは、黒二の働きなり。



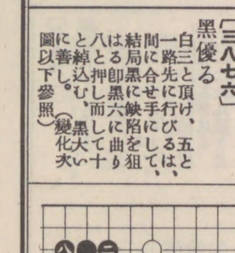
〔三八七五〕
黒堅實なり

黒四と打つ手もあり。白五の出でんとする場合の手段なり。



〔三八七六〕
黒優る

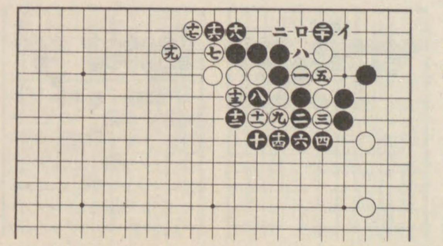
白三と頂行け、五と一路先に合せ手にして、間は結局黒に缺陥を狙い、即黒六に曲りは八と押して十と込む、而して十大い黒に善く圖以下參照。變化



〔三八七七〕
黒攻合勝

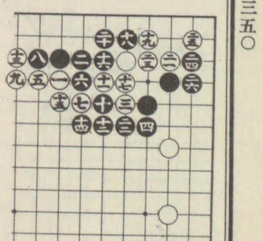
前圖白十三よりの變化。白征よく、三の出を打ちて、以下七を打つも黒八、以下十と打つも黒十四と、以下十八、十六、十八の先手に十六、十八の綽粘を打つ手筋。黒二を十と打つて善し。次に白イならば黒ロ。又白イにてロ、黒ロならば黒イに白ハ、黒ニにて攻合黒勝なり。

㊀粘



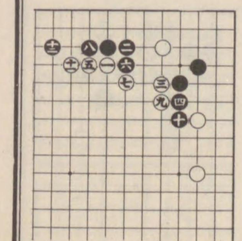
〔三八七八〕
黒大勝す
（前圖の變化）

白十一、黒十三と打たば、黒十四以下十八の綽粘迄となりて攻合黒勝なり。



〔三八七九〕
黒善し

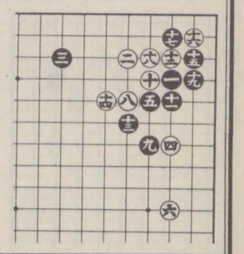
白九を先にして、十一と打たば黒十二に受けて宜し。即白九、黒十の交換、白甚だ不利なればなり。



〔三八八〇〕
定石

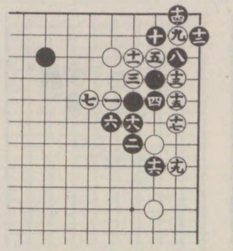
七手抜

白八となれば黒九の手面白き筋。白十、十二此場合可なり。



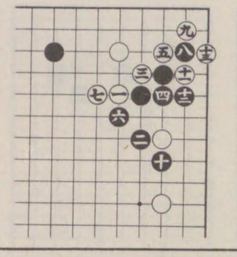
〔三八八一〕
黒の形薄し

黒十二軽卒。白に十三、十五と打たれ、黒は根據を失ひて、其形頓に薄くなれり。



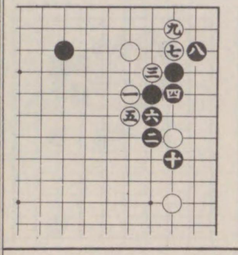
〔三八八二〕
白優れり

黒十ならば白十一に打抜くべし。斯くなりては、白の方、地と勢力と共に優れり。



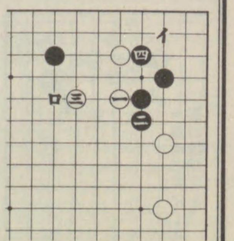
〔三八八三〕
黒可なり

白五は黒に六と粘がれ、隅の二段綽の筋を失ひて面白からず。黒六堅し。これを十に取らば、種々なる手段を生じて悪し。



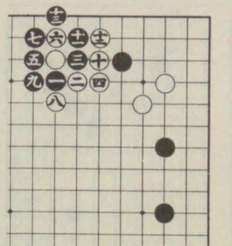
〔三八八四〕
黒悪し

黒六にては、十三に粘くが如き處なり。白七に機を逸せず直ちに九と二段綽。黒十二は無理なり。此手はイに粘くの外無し。



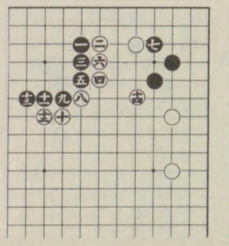
〔三八八五〕
白の外勢厚し

黒十二に粘がば、白十三と切る手面白し。黒十四にて十五ならば白イに抱へて先手なり。



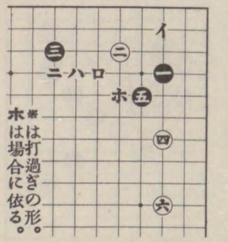
〔三八八六〕
白九厳し

黒六、八と打たば隅は得なれど、白に九と突かれては悪し。後に白イと打ち黒ロならば白ハ、黒ニ、白ホの筋殘れり。



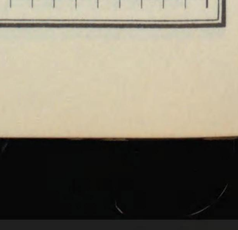
〔三八八七〕
白厚し

黒六と當て、而して八と打つは白を厚くして悪し。白九、十一と打抜けは白厚く、其一子は㊀の一子は殆んど無し。其効力殆んど無し。



〔三八八八〕
黒堅實なり

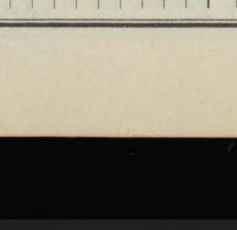
黒二働き無きが如く見ゆれど、堅實にして善し。白三にてイならば、黒三。又白イをロと換れば、黒同じく四に尖附るべし。



〔三八八九〕
互角の分れ

五目勝　宮坂栄二六段　當時
先　篠原正美四段　當時

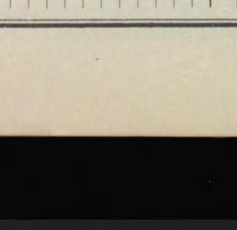
白二、四と打つ手もあり、面白き手段。



〔三八九〇〕
黒確なり

廣瀬平次郎六段　當時
瀬越憲作五段　當時
先番

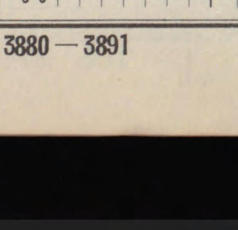
白二、四は無論場合の手段にして、普通は好まず。黒七、九堅實なり。



〔三八九一〕
要點約言
（第四一型イの一變化）

七手抜

黒七にて手抜せば白に㊀以下ホ迄の手段あり、此中イは地を守り、ロは常形。ハ及びニ※は打過ぎの形。ホは場合に依る。



【三八九二】
基本圖
（第四一型イの二）

黒五に尖みし時、白は④の三間拓或は㊁の一間飛など二間あり。されど二間、夾には是等の手段、多く白好まず。

【三八九三】
黒善し

白一、黒二、特に好點なり。即黒は斯く打つて或時機に乗じ打込を狙ふ。黒一イのつぎ白ロにあるより黒優れり。（二とカケシ隅の變化は三八〇二圖以下參照）

【三八九四】
黒善し

白一なれば、黒は必ず二。黒の形善し。反之、白一と打つも白形未だ整はず。加之、黒よ猛然イに追ら白遂に守勢を免れず。

【三八九五】
基本圖
（第四一型イの三）

白イの守りを怠つて六に擋頭す。さればこれは稍無理に近し。

【三八九六】
定石

白六は大に七を狙ふ。乃ち黒七必然。黒七は大に乃ち白八を狙ふ。黒十一は彼我の眼形に關係ある必爭の要點あり。

【三八九七】
黒好し

白八、十手筋。黒尋で上隅五七での堅壘と呼應して十一の用兵巧みなり。

【三八九八】
黒優勢

黒十一無理筋なれど若し黒七一子をハと征に取らればぬ合は、斯も打つて黒十九ち白二十一と至る。黒機ち渡りぬ。白十一なれば、黒八白二二、黒二三善し。白二六にて二七、黒ハイ、白ロなれば、黒イ六にて二七ば以下圖の如く攻合白敗。

【三八九九】
場合

黒五をイまたはロに一子なれば、白ロ必ず白イ六。前圖の如く、白ロの壓迫と黒ハの惡形とを避けて普通は黒五で先づ尖附ける手大づ。

【三九〇〇】
黒稍可なり

既にして白六。兩軍共に、敵の一子を生擒す。されど黒ロが白ロに優位に稍立てる。だけ黒の方より優る。

【三九〇一】
白好まず

黒三の一着、能く白を一隅に封ず。隅の白はいまや隅の厚を爲し、事を無し、得る所は破の餘地。乃ち黒は無く、イ位のもの、まだ黒ロに堅守して、まだ黒ハに堅ふ。

【三九〇二】
要點約言
（第四一型イの二、三）

黒五なれば白イ定石。或は黒ロを白ハに打つて手を整へ、白は未だ形整はず。又白直ちにニと尖出す手は※黒ホの尖にて其形白無理なり。

【三九〇三】
基本圖
（第四一型イの四）

白六は、變化の手段。無論場合によるべく普通は此筋白好まず。

【三九〇四】
黒堅實

此形黒一、三、而して白の四を俟つて五。尋で七、九。黒の棋歩手筋に適ふ精彩に滿てり。

【三九〇五】
黒、白を兩斷

黒四。黒乃ち五に堅を持して出づ。百戰、一も踐蹈なきの着手。見よ、黒いま白を左右に隔て伐つ兵鋒堅にして且つ鋭なり。

【三九〇六】
黒稍可なり

白二。黒卽ち三に蝙曲し、白四の時黒五。白六と包圍するも、黒七、九に堅守す。白の外圍はボロ網の如し。

【三九〇七】
黒優勢なり

先番 長谷川章五段
向井一男四段
勝

白一、三稍打過ぎの形。白遂に㊁に黒を屠りしも、黒十六より白二一の勢で黒軍怒濤の勢外勢黒壯んなり。

【三九〇八】
基本圖
（第四一型イの五）

白六の筋無理なり。此變化三七四六圖以下と同じ。

【三九〇九】
黒良し

黒四或は六でも宜しも、白五で九でも宜しも、黒を十一なれば黒四は蓋しイ。白に㊁と黒イの二子を完封されるを避けし巧手なり。

【三九一〇】
場合の手段

見よ、黒㊂㊃の二子は、老虎の蜗牛を負ふ如く、長嘯せる形。乃ち黒三而して五と黒七、九に東西相呼應し、て乱闘を挑む。嗟乎、千山の風雨真に凄し！

【三九一一】
黒確なり

白いま六と亂飛びかゝる反撃。幾十一若し白十二を挟けば、白ロ、黒ホ、白ニ、黒ハ、白ヘにて攻合白勝。

【三九一二】
黒勝

白十。黒十一以下。兩軍共に呼吸づまる大接戰。遂に黒十五に小康を保ち、白十六に形を整へたる白ま期は黒今ぞ志を遂ぐる時に在り！乃ち、黒十七※而して十九。十四までの白覚に起ただず攻合黒勝なり。

【三九一三】
基本圖
（第四一型イの六）

白六の筋も好まず。（此變化三一五圖以下と略同じ。）

【三九一四】
黒善し

白四、六、八、蓋し正着なり。さればこそ始計篇に曰く、兵は詭道なりと。即ち白四にて臨機の策を取らずんば、黒九にて此形白損なり。

〔三九一五〕
黒好形なり

三八八○圖以下と異りて、白八に「二」段は黒十の次に十三の部伍嚴正、生氣溢せり。

〔三九一六〕
白潰滅す

匹夫の勇、怒髪天を衝くとも事遂に成らず。白十二、甚だ無理。白十八を以て此變化は、黒十一、白十二、黒イ、白ロは三八○圖ロにある形と大に異る。

〔三九一七〕
白潰れ

白ち五にても無理。黒十一も宜し。白六、黒十九の封鎖は、旅順港口廣瀬中佐の武勲を偲ばしむ。白を圍中一に着能く黏着せしめ了ぬ。

〔三九一八〕
白窮す

白一、三は形重し。黒十の次に白イなれば、黒ニにて白低く惡し。

〔三九一九〕
黒生氣潑剌

黒一をイも、手堅くして善し。どれよ、黒一と躍る姿や飛魚の如し。黒遂に七に至つて、黒は、初夏の川に魅惑若鮎の潑剌！黒甚だ好し。

〔三九二〇〕
黒確なり

黒五、而して七以下取るに白の一子を切れども、これは手段もあれば場合にもよつて打つ手多し。白四がイ或はロ※

〔三九二一〕
形勢互角

黒一、白意外にも二と一圍入し來りぬ。黒三の着意、含蓄深遠。以下白十まで分れ、生彩互角なり。（三五八一圖にも此形あり）

〔三九二二〕
要點約言（上）
（第四一型イの四、五、六）

黒五と尖みたる形に、白イ、ロ、ハの手段あり。何れも常形に非ず、多くは好まず。

〔三九二三〕
要點約言（下）
（第四一型イの四、五、六）

其中白㋑と㋺の附は、傾きを奇を弄するの奇手にして、勝を博する事多く、時も形も無理にし、（※猶此變化は三七四六圖）

〔三九二四〕
基本圖

白四と二間に夾せし形には、黒五返し附けしる型、白左右に延びたるを重くして、稍無理打つ意なれども、尤白四がイ或はロ※

〔三九二五〕
基本圖
（第四一型ロの一）

白六なれば、黒は無論七の尖なり。此形白イ、黒ロ、白ハと切る筋あり。黒とし此切に對する變※

〔三九二六〕
定石

白八は、基督教徒がパレスチナへの道回教徒の道の如し。カヘメッカへの道なり。蓋し正道なり。即ち白次にイに差込み黒を兩斷せんとする準備。（次圖）

〔三九二七〕
白有利の形勢互角

白二は前圖に說きし黒イの狙ひに備ふ。黒三と押すことに、白十よりは、白十打易し。白十よりは、黒十一と打つ。白攻防の緩急に應じ、黒は巧に精を盡し、白を圍中一に移し、玩ずべし。

〔三九二八〕
白善し

兵は神速を尙ぶ。然るに黒四五は重きに失す。白五に威嚇すれば、黒は何處に變化するも、白は以下九まで此形となるの可否は知らず。普通黒稍好べきも、黒イなれば、白ロと切り、黒ハ、白ニは假令黒イを取るも白善しと雖も、白上邊に活きるも、外勢厚くなりて白善し。又黒イをホと附ければ、白チ、黒ヘ、白ト、黒リ、白ヌにて、白の一目以下となり、白善し。

〔三九二九〕
場合の手段

黒二に下つて、白イを防ぐも一法なり。以下先づ此形となるの可否は、場合によりて黒イに補ふも無用。普通黒稍好べきも、黒イに補ふも無用。

〔三九三〇〕
白厚し

黒二、白は宿志遂げんと欲すれば、黒三に殺さるゝ外なし。白七を振り、黒イと補ふ。白善し。但し白は七をも九でも惡しかるべからず。

〔三九三一〕
黒敗戰

黒十四、十六、猪進なり。白十七、手順宜し。白遂に十二に起れたり。黒九、竟に十三を以て白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、又黒イを白チに受けざれば白リ。

〔三九三二〕
白可なり

白七の次に、九而して十一に絞りて、これまた碁理に適ふ。白の隅は無理ながら黒一手の寄即ち劫。

〔三九三三〕
劫爭黒不利

白強硬七もあり。白九を十は惡し。白十一（圖）でイに補ふも黒二六はイなれば黒不利。

〔三九三四〕
白有利の形勢

白いまで、前圖二五と劫ぐべきは方に殺さるゝと、三、五に白七を振ふ。白善し。但し白は七をも九でも惡しかるべからず。

〔三九三五〕
至難の形勢

白十一の置碁理なり。以下白は十九に盤上十四を可とす。

〔三九三六〕
白勝

白十五、黒は立つ。黒凡應、十六、白十七、黒一隅の攻合、黒六に白六、黒遂に白六の罰に當に死に（次圖）。

〔三九三七〕
黒勝

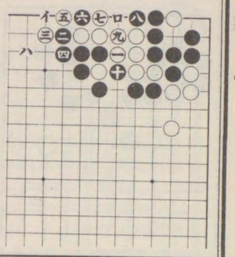
黒十六善し、黒十八、二十、二八を制す。白の死命一よく黒イなれば、白ハ、黒ロ、白ニ、黒ヘ、白イに打てば、二一を黒二一。

〔三九三八〕
白潰滅

白一は巧に似て生還を期したるの着、却て自らを墓穴に導けり。黒六、八、十。白ロ、白六、黒ハ。

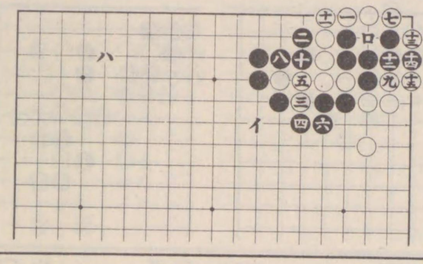
〔三九三九〕
白勝

前圖の如く白イ、黒ロの交換後、白一より黒八までとなれば持にしてイを方面の白俄に反攻、圖の黒八までの形は、白ロの筋あつて、白勝。



〔三九四〇〕
場合による

黒八より以下、白十五まで此形黒一手ロ、白イに打ち抜けば黒ハまたは白ロに補ひ必然。劫なれど黒イ其他に轉ず。白先づ隅を取るも、互角の分れなり。



〔三九四一〕
白攻合敗

白九は千仭の懸崖を飛び、下りる事十二手、愚の如し。黒十、白遂に憤血を嘔いて死す。

手 十ノ處打カウ

〔三九四二〕
黒勝

白十三を十四なれば黒二十。次に白イは大抵の劫を挑むも、黒は劫を抛つて此劫を打ち抜いて宜し。

手 打カウ　手 ヒトル　丈 粘

〔三九四三〕
白勝、但互角

黒十、悪し。勝機遂に黒を去りぬ。白十九。攻合さり乍ら黒敗。黒はイ白ロ黒ハと外側より詰めて黒厚く攻合となる故、假令攻合敗亡するも、形勢先づ互角なり。

〔三九四四〕
黒善し

白は、一を以て七に赴きし自衛の策を無理なり、遂に一、三と打つて簡單に黒善し。白六なれば、黒は手抜、白次に徐に劫を争ふべし。

〔三九四五〕
黒攻合勝

白七。黒八利双を振よ。白狡猾忽ち十五まで死せり。白九を十九。なれば、黒十一を、白十一なれば黒十一。何れも黒勝。

〔三九四六〕
黒優れり

白十七、十九。あゝ延命苦悩の若し。白か、かく苦しめ力めて歴々。白手段を生ぜり。然も白の行く手に南風競はず、黒の歸し大勢に乗じたり。

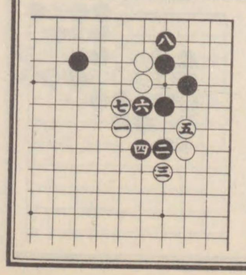
三 打カウ

〔三九四七〕
黒堅守す

白一と、中原を望んで呼號す。黒乃ち二に堅持し、枚を銜んで戈を伏す。嗟乎、さびしき動かば！たつて白を撃たむ。猛然起つて黒戰

〔三九四八〕
黒出撃す

黒二、四以下、白を左右に隔てゝ伐つ。黒前圖の形勢をせば、本圖の動靜なり。風雨静かに動かざるも、乞ふ之等の手筋を望む。初學の三思を桃移にせよ。



〔三九四九〕
黒優勢なり

白五、七。黒乃ち一に八を切而して子を取つてべし。白十三によつて黒半死の狀態。黒ロさるれば黒ロ壁つたる十四に鋭を執つて迫る。此分れ黒可なり。

〔三九五〇〕
黒善し

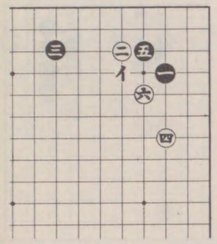
白七に駄目を詰めて黒を堅くし且つ自らの活力を殺く、悪手なり。白十一を十二に切れば黒三九イに勝。〈參照〉四五圖以下黒十四の次に白イなれば、黒ロ。※

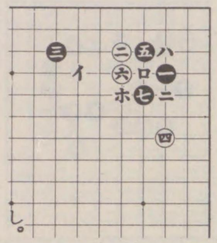
〔三九五一〕
要點約言

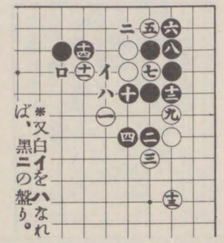
第四一型ロの一型 黒五、七無理筋なれど、隔て打たんと手強とするに時、白面白し、次に此形白イを直ちに應ずるが最善し。黒ハ白ニと切る手は黒ホにて白悪

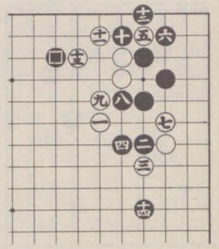
〔三九五二〕
基本圖

（第四一型ロの二）白六なれば、黒イの綻出しあり。此形白に利あらず。









〔三九五三〕
黒稍可なり

此形、黒一、三と打つて簡單に黒善し。白六なれば、黒は手抜、白次に徐に劫を争ふべし。

〔三九五四〕
黒少しく利勢

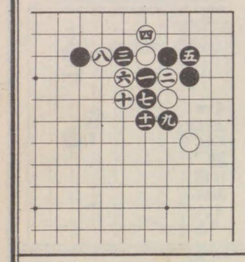
白六、士氣に乏しく退いて守つて敗しは古來其例に乏しからず。黒七快馬一鞭。白八ににに取り時、黒は先手を取つて他の好所に轉ずべし。

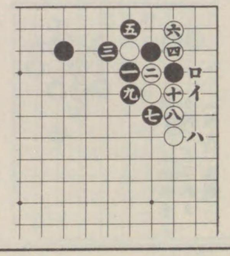
〔三九五五〕
形勢黒稍可也

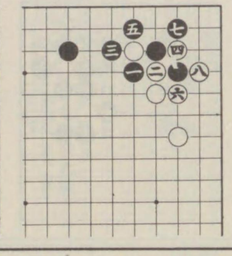
白六。黒乃ち七に手筋を打つて黒九に至つて黒の勢、嫌んなり。若し、黒イは九に出、白十、黒イ、白ロ、黒ハ。

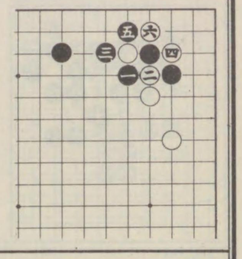
〔三九五六〕
白悪し

白四、悪し。黒五。白軍、後圖俄に絶たり。白遂に六、八と十となる位の外無し。されど、此形、地と勢と共に黒善し。









〔三九五七〕
黒手強し

黒手強く、一、三の出切り。黒中原の優勢を制へ居る時は、此手段面白し。黒遂に十七にイと烈押して、次に白ロを望む。白軍奮々として今は氣息奄々、黒困難なり。

〔三九五八〕
黒有利の形

白十二。黒渡りに舟と、十三に分れ此子に黒二を攻る。黒隅より上邊に延して地を固むる。黒有利の形なり。

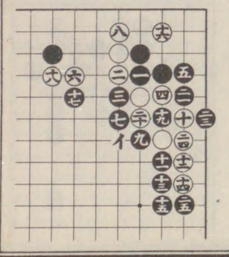
〔三九五九〕
黒優勢

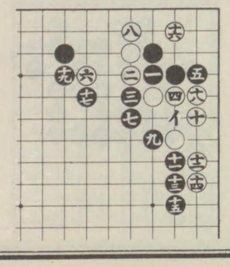
白八。黒乃ち隅を棄てゝ外厚を策す。黒十一と九。黒善し。黒七は佳手、右イ、（次圖）と、左十九を望む。

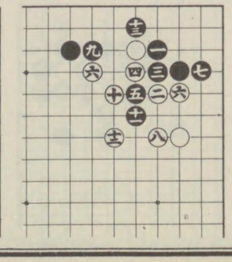
〔三九六〇〕
白嵌手に陥る

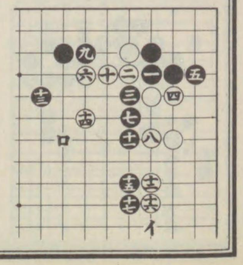
黒十八、盲者蛇に怖ぢざるの狀甚だ悪し。黒いまやイの缺陥無し、乃ち二以下九。白の大厦ドウと倒る。

手 十九ノ處ッグ









〔三九六一〕
白厚し

黒一、三綾崩極まる。白遂に六。黒□は、見よ、當初の攻撃の勇姿失せて、孤影悄然或は身ともなくめざす浮草の身ともならんとす。

〔三九六二〕
參考圖

白六、無き手にあらねど、稍勉みなり。黒は七と、四の白に迫る。而かも此手は左六を俯瞰して虎視耽々。黒十三。白は散地に潰走の外なからん。

〔三九六三〕
要點約言
（第四一型ロの二）

白六なれば、黒イにて簡単に黒可なり。稍勉し又黒は手強く戰はんとするには、白イ、黒ニに切るの手あり。

〔三九六四〕
基本圖
（第四一型ハ）

黒五と斜走する手も變化あり。これは白手段にして白を持つて碁を廣くとする時に打つたんとする時に妙あり。

〔三九六五〕
基本圖
（第四一型ハの一）

白五は、白を持ちたる時に、白イに打つ場合多し。故に此形は特に「白一、三の夾みを、白五の斜走※

〔三九六六〕
定石

白七、九と絡まる手は却つて以下の變化を簡明にす。黒結果も亦白可なり。必至の碁は雙方參照（一〇〇七圖以下）

〔三九六七〕
黒確但緩し

白十一に尋で、黒十二に稍緩し。黒十二は手抜きし、若し白ロ、黒ハにて惡しからず。七粘

〔三九六八〕
黒時機早し

黒十二に妄動す。十二は蓋し手筋なれど時機尚早なり。かくて白十七に至る。烈。黒乃ち十八に鋭く後手から不利を見ざるべし。七粘

〔三九六九〕
白堅實且優勢

黒之亦十二手も早機なり。尤も黒は邊を十七と下ばに白は右の筋を防いで白十二と打つべし。三は不屈不撓の面魂、強手なり。七粘

〔三九七〇〕
白善し

黒徒宜しき場合、白は二四に逃出せば、二七に五に次いで筋。若し黒三一、要點なれば白イにて三一形厚し。七粘

〔三九七一〕
白稍利勢

黒十。白乃ち十一而して十三に密接して黒を伐つ、可なり。若し誤つて白十三を十四と鬼手！攻合遂に白敗な手。七粘

〔三九七二〕
白優勢

初め黒十二を粘げば、白十五に黒十一と宜し。次に黒十一と粘げば、白十七と四を宜しくれば、白十四、黒ロ、十、白ハにて攻合白勝。二一、二五の※

〔三九七三〕
黒無理形

嗟乎、千里の長堤も蟻穴より潰ゆ。黒の八、無理。白九に切るや白又光芒燦然たり。右進退難に陥る。黒十二をイなれば、白ロ。七粘

〔三九七四〕
黒勢振はず

黒十。白乃ち十一、十三、十五に敵を壓迫し。白十一轉、白十七に攻圍す。白可なり。黒よし。白上邊を活くも大勢既に白に歸したり。七粘

〔三九七五〕
黒輕き手段可

白三隅のあり。此時黒が劫の意味を含んで放棄し、先づ四、六で善し。白九と劫ねるも黒イの綿を見て此石を棄つるに妙あり。

〔三九七六〕
黒輕し

黒六。白七の時黒八に一片稜々の氣骨を示して敵の膽を奪ひ。白九に尋で黒十。白輕し。黒イで白ロを粘げば、黒ハ、白ニの時黒は先鞭を他に馳す。

〔三九七七〕
黒惡しからず

本圖も略同意味。白強硬五と、黒は柳に風と、六、八には受流す。黒十。此形、手殘れり。イと切る。

〔三九七八〕
互角の分れ

白は三六四九圖と同様も一と打つを然し、三六四九圖の白イ、三と黒の交換は、此形となの交換時は黒に無用の故に※

〔三九七九〕
常形

黒二もあり。若し白□がイの一間に夾みにある時は、黒ロの筋あるも、本圖にては黒ハ、白ロに黒ホにて白惡し

〔三九八〇〕
要點約言
（第四一型ハの一）

黒六なれば白七、次に黒イに綿れば白ロと替つて簡單、且つ結果も變化に白可なり。然時は白ロをハに引くに手もあり。

※三六四九圖の方白優れり。黒八、ニハ善し。

〔三九八一〕
基本圖

黒六と押す手あり。二を乘て、右邊に黒は形勢を張らんとする場合、此手段宜し、

〔三九八二〕
白稍有利の形

此形、白一ではまたイも二も惡しからず。但し白一は黒の□を攻める手。強し。黒二は堅く、イは白に手。黒二は白に三の好調を與ふ。二はロに飛ぶ筋なり。

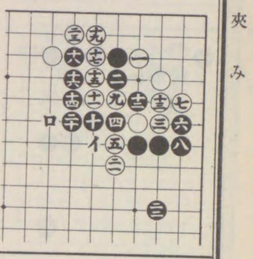
〔三九八三〕
白の打てる形

黒二。白乃ち三。白五。肝要の嗟乎、突如湧起騒聲、展開の悲劇、前途多望の莫、白九、遅し。黒十、白十一何れも善し。

〔三九八四〕
黒苦戰

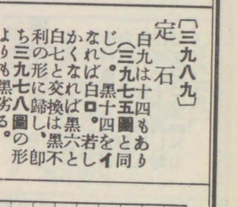
黒六。白乃ち七、九に十。白の先手を利して十三に黒を攻躍す。嗟乎、項羽その昔垓下の聲！黒ん面楚歌の聲、今や饒はれ氣沮む。

【三九八五】
白有利の形



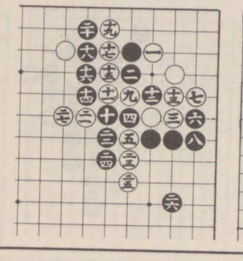
黒先鞭六、八。さ
れど、時既に黒に
利あらざりしなり。
白九以下鋭烈、黒
は皮肉を刺か苦しめ、
七転八倒の
黒二一なれば、
白二十、黒イ
白ロ。

【三九八六】
黒低し



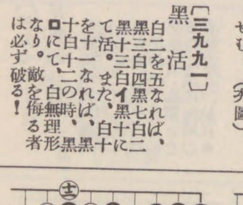
黒二、好点。
白三以下さ
れと、白二三以下さかな
黒二四以下の連凌じ
の連打にて、延低
し。白軍命に宜利全
を収め、中央に勢
を張る。黒の敗勢
たる明なり。

【三九八七】
黒分裂の姿



黒二十一、甚だ無理。
白二十一、黒の脇を
奪ふ。遂に白二七
生彩煥発、上下
黒か危地に落
つ。軌れば初めより
をつ。まだ黒に
なれば、白二
白十三、黒
黒九八八。

【三九八八】
黒嵌手に陥る



黒二、四、悪し。
白遂に十一。絶対
とイと切るも劫
なり。即ち白
五の次に抛れたる
劫にも応ぜず
黒敗形定まる。

【三九九〇】
場合による定石

黒は、二、四而して
六と、大鵬の翼を
張るも肝要、若し白
之を怠れば、黒イに
乗じ白軍多日に経
営、遂に畫餅に
帰す。（次圖）

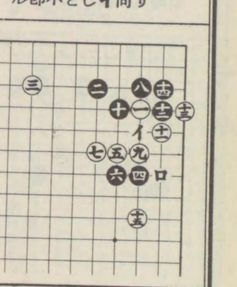
【三九九一】
黒活

白二を五なれば、
黒七白三、黒十白四、
黒十三白イ、黒十一に
て活。また白十一なれば、
白十二、黒イ、白十
に、白無理。黒
は必ず破る。
敵を侮る者

【三九九二】
互角の分れ

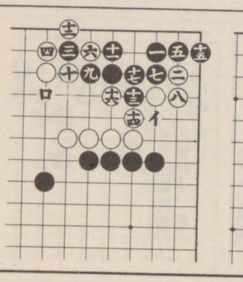
白一なれば、黒二
に彼我の要点。
つて進む尋常
快味なし。黒雙
誉れ、白十七と掛
六なれば、黒ロ、白好便
イにて粘し
黒小損なり。

【三九九三】
互角の分れ



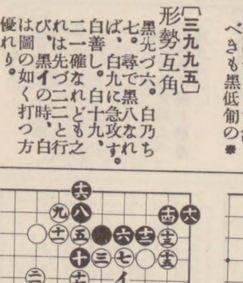
黒二も有り、単騎
又を提げて敵陣に
斬り込む妻悽愴！
白三、手筋なり。
黒四を白イなれば、
白ロ黒四を白ハ、黒
白七。また
白四黒ホを白ニなれば

【三九九四】
黒窮す



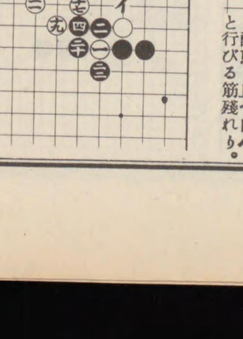
黒六。白乃ち七宜
し。黒十をイなれ
ば白十黒ロにて活
なれど、白ハとな
つて黒甚だ悪し。
白十一。十ま
で活くの
黒は辛うじて
べきも黒低劣の
一手なり。

【三九九五】
形勢互角



黒先づ六。白乃ち
七。尋で黒八なれば、
白九に急攻す。
白一善し。白十九、
二一確なれども之
れは先づ二と行
びて、白イの時、
はロの如く
打つ方
優れり。

【三九九六】
黒の形悪し



黒二、手順悪し。
遂に白七と一に至つて交
黒■白と換、黒を不利に導く時
イを白ロ。黒は辛うじて活
けたず三九八直ちに
打つ。（次圖）
■此形白にイ、ロ、ハの二）

【三九九七】
白一策なり

白一は故らに紛糾
を求めんとせば、
亂手段にて白七提
時に面白し。
黒四は単に六に粘
いで、後に六の切
を狙ふ方優る。

【四〇〇二】
要點約言
（第四一型ハの二）

此形白にイ、ロ、ハの
二に限り、此の手あり。白は其執
れを選ぶも後の手順
結果白悪しからず。

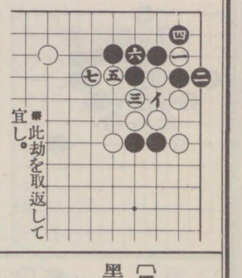
【四〇〇四】
基本圖
（第四一型ニ）

白四の二間夾返しに対する黒の変化は所謂手段として時に面白し。
此五は白を持ちたる時、打つ事多し。

【四〇〇五】
基本圖
（第四一型ニの一）

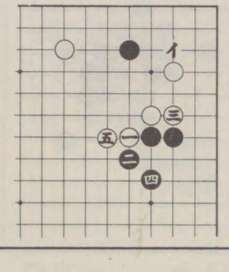
白五に、黒は六とイの應けあり。此は常形にして宜し。（次圖）
イは場合の手にして多く好まず。

【三九七七】
白外を包圍す



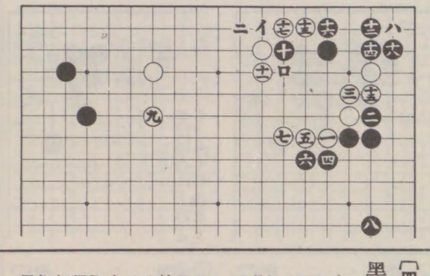
白一善し。黒二を
白イは、白二に劫提
四はイに劫提りを
手順とすれども此劫
白にとつては対
岸の火災と同じく
影響なし。乃ち白
は他の平常の點に
着手して、次に■

【三九七八】
白好形なり
三子 **某** 氏

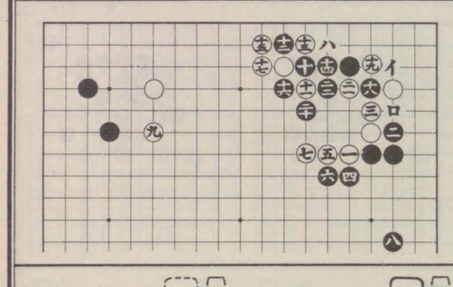


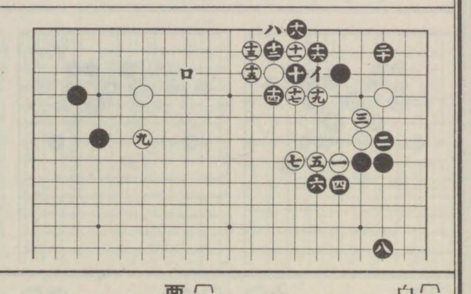
之は前掲圖の如く、
三に打つべし、黒
二悪し。乃ち白三
て成る。黒先手を以
整陣、

【三九七九】
場合の手段
先番 **勝田陳爾** 五段
前 **長谷川章** 五段

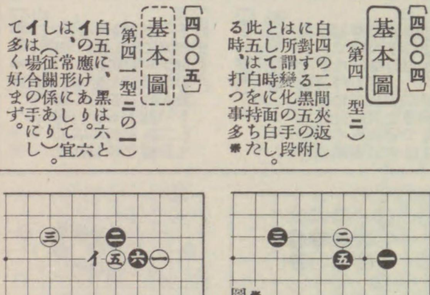


既に至る。白一
此時黒九の手筋
十の面白
し甚だ
なれば黒イを
白十一に
て後活
たの活
るまで
ば白十三
出づ。白イ
亦黒一の
なれば白十四
八黒ロ十
七にて黒
十死せず。
（次圖）





【三九七九】
黒善し



白一、手筋也。黒乃ち十二、手筋超凡。白十三、想面し。白十四、手筋超凡。白十四、
黒十五、面白し。白十六、
黒十七、雀イは九十八、
白ロ、黒十九、雀イは九十八、
白二十、黒二十一、
白二十二、黒十九、
白十九、黒十九、
白二十二、黒十九、
白二十二、黒十九、
白二十二

【四〇〇六】
基本圖（第四一型ニの一變化）

黒八に粘となりたる時に、白には九、イ、ロの手あり。其中九の掛粘さ宜しく。イとロとは※は場合によれども、多く打過なり。

【四〇〇七】
定石

白七で八の切りが成立する場合は悪手。（次圖）黒六は十三と行びる手もあり（四〇一五圖以下參照）これも征關によりて可否あり。

【四〇〇八】
黒悪し

黒四でイに、□の白を取り得ぬ場合は黒□の手悪し。また、黒□の湊功せざる以上、その前の黒△の突返しも成立せず。

【四〇〇九】
白稍有利勢

黒九。白十二、十四、征關係宜しく若し善し。但し白十七を、十九に、黒十八。黒十七、白十九に粘ざれば白イの邊に打つべし。

【四〇一〇】
混戰の形

黒九の挑戰、嚴し。白は賣られし暗嘩とは乃ち十一を得ず、白二二まで紛々たる混戰狀態、粉々、但し此形白の方前途寧ろ望多し。㊟粘

【四〇一一】
黒の形稍無理

黒九、確かなり。黒十一の時白十二に、攻打ちて十六に走りて十二は巧みなり。白十四は二を四に確かなれども、白十六、黒イ、白十三、黒ロとなつて黒の形好まず。

【四〇一二】
白薄し

黒三の時、白四と□の友軍を見殺しにせば不甲斐無し。嗟乎、一葉天下の秋を知る。黒五に至つて白形薄し。

【四〇一三】
形勢互角

黒三、手筋面白し。白四をイにても黒は同じく切り。白は四に尋かれども、これは手抜きして宜し。他の要所に赴くも

【四〇一四】
白好まず

白四、六は俗筋なり。かくては白は八の一手に利を得たるも、白駄目詰まると、其形自縄自縛となつて二以下の傾き重くして好まず。

【四〇一五】
形勢互角

白二は筋違ひの意味あり。尚ほ、黒七で白ロの時に白イと征取り、黒は白二を得ぬ場合は、白八の征取り、白二を得ず。

【四〇一六】
場合による

黒七、九、十一、前提は黒十三に赴く、前圖白の征ありや。無しや。前圖は白十八に尋で黒一に走れば白十八と出ら黒十九を怠れば損甚し。（次圖）

【四〇一七】
白善し

黒二十の點は前圖の如く白八に打たずば白十八、十二に殺され、白十八、十二の大利。先手到。白イに眼形を得。黒三分し甚だ悪し。㊟粘

【四〇一八】
白稍有利

黒前二圖の如く中原の戰となつて面白からず看取十ば卽ち圖の如く白の三と打つ。白の隅の黒が外勢も大なれども盛んならず。㊟粘

【四〇一九】
黒善し

白十は、隅根を後日に跨す、惡し。白は遠鑑ず、殷かで、十四に尋で、黒は十五に逃出す。白は力戰の甲斐なく、遂に黒より二五と扼さる。猶此形黒イの殘れり。

【四〇二〇】
黒の打てる形

黒一、三、五は平常の手筋なり。白十は攻守の要點を占めれば黒は纏を揚げて十一に夾みつつ。

【四〇二一】
白面白し

白は四もあり。五稍緩し。更に一段の士氣を鼓舞し、五はイ或はロの邊に敢戰に出でざるべからず。白十は黒十一なれば、イも宜し、白乃ち十二の攻圍。

【四〇二二】
基本圖（第四一型ニの一變化）

黒八の時、白にはロの手あれど之等は手筋にニと切らるる結果何れも白好まず。白五の附も一段持つて、白を面に、黒六、八常形、次に白九の掛粘最確なり。

【四〇二四】
要點約言（第四一型ニの一變化）

嗟乎、氣旺んに鋒鋭なりとは、黒五の謂ひか。まさに天を呑吐せんず。意氣、手强し。白六以下四まで雙方必然の應答なり。

【四〇二三】
常形

加藤　信七段
二子番中山秀廬三段
勝

【四〇二六】
黒優れり

白一、黒乃ち二あるのみ。以下多少の變化あれども、何れも好形、白九は手段を征關。白十一善し。（後圖參照）白十七、黒二十、共に良し。㊟粘

【四〇二七】
黒急所を失す

黒十八はまづイに切り絞つて（前圖の如く）後十八が善し。黒は此急所を失し、白十九に掛く、事を失し、今や形勢一變、白の形善し。

【四〇二八】
黒勝但互角

黒十六の劫を挑めば隅の白は屠り得べし。されど、為に、白二五となつては、黒ひを逐に失へり。黒二十下に天志を遂げて、白二十。

【四〇二九】
黒必勝の勢

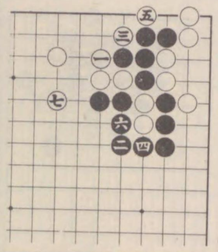
白十一、常形なれど、此場合惡し。黒先、為に隅は逐に移動、棋勢に手持ち。嗟乎、二八黒二に壁を擁して中原を横貫せんとす。白軍潰ゆるに垂んとす。㊟粘

〔四〇三〇〕 黒勝

白九に掛げば、黒即ち掛粘十二。攻合黒勝なり。黒十二では㋑に切るも好し。黒の夾に白㋺な黒ハ白ニにて大なれば點。又白㋑をㅁなれば點。

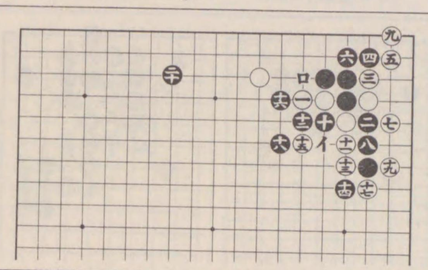
〔四〇三一〕 黒甚だ優勢

白一は元來無理手なり。さ征れど、黒㋑の征、即ち黒十二で白十三の征、或は白十三での宜しき場合なれど、白一は限らず。全然利なし。白の不



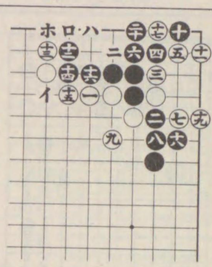
〔四〇三二〕 白前圖に優る

白一、三と、總に連絡を成す。而かもこれ厚壯にはに得しめたるため利なし。白一は倍加に斯く打つ先手にて七に打つ前圖に優る。



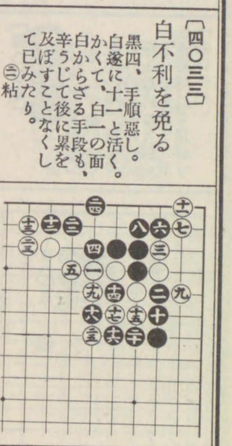
〔四〇三三〕 白不利を免る

黒四、手順悪し。白遂に十一と活く。白一と活くも、白一段も、白から辛うじて後に累を及ぼすことなくして已みたり。㊀粘



〔四〇三四〕 形勢互角

白先さに一。黒乃ち二。之れまでの形は前圖と同じ。されど、次に白に手あり、前圖までの諸果に比して白稍優る。



〔四〇三五〕 場合による

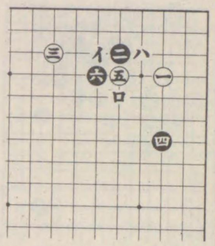
黒四、白五。今や白㋑と取らるも、黒一の轉、白乃ち黒一策を失ひ、黒ハ六に出づ。白㋑と取らるも、

【四〇五三】
要點約言（第四一型ニの二）

黒六、止むを得ざるに出す。次に白はイに切つて宜し。白七でロは、黒ハと為つて、特殊の場合の外白好まず。

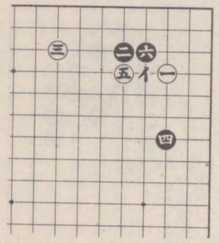
【四〇五四】
基本圖（第四一型ニの三）

黒六も、征關係によりイに絡込み得ぬ場合（四〇〇八圖參照）の一どつの型なり。さすれば四の黒を弱くする故に、黒好まず。



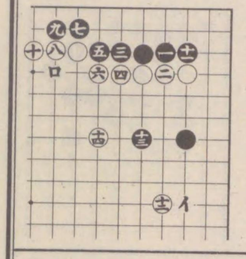
【四〇五五】
白優れり

黒九と活さざるを得ず。白乃ち十二の間隙を補ふに先つて孤攻單騎の十一に立つて尋めに来つた。黒は十二に守るより外なし。白は絶好の手順也。



【四〇五六】
白優れり

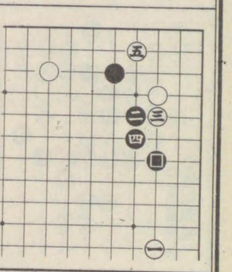
黒三、五なれば、白乃ち四、六。黒十一に治まるや、黒白卽ち十二に殺す。双手とも黒を振ふ。白善し。一に打つ時は、其時は白イ黒十三白ロ。



【四〇五七】
參考圖

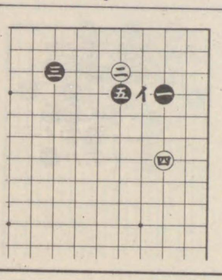
先番 **稲田正義** 五段
勝 **村島誼紀** 五段

黒ロに夾攻せし時白之に對する防衛を怠つて一。黒乃ち二。此形止むを得ざる場合の外白好まず。



【四〇五八】
要點約言（第四一型）

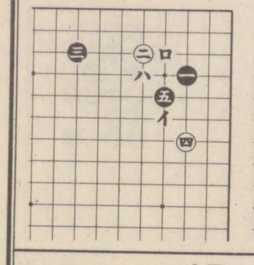
黒五なれば、白はイの絡込常型なり。此形黒無理なれば、つけんとする時は、特殊の註文を含みて面白し。



【四〇五九】
要點約言（一）

（第四一型全部）

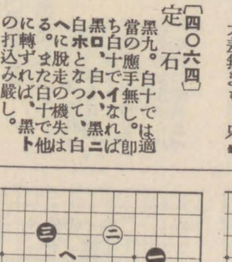
白、四の二間夾返しは、黒三の攻撃邊を緩和し、且つ右手に勢を得んとする段なれど、此手は可なり。二間夾に白一間夾は、黒は特殊の註文にて、白多く好まず。



【四〇六〇】
要點約言（二）

（第四一型全部）

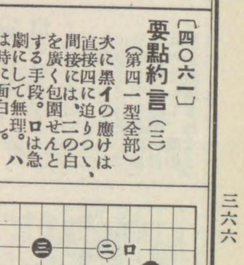
卽ち四の夾返しに黒五、イ、ロ。其中五は、ハ等の應けあり。見るも又結果より見るも、他に比して黒最も善し。



【四〇六一】
要點約言（三）

（第四一型全部）

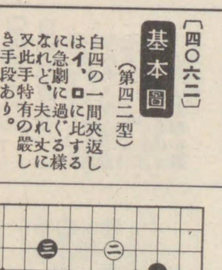
次に黒イの應けは直接四に迫りつゝ、間に二の白を廣く包圍せんとする手段。ロは急劇にして無理。ハは時に面白し。



【四〇六二】
基本圖

（第四二型）

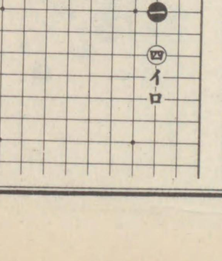
白四の一間夾返しはイ、ロに比すると急劇に過ぐるなれど、又此手特有の嚴しき手段あり。



【四〇六三】
基本圖

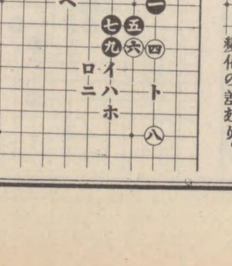
（第四二型イ）

白四には、黒五及び㋑の應けあり。而して四と五とは一間夾に於ける大差無きも、只



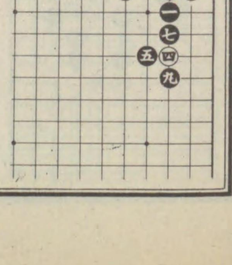
【四〇六四】
定石

黒九、當の應手無しは適卽ち白十で、イなれば黒ロと白ホとなつて、黒ニに白ハと走つた白十機失ひ、白ヘに轉ずれば黒ト他に打込まれ嚴しき。



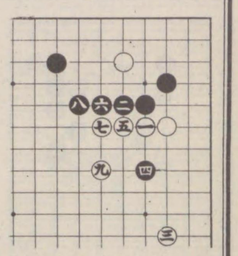
【四〇六五】
定石

黒三がイの場合は後に黒ロあり。今此の黒無しと、卽ち、白六、八の所以也。成立す黒ハの場合は黒ニに次にロの筋よりは次にロの筋を含んで、イの好點が殘る。



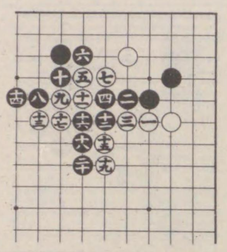
【四〇六六】
黒確かなり

黒六に圍へば確かなれど、また六で、イと曲る手もあり。一に長一短を免れず。恰かも月盈れば虧くが如し。



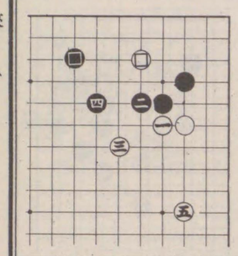
【四〇六七】
白打過の形也

嗟乎、單騎孤軍、白五に敵圍を衝いて出づ。二十まで形づくりて白芳し、換言せば、之は黒先手を制して終始局勢をリードする形なり。



【四〇六八】
黒有利の形也

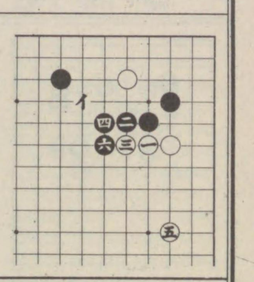
白三、卽ち白いまや急激の戰を避けて棋移を徐々に導かんとするものの如し。黒四は■に於ては白の二間夾みの■を完全に包圍する形黒有利なり。



【四〇六九】
場合による

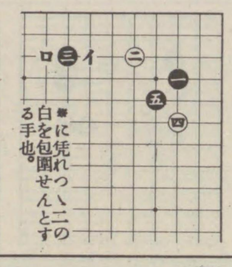
先番 **村島誼紀** 五段
勝 **山利一** 四段

黒六もあり。此形は、黒イの隙を殘せども、その代り白の三、五方面への脫出厳し。



【四〇七〇】
要點約言（第四二型イ）

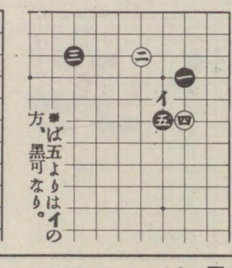
此四の一間夾返しは、黒五の尖みに簡明にして好手なり。黒五は蓋し、三か三の間に在る場合も同じ意味にして要は、白の四■



【四〇七一】
基本圖

（第四二型ロ）

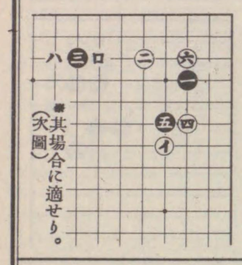
白四には、黒は五の附もあり。之れ前の意味大同小異なりされど、若し強いて可否を論ずれば■



【四〇七二】
基本圖

（第四二型ロの一）

黒五には、白に六と㋑の應けあり。而して白六は、三の二間夾みの場合に、ロの一間ハの三間夾よりも■

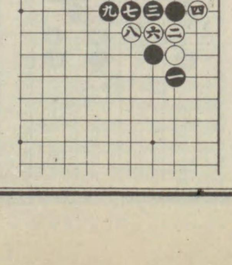


【四〇七三】
定石

黒三がイの場合は後に黒ロあり。今此の黒無しと、卽ち、白六、八の所以也。成立す黒ハの場合は黒ニに次にロの筋よりは次にロの筋を含んで、イの好點が殘る。

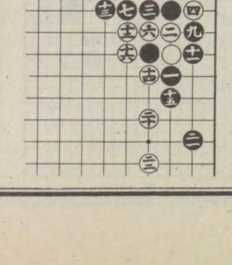
【四〇七四】
白可なり

黒一も有り。以下接又幾合遂に白十に至る。此に分れど、二非ず。要するに黒佳觀にして、黒一たび引けば煙草盆を返せば、繰返しも免れず。



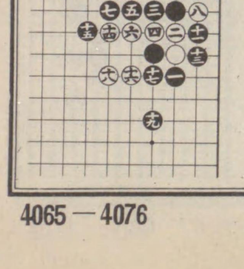
【四〇七五】
白の勢稍可也

黒五と切る筋もあり。以下蓋し、黒は二の白を孤立せしめて戰は、んとするも、戰は事あれど多くは黒好まず。



【四〇七六】
戰中原に在り

黒三に尋で、白い四と出づれば、以下黒十九まで、白は先づこれ位のものならん。勝敗、未だ必ずしも原の戰によつて決す。

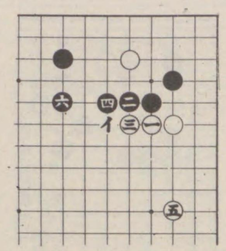


【四〇五五】
黒確かなり

白一路廣く三、乃ち四に一下して六、八と固隅の機を求む。所謂帷幄に參して百里の外に運らすとは夫れ此の如きの行を云ふか。黒の行兵、甚だ善し。

【四〇五六】
黒確かなり

黒六に圍へば確かなれど、また六で、イと曲る手もあり。一に長一短を免れず。恰かも月盈れば虧くが如し。



【四〇五七】
白打過の形也

嗟乎、單騎孤軍、白五に敵圍を衝いて出づ。二十まで形づくりて白芳し、換言せば、之は黒先手を制して終始局勢をリードする形なり。

【四〇五八】
黒有利の形也

白三、卽ち白いまや急激の戰を避けて棋移を徐々に導かんとするものの如し。黒四は■に於ては白の二間夾みの■を完全に包圍する形黒有利なり。

【四〇六九】
場合による

先番 **村島誼紀** 五段
勝 **山利一** 四段

黒六もあり。此形は、黒イの隙を殘せども、その代り白の三、五方面への脫出厳し。

【四〇七〇】
要點約言（第四二型イ）

此四の一間夾返しは、黒五の尖みに簡明にして好手なり。黒五は蓋し、三か三の間に在る場合も同じ意味にして要は、白の四■

【四〇七一】
基本圖

（第四二型ロ）

白四には、黒は五の附もあり。之れ前の意味大同小異なりされど、若し強いて可否を論ずれば■

【四〇七二】
基本圖

（第四二型ロの一）

黒五には、白に六と㋑の應けあり。而して白六は、三の二間夾みの場合に、ロの一間ハの三間夾よりも■

【四〇七三】
定石

黒三がイの場合は後に黒ロあり。今此の黒無しと、卽ち、白六、八の所以也。成立す黒ハの場合は黒ニに次にロの筋よりは次にロの筋を含んで、イの好點が殘る。

【四〇七四】
白可なり

黒一も有り。以下接又幾合遂に白十に至る。此に分れど、二非ず。要するに黒佳觀にして、黒一たび引けば煙草盆を返せば、繰返しも免れず。

【四〇七五】
白の勢稍可也

黒五と切る筋もあり。以下蓋し、黒は二の白を孤立せしめて戰は、んとするも、戰は事あれど多くは黒好まず。

【四〇七六】
戰中原に在り

黒三に尋で、白い四と出づれば、以下黒十九まで、白は先づこれ位のものならん。勝敗、未だ必ずしも原の戰によつて決す。

【四〇七七】
黒好まず
黒三、以下七に掛ぐ。普通は此形黒ハ、白ロ、黒ホの手あれど、これまた黒後手也。

【四〇七八】
黒好し
夫れ自ら輕んじて後、人に輕んじらるとかや。白二、四の低御は、四の慨なき能はず。黒三、且つ黒勢確かなり。

【四〇七九】
白不利の形也
白二、好まず。白四は蓋し、黒イの時ロに退守せずして、ハに叩くの便宜を遺すはた〻目前此白四はたゞ目前の利のみ。即ち後に黒段をイの切取り大なり。

【四〇八〇】
白後手なり
白四。されど白後手にして此分れ好まず。畢竟、白の行動たるや、家康に對せし秀頼の如く、勢しりて而して敵の意中を往くものなり。

【四〇八一】
白可なり
黒三、惡し。白八の次に、黒イなれば白ロ、なれば白イ。黒イをロなれば白イ。黒イの欣び、白いまや兩手に花を奪ふとも、黒ホの一を失はず必一花。白イれ八ず必一花。白可なり。

【四〇八二】
場合による
黒いまは考慮を要す。白十は至難の時なり。白十は實に於ては、白十で偵騎を縦つもあり。黒十一となりて、單に此儘の形勢の上より見るに無理に近し。

【四〇八三】
要點約言
（第四二型ロの一）
白六に頂けし時は黒にイ、ロまたはハの應けイ。ありと。其中イ定型。ロと、ハは多少の紛糾を惹起すべく、又時に可否あり。

【四〇八四】
基本圖
（第四二型ロの二）
白六の綽は、常形且つ單なり。

【四〇八五】
定石
黒五以下白八に至る、此時黒九善し。此北して九しは、イ或はロに堅實なるも。嗟、堅實ぞ第一想へ、處世、村行き、處山風雨の難きを處にあらざるを。

【四〇八六】
常形
白四、右、左の路、◯との活を望む、但し四は手筋の連繫するを要する時機を見ての盤りは、十なるまでの大なり。黒七は喪だ約れば、白八、十に黒イ、白ロにて活。

【四〇八七】
白形を損ふ
白四無理。黒五。白遂に目的を眞しも、黒十八に活きし、黒の外勢厚壮。白は角を殺すの外、愚を犯めて牛を似たをと附けて前圖の如く打つも宜し。

【四〇八八】
黒好まず
黒三、さまで惡しくはあらざれど、程にもあり、且つ白六、四と運ばれて黒イと守るも圖の如く、白ロの筋あり。白四の六と、黒イとの交換は黒好まず。

【四〇八九】
場合の手段
白二、卽黒イ可なり。（その意味は略）四〇八五圖と同じ）然しまた時には黒三、五もあり。イを省略して廣く白ロを圍む手段なり。

【四〇九〇】
黒稍緩し
瀬越憲作 七段 當時二子 村島誼紀 四段 番 五目勝
黒二。此場合も、白三善し。黒四は手抜きも宜し。次に白四、黒イ、※白ロ、黒ハ、白ニとなるも、猶ほ黒ホの筋遺る。

【四〇九一】
形勢互角
白ロにある場合は、白一もあり。黒二。黒の動靜を偵ふ。黒四、白イを五なれば、白八にて白イ、黒ロを六なれば、白乃ち三と善し。戰局の前途茫漠や未だ優劣未だ斷すべからず。

【四〇九二】
黒手強き打方
黒二、四は、ヒツトラーの強行手段にも似たり。されど圖の如くなつては黒イに此形點頭る。故に白イの斷點る。可否場合によるべし。

【四〇九三】
黒有利の形
白三なれば、黒四にて宜しく、白イなれば、黒ニ。又白ハ、黒イをロなれば、黒ヘ、白ホ黒粘となつて此形白左右に分離して甚だ薄弱なり。

【四〇九四】
要點約言
（第四二型ロの二）
黒五、白六と綽れては、黒七に引いて宜し。隅には多少の手段（イ或はロ）あれど其形治まる故に、黒惡しからず。

【四〇九五】
基本圖
（第四二型ハ）

【四〇九六】
白稍可なり
白四の一間夾返しに對する黒の應は、ロの場合にもよれど、イは黒好まず。
黒一、忽ち生ず混亂の一機！此一手あるのみ。白二は、黒三でイなれば、白ロとなつて、黒イ、白ロ、黒ハ、白イ、黒形治まる。又白四と同じく四一〇一圖の如く打つも宜し。

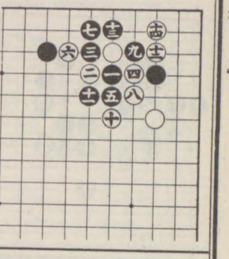
【四〇九七】
黒場合の一策
黒七、九も一策也。白十四は白ホを競ふも、黒十三を似たり共に絶佳。黒時に蛙雄んで、中原に運ぶの策も善し。

【四〇九八】
場合による
白四に尋で黒五、黒時ず。手を失はず。白六にる段た、黒十九、白イ、黒八、白イ、黒十四と小活なつて白ロが隅に不利を疑は白の得る手は順ず。白八、良し。

【四〇九九】
黒攻合勝
白八、手順を失す。前圖よ、結果は天淵の差あり。黒は自信に充つる足どり。白の三、九は今や祖上の魚、子は確固たる足に捉へず。黒十四、白ハ、黒イ、白ロ、黒ホ、白ト、黒ヘ、白ロ、黒ニ、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト

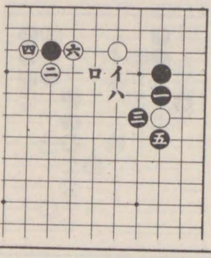
〔四一〇一〕
白稍利勢

黒三の切りは四〇四一圖以下二間夾返しと打つ故に、結果は四〇四一圖以下の如く有利ならず。白六、八、十の手順宜し。



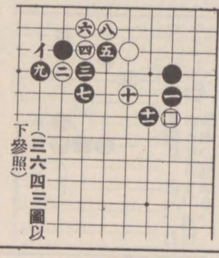
〔四一〇二〕
白小可の形

黒一は、手筋稍重し。白二は、軽て黒三に起つて黒を攻むるの好機を捉へんとするの軽妙。白二で直ちに三なれば黒イ、白ロ、黒ハとなつて、白の棋歩渋滞を招く。



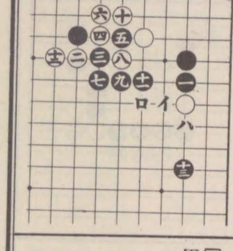
〔四一〇三〕
黒可なり

白二の時、黒は三及び九もあり。黒三は局勢紛乱すれど、黒の結果悪しからず。黒三を九に、白十一となつて白に□を活用せらるゝの不利あり。



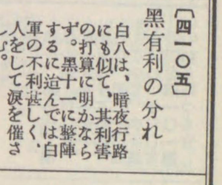
〔四一〇四〕
互角の分れ

白若しなり前圖の如くなりて征に取らるゝと打つて先手を取り十二も打つべし。次に黒一は白八、十二にて打つは黒十二、白ロ、黒ハ。



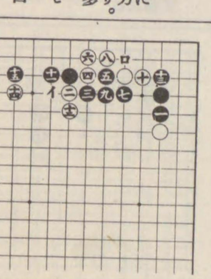
〔四一〇五〕
黒有利の分れ

白八は、暗夜行路に似、黒必ず其利害を明算にて打つ。黒十一に撃ちて軍の不利、次に白十六と形を整ふ。



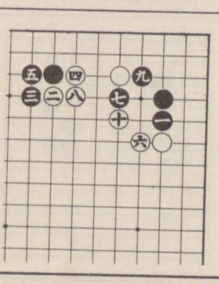
〔四一〇六〕
黒力戦を要す

黒三、五常形に拘泥せり。白六と鼓噪して起つ。黒の二子、驚愕す。白八、十手筋なり。



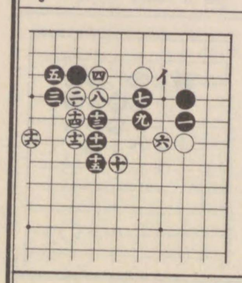
〔四一〇七〕
白優れり

黒九なれば、白十、黒十一をイと力戦に赴く手段あり。此時黒に妙機なきにあらざれど、危険も之に随つて多し。白十を十一、白十二、黒ロにて良し。



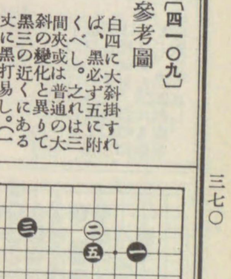
〔四一〇八〕
黒の形拙し

黒九なれば、白先づ十。黒十一をイと力戦に出づれば、白十二。黒十三、白の包囲を辛うじて脱出するも、白十四と交換、黒不利、次に白十六と形を整ふ。



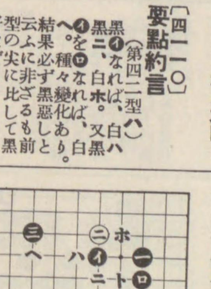
〔四一〇九〕
参考圖

白四に大斜掛けすれば、黒必ず五に附くべし。之れは普通の大斜の変化と異つて黒三の近くにある丈に黒打易し。(一一間夾二六四九圖參照)



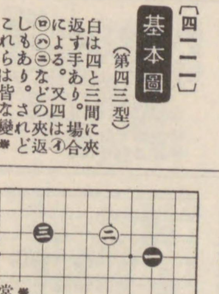
〔四一一〇〕
要點約言

黒イ(第四一二型)なれば、白ホ。又白ハ黒ニ、白ヘを(ロ)種々な変化あれど、結果必ず黒悪しと云ふに非ざるも前型に比して黒好まず。



〔四一一一〕
基本圖
(第四三型)

白は四と三間に返す手あり。場合による。又四は(イ)合(ロ)(ハ)(ニ)などの夾返しもあり。されどこれらは皆な変化。



〔四一一二〕
定石

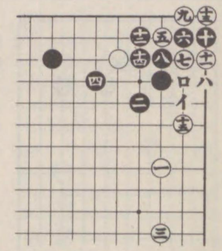
白四にても、黒五、七、定型なり。白八となれば、黒九(此)変化前圖二間夾返し、同じく下つて三八〇四圖以下、白八を九は黒イ此変化は前圖比し、一間夾返しに自盤りに不便なり。

※則の手段にして常形に非ず。

※及び三間夾五二七三圖參照)

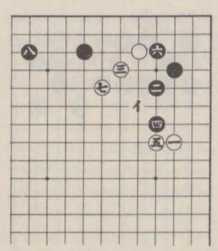
〔四一一三〕
常形

黒六なれば、以下白十五となる位の宜しきものなり。白若し十五、黒ロ白をイとなれば、黒ロよりも十五出られて、白翁の地に陥る。



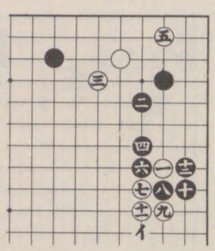
〔四一一四〕
黒確なり

白一と三間夾返しの場合は、白はイの時に黒乃ち封を伏す。黒乃ち四と伐つて白の作戦を破り、而して攻守共に後六に隅の黒の棋歩、堅實なり。



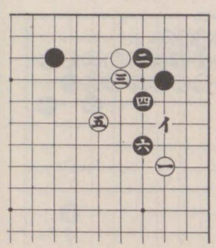
〔四一一五〕
黒堅し

白五。黒即ち、敢て白の賞を避け、意味に於て白七を八に六。又白九を八に、黒イなれば、黒七。白八、何れも白まづし。



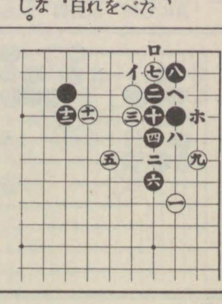
〔四一一六〕
常形

白一の三間夫返しの形は、前二間夾返しと異り、黒攻勢に出でんとするに対し、白は打つ場合と打たざる場合とで二手あり。又イに飛ぶも宜し。



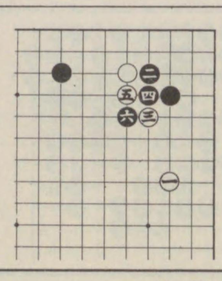
〔四一一七〕
形勢互角

白七、九の手筋、嗟乎これ美玉にも譬ふべき黒玉を得たり。黒十、已むを得ず白十一、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホ、となつて、黒ヘ、白十一、黒の形悪し。



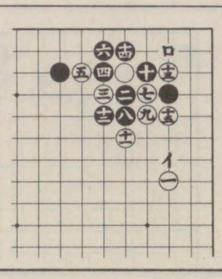
〔四一一八〕
後圖參照

白三なれば、黒四而して六に切断す。之れは前圖に於ける三間夾五〇四〇一圖以下と比較參照すべき変化なり。



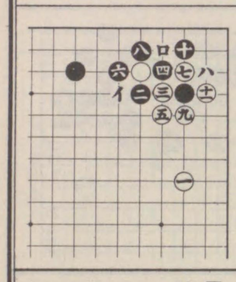
〔四一一九〕
黒確なり

黒二と附ける手もあり。之れも白一路一路遠ざかる手なるも、黒は易しと見て白十五の筋あり。



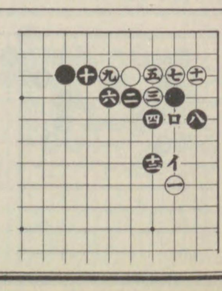
〔四一二〇〕
形勢互角

征(即ち、黒六、七、白イ)が有利の場合に於ても、黒二、而して白ハと打つ時、黒九ロとなれば、黒は四、六と打つての上にて極力勢を張りたる手あり。



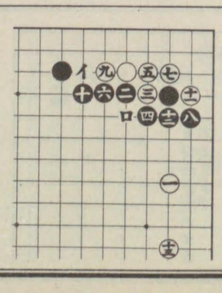
〔四一二一〕
常形

黒いま、四而して六。黒外勢厚を築かんとするの手段。白一のイに黒ハなれば、白ニと黒ロとを交換して白七を抜き、白ホと黒ヘとの交換、黒ロなれば、白ハ、黒ニ、白ホ、となつて、黒ヘ、白十一、黒の形悪し。



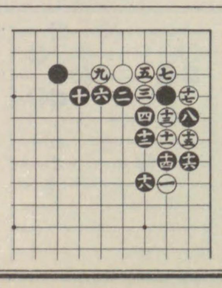
〔四一二二〕
形勢互角

黒十。白乃ち十一もあり。黒の外勢厚なるも、白は黒の外厚を抹消して十一、十三に虎踞せり。



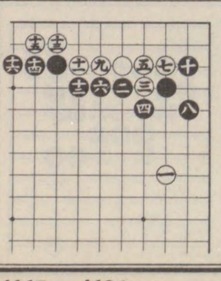
〔四一二三〕
白の手段痛劣

白十一なれば黒十二、白三なれば黒十四、白の棋歩大なり。黒は大つて中央無限の野を厖す。

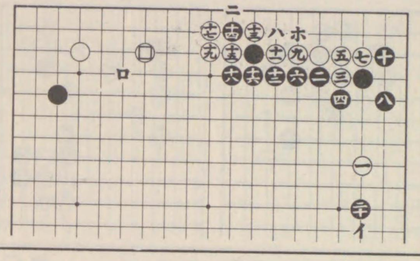


〔四一二四〕
時に黒面白し

黒十は、白の十一以下を促して黒十一、十三と勢威を展べ、四、十六と勢を左上隅に張りたるも、白の締りもあり、その勢力を減ずれば、黒可なり。

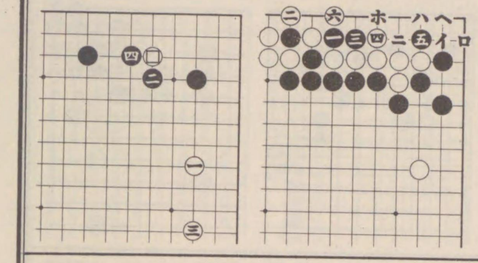


〔四一二五〕
場合の良策



黒十四の二段約へ氣宇宏大。白を十九に應ぜしめての堅壘と相呼應して、二十せんとするは攻守に戰。左上隅に白□の如き低き配置は、白十九と□との間に黒ニ、白ホと、黒ホと、白地を削減する手段もあり。（次圖）

〔四一二六〕
優分の手段



黒一以下五までの得なり。此手順の中、白四をイに打てば、黒ロ、白ハ、黒ニ、白五、黒と劫に仕掛ける手あり。

〔四一二八〕
古風の定型

先番奥貫智策五段
明治以前の對局には黒二四の型も散見すれど、これは白の不利なりて、白三と黒□との交換となり、

〔四一二九〕
變化計り難し

久保松勝喜代六段
長谷川章四段
當時

先勝。白四而して六以下の變化。黒十七を五に二なれば、白イに黒ロ、白十四に十八ばシボッて筋あり。白二四に綿ねる切つて後白十四。白必然の劇戰とはなれども、勢、

〔四一四五〕黒厚し

白七、九、㊂手抜。黒は棚から㊃餅、期せずして外圏の利を得たり。四一三六図と異りて黒後手となりも、その利と厚とは、全く同日の論に非ず。

〔四一四六〕常形但場合

黒二は、前図までの六よりは得なれど、此手は黒㊀がイの三間夾みに在る場合打つこと多し。白七に夾撃す。黒㊁は稍白の厚みに近寄りすぎたる観あり。

〔四一四七〕白好まず

先番 **鞆井上一郎四段**
勝 **輪田正義五段**

兩氏の對局圖。白七、九、十二、十六の手筋に似たれど、黒に十一と卸て其形白薄し。

〔四一四八〕黒多く好まず

一葉眼を蔵へば泰山も見ずとかや、黒は二、四、六、八と大なる地域を作るの雄大なる眼を以て此形黒を多く好まず。

〔四一四九〕㊃の手順宜し

白いまイを打たずして直ちに㊂に跳起して黒㊀の西相呼應す。黒四の手順宜し。次に白㊄で黒ロなれば黒ホ、白ニ、黒ハ、白㊆。

〔四一五〇〕参考圖

勝 **服部因淑八段**
先番 **宮重元丈七段**

黒三、五、強硬手段。白十の筋。面白し。黒十一でイなれば白ロにてイ眼形あり。また黒㊇

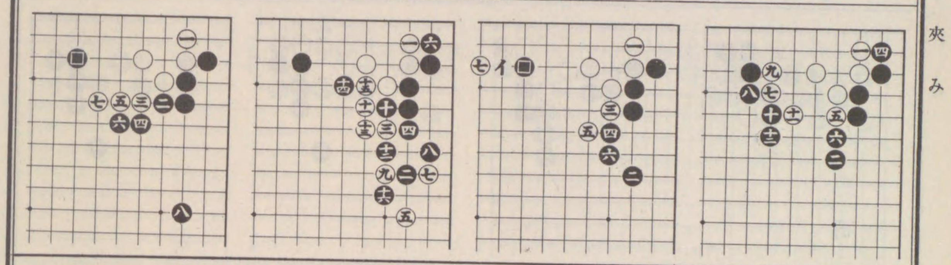
〔四一五一〕参考圖

勝 **白山崎因砂五段**
先番 **奥貫智策五段**

白五の時、黒八を以て省いて直ちに六、七に切り、白は敵の虚に乗ずる普通の手段。白甚だ善し。黒八にてイ㊇

〔四一五二〕要點約言（第四四型イ）

黒七なれば、白は必ず八。次に黒九に斜に走る。九でロは蓋し定型なり。または黒九をイも無きにあらねど、これの可なるは、黒三をイに三間夾み㊇



〔四一五三〕基本圖（第四四型ロ）

黒七と逆撃する手あり。一〇〇七圖或は二一一八圖など、略同意。黒の此手段厳しくして宜し。

〔四一五四〕定石

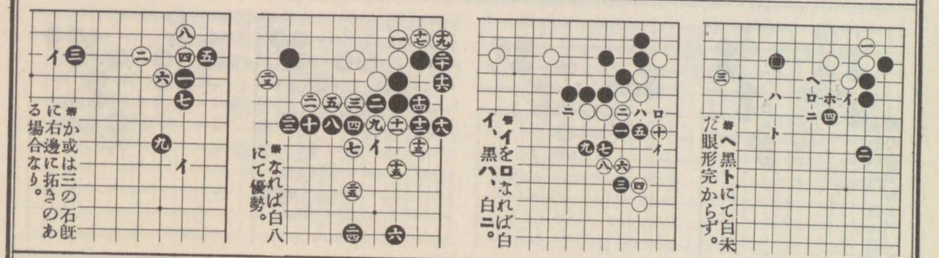
夫れ兵は詭道なり、黒乃ち白の意表に出て七に逆撃す。白八最も良し。白は征の如く十二。此形に来る。白遂に何によつて多少の可否あり。（次圖）㊎粘

〔四一五五〕黒勢稍可なり

白七でイと征に取れぬ場合。機会は前髪を以て捉ふべし。黒即ち直ちに六に切る。此も一局の可否は尤も周到の布石如何によれど、普通は黒可なり。㊍粘

〔四一五六〕白悪しからず

黒前圖征の悪しき場合、イの外への點例へば七に赴けば、白六に掛けに粘き、此形白ロが先手善利し。次に黒ハ、白ニ。黒ホとなるなり。㊍粘



〔四一五七〕互角の分れ

黒征の悪しき場合直ちに六、八は時機尚早。白十一でイも無きにあらねど、白いまや此の急所を如何にかくるに足らず、却て其形白薄し。大場なり。㊍粘

〔四一五八〕白悪し

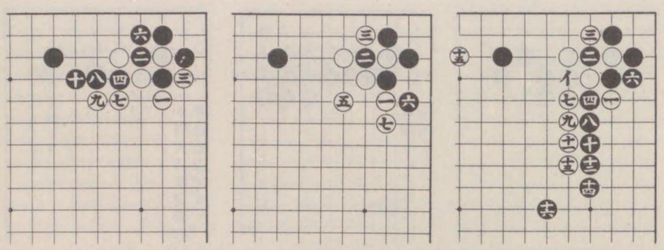
白いまイ、三。黒即ち、四に切て出ずれば、宜し。白七は出でイに手生彩然ならず。（一間夾み二二八八圖參照）㊄劫トル

〔四一五九〕白可なり

闘志無き百卒は、敢慨の氣旺んなる一兵に如かず。黒は唯々諾々と甘んじて八の字に至つて出づ。棋移十に至つて白生彩を放つ。前圖と比較するに只其方向異なるのみにして黒有利なり。㊄劫トル

〔四一六〇〕黒有利の形

白いまイ、三。黒即ち四に切つて出づ。棋移十に至つて黒は鐵壁の厚富を誇する。前圖と比較するに只其方向異なるのみにして黒有利なり。㊄劫トル



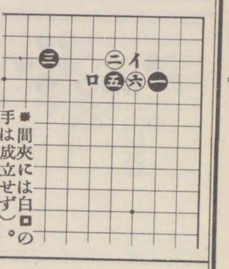
〔四一六一〕白堅きに過ぐ

白の士氣、今や地に墮つ。見よ白イ、ロの執拗にも出でず、ずんば戰を捲いて三、三と防守す。黒四、宜し。（變化一間夾二二八五圖參照）

〔四一六二〕參考圖

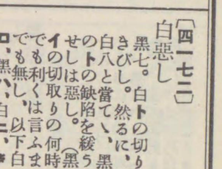
賢子も風雲に際會すれば天下の權を握る。碁の普通は損といふ手も、ム、ム、ム

〔四一六八〕
基本圖
（第四五型イの一）



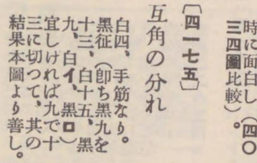
黒五の時白に六、イ、ロ手抜。其中六は征宜あり。（一間夾二七九圖以下參照、但し一手抜。）

〔四一六九〕
定石



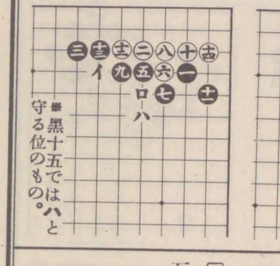
黒十五まで四手抜は定型の一つ也。黒の外威四邊を壓す、後に對し燗んなり。イ、ロ、ハに據つて白は白ニに對して活路を定む。此形一間夾二七〇圖

〔四一七〇〕
白敗形



白六でイの征の宜しからざる場合は圖の如く、尤も先きに白が嚴しき方に白が嚴しき征當りを下し得らるる場合には出づる事も此形にあり。

〔四一七一〕
定石



黒十三。白乃ち四手抜を狙ひつゝ、先づ十四に自ら固うし、後手なれども十四を鋭しと。此形隅の白も小ならず。

〔四一七二〕
白悪し

黒七。白トの切り、きびし。然るに白八と當てゝ、黒トの缺落を殺せしは惡し。（黒イの切取りの何時でも利くは言ふまでも無し、以下白ロ、黒ハ、白ニ、）

〔四一七三〕
場合による

黒七而して九もあり。場合によれど黒味惡し。黒九で十が常形なり。（四一七六圖參照）。

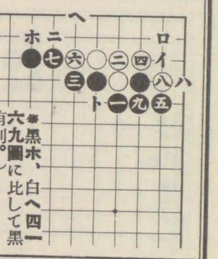
〔四一七四〕
黒時に面白し

黒いまや前圖の如き外面包圍策を棄てゝ、三に隅の實利を占めつゝ白を中央に狩り出す。黒の如く燗んなるは、火の時に面白し。（四〇黒三四圖比較）。

〔四一七五〕
互角の分れ

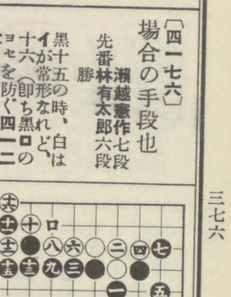
白四、手筋なり。黒七、（卽ち黒九を十三、白イ十五、黒ロ宜しければ、九で十三に切つて、其の結果本圖より善し。

〔四一七六〕
場合の手段也
先番林有太郎六段
勝瀬越憲作七段



黒十五の時、白は常形なれど、十六（卽ち黒ロの六圖）もあり。（四一二ヨセを防ぐ）

〔四一七七〕
黒先但味惡し
先番高橋重行當時勝
河合菊次三段

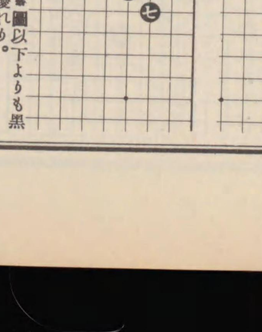


黒七、九なれば味惡し。黒十七なれば、白十八に後手活の外無し。（尤も黒十一圖に比するに稍可なり。

〔四一七八〕
白優れり
先番前田陳爾當時四段
龜田正義五段

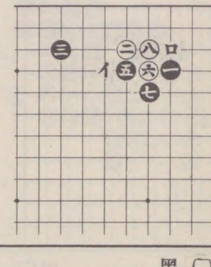
兩氏の實戰圖の如く白十三と征に取れば、黒に嚴しき征當りの無き限り、白の勢優る。

〔四一七九〕
黒稍可なり
先勝
番久保松勝喜代六段
龜田正義五段



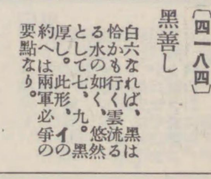
白四。黒乃ち五、七。此黒三と白四との交換は黒有利此形。（四一七一圖）

〔四一八〇〕
要點約言
（第四五型イの一）



白六、黒七、白八となりし時、黒は完全になれば、黒イに外を圍み得べし。又時には黒イを以て白ロを攻むる手もあり。

〔四一八一〕
基本圖
（第四五型イの二）



白六と打てば黒に先手で外を圍まるる場合は白止むを得ざるなり。

〔四一八二〕
定石

黒七以下四手抜は必然の處、黒十五に東へ開拓す。邊の處女地を平々、曉風新興の氣魄に滿る。

〔四一八三〕
黒厚し

白二、黒三。白四の夫に、黒五の約は快味滿幅、善しも強れど此一着あれば厚壯且つ作は壯宜、譬へば畫龍點睛にも等し。

〔四一八四〕
黒善し

白六なれば、黒は恰も水の如く、雲流悠然として七、九、此形厚し。イの黒は兩軍必爭の要點なり。

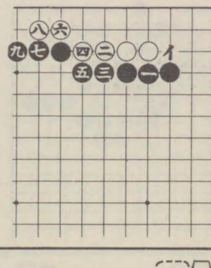
〔四一八五〕
場合による

黒若し先手を取らんとせば、三と尋で七に大場を占む。この捌移も黒一策なり。（四一一圖と比較して一得一失あり。

〔四一八六〕
白悪し

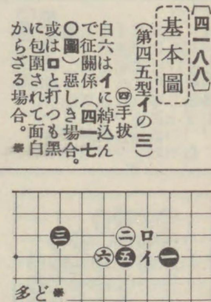
白三。悲しむべし、黒より四と烈抱、俄然として白形俄然頽る。白損なり。

〔四一八七〕
要點約言
（第四五型イの二）



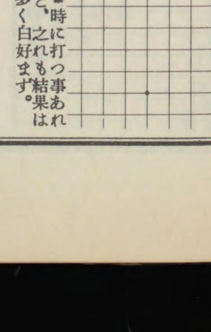
黒五、次に白イに綿込み得ざる場合と雖も白は六と行びる隅の手無て、之れは黒先手にて外を圍み、他に優れり。

〔四一八八〕
基本圖
（第四五型イの三）



白六で征關係イに綿込んだ場合。（四一七〇圖）惡しき場合。或は黒ロと打つも黒に包れて面白からざる場合。

〔四一八九〕
定石



白六なれば、黒十一、九は肝要の一着也。白は無論七。白イを忘つて黒二二を利さるれば、此形甚だしき損害にして、白ロに押すの機を窺へり。

〔四一九〇〕
黒優れり

白十四、惡し。又十四をイなれば、黒ロ、白ハ、黒ニ。白ホ、黒十四、白ハ、黒十八にて、此形後。

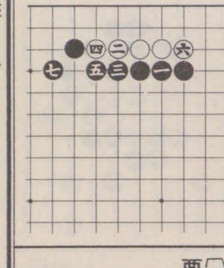
〔四一九一〕
黒時に面白し

黒九に打抜、白十の時黒十一、十三あり。此手段時に黒面白し。（四一間夾以下と比較參照）

〔四一九二〕
白悪し

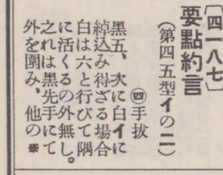
時に打つ事あれど、之れも結果は多く白好まず。

〔四一九三〕
黒厚し



白二、黒三。白四の夫に、黒五の約は快味滿幅、善しも強れど此一着あれば厚壯且つ作は壯宜、譬へば畫龍點睛にも等し。

〔四一九四〕
定石



黒七以下白十四手抜は必然の處、黒十五に東へ開拓す。邊の處女地を平々、曉風新興の氣魄に滿る。

〔四一九五〕
定石

白六と打てば黒に先手で外を圍まるる場合は白止むを得ざるなり。

〔四一九六〕
基本圖
（第四五型イの二）

黒七、白八となりし時、黒は完全になれば、黒イに外を圍み得べし。又時には黒イを以て白ロを攻むる手もあり。

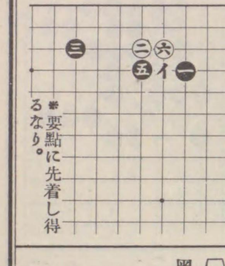
〔四一九七〕
定石

黒十三。白乃ち四手抜を狙ひつゝ、先づ十四に自ら固うし、後手なれども十四を鋭しと。此形隅の白も小ならず。

〔四一九八〕
白敗形

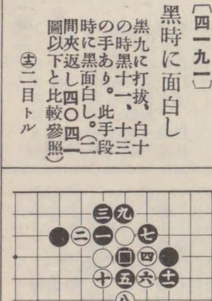
白六でイの征の宜しからざる場合は圖の如く、尤も先きに白が嚴しき征當りを下し得らるる場合には出づる事も此形にあり。

〔四一九九〕
白悪し



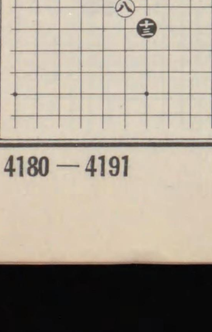
黒七。白ト切り、きびし。然るに白八と當てゝ、黒トの缺落を殺せしは惡し。（黒イの切取りの何時でも利くは言ふまでも無し、以下白ロ、黒ハ、白ニ、

〔四二〇〇〕
場合による



黒七而して九もあり。場合によれど黒味惡し。黒九で十が常形なり。（四一七六圖參照）。

〔四二〇一〕
黒時に面白し



黒いまや前圖の如き外面包圍策を棄てゝ、三に隅の實利を占めつゝ白を中央に狩り出す。黒の如く燗んなるは、火の時に面白し。（四〇黒三四圖比較）。

〔四二〇二〕
互角の分れ

白四、手筋なり。黒七、（卽ち黒九を十三、白イ十五、黒ロ宜しければ、九で十三に切つて、其の結果本圖より善し。

〔四二〇三〕
場合の手段也
先番林有太郎六段
勝瀬越憲作七段

黒十五の時、白は常形なれど、十六（卽ち黒ロの六圖）もあり。（四一二ヨセを防ぐ）

〔四二〇四〕
黒先但味惡し
先番高橋重行當時勝
河合菊次三段

黒七、九なれば味惡し。黒十七なれば、白十八に後手活の外無し。（尤も黒十一圖に比するに稍可なり。

〔四二〇五〕
白優れり
先番前田陳爾當時四段
龜田正義五段

兩氏の實戰圖の如く白十三と征に取れば、黒に嚴しき征當りの無き限り、白の勢優る。

〔四二〇六〕
黒稍可なり
先勝
番久保松勝喜代六段
龜田正義五段

白四。黒乃ち五、七。此黒三と白四との交換は黒有利此形。（四一七一圖）

〔四二〇七〕
要點約言
（第四五型イの一）

白六、黒七、白八となりし時、黒は完全になれば、黒イに外を圍み得べし。又時には黒イを以て白ロを攻むる手もあり。

〔四二〇八〕
基本圖
（第四五型イの二）

白六と打てば黒に先手で外を圍まるる場合は白止むを得ざるなり。

〔四二〇九〕
定石

黒七以下白十四手抜は必然の處、黒十五に東へ開拓す。邊の處女地を平々、曉風新興の氣魄に滿る。

〔四二一〇〕
黒厚し

白二、黒三。白四の夫に、黒五の約は快味滿幅、善しも強れど此一着あれば厚壯且つ作は壯宜、譬へば畫龍點睛にも等し。

〔四二一一〕
黒優れり

白十四、惡し。又十四をイなれば、黒ロ、白ハ、黒ニ。白ホ、黒十四、白ハ、黒十八にて、此形後。

〔四二一二〕
黒時に面白し

黒九に打抜、白十の時黒十一、十三あり。此手段時に黒面白し。（四一間夾以下と比較參照）

〔四二一三〕
白悪し

時に打つ事あれど、之れも結果は多く白好まず。

〔四一九二〕
黒十手順肝要

黒十時機善し。若し黒誤つて打つべし。白二、六と交換につと白十八の前に白九で換れば黒十五の次に調を得。但し十五の圖の黒九の綽込五は黒に適當の面白し。

〔四一九三〕
黒有利なり

白三も肝要。黒六にて十或は六。黒六にて十とは惡し。白七はイを當てゝ九の好機を導き、而して後白十一に整形せしめ、白十一に整形せしめ、白十一に整形せしめ、

〔四二一六〕
黒の形善し
白六なれば、黒七。次に九ば、黒の棋歩堅實なり。白の十なれば、黒一。白十二にて黒イに拠れば乱白企つも黒ロ、白十三、黒ニにて、黒白ハ、黒の形堅し。

〔四二一七〕
黒厚し
白二以下五。黒十三に至る。黒は外壁を堅す。威、全く厭す。或は十三を黒イに附けば白から面白く黒は六をイに附けずロに引き切りを見ず。又白ハにても宜し。又初めより無難なり。

〔四二一八〕
要點約言（第四五型イの三）
白六、黒七となり四手抜し形は、其結果白一以下黒九の時、黒十に至る。白二、黒三、白四、黒五、白六、黒七、白八、黒九、白十、黒十一、白十二、黒十三、白ハ、黒ニにて、黒白の形堅し。

〔四二一九〕
基本圖（第四五型ロ）
黒五に尖附手は四手抜も前型のイと異り白の堅壘を築き、白を中央に狩出す。

〔四二二〇〕
基本圖（第四五型ロの一）
黒五の時、白に六、イとロとあり、其中白六の行び、定型なり。

〔四二二一〕
基本圖（第四五型ロの一變化）
白六なれば四手抜黒七の斜走は豫定の着手。此時白に八、イ其他の手段あり。何れも輕く中央※

〔四二二二〕
黒確かなり
黒一以下五までは常に見る形なり。尤も黒は五でロ、白ハの時、黒ニもあり。

〔四二二三〕
常形
黒五は堅く打つに白はイと守り、尋でロの時、黒は□の一子を捨てる手もあり。（次圖參照）

〔四二二四〕
定石
黒五以下四手抜は、前述の如く、白を狩りに出して左右に形勢を張る作戦。白六は、稀には手抜きすることもあり得れど黒に六と取※

〔四二二五〕
互角の分れ
黒一なれば前圖の五。以下一なれば必然なり。白二遂に黒九に至る。回指せば白の石も安定せしも黒も亦先部に形勢を得たり。先づ互角の分れ。

〔四二二六〕
征如何による
白二。すはやの擾乱黒九。此形展開黒二、黒ハ、白ロの征如何で、白ニ、黒ホの敗岐る。（三間夾五八二九圖以下參照）

〔四二二七〕
白時に面白し
先加藤三七一三段
番勝
小杉　丁四段
白三は、黒のイの附越しを防ぐと共に黒を睥睨す。卽ち黒八となるも白は無し。果せる哉、黒九。以下力攻甚だ凄じく遂に十七に至む。白は領土をさに萬里を定め、まさに萬里の雄大！白三以下の作戦、時に面白し。

〔四二二八〕
黒善し
前圖征關係が白不利の場合は、白は四と一以下白九の時、黒十に黒乃ち二の妙着。黒十は蓋し左の切りを見ず右の引きを見ず（五八三六圖）とは其變化異れり。

〔四二二九〕
黒優勢
前圖のつぎ。白一は窮餘の一策。黒は之を刀の束の塵ほどもの氣のせず弛みなき二の後手に白二、遂に活。黒雄渾厚壯の外圍。猶隅の黒は以下ヲで活。

〔四二三〇〕
至難の局勢
黒一は前々圖二。黒一は手筋なれど混かくては中央に戰闘を避け難き形となる。不可なり。（五八二九圖にては黒一の尖附良し）

〔四二三一〕
黒可なり
三圖前白一の變化。白一、善し。黒四、已むを得ず。此形、白は必然。十※黒イに投じ白ロの一と伐ちより次に黒イとハと代ちて此手あり。卽ち黒は鬼手にて黒軍は泰山の如く安し。

〔四二三二〕
場合による
黒征關係（五圖前參照）不利なるか、或は紛乱を避けんと欲する場合は黒盤上の三、五とれど黒屈して辱しめらるる。白六、八の委なり。白六、心得ふべし。

〔四二三三〕
黒宜し
白二、四とも打つ筋あり。黒五は、白ロと堅く粘るも黒五をロに切つて殺す。其形四を擒にイに可也、卽ち白イは不可なれど、黒は白ロを低地に防ぐる手段もあり。

〔四二三四〕
場合による
先番　鈴木秀子　四段
勝　小島春一　四段
黒十一で白イ、黒イと白ニ、黒ホと黒は白を低地に防ぐる手段もあり。

〔四二三五〕
互角の分れ
先加藤三七一　三段
番勝
小杉　丁四段
兩氏の對局圖

〔四二三六〕
策戰雙方秀絶
瀬越憲作　七段
二子　當時
番　篠原正美　四段
勝
白一以下堅持を用ふ。黒十四まで降らず。黒十四まで正に雙方の所※然する所※

〔四二三七〕
互角の分れ
先田中不二男　新二四段
勝　中川
嗟乎、國亂れて忠臣現はれ、局難にして棋士當つては、着出づる。盖し妙着なら偶然ま。白一の手筋、白二を若ずして面白し。黒イなれば、白ロ、黒ハ、白ニにて、白好調を得。

〔四二三八〕**要點約言**（第四五型ロの一變化）

白八に對し黒にイ、ロ、ハの應けあり。何れも三を守りながら、八を攻撃する手段なれど、※

㊃手抜

〔四二三九〕**基本圖**（第四五型ロの一變化）

白八と冠する手あり。着意はイと大同小異なれど八は三には嚴しく當れり。然し又イに※

㊃手抜

〔四二四〇〕**黒可なり**

凡眼を以てすれば機微を察し得ず。黒一は堅實、意味深重なり。心せよ。此形、今や白イの附越し無しと（次圖）黒三に撞頭して左右並び迫る。黒の形善し。

〔四二四一〕**白打過の形**

白一は、利慾に過ぎなり。妄進。打ひし、猪突。迷ひし、黒八の■は光耀燦然。白■の易々たる枯を拉ぎ去るを恰かも枯を拉ぐが如きのみ。

〔四二四二〕**形勢互角**

白二で四に應ずるの痴形忍び難しと卽ち白いま二と意表に出づ。以下の變化は、多岐逆睹すべからず。黒三、五、白三、四、黒三、皆好點なり。

㊂粘グ

〔四二四三〕**黒大に優れり**

既にして黒九。白乃ち十さは手筋に似よ、隅の黒十一と活を確保するに以たり。下敷着をすれど、見よ、約ゆるや悪要せざれ。鼓々を掛けて絞る手、五と宜し。遂に黒二九。白十の中央、白の一團の運命は、危しとも危なし。秋風に向よ。露の命葉！

〔四二四四〕**征如何による**

白鋭進九に強扼す。黒は旺盛の士氣十、十一と四の後十六、十八と征に取る。実にや輸王位高けれど、実終に身にたり形盛はずんばあらず。棋手なりとも利あらず。事遂に又黒征し悪しき場若しも合は十六を十九、白十八、黒二十と取つて之亦黒の勢善し。

〔四二四五〕**參考圖**

白一は、唯一にして最善の着手なり。白餘の四とを交換するの手なく、三、黒イの附越しの如ばに遭ひ雪消せるが如く自然消滅の時。黒は白五を攻むべし。黒場合者は、ハ、黒二に採るべし。（三間夾六〇二五圖以下參照）

〔四二四六〕**黒確かなり**

先 山口 貴石五段
番 勝 志田直太郎四段

兩氏の實戰圖

白二、肚々として白イの附越を狙ふ。黒乃ち七と備へるに、先だつて三と伐ち、五と攻めしは行兵僂儸なり。

〔四二四七〕**黒好まず**

勝 久保松勝喜代六段
先 平井 準一郎四段

黒四、六石橋を叩いて渡るが如き堅實。爲に白を七に固めしは黒拙し。■

※黒四は、單にイと打つ筋也。

〔四二四八〕**要點約言**（第四五型ロの一變化）

白八なれば、㊃手抜、黒イとカケテ白よりロの附越へ、白ハ、黒ニと打つべし。又白八は木。其他の手段もあり。

〔四二四九〕**基本圖**（第四五型ロの一變化）

第三變

㊃手抜

三の二間夾には黒五と尖む手あり、確なり。（一間と二間には七の尖あ■

〔四二五〇〕**定石**

㊃手抜

黒いま七、九。黒七をイと比較するがイなれば白ロが殘り。七は堅實なれど稍歩渋の傾きあり。白八をハは、俗手也。

〔四二五一〕**白無理形なり**

白三、五は手筋なれど、此場合黒よ十二の切斷に遭ふ。十二は丈夫、十二は丈夫を振翳して攻上に躍り上り形か。氣に氣を呑まれたり。

〔四二五二〕**白無事の形**

白三なれば、無事。白五では、更に懶中を懶げてイに掩撃の隊形を取るもあり。

〔四二五三〕**基本圖**（第四五型ロの二）

㊃手抜

白は六に尖んで走路を取る手もあれど、之れはイの行の如く、黒に擊かず。普通は緩し。

〔四二五四〕**古風の定石**

白六なれば、㊃手抜、黒無論七。白十二。熟看せば黒左右に堅陣を擁して迫る。而かも白は蛸の夕を待つて果つるが如く、其影薄し。

〔四二五五〕**黒厚し**

白四、六と夾攻すれど、黒も七に飛ばれて白の形薄し。黒十七のの次に白イなれば黒ロに白ハ、黒ニ、白ト、黒ヘ、白リ、黒ヌ手筋なり。

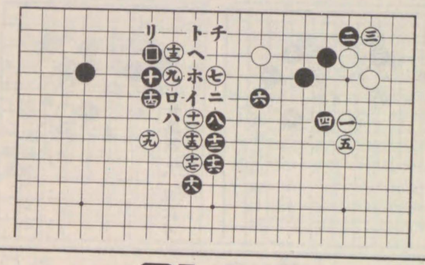
〔四二五八〕**黒の形好まず**

安井知得八段
鈴木清四段
一氣直

二子の内、一は黒の肺を衝くも、面白なし。黒十四を十六に宜しけれど、白は十二にて黒十二は十三を正着とす。

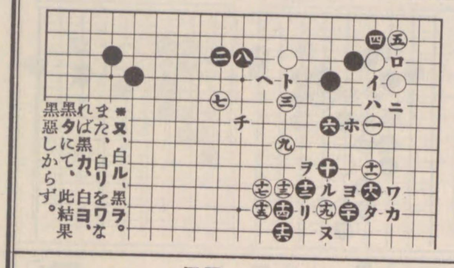
〔四二五六〕
共に正形
安井知得八段
二子 奥貫智策五段
番 勝

両氏の對局圖
黒既に⑧に在り。乃ち黒いま八に壓して迫る。黒烟に欲なり。白九、十一善し。黒十二をハ、白十一なれば白ロ、黒ニ、白十二、黒ホ、白十三、黒ヘ、白ト、黒チ、白リとなって黒惡し。



〔四二五七〕
白に手段なし
先番 向井一男四段
勝 村島誼紀當時四段

黒四、六と中原に出づ。一轉して黒イは白ロなる時機に絶對の好棋移を經たる後、黒ハ、白ニと黒ホと此黒を固くせんとするみなり。但し、黒四は場面急迫を告げ利かしにあらぬ時は先手にて宜しとす。故に今打たぬは八に白の眼を奪ひ且つ後に黒ヘと黒チとつなぐ。白リを宜しく、黒タに伏して、此結果黒惡しからず。



※又、白ル、黒ヲ。また、白リをワな黒カ、白ヨ、黒ヲに伏して、此結果黒惡しからず。

〔四二五八〕
基本圖
（第四五型ハ）

〔四二五九〕
要點約言
（第四五型ロの一）
（第三變化と⑭の二）

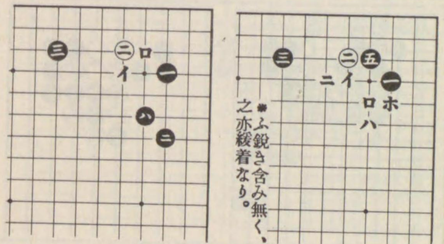
黒五、白イに行びたる時、白イに黒ロの尖はハに比して稍緩く。又白初めイをニの尖はホの附越を狙ふ。

〔四二六〇〕
基本圖
（第四五型ハ）

白四手抜の場合は、黒はイ或はロを定型とすれども、他に變則の手段として否ハニ等あり。可場合による。

〔四二六一〕
定石
⑭手抜

黒は五を普通とせば先だって十一と時に斯く五もあり。之は黒稍緩けれども、その代り黒厚し。以下の變化は



※九八六圖及び一〇〇七圖以下參照）

〔四二六二〕
黒好まず
岩本薫六段
先 木谷實四段

黒一の形となく黒の重くなるひは感あり。黒ロは黒イか、黒イにしても此

〔四二六三〕
黒味惡し
（前圖の變化）

黒二とある時に、白七の綿巻り惡し。黒十は十六に粘く手もあり。其時は白イ、黒ロ、白ハ、黒ニ。

※ふ鋭き含み無く、之亦緩着なり。

〔四二六四〕
定石
⑭手抜

黒五も時に打つことあり。その形卑しく、防備に傾きて二に對する攻撃精神に缺く。白十の時、黒にイ、ロの應けあり。※

〔四二六五〕
前變化にあり

黒三。此時白四手筋なり。此手を若しイなれば、黒ロにて此黒三とイはなり。次に白六はハ又は打つも宜しく、ニ或はロ※

※九八六圖及び一〇〇七圖以下參照）

〔四二六六〕
形勢互角

既にして黒五。白六を縦つてロに接して以て妙趣の湧起を促す。黒七精勤の着宜しく、黒十三をイなれば、白ロ、黒十三の時白ハ。即ち白にはニの遺利あり。

〔四二六七〕
黒可なり

黒十三に先だつて十一は手筋宜し。白若し征ければ、黒十六で二十、黒十九、白二となる方、白優る。

〔四二六八〕
黒手段に陷る

黒七、九は此場合白をして名を成さしめたり。白八まで此方面の備へに成る。白乃ち一轉、黒チを一擊して約一の罠へ導く。黒遂に十八に陷りたり。敵の伏に陷りたり。

〔四二六九〕
黒の形好まず

黒三なれば、白四と續込む筋、面白し。黒七をイ、白ロ、黒七、白ハにて白惡しからず。

〔四二七〇〕
互角の分れ

黒十一と間道より遥つて其後に出づ。此時白は十二に附ける筋なり。黒若し十七を忘れば、白イ、黒ロ、白ハにて黒惡し。

〔四二七一〕
黒可なり

白四常形に似たれども、先發せられの友軍を故らに窮地に陷るる結果となる。見よ以下十三まで黒五以となり、其形白佳觀に非ず。

〔四二七二〕
黒善し

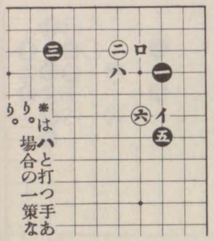
白八、十は氣盛んなれども鋒鋩なし。白無理なり。黒十五は敢然十六に鼓噪して白を攻めつつ立つるもあり。多少の變化あれども、結果黒惡しからず。

〔四二七三〕
黒好まず

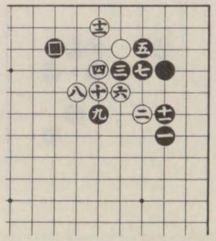
黒五、守隅に專らなり。之れ白六、八以下に大に陣容を堅むる筋なり。黒十五は白の堅壁に近寄りて、黒好まず。

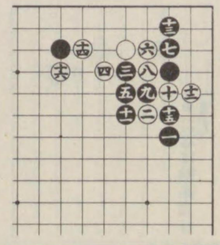
〔四二七四〕
要點約言
（第四五型ハ）

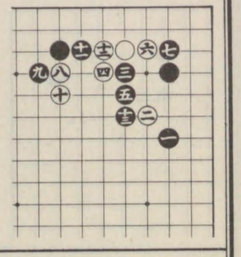
黒五、次に白は此處に着手するとすれば、黒イに應じ、白六の筋なり。此手は時に通なれども、黒ロ或※



※は八と打つ手あり。場合の一策なり。







〔四二七五〕
基本圖
（第四五型ニ）

白四手抜、次に黒イと打ち、時を抜く事宜しく、猶白ロに對する白の手段は多く白惡し。

〔四二七六〕
白惡し

二手抜

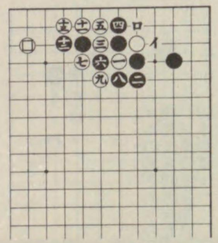
先づ黒一に附け時、白は一手を抜いて黒に三と抱へ込まる、これは白惡し。（次圖）

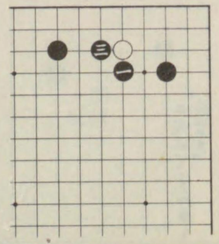
〔四二七七〕
多少の手あり

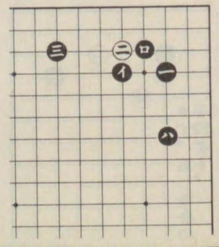
若し白に□の邊に石のある場合は白一と切る筋あり。黒二善し。此手を黒イに打てば白三、黒ロ、白五。

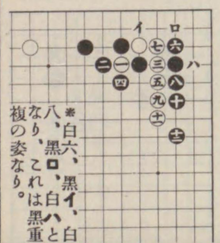
〔四二七八〕
場合による

黒二もあり。白危く虎口を脱し、三以下思ひの疾駆して到る。されど執拗に追踏して相八。次に黒イ、白ハと打つ手あり。場合の一策なり。





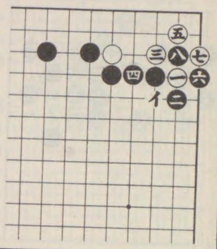




※白六、黒イ、白ハと、黒ロ、白ハ、これは黒重複の姿なり。

【四二七九】劫

白一に突入し來る。黒二に銳を執つて之を逐へ擊つ。白乃ち三、黒五にて劫。また、黒二は八なれば、白イ、黒四となつて黒は白に利かされたる形也。



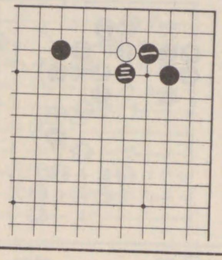
【四二八〇】黒味惡し

黒六、八と、強ひて白の眼を奪つて進む手もあり。されど圖の如くなりて白に劫抛棄多富なる場合は、後に白イに切る筋ありて黒味惡し。夫れ※

※「窮寇をば迫ること勿れ」と。

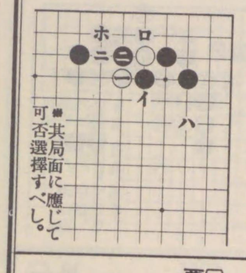
【四二八一】白好まず

(二)手抜 黒一の時、白の手抜も、黒に三と綽られて、白の形好まず。(次圖)



【四二八二】多少の味あり

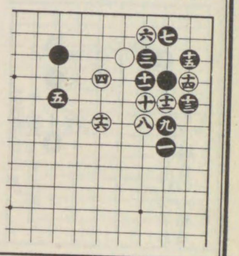
此形、白より着手すると二なれば一、而して黒二なれば次に白一途あり。即ち白イ、黒ロ、白ハ、また白ホ、黒ロ、白ヘ、二者は、※黒ロ、



※其局面に應じて可否選擇すべし。

【四二八三】白酒落た形

黒一なれば、(二)手抜 白は手を抜くも宜し。白四、此場合の定型なり。白六以下の手順一面白し。(變化一一五四圖以下參照)

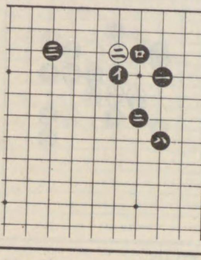


【四二八四】要點約言(一)(第四五型ニ)

黒イまたはヤの時は、白の手抜は惡しく。黒ハの時は白は手を抜いて宜しく。又黒ニに打つも白手を抜くべし。

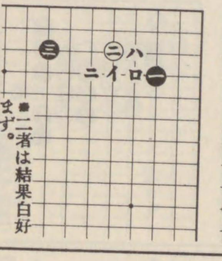
【四二八五】要點約言(二)(第四五型全部)

白四を手抜き黒イと附けし時は、白ロ、ハまたはニの應けあり。ロは征宜しき場合。ハは征惡しき場合。ニは征惡しけれど、此時の應けなれど、此※



【四二八六】要點約言(三)(第四五型全部)

次に黒イなれば、(四)手抜、白ニ或はホ。又、黒イを手抜かヘなれば、白ハの筋なり。而して是等は皆場合の手段な



【四二八七】二間夾總評(一)(自第三三型至第四五型)

以上を以て二間夾の變化の詳細を盡したれど、猶此に此夾みの要點を擧ぐるに、此形白に(イ)以下(ヌ)までの手段と手抜とあり。

【四二八八】二間夾總評(二)(自第三三型至第四五型)

先づ白四のカケは若し黒イに應けれ、白ロ、黒ハの時は尤も黒イで白へ、黒トに出で白ホに切る手もあり。※

【四二八九】二間夾總評(三)(自第三三型至第四五型)

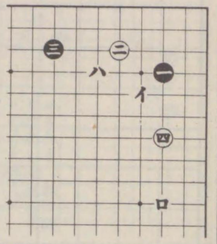
白四は二間夾の中の最穩健なる好手なり。斯く打てば別に局面急迫せず。次に白四で(イ)又は(ロ)の應けは場合によれども、二間※

【四二九〇】二間夾總評(四)(自第三三型至第四五型)

次に白四は面白き筋にして三に對する一策なるを失ひ又白四を(イ)には附ける手は古來の定型なれども、結果は多く白好まず※

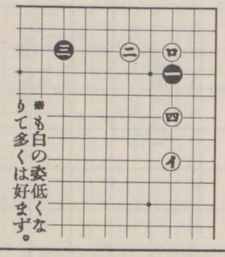
【四二九一】二間夾總評(五)(自第三三型至第四五型)

白四の二間夾返しは、黒イ、白ロ、黒ハのカケとなりて、白の形好まず。又ロを直ちに尖出すは、多く白無理なり。



【四二九二】二間夾總評(六)(自第三三型至第四五型)

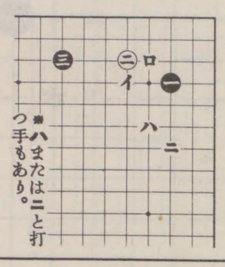
白四の一間夾返し、及び④の三間夾なるは、白の手段なり。次に白四で(ロ)の活路を確實に定めんとする手段なれど※



※も白の姿低くなりて多くは好まず。

【四二九三】二間夾總評(七)(自第三三型、至第四五型)

又白は、全然手を抜く事も有り。此時は黒中を厚く打つとするに白はイを攻めんとするに隅を取りてロを防ぐ。或は時に

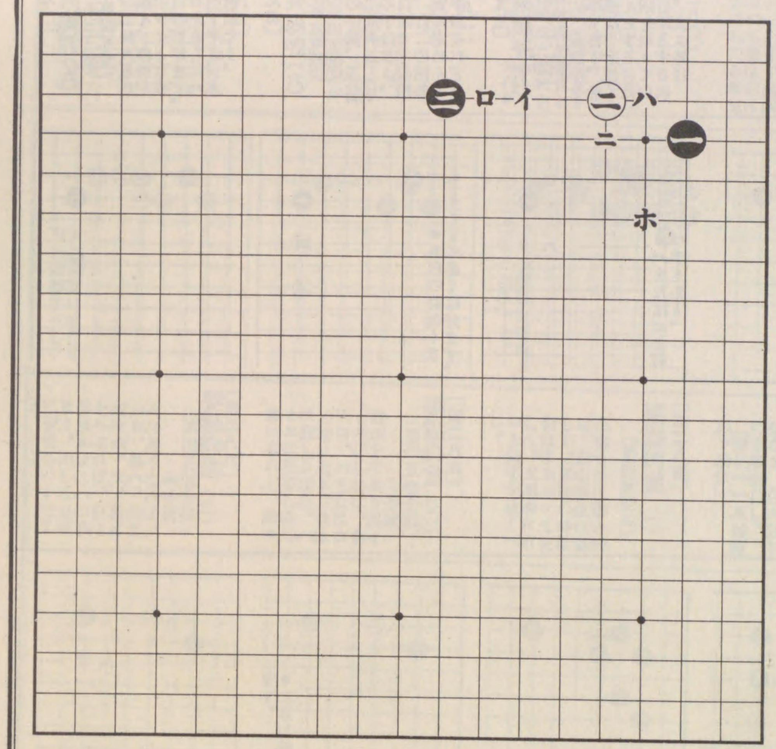


※ハまたはニと打つ手もあり。

〔四二九四〕

基本原圖

小目、三間夾



黒三の三間夾みは、攻撃緩なれど、穩健なる自らの一、二間夾みより、別種の趣あり。但しイ、ロの一、二間夾みよりは、攻撃緩なれど、穩健なる自らの一、二間夾みより、別種の趣あり。但しイ、ロと同じく白二の拓きを妨げし攻守兩種の手段なりと雖も、而して此形白の應けは前一、二間夾と略同じもの而して此形白の應けは前一、二間夾と略同じもの多けれど、若し白手拔すれば黒ハ、白ニ、黒ホとなるも、之は近代に至るまでの形なり。されど、この「黒ホ」までの形白損なり一と雖も、之は近代に至るまでの形なり。されど、この「黒ホ」までの形白損なり一とは、故に今日では白の四を以て直ちに二の石に着手す。故に今日では白の四を以て直ちに二の石に着手す。變化多端、實に互先に於ける、種々となる手段の中、中樞を爲すものなり。變化多端、實に互先に於ける、種々となる手段の中、中樞を爲すものなり。

〔四二九五〕

基本前圖

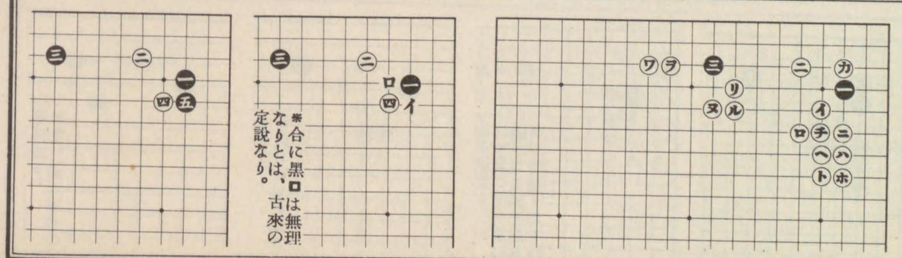
三間夾の白の應手には、(イ)以下(カ)まで十四種と、他に全然手拔けの變化あり。就中、(チ)の大斜千變の中に(ヘ)の大斜掛けの三間夾と、(ト)の大斜掛けの三間夾とは、其趣を異にす。自から此形、白直ちに(チ)とカケズ、先づに(リ)を打て後手段もあり。カケル變化甚だ面白し。

〔四二九六〕

基本圖

(第四六型イ)

白四。此時、前掲二間夾みの黒場合には、(第四六型イ)白四。此時、前掲二間夾みの黒場合には、一と應けずして直ちに五と出切る手もあり。されど、此三間夾みの場合に黒ロは無理なりとは、古來の定說なり。

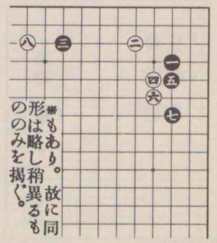


〔四二九八〕

基本圖

(第四六型イの一)

白八の夾は、初めの六と打ちし時よりの豫定の着手なり。此形の前夾の中の一、二間夾にも變化甚だ多し、又略同じきもの

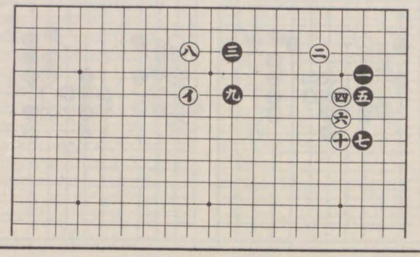


〔四二九九〕

基本圖

(第四六型イの一變化)

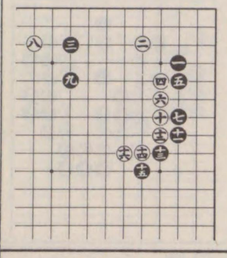
黒九の時白は十及び(イ)の二、者共に三と九の積極手段なり。語を變ずる時は地取りに非ず。「非ず」と謂はば(ロ)の如きも、最適合するもの



〔四三〇〇〕

定石

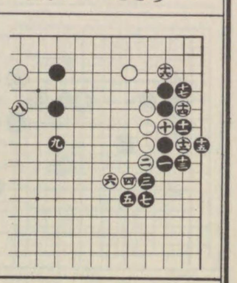
白八の側撃。尋で、黒九の凝視。つ、十二と右に迫り、十三と前一、二と同じく厚しの時は、白十六は他に手段なれど、宜しく此棋歩穩かなり。



〔四三〇一〕

互角の分れ

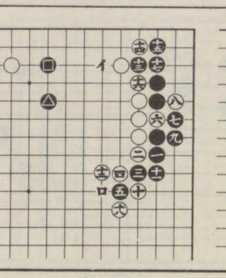
黒い七。即ち八と左側に形勢を張りつゝ中の黒を攻立つ。黒九て以下に擊つて出ば、白十二。又白十三。又白十四なれば黒十七。



〔四三〇二〕

形勢互角

黒十一を十二なれば白乃ち(イ)黒(ロ)白十一にて黒拙し。此圖は二間夾みの時より堅き所に接し居らざるだけに、黒稍可なり。



〔四三〇三〕

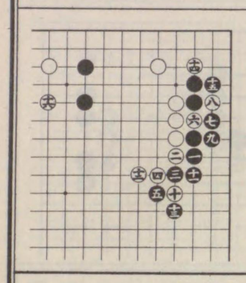
互角の形勢

黒十三は佳手、隅に大利を占めつゝ白の黒に逼るを送る。見よ、黒(ハ)の筋生じて白(ホ)の黒は生色頓に蘇れり。尚ほ此形に逃げ得る場合は、(ロ)と征を白惡し。

〔四三〇四〕

白面白し

白十二に要衝を奪ふや、黒乃ち十三と後塵を拜すも無氣力に蹲まず、白十四に堪へ得て白損なり。依て眼形至大の喫緊の點を先占す。



〔四三〇五〕

場合による

黒は四三〇二圖面の如く振替られて白から場合斯く五と打つ手もあり。三八三一圖參照。白六で十と出切る手もあり。されど、此三間夾みの場合に黒ロは、直ちに(イ)の黒を追擊するも宜し。

〔四三〇六〕

常形

白いま一と、直ちに戈を執つて起つ。黒乃ち二、尋で白三の時四、(變化一)、蓋し定型なり。二間夾の中にもあり。

〔四三〇七〕

征如何による

黒十二に白の動靜を偵ふや、白乃ち十三と順巧みなり。十五。白遂に十七と出で、十九。此形、若し白征宜しくば、白可なり。

〔四三〇八〕

變化甚だ多し

黒前圖征惡しき時は、斯くは十二と粘く手もあり。白擊て十三に奄然遂に奄す。白十七。局機紛々、未だ逆睹すべからず(次圖)。

〔四三〇九〕黒有利の分れ

先番 福田正義五段
勝 村島誼紀五段

白十七に切り、順に白二一。白の手遂に至つては白は攻撃思ふに委せず。黒三四に整形する面白し。但し、

〔四三一〇〕白、一策なり

三圖前の白征悪しき場合、白五、七、九は常用の形なり。黒十四をイもあれど、これは白ロの粘ぎとなつて、白の形厚し。㊟粘グ

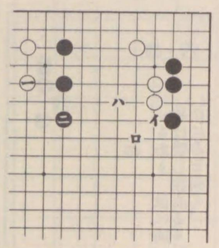
〔四三一一〕互角の分れ

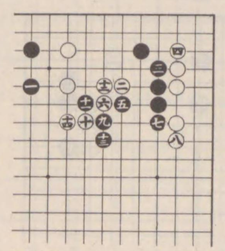
小林健太郎四段
先 篠原正美當時二段
勝

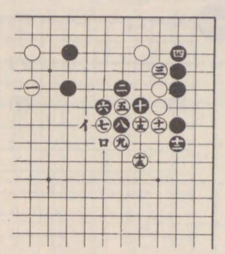
黒九、白は七とあるを見て十に戈を奮ひて連絡す。手筋面白し。

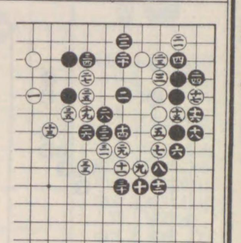
〔四三一二〕黒穏健の手段

夫れや「鯱鉾寧ぞ知らんや英雄の胸を」と。乃ち、黒二に悠々溯歩す、穏かなり。此形、白三ではイ、ロ、ハなどの手段あり。㊟四三〇〇圖其他參照









〔四三一三〕白悪し

白△□の掛けはイまたはロと夾撃の前提なり。然るに白は何らの痣ぞいまだ地を作らず、以下白中に地平三、後ん以下白一に地を主義を認めとめ、白△□としてこれ以上の間狭隘にしてよりいふも白不可なり。

〔四三一四〕形勢互角

四目勝 越瀬藤喜作七段
先 福田正義五段

白□にある時は、白直ちに白十四は、黒十五はイ、あり。黒二十、黒二一と打つ手もあり。㊟參照白二十、黒ハ、白ほ、黒ハ、白ニ、黒ヘ、白ト、黒ニ、白二三、黒ニ之を忘れば、白二は

〔四三二六〕白優勢

夫れ、志は心の主、氣の帥、萬事の樞機なり。志前途を豫見するの明を伴はずんば、事苟くも成り難し。黒一着、黒十一は不明の惡手、以下四歩跨跨たり。白十四以下、手筋面白し。黒一は多く要之の場合不穩なり。（ヌッグ）

〔四三二八〕基本圖

（第四六型イの二）白六の飛は、又貧戰の定型なり。黒イと異りてこれは多くこれはせんとするにあれども其代り白に斷點あり。（二間夾二九※）

〔四三二九〕定石

此形、イの二間夾み定石と同じき意味多し。白十二と尖めば夫に白よりロの約へ先手には利かず。乃ち、黒は隅を顧みずして十三に備へ然の着なり。

〔四三三〇〕常形

白六、大に白はイを含む。黒乃ち七。白八、黒九、黒の狙ひは方に黒ロ、白ハ、黒ニに在り。

〔四三三一〕場合の手段

黒一、三は一路多く這はせんとする白ロの意中を往くの感あれども、之もまた黒必ずしも惡しからず。

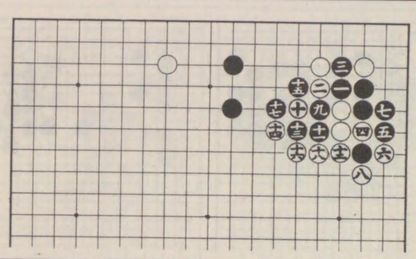
〔四三三二〕參考圖（兩章共に好形）

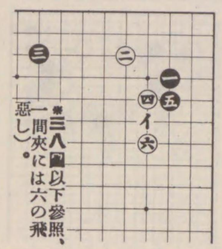
久保松勝喜代六段先　吳清源當時四段一目勝

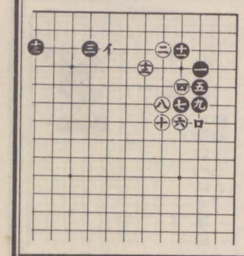
圖の黒三以下八まで、前圖と手順は異れど結果は全く相同じ。黒十※

〔四三三三〕基本圖

（第四六型イの三）白四とカケ、黒五の時、直ちに白六と附けるも手あり。之に着手し得る手にして、一間夾及び







〔四三三四〕參考圖

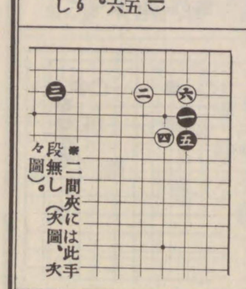
白四と打てば白先手を以て他の要點に赴き得るも、黒イの切り後に黒取り殘るまでの形にして宜し。

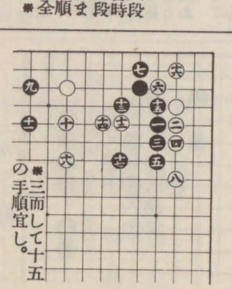
〔四三三五〕參考圖

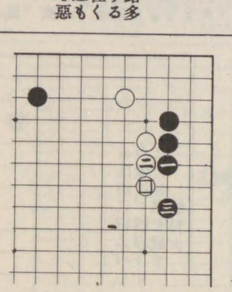
黒若し三の二間夾又はイの一間夾の場合、白四而して黒七、九にて白惡し。黒十に白は無論十一なれば切り。

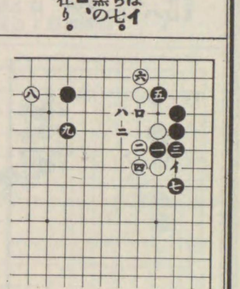
〔四三三六〕參考圖

白八なれば、黒假借す所無く切取る。尋で黒九に一間夾に更に十三。一劫にて宜し。此形白よりイと出切る筋無し。









〔四三三七〕手段面白し

村島誼紀五段　先番橋本宇太郎五段勝

轉んでも只は起きじと、飛ぶや、即ち黒九と、イ、白ロ、次に黒十八は白の鋭き狙ひを伏す。黒乃ち十、兼ねて黒の伏に備へて十一の脚を拂ふ。白ハに完封立す。

〔四三二七〕定石

白六なれば、黒七、九、十一と取り切る。黒十の隅は固きに過ぎるやうなれども、之が交換は白六と黒七だ惡きが故、此形黒惡しからず。

〔四三二八〕征如何による

白は若し征宜しく黒イに切る手無き場合は、白六と約し込んで善し。

〔四三二九〕白の勢宜し

黒三と直ちに取る手筋好まず。黒七或は九にて劫を粘げば、白は七或はイに約へ込んで宜し。

〔四三三〇〕場合による

黒三、白四、黒五なれば、白は六而して黒筋と約へたる白ロと夾撃する手もあり。

〔四三四一〕形勢互角

黒一なれば、白は二。尊で黒三の時、白惡の緩とならず。要之、三間夾にて宜し。此分れは黒■と白□と即ち交換白惡しく即ち黒稍有利の分れなり。

〔四三四二〕白確なり

黒一なれば、白乃ち二で宜し。白六に先だつて四と打つの間に好機を捉へ、後手の六までの形にして白の確かなれど宜し。

〔四三四三〕白好まず

白四と打てば白先手を以て他の要點に赴き得るも、黒イの切り後に黒取り殘る。白ロの形にして宜し。

〔四三四四〕黒打過ぎの形

夫れ、兵は詭道なり。一瞬の緩怠に勝敗地を易ふ。黒一、打過ぎなり。白即ち四。白好形を求めるために似たり。黒のために採らず。

〔四三四五〕黒小可の形

白二なれば、黒三にて宜し。此分れは黒■と白□と即ち交換白惡しく即ち黒稍有利の分れなり。

〔四三四六〕黒の形輕し

黒一、輕き筋なり。白二をイなれば四三一八圖。又白此手をロなれば、黒イにて四三四二圖と同じ。

〔四三四七〕黒善し

二子　瀬川良雄
勝　松浦勝治

黒七、九は手抜きして他の好所に打つも宜しけれど白十二の手筋、稍無理なり。

〔四三四八〕要點約言（一）

（第四六型イの三）白四、六は面白き筋にして、白は早く此石の形を成さんとする場合、かく打つ事あり。

【四三四九】
要點約言（二）

（第四六型イの三）白六の時、黒にはイ、ロ、ハまたはニの應けあり。可否は場合によりて多少の差あれど、何れに打つも結果黒悪しからず。

【四三五〇】
基本圖

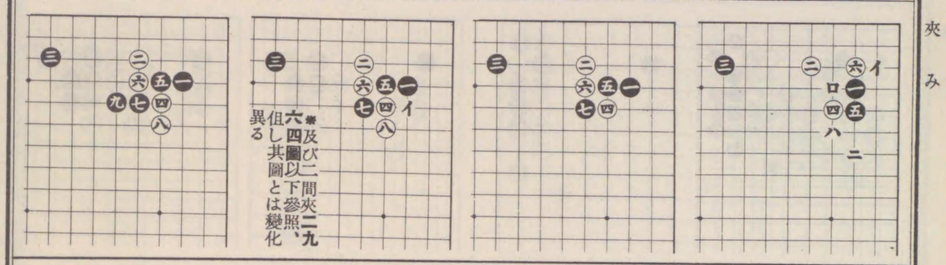
（第四六型ロ）黒五、七の出切りは、一間夾にては緩しくして可なれど、三間夾にては變化多岐黒を持つては慎重考慮を要す。

【四三五一】
基本圖

（第四六型ロの一）黒七の時、白は八に此手をイに約し、又手とあり。但し此切違ひにては、白一八を定形とす。（一）間夾一一八七圖參照

【四三五二】
基本圖變化

（第四六型ロの一變化）黒九も亦、八に伴ふ定形なり。加之、總て出切りの形に本形とす。白は八、黒九を基



【四三四八】
最善の變化

黒既に出切り打過なり。此形に定石無し。黒二、四は常用の手段、白七、止むれど委重きに失す。黒十、手筋を得ず。黒十一、六にて先づ一段落。

【四三五三】
白稍窮せり

白いま七、黒乃ち八。尋で白九に、黒十の高きに據つて左右の白を俯瞰す。黒跼躍して十一、絶對包圍せんとす。白十二に軍稍窮せり。

【四三五四】
白の形堅し

白七輕妙。黒八、次に十、十二、十四の出撃、むくつけき東夷の武勇を偲ばしむ。又亂戰に終る。白九を十に粘げば黒九、白イ、黒ニ。

【四三五五】
黒好まず

黒八。前圖の端倪すべからざるの武勇、ほゝあ忽ゆ。然るに見遂挫けて十三に至つて、緩なり。白腦に先手を快掴、黒軍寡贏！

【四三五六】
形勢互角

白七。黒乃ち八に圖の友軍と連繋し、以て白軍を攻圍す。八は蓋し一日も緩うすべからざるの險要也。若しこれを忘れば、白イに出撃黒軍不利に立たむ。

【四三五七】
白の勢善し

黒六、八、一氣直ちに雌雄の決戰に出づ。變化簡明、されど此分れは、白の外勢稍優れり。

【四三五八】
時に面白し

見よ、黒十四に反撥の意氣火の如くなるを。此形黒に劫材多くして白の十七でイとして劫を爭に來るを恐れざる場合は、黒面白し。

【四三五九】
善し

白七の勇氣に壓倒されて血回避せしもの。緩也。弱也。黒遂に十六、黒威維れ振ふ。但し、黒十二以下の手順肝要。

【四三六〇】
善し

白七は、敵が挑戰なり。然るに見遂挫けて十三に至つて、黒振はず。

【四三六一】
黒勝

白若し七に弛めば黒即ち疾呼して八に衝く、攻合ひに敵を、黒勝なり。黒十二に劫たるに筋を、白は避く。斯く攻合へば黒確なり。

【四三六二】
黒可なり

孫子曰く「兵は死生の地、存亡の道、察せざるべからざるなり」と。一勝一貶、毫末の心法精勤、決す。手法精勤は、黒四に一着能く黒の勝因を定む。次に黒八に遙に巧妙。白九に出づ。白十に打つべし。氣鋭に飛出し！三の尖みと相俟つて中原今や圖。

【四三六三】
黒勝

白若し七に弛めば黒即ち疾呼して八に衝く、攻合ひに敵を、黒勝なり。黒十二に劫たるに筋を、白は避く。斯く攻合へば黒確なり。

【四三六四】
黒勝

白若し十三の尖みを打たず、黒ち五に直ちに五。事既に鼓に至る。黒則ち以て變化す。白十四に至つて、黒善し。遂に攻合ひ黒勝なり。

【四三六五】
手段共に穩健

夫れ、明者は未萌に見て、智者は危きを無形に避く。白乃ち、五に七と平明安穩の策に從ふ。遂に黒八、形勢先づ互角なり。

【四三六六】
常形

兵に驕る者、遂に勝たず。黒いま四に進みて重にして、寔に故無きにあらず。四も亦惡しからず。黒十四に至つては變化簡明なり。

【四三六七】
形勢互角

白直ちに三もあり。黒四を軍の最も尚ぶ攻撃精神に缺く、確かなれど稍窮屈の形勢まづ互角。

【四三六八】
黒稍可なり

黒四は、鼓に於ても面白し。白三を下イの四三六一圖以下參照、黒遂に至る。形勢、黒稍可なり。

【四三六九】
黒優れり

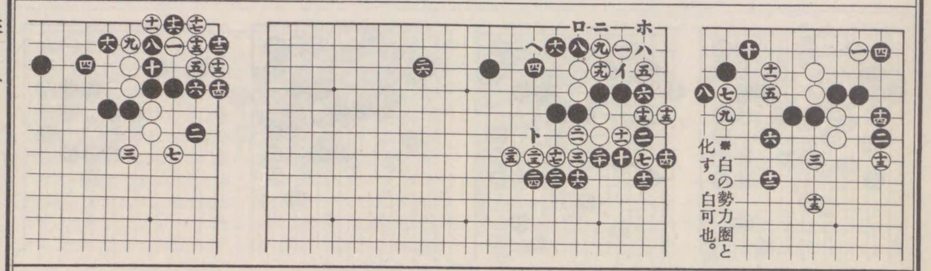
白七、壯絶！されど此形、隅は持にて、外勢黒は優る。黒二二肝要。此の放り込みを今打たずば、後には白二三と應ぜずしては攻合黒敗となる虞あり。

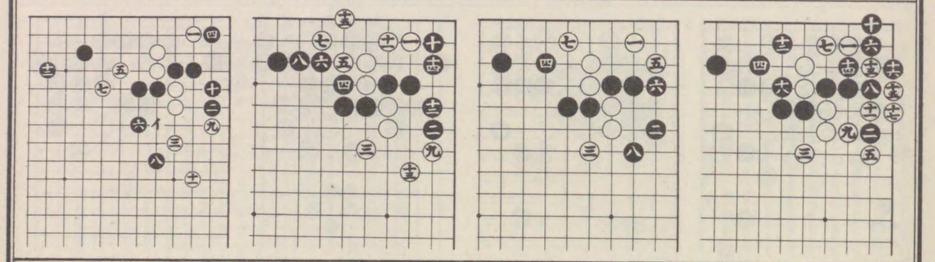
【四三七〇】
黒悪し

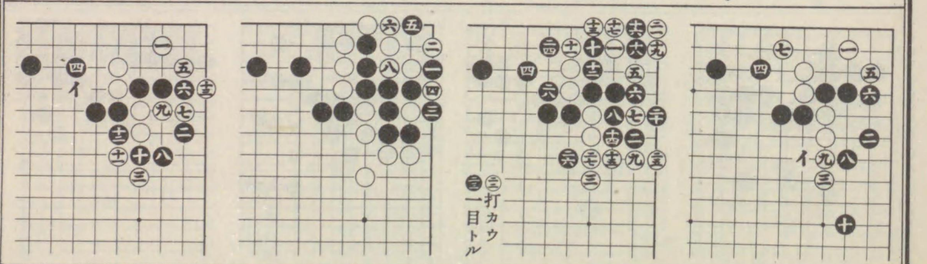
黒一は前圖十六に當る。黒一、三、悪し。白遂に八。此形、黒不利の劫なり。七劫拠ル

【四三七一】
白善し

黒八。白この時、籌を帷幄の中に廻らして勝ち、卽ち尺の下に定む。見よ、黒十二と切り、委して白善し。委惡しく、爲に白イの鋭き狙ひ遺る。







〔四三七二〕
黒優勢

黒六、手順輕妙。白七を八なれば、其時黒七。偖、本圖は、後に黒イ、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒トあり。以上の諸圖に見るが如く、白は單に三の筋も好まず。

〔四三七三〕
互角の分れ

先番勝　久保松　亀代六段
　　林　有太郎六段

白三もあり。その意味は四三五三圖以下四の附けと同小異にして、結果も亦略同じ。

〔四三七四〕
互角の分れ

白いま五と變化。兩軍攻防の精を悉して白九、黒十に至る。十は蓋しの筋なり、之れを前圖の如くイなれば、黒の逆撃にロの一敗地に塗れむ。

〔四三七五〕
形勢互角

白七、九もあり。接戰又數合、黒遂に奮躍して白十二に飛ぶ。此時白十一、十三以下十九まで黒巧みに下辺を生彩陸離に出でイを以て範とする。足れる。

〔四三七六〕
黒大敗

黒四、六、粗暴、大敗の因、鼓に能く白は強引に敵を粉砕して剰す。所無し。此手を八なれば黒七、白イ、黒十一となりて、却て黒の手段に陥る。

〔四三七七〕
白甚だ優れり

黒四、六、粗暴、大敗の因、鼓に能く白は強引に敵を粉砕して剰す。所無し。此手を八なれば黒七、白イ、黒十一となりて、却て黒の手段に陥る。

〔四三七八〕
黒可なり

白いま十一の躍出を伏して、一一の尖むに斜走されどもイは黒イに完封せるに二而して四に強手段を採れる。造んで硬手段を以て白優る。

〔四三七九〕
白悪しからず

黒八といま十四、窮餘の巧着たるを失はず。二一にて至つて黒に甚だ悪し。尚ほ、白ロ、黒ハ、白ホの死形あり。

〔四三八〇〕
形勢互角

稍形勢に黒八も、嫌あり。後るゝ後るゝも、黒は矢張り前々圖の如く打つべし。此形、白機を見て一隅イに投ずれば、黒は劫爭に風散るべし。

〔四三八一〕
互角の分れ

黒四に懸守して、黒が攻勢の望遂に雲散、霧消す。白は五と乗ず。白十のチャンスに七。本圖は外勢及び隅の形四三五三圖と略同じ。

〔四三八二〕
白の手段宜し

白三可なり、かく白九以下、十七、十九に暢達の委を展開して、遂に二一に至る。此形、白三がイにある四三七八圖に比して白優れり。

〔四三八三〕
白面白からず

一着の先後に、舟の恨を呑むよりまし手順を誤見つて九。白十三の時、黒は十五に應げずして十四に厚を築く。白外勢挽回望み薄し。

〔四三八四〕
白有利の形

黒十一に粘るの外無し。白は遂に十一と一子を浚ふ。黒十二に尋で十四、十六に絞るも、快を喫せし、要之此形、外勢黒稍優。

〔四三八五〕
大勢黒に不利

黒十は牛の如き鈍重。反之、白十一、十三の出切、銀利なり。黒は爲に飛ぶが如き痛苦、止むなく十四の曲り、大勢、黒に利あり。

〔四三八六〕
白優る

君子は道に違はざらんことを恐れ、小人は利に慾にに迷ふ。黒十六、十七以下大勢既に白に快に歸す。

〔四三八七〕
白有利の分れ

白十九。黒は二十位のもの。黒かくて二に三を拿て二に一見、黒有利なるが如きも白先然らず。想へば白イ、黒ロ、而かも白ハ、黒手なり。

〔四三八八〕
白實利を得

黒十に守れば確かなれど、白は劫を一子と一子の出切を、剰つさへ以下十三加へて十七の實利を甚しく、又形好まず。

〔四三八九〕
必然の棋移也

先勝　宮坂棠二六段
　　向井一男四段

今や、黒の外勢厚壮なり。黒二、四、の出切は、白十五、蓋し當然。黒二十七、手筋也。白イなれば、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒チ、白トにて十。

〔四三九〇〕
黒の勢善し

白一、稍無理なり。黒遂に八に封じて左イ威武荒に逼望む。矣、白軍、刀折れ矢盡きたり。

〔四三九一〕
黒優れり

白三なれば、黒四に宜しく、白十三も黒十四に筋也。されど黒は手段、流暢の發展を造んで優る。黒勢遂に白十六、黒イを怠れば、白十七。

〔四三九二〕
兩劫黒勝

一隅、身を如露に曲明して異にし、右は暗きに黄泉の客と人然たるも、嗟乎、蒋生は誤れり、黒十八となりては、黒二兩劫黒勝となる。

〔四三九四〕
黒攻合勝

面白からず。白五、七、悲しき哉、第一歩を誤れる身の白には以下も拘らず、何の答もなし。努力の甲斐もなく、黒十八にて十六、勝。妙。黒十四、

〔四三九三〕劫抛の如何

黒十に下つて攻合に赴くと、手無きにあらねど、之は前圖の如くイとのがれて可とす。二まで圖にて劫なるも、白は前掲諸圖の劫争の如く必ず此の劫に勝つを要す。即ち、白他に適當の劫抛あるも白なれば、此の形となるものと異る。適當の劫抛ある時は白形悪しからず。

〔四三九四〕劫

白七。黒乃ち八。黒二四に至れば、黒劫勝。されど白七、九、故に白に適當の劫抛ある時は白面白し。

〔四三九五〕劫

白七。黒乃ち八。黒劫勝。されど白七、九、故に白に適當の劫抛ある時は白面白し。

〔四三九六〕形勢互角

白一なれば、黒二面白し。蓋し黒は場合によりては隅の石を放棄せんと欲す。黒四今は形勢互角。五に至れば、黒四漠然中原に鹿を止むるも仕方なきか？

〔四三九七〕黒優勢

黒一、二の如く攻めて白二子を放棄するに於ては、黒先だつて充分に之を利し、即ち、六、八、而して十二、十四と屠り、白は隅十四と屠り、黒は外厚無限、黒優れり。

〔四三九八〕黒優勢

黒いま、死するまでも尚ほ一矢を酬ひおかんと、即ち、黒八、六。而して十に隅を乗つ。右邊の封鎖の前圖よりも黒可なり。

〔四三九九〕形勢互角

黒は四、六、も中り。蓋し、専ら原圖略を志す場合は、白は八を先にすべし。黒六、斯く八と打てば白、透し肩の好防。九、黒若し白十一をイなれば、白十二。

〔四四〇〇〕黒優勢

白九、黒八、輕鋭なり。黒十に爲も、白十に走るも、白十三の斜とは何を走る風の音ぞ。十四も無の下し、黒優れり。悠々と活く。此形以

〔四四〇一〕黒稍優る

黒直ちに六、八、手順の妙鼓ず。若し白七を二圖の如くイなれば、前黒七、白ロとなり、黒八、白ハとなり、黒十四、白ニに次で黒痛烈なるホの連打。

〔四四〇二〕要點約言（第四六型ロの一變化）

黒五、七に出切れば、白八と黒九とは共に定型。其の可否を觀るに、先づ互角の分れとなる。故に普通とす。此出切りは古來

〔四四〇三〕基本圖（第四六型ロの二變化）

黒は九と押す手あり。二間夾の出切り（二九六の圖）以下此手段可なれど、圖の黒

〔四四〇四〕白の勢善し

黒十二の時、白猶十四に行けば、黒イの筋あり（四九圖）。四〇圖と二段に約へし、白は痛快なれど遂に二五より二四と屠り、黒は外厚無限、黒優れり。

〔四四〇五〕白、一策なり

黒十六。白十九に似たる二段續もしくは先手を取りて二五、二七に隅の黒を屠る。白これも策なり。黒厚けれど、隅の外勢も大なり。

〔四四〇六〕黒　活

白一は前圖二七に當る。白一の手順悪しく、一べしは先づイに赴く。黒二、四妙、能く隅の黒巣卵の危きに救ふ。黒遂に活きなり。

〔四四〇七〕黒　活

白いま飽くまでも黒を屠らんと腐心す。此時黒六は起死回生の妙策！白次にイなれば黒ロにて明朗の活。

〔四四〇八〕場合による

白二、黒一と行び出せば、白に衝撃を與へ、突出して大きく活く。尋で隅を屠つて結果二四まで白優れど、外勢の黒有利。隅は一得一失あり。

〔四四〇九〕黒　勝

敵は胸に蛇の如き好計を藏すも、白は知らぬが佛で呑む氣なり。果然顔色の黒の銳撃！隅の四子遂に活きず。

〔四四一〇〕白逸出す

機將に全く熟せんとして未だ熟せざるに、黒一、白二。黒十一、白ロ。黒十三、白十二。黒十四、白十三。黒十五、白十四。黒を屠る。白遂に猛威揮然！

〔四四一一〕白　勝

黒六に白七、九に黒十、白十二で宜しく、一、白ロ、黒十四、白十二。黒を屠る。白遂に二三までの先手を鋒る。

〔四四一二〕黒敗戦

黒六、面白からず。白七、此形に於ては黒八に隅を屠るイなれば、白好着。白ロにてイと同形。黒八、前圖と同一なれば、白ニ。

〔四四一三〕黒陣形崩る

黒六、八の外圍策もあれど、八は悪しく、十は、形悪しとも、二三、二五無し。白二三、の外勢に乗ぜられて、白一、黒三と屠られては、白の切りは觸るゝも斬らざるのとしては觸るゝも斬らざるなの悽愴！黒軍今や陣形崩る。

〔四四一四〕普通は黒損也

勝　瀬越憲作　當時六段
先　林　德藏　當時四段

夫れ隨つて進退時に宜しきを得、臨んで敵勢を制するものなり。白一は勢に乗ぜんとするの方、黒二と屠られては、黒三と勢出でて白一、黒四と屠られては、白一、黒五と勢出でて白一、黒六と屠られては、白一、黒七と勢出でて白一、黒八と屠られては、白一、黒九と勢出でて白一、黒十と屠られては、白一、黒十一と勢出でて白一、黒十二と屠られては、白一、黒十三と勢出でて白一、黒十四と屠られては、白一、黒十五と勢出でて白一、黒十六と屠られては、白一、黒十七と勢出でて白一、黒十八と屠られては、白一、黒十九と勢出でて白一、黒二十と屠られては、白一、黒二十一と勢出でて白一、黒二十二と屠られては、白一、黒二十三と勢出でて白一、黒二十四と屠られては、白一、黒二十五と勢出でて白一、黒二十六と屠られては、白一、黒二十七と勢出でて白一、黒二十八と屠られては、白一、黒二十九と勢出でて白一、黒三十と屠られては、白一、黒三十一と勢出でて白一、黒三十二と屠られては、白一、黒三十三と勢出でて白一、黒三十四と屠られては、白一、黒三十五と勢出でて白一、黒三十六と屠られては、白一、黒三十七と勢出でて白一、黒三十八と屠られては、白一、黒三十九と勢出でて白一、黒四十と屠られては、白一、黒四十一と勢出でて白一、黒四十二と屠られては、白一、黒四十三と勢出でて白一、黒四十四と屠られては、白一、黒四十五と勢出でて白一、黒四十六と屠られては、白一、黒四十七と勢出でて白一、黒四十八と屠られては、白一、黒四十九と勢出でて白一、黒五十と屠られては、白一、黒五十一と勢出でて白一、黒五十二と屠られては、白一、黒五十三と勢出でて白一、黒五十四と屠られては、白一、黒五十五と勢出でて白一、黒五十六と屠られては、白一、黒五十七と勢出でて白一、黒五十八と屠られては、白一、黒五十九と勢出でて白一、黒六十と屠られては、白一、黒六十一と勢出でて白一、黒六十二と屠られては、白一、黒六十三と勢出でて白一、黒六十四と屠られては、白一、黒六十五と勢出でて白一、黒六十六と屠られては、白一、黒六十七と勢出でて白一、黒六十八と屠られては、白一、黒六十九と勢出でて白一、黒七十と屠られては、白一、黒七十一と勢出でて白一、黒七十二と屠られては、白一、黒七十三と勢出でて白一、黒七十四と屠られては、白一、黒七十五と勢出でて白一、黒七十六と屠られては、白一、黒七十七と勢出でて白一、黒七十八と屠られては、白一、黒七十九と勢出でて白一、黒八十と屠られては、白一、黒八十一と勢出でて白一、黒八十二と屠られては、白一、黒八十三と勢出でて白一、黒八十四と屠られては、白一、黒八十五と勢出でて白一、黒八十六と屠られては、白一、黒八十七と勢出でて白一、黒八十八と屠られては、白一、黒八十九と勢出でて白一、黒九十と屠られては、白一、黒九十一と勢出でて白一、黒九十二と屠られては、白一、黒九十三と勢出でて白一、黒九十四と屠られては、白一、黒九十五と勢出でて白一、黒九十六と屠られては、白一、黒九十七と勢出でて白一、黒九十八と屠られては、白一、黒九十九と勢出でて白一、黒百と屠られては、白一、黒百一と勢出でて白一、黒百二と屠られては、白一、黒百三と勢出でて白一、黒百四と屠られては、白一、黒百五と勢出でて白一、黒百六と屠られては、白一、黒百七と勢出でて白一、黒百八と屠られては、白一、黒百九と勢出でて白一、黒百十と屠られては、白一、黒百十一と勢出でて白一、黒百十二と屠られては、白一、黒百十三と勢出でて白一、黒百十四と屠られては、白一、黒百十五と勢出でて白一、黒百十六と屠られては、白一、黒百十七と勢出でて白一、黒百十八と屠られては、白一、黒百十九と勢出でて白一、黒百二十と屠られては、白一、黒百二十一と勢出でて白一、黒百二十二と屠られては、白一、黒百二十三と勢出でて白一、黒百二十四と屠られては、白一、黒百二十五と勢出でて白一、黒百二十六と屠られては、白一、黒百二十七と勢出でて白一、黒百二十八と屠られては、白一、黒百二十九と勢出でて白一、黒百三十と屠られては、白一、黒百三十一と勢出でて白一、黒百三十二と屠られては、白一、黒百三十三と勢出でて白一、黒百三十四と屠られては、白一、黒百三十五と勢出でて白一、黒百三十六と屠られては、白一、黒百三十七と勢出でて白一、黒百三十八と屠られては、白一、黒百三十九と勢出でて白一、黒百四十と屠られては、白一、黒百四十一と勢出でて白一、黒百四十二と屠られては、白一、黒百四十三と勢出でて白一、黒百四十四と屠られては、白一、黒百四十五と勢出でて白一、黒百四十六と屠られては、白一、黒百四十七と勢出でて白一、黒百四十八と屠られては、白一、黒百四十九と勢出でて白一、黒百五十と屠られては、白一、黒百五十一と勢出でて白一、黒百五十二と屠られては、白一、黒百五十三と勢出でて白一、黒百五十四と屠られては、白一、黒百五十五と勢出でて白一、黒百五十六と屠られては、白一、黒百五十七と勢出でて白一、黒百五十八と屠られては、白一、黒百五十九と勢出でて白一、黒百六十と屠られては、白一、黒百六十一と勢出でて白一、黒百六十二と屠られては、白一、黒百六十三と勢出でて白一、黒百六十四と屠られては、白一、黒百六十五と勢出でて白一、黒百六十六と屠られては、白一、黒百六十七と勢出でて白一、黒百六十八と屠られては、白一、黒百六十九と勢出でて白一、黒百七十と屠られては、白一、黒百七十一と勢出でて白一、黒百七十二と屠られては、白一、黒百七十三と勢出でて白一、黒百七十四と屠られては、白一、黒百七十五と勢出でて白一、黒百七十六と屠られては、白一、黒百七十七と勢出でて白一、黒百七十八と屠られては、白一、黒百七十九と勢出でて白一、黒百八十と屠られては、白一、黒百八十一と勢出でて白一、黒百八十二と屠られては、白一、黒百八十三と勢出でて白一、黒百八十四と屠られては、白一、黒百八十五と勢出でて白一、黒百八十六と屠られては、白一、黒百八十七と勢出でて白一、黒百八十八と屠られては、白一、黒百八十九と勢出でて白一、黒百九十と屠られては、白一、黒百九十一と勢出でて白一、黒百九十二と屠られては、白一、黒百九十三と勢出でて白一、黒百九十四と屠られては、白一、黒百九十五と勢出でて白一、黒百九十六と屠られては、白一、黒百九十七と勢出でて白一、黒百九十八と屠られては、白一、黒百九十九と勢出でて白一、黒二百と屠られては、白一、黒二百一と勢出でて白一、黒二百二と屠られては、白一、黒二百三と勢出でて白一、黒二百四と屠られては、白一、黒二百五と勢出でて白一、黒二百六と屠られては、白一、黒二百七と勢出でて白一、黒二百八と屠られては、白一、黒二百九と勢出でて白一、黒二百十と屠られては、白一、黒二百十一と勢出でて白一、黒二百十二と屠られては、白一、黒二百十三と勢出でて白一、黒二百十四と屠られては、白一、黒二百十五と勢出でて白一、黒二百十六と屠られては、白一、黒二百十七と勢出でて白一、黒二百十八と屠られては、白一、黒二百十九と勢出でて白一、黒二百二十と屠られては、白一、黒二百二十一と勢出でて白一、黒二百二十二と屠られては、白一、黒二百二十三と勢出でて白一、黒二百二十四と屠られては、白一、黒二百二十五と勢出でて白一、黒二百二十六と屠られては、白一、黒二百二十七と勢出でて白一、黒二百二十八と屠られては、白一、黒二百二十九と勢出でて白一、黒二百三十と屠られては、白一、黒二百三十一と勢出でて白一、黒二百三十二と屠られては、白一、黒二百三十三と勢出でて白一、黒二百三十四と屠られては、白一、黒二百三十五と勢出でて白一、黒二百三十六と屠られては、白一、黒二百三十七と勢出でて白一、黒二百三十八と屠られては、白一、黒二百三十九と勢出でて白一、黒二百四十と屠られては、白一、黒二百四十一と勢出でて白一、黒二百四十二と屠られては、白一、黒二百四十三と勢出でて白一、黒二百四十四と屠られては、白一、黒二百四十五と勢出でて白一、黒二百四十六と屠られては、白一、黒二百四十七と勢出でて白一、黒二百四十八と屠られては、白一、黒二百四十九と勢出でて白一、黒二百五十と屠られては、白一、黒二百五十一と勢出でて白一、黒二百五十二と屠られては、白一、黒二百五十三と勢出でて白一、黒二百五十四と屠られては、白一、黒二百五十五と勢出でて白一、黒二百五十六と屠られては、白一、黒二百五十七と勢出でて白一、黒二百五十八と屠られては、白一、黒二百五十九と勢出でて白一、黒二百六十と屠られては、白一、黒二百六十一と勢出でて白一、黒二百六十二と屠られては、白一、黒二百六十三と勢出でて白一、黒二百六十四と屠られては、白一、黒二百六十五と勢出でて白一、黒二百六十六と屠られては、白一、黒二百六十七と勢出でて白一、黒二百六十八と屠られては、白一、黒二百六十九と勢出でて白一、黒二百七十と屠られては、白一、黒二百七十一と勢出でて白一、黒二百七十二と屠られては、白一、黒二百七十三と勢出でて白一、黒二百七十四と屠られては、白一、黒二百七十五と勢出でて白一、黒二百七十六と屠られては、白一、黒二百七十七と勢出でて白一、黒二百七十八と屠られては、白一、黒二百七十九と勢出でて白一、黒二百八十と屠られては、白一、黒二百八十一と勢出でて白一、黒二百八十二と屠られては、白一、黒二百八十三と勢出でて白一、黒二百八十四と屠られては、白一、黒二百八十五と勢出でて白一、黒二百八十六と屠られては、白一、黒二百八十七と勢出でて白一、黒二百八十八と屠られては、白一、黒二百八十九と勢出でて白一、黒二百九十と屠られては、白一、黒二百九十一と勢出でて白一、黒二百九十二と屠られては、白一、黒二百九十三と勢出でて白一、黒二百九十四と屠られては、白一、黒二百九十五と勢出でて白一、黒二百九十六と屠られては、白一、黒二百九十七と勢出でて白一、黒二百九十八と屠られては、白一、黒二百九十九と勢出でて白一、黒三百と屠られては、白一、黒三百一と勢出でて白一、黒三百二と屠られては、白一、黒三百三と勢出でて白一、黒三百四と屠られては、白一、黒三百五と勢出でて白一、黒三百六と屠られては、白一、黒三百七と勢出でて白一、黒三百八と屠られては、白一、黒三百九と勢出でて白一、黒三百十と屠られては、白一、黒三百十一と勢出でて白一、黒三百十二と屠られては、白一、黒三百十三と勢出でて白一、黒三百十四と屠られては、白一、黒三百十五と勢出でて白一、黒三百十六と屠られては、白一、黒三百十七と勢出でて白一、黒三百十八と屠られては、白一、黒三百十九と勢出でて白一、黒三百二十と屠られては、白一、黒三百二十一と勢出でて白一、黒三百二十二と屠られては、白一、黒三百二十三と勢出でて白一、黒三百二十四と屠られては、白一、黒三百二十五と勢出でて白一、黒三百二十六と屠られては、白一、黒三百二十七と勢出でて白一、黒三百二十八と屠られては、白一、黒三百二十九と勢出でて白一、黒三百三十と屠られては、白一、黒三百三十一と勢出でて白一、黒三百三十二と屠られては、白一、黒三百三十三と勢出でて白一、黒三百三十四と屠られては、白一、黒三百三十五と勢出でて白一、黒三百三十六と屠られては、白一、黒三百三十七と勢出でて白一、黒三百三十八と屠られては、白一、黒三百三十九と勢出でて白一、黒三百四十と屠られては、白一、黒三百四十一と勢出でて白一、黒三百四十二と屠られては、白一、黒三百四十三と勢出でて白一、黒三百四十四と屠られては、白一、黒三百四十五と勢出でて白一、黒三百四十六と屠られては、白一、黒三百四十七と勢出でて白一、黒三百四十八と屠られては、白一、黒三百四十九と勢出でて白一、黒三百五十と屠られては、白一、黒三百五十一と勢出でて白一、黒三百五十二と屠られては、白一、黒三百五十三と勢出でて白一、黒三百五十四と屠られては、白一、黒三百五十五と勢出でて白一、黒三百五十六と屠られては、白一、黒三百五十七と勢出でて白一、黒三百五十八と屠られては、白一、黒三百五十九と勢出でて白一、黒三百六十と屠られては、白一、黒三百六十一と勢出でて白一、黒三百六十二と屠られては、白一、黒三百六十三と勢出でて白一、黒三百六十四と屠られては、白一、黒三百六十五と勢出でて白一、黒三百六十六と屠られては、白一、黒三百六十七と勢出でて白一、黒三百六十八と屠られては、白一、黒三百六十九と勢出でて白一、黒三百七十と屠られては、白一、黒三百七十一と勢出でて白一、黒三百七十二と屠られては、白一、黒三百七十三と勢出でて白一、黒三百七十四と屠られては、白一、黒三百七十五と勢出でて白一、黒三百七十六と屠られては、白一、黒三百七十七と勢出でて白一、黒三百七十八と屠られては、白一、黒三百七十九と勢出でて白一、黒三百八十と屠られては、白一、黒三百八十一と勢出でて白一、黒三百八十二と屠られては、白一、黒三百八十三と勢出でて白一、黒三百八十四と屠られては、白一、黒三百八十五と勢出でて白一、黒三百八十六と屠られては、白一、黒三百八十七と勢出でて白一、黒三百八十八と屠られては、白一、黒三百八十九と勢出でて白一、黒三百九十と屠られては、白一、黒三百九十一と勢出でて白一、黒三百九十二と屠られては、白一、黒三百九十三と勢出でて白一、黒三百九十四と屠られては、白一、黒三百九十五と勢出でて白一、黒三百九十六と屠られては、白一、黒三百九十七と勢出でて白一、黒三百九十八と屠られては、白一、黒三百九十九と勢出でて白一、黒四百と屠られては、白一、黒四百一と勢出でて白一、黒四百二と屠られては、白一、黒四百三と勢出でて白一、黒四百四と屠られては、白一、黒四百五と勢出でて白一、黒四百六と屠られては、白一、黒四百七と勢出でて白一、黒四百八と屠られては、白一、黒四百九と勢出でて白一、黒四百十と屠られては、白一、黒四百十一と勢出でて白一、黒四百十二と屠られては、白一、黒四百十三と勢出でて白一、黒四百十四と屠られては、白一、黒四百十五と勢出でて白一、黒四百十六と屠られては、白一、黒四百十七と勢出でて白一、黒四百十八と屠られては、白一、黒四百十九と勢出でて白一、黒四百二十と屠られては、白一、黒四百二十一と勢出でて白一、黒四百二十二と屠られては、白一、黒四百二十三と勢出でて白一、黒四百二十四と屠られては、白一、黒四百二十五と勢出でて白一、黒四百二十六と屠られては、白一、黒四百二十七と勢出でて白一、黒四百二十八と屠られては、白一、黒四百二十九と勢出でて白一、黒四百三十と屠られては、白一、黒四百三十一と勢出でて白一、黒四百三十二と屠られては、白一、黒四百三十三と勢出でて白一、黒四百三十四と屠られては、白一、黒四百三十五と勢出でて白一、黒四百三十六と屠られては、白一、黒四百三十七と勢出でて白一、黒四百三十八と屠られては、白一、黒四百三十九と勢出でて白一、黒四百四十と屠られては、白一、黒四百四十一と勢出でて白一、黒四百四十二と屠られては、白一、黒四百四十三と勢出でて白一、黒四百四十四と屠られては、白一、黒四百四十五と勢出でて白一、黒四百四十六と屠られては、白一、黒四百四十七と勢出でて白一、黒四百四十八と屠られては、白一、黒四百四十九と勢出でて白一、黒四百五十と屠られては、白一、黒四百五十一と勢出でて白一、黒四百五十二と屠られては、白一、黒四百五十三と勢出でて白一、黒四百五十四と屠られては、白一、黒四百五十五と勢出でて白一、黒四百五十六と屠られては、白一、黒四百五十七と勢出でて白一、黒四百五十八と屠られては、白一、黒四百五十九と勢出でて白一、黒四百六十と屠られては、白一、黒四百六十一と勢出でて白一、黒四百六十二と屠られては、白一、黒四百六十三と勢出でて白一、黒四百六十四と屠られては、白一、黒四百六十五と勢出でて白一、黒四百六十六と屠られては、白一、黒四百六十七と勢出でて白一、黒四百六十八と屠られては、白一、黒四百六十九と勢出でて白一、黒四百七十と屠られては、白一、黒四百七十一と勢出でて白一、黒四百七十二と屠られては、白一、黒四百七十三と勢出でて白一、黒四百七十四と屠られては、白一、黒四百七十五と勢出でて白一、黒四百七十六と屠られては、白一、黒四百七十七と勢出でて白一、黒四百七十八と屠られては、白一、黒四百七十九と勢出でて白一、黒四百八十と屠られては、白一、黒四百八十一と勢出でて白一、黒四百八十二と屠られては、白一、黒四百八十三と勢出でて白一、黒四百八十四と屠られては、白一、黒四百八十五と勢出でて白一、黒四百八十六と屠られては、白一、黒四百八十七と勢出でて白一、黒四百八十八と屠られては、白一、黒四百八十九と勢出でて白一、黒四百九十と屠られては、白一、黒四百九十一と勢出でて白一、黒四百九十二と屠られては、白一、黒四百九十三と勢出でて白一、黒四百九十四と屠られては、白一、黒四百九十五と勢出でて白一、黒四百九十六と屠られては、白一、黒四百九十七と勢出でて白一、黒四百九十八と屠られては、白一、黒四百九十九と勢出でて白一、黒五百と屠られては、白一、黒五百一と勢出でて白一、黒五百二と屠られては、白一、黒五百三と勢出でて白一、黒五百四と屠られては、白一、黒五百五と勢出でて白一、黒五百六と屠られては、白一、黒五百七と勢出でて白一、黒五百八と屠られては、白一、黒五百九と勢出でて白一、黒五百十と屠られては、白一、黒五百十一と勢出でて白一、黒五百十二と屠られては、白一、黒五百十三と勢出でて白一、黒五百十四と屠られては、白一、黒五百十五と勢出でて白一、黒五百十六と屠られては、白一、黒五百十七と勢出でて白一、黒五百十八と屠られては、白一、黒五百十九と勢出でて白一、黒五百二十と屠られては、白一、黒五百二十一と勢出でて白一、黒五百二十二と屠られては、白一、黒五百二十三と勢出でて白一、黒五百二十四と屠られては、白一、黒五百二十五と勢出でて白一、黒五百二十六と屠られては、白一、黒五百二十七と勢出でて白一、黒五百二十八と屠られては、白一、黒五百二十九と勢出でて白一、黒五百三十と屠られては、白一、黒五百三十一と勢出でて白一、黒五百三十二と屠られては、白一、黒五百三十三と勢出でて白一、黒五百三十四と屠られては、白一、黒五百三十五と勢出でて白一、黒五百三十六と屠られては、白一、黒五百三十七と勢出でて白一、黒五百三十八と屠られては、白一、黒五百三十九と勢出でて白一、黒五百四十と屠られては、白一、黒五百四十一と勢出でて白一、黒五百四十二と屠られては、白一、黒五百四十三と勢出でて白一、黒五百四十四と屠られては、白一、黒五百四十五と勢出でて白一、黒五百四十六と屠られては、白一、黒五百四十七と勢出でて白一、黒五百四十八と屠られては、白一、黒五百四十九と勢出でて白一、黒五百五十と屠られては、白一、黒五百五十一と勢出でて白一、黒五百五十二と屠られては、白一、黒五百五十三と勢出でて白一、黒五百五十四と屠られては、白一、黒五百五十五と勢出でて白一、黒五百五十六と屠られては、白一、黒五百五十七と勢出でて白一、黒五百五十八と屠られては、白一、黒五百五十九と勢出でて白一、黒五百六十と屠られては、白一、黒五百六十一と勢出でて白一、黒五百六十二と屠られては、白一、黒五百六十三と勢出でて白一、黒五百六十四と屠られては、白一、黒五百六十五と勢出でて白一、黒五百六十六と屠られては、白一、黒五百六十七と勢出でて白一、黒五百六十八と屠られては、白一、黒五百六十九と勢出でて白一、黒五百七十と屠られては、白一、黒五百七十一と勢出でて白一、黒五百七十二と屠られては、白一、黒五百七十三と勢出でて白一、黒五百七十四と屠られては、白一、黒五百七十五と勢出でて白一、黒五百七十六と屠られては、白一、黒五百七十七と勢出でて白一、黒五百七十八と屠られては、白一、黒五百七十九と勢出でて白一、黒五百八十と屠られては、白一、黒五百八十一と勢出でて白一、黒五百八十二と屠られては、白一、黒五百八十三と勢出でて白一、黒五百八十四と屠られては、白一、黒五百八十五と勢出でて白一、黒五百八十六と屠られては、白一、黒五百八十七と勢出でて白一、黒五百八十八と屠られては、白一、黒五百八十九と勢出でて白一、黒五百九十と屠られては、白一、黒五百九十一と勢出でて白一、黒五百九十二と屠られては、白一、黒五百九十三と勢出でて白一、黒五百九十四と屠られては、白一、黒五百九十五と勢出でて白一、黒五百九十六と屠られては、白一、黒五百九十七と勢出でて白一、黒五百九十八と屠られては、白一、黒五百九十九と勢出でて白一、黒六百と屠られては、白一、黒六百一と勢出でて白一、黒六百二と屠られては、白一、黒六百三と勢出でて白一、黒六百四と屠られては、白一、黒六百五と勢出でて白一、黒六百六と屠られては、白一、黒六百七と勢出でて白一、黒六百八と屠られては、白一、黒六百九と勢出でて白一、黒六百十と屠られては、白一、黒六百十一と勢出でて白一、黒六百十二と屠られては、白一、黒六百十三と勢出でて白一、黒六百十四と屠られては、白一、黒六百十五と勢出でて白一、黒六百十六と屠られては、白一、黒六百十七と勢出でて白一、黒六百十八と屠られては、白一、黒六百十九と勢出でて白一、黒六百二十と屠られては、白一、黒六百二十一と勢出でて白一、黒六百二十二と屠られては、白一、黒六百二十三と勢出でて白一、黒六百二十四と屠られては、白一、黒六百二十五と勢出でて白一、黒六百二十六と屠られては、白一、黒六百二十七と勢出でて白一、黒六百二十八と屠られては、白一、黒六百二十九と勢出でて白一、黒六百三十と屠られては、白一、黒六百三十一と勢出でて白一、黒六百三十二と屠られては、白一、黒六百三十三と勢出でて白一、黒六百三十四と屠られては、白一、黒六百三十五と勢出でて白一、黒六百三十六と屠られては、白一、黒六百三十七と勢出でて白一、黒六百三十八と屠られては、白一、黒六百三十九と勢出でて白一、黒六百四十と屠られては、白一、黒六百四十一と勢出でて白一、黒六百四十二と屠られては、白一、黒六百四十三と勢出でて白一、黒六百四十四と屠られては、白一、黒六百四十五と勢出でて白一、黒六百四十六と屠られては、白一、黒六百四十七と勢出でて白一、黒六百四十八と屠られては、白一、黒六百四十九と勢出でて白一、黒六百五十と屠られては、白一、黒六百五十一と勢出でて白一、黒六百五十二と屠られては、白一、黒六百五十三と勢出でて白一、黒六百五十四と屠られては、白一、黒六百五十五と勢出でて白一、黒六百五十六と屠られては、白一、黒六百五十七と勢出でて白一、黒六百五十八と屠られては、白一、黒六百五十九と勢出でて白一、黒六百六十と屠られては、白一、黒六百六十一と勢出でて白一、黒六百六十二と屠られては、白一、黒六百六十三と勢出でて白一、黒六百六十四と屠られては、白一、黒六百六十五と勢出でて白一、黒六百六十六と屠られては、白一、黒六百六十七と勢出でて白一、黒六百六十八と屠られては、白一、黒六百六十九と勢出でて白一、黒六百七十と屠られては、白一、黒六百七十一と勢出でて白一、黒六百七十二と屠られては、白一、黒六百七十三と勢出でて白一、黒六百七十四と屠られては、白一、黒六百七十五と勢出でて白一、黒六百七十六と屠られては、白一、黒六百七十七と勢出でて白一、黒六百七十八と屠られては、白一、黒六百七十九と勢出でて白一、黒六百八十と屠られては、白一、黒六百八十一と勢出でて白一、黒六百八十二と屠られては、白一、黒六百八十三と勢出でて白一、黒六百八十四と屠られては、白一、黒六百八十五と勢出でて白一、黒六百八十六と屠られては、白一、黒六百八十七と勢出でて白一、黒六百八十八と屠られては、白一、黒六百八十九と勢出でて白一、黒六百九十と屠られては、白一、黒六百九十一と勢出でて白一、黒六百九十二と屠られては、白一、黒六百九十三と勢出でて白一、黒六百九十四と屠られては、白一、黒六百九十五と勢出でて白一、黒六百九十六と屠られては、白一、黒六百九十七と勢出でて白一、黒六百九十八と屠られては、白一、黒六百九十九と勢出でて白一、黒七百と屠られては、白一、黒七百一と勢出でて白一、黒七百二と屠られては、白一、黒七百三と勢出でて白一、黒七百四と屠られては、白一、黒七百五と勢出でて白一、黒七百六と屠られては、白一、黒七百七と勢出でて白一、黒七百八と屠られては、白一、黒七百九と勢出でて白一、黒七百十と屠られては、白一、黒七百十一と勢出でて白一、黒七百十二と屠られては、白一、黒七百十三と勢出でて白一、黒七百十四と屠られては、白一、黒七百十五と勢出でて白一、黒七百十六と屠られては、白一、黒七百十七と勢出でて白一、黒七百十八と屠られては、白一、黒七百十九と勢出でて白一、黒七百二十と屠られては、白一、黒七百二十一と勢出でて白一、黒七百二十二と屠られては、白一、黒七百二十三と勢出でて白一、黒七百二十四と屠られては、白一、黒七百二十五と勢出でて白一、黒七百二十六と屠られては、白一、黒七百二十七と勢出でて白一、黒七百二十八と屠られては、白一、黒七百二十九と勢出でて白一、黒七百三十と屠られては、白一、黒七百三十一と勢出でて白一、黒七百三十二と屠られては、白一、黒七百三十三と勢出でて白一、黒七百三十四と屠られては、白一、黒七百三十五と勢出でて白一、黒七百三十六と屠られては、白一、黒七百三十七と勢出でて白一、黒七百三十八と屠られては、白一、黒七百三十九と勢出でて白一、黒七百四十と屠られては、白一、黒七百四十一と勢出でて白一、黒七百四十二と屠られては、白一、黒七百四十三と勢出でて白一、黒七百四十四と屠られては、白一、黒七百四十五と勢出でて白一、黒七百四十六と屠られては、白一、黒七百四十七と勢出でて白一、黒七百四十八と屠られては、白一、黒七百四十九と勢出でて白一、黒七百五十と屠られては、白一、黒七百五十一と勢出でて白一、黒七百五十二と屠られては、白一、黒七百五十三と勢出でて白一、黒七百五十四と屠られては、白一、黒七百五十五と勢出でて白一、黒七百五十六と屠られては、白一、黒七百五十七と勢出でて白一、黒七百五十八と屠られては、白一、黒七百五十九と勢出でて白一、黒七百六十と屠られては、白一、黒七百六十一と勢出でて白一、黒七百六十二と屠られては、白一、黒七百六十三と勢出でて白一、黒七百六十四と屠られては、白一、黒七百六十五と勢出でて白一、黒七百六十六と屠られては、白一、黒七百六十七と勢出でて白一、黒七百六十八と屠られては、白一、黒七百六十九と勢出でて白一、黒七百七十と屠られては、白一、黒七百七十一と勢出でて白一、黒七百七十二と屠られては、白一、黒七百七十三と勢出でて白一、黒七百七十四と屠られては、白一、黒七百七十五と勢出でて白一、黒七百七十六と屠られては、白一、黒七百七十七と勢出でて白一、黒七百七十八と屠られては、白一、黒七百七十九と勢出でて白一、黒七百八十と屠られては、白一、黒七百八十一と勢出でて白一、黒七百八十二と屠られては、白一、黒七百八十三と勢出でて白一、黒七百八十四と屠られては、白一、黒七百八十五と勢出でて白一、黒七百八十六と屠られては、白一、黒七百八十七と勢出でて白一、黒七百八十八と屠られては、白一、黒七百八十九と勢出でて白一、黒七百九十と屠られては、白一、黒七百九十一と勢出でて白一、黒七百九十二と屠られては、白一、黒七百九十三と勢出でて白一、黒七百九十四と屠られては、白一、黒七百九十五と勢出でて白一、黒七百九十六と屠られては、白一、黒七百九十七と勢出でて白一、黒七百九十八と屠られては、白一、黒七百九十九と勢出でて白一、黒八百と屠られては、白一、黒八百一と勢出でて白一、黒八百二と屠られては、白一、黒八百三と勢出でて白一、黒八百四と屠られては、白一、黒八百五と勢出でて白一、黒八百六と屠られては、白一、黒八百七と勢出でて白一、黒八百八と屠られては、白一、黒八百九と勢出でて白一、黒八百十と屠られては、白一、黒八百十一と勢出でて白一、黒八百十二と屠られては、白一、黒八百十三と勢出でて白一、黒八百十四と屠られては、白一、黒八百十五と勢出でて白一、黒八百十六と屠られては、白一、黒八百十七と勢出でて白一、黒八百十八と屠られては、白一、黒八百十九と勢出でて白一、黒八百二十と屠られては、白一、黒八百二十一と勢出でて白一、黒八百二十二と屠られては、白一、黒八百二十三と勢出でて白一、黒八百二十四と屠られては、白一、黒八百二十五と勢出でて白一、黒八百二十六と屠られては、白一、黒八百二十七と勢出でて白一、黒八百二十八と屠られては、白一、黒八百二十九と勢出でて白一、黒八百三十と屠られては、白一、黒八百三十一と勢出でて白一、黒八百三十二と屠られては、白一、黒八百三十三と勢出でて白一、黒八百三十四と屠られては、白一、黒八百三十五と勢出でて白一、黒八百三十六と屠られては、白一、黒八百三十七と勢出でて白一、黒八百三十八と屠られては、白一、黒八百三十九と勢出でて白一、黒八百四十と屠られては、白一、黒八百四十一と勢出でて白一、黒八百四十二と屠られては、白一、黒八百四十三と勢出でて白一、黒八百四十四と屠られては、白一、黒八百四十五と勢出でて白一、黒八百四十六と屠られては、白一、黒八百四十七と勢出でて白一、黒八百四十八と屠られては、白一、黒八百四十九と勢出でて白一、黒八百五十と屠られては、白一、黒八百五十一と勢出でて白一、黒八百五十二と屠られては、白一、黒八百五十三と勢出でて白一、黒八百五十四と屠られては、白一、黒八百五十五と勢出でて白一、黒八百五十六と屠られては、白一、黒八百五十七と勢出でて白一、黒八百五十八と屠られては、白一、黒八百五十九と勢出でて白一、黒八百六十と屠られては、白一、黒八百六十一と勢出でて白一、黒八百六十二と屠られては、白一、黒八百六十三と勢出でて白一、黒八百六十四と屠られては、白一、黒八百六十五と勢出でて白一、黒八百六十六と屠られては、白一、黒八百六十七と勢出でて白一、黒八百六十八と屠られては、白一、黒八百六十九と勢出でて白一、黒八百七十と屠られては、白一、黒八百七十一と勢出でて白一、黒八百七十二と屠られては、白一、黒八百七十三と勢出でて白一、黒八百七十四と屠られては、白一、黒八百七十五と勢出でて白一、黒八百七十六と屠られては、白一、黒八百七十七と勢出でて白一、黒八百七十八と屠られては、白一、黒八百七十九と勢出でて白一、黒八百八十と屠られては、白一、黒八百八十一と勢出でて白一、黒八百八十二と屠られては、白一、黒八百八十三と勢出でて白一、黒八百八十四と屠られては、白一、黒八百八十五と勢出でて白一、黒八百八十六と屠られては、白一、黒八百八十七と勢出でて白一、黒八百八十八と屠られては、白一、黒八百八十九と勢出でて白一、黒八百九十と屠られては、白一、黒八百九十一と勢出でて白一、黒八百九十二と屠られては、白一、黒八百九十三と勢出でて白一、黒八百九十四と屠られては、白一、黒八百九十五と勢出でて白一、黒八百九十六と屠られては、白一、黒八百九十七と勢出でて白一、黒八百九十八と屠られては、白一、黒八百九十九と勢出でて白一、黒九百と屠られては、白一、黒九百一と勢出でて白一、黒九百二と屠られては、白一、黒九百三と勢出でて白一、黒九百四と屠られては、白一、黒九百五と勢出でて白一、黒九百六と屠られては、白一、黒九百七と勢出でて白一、黒九百八と屠られては、白一、黒九百九と勢出でて白一、黒九百十と屠られては、白一、黒九百十一と勢出でて白一、黒九百十二と屠られては、白一、黒九百十三と勢出でて白一、黒九百十四と屠られては、白一

〔四四一六〕基本圖

（第四六型□の二）

白八に約へる手あり。イの行びに比して、手筋としては稍重き樣なれども結果三間夾の場合も結果白惡しからず。

〔四四一七〕互角の形勢

黑一、白二は共に當然の手筋。白八には、此の手より外に高く飛ぶ筋とあり。何れにも着理あれども此場合斯く飛ぶ方宜し。

七ッグ

〔四四一八〕黑堅實なり

白十、十二なれば黑十三に剛厚の押し、善し。白十四を十八に厚くなれば黑更に十四に、右十七の間隙を狙ひ、左イの封擊を望む。黑十七、十九善し。

〔四四一九〕白打過の形

白十四、無理。十六、十八又白十六を打ちし、黑は後に十六に打つて活に就く。

七ッグ

〔四四二〇〕黑惡しからず

黑九と襲ひかゝりぬ。九は蓋し手筋なり。黑十九と、廣く包圍の形に出で六子を犧牲に中段を厚くせしは、手面白し。

七ッグ

〔四四二一〕黑厚し

白十二、無理。十五は鋭き反撃、白愕然として色を失ふ。白十六を若し十七と、白二一、黑十八尋で白九に、黑イにて、白粘く時黑イにて、白粘惡し。

〔四四二二〕黑優勢

白一に當る。前圖二六に今黑一、而して三。白よつて二の打拔きに中央の禍根絶滅せり。乃ち黑四、六に無限の外厚を完成す。

〔四四二三〕黑の手段可

黑十善し。白十一打過き、尙早也。白二一、黑二二、白二一を、蓋し、若し白二一、黑二二、五なれば、黑三、白二二に粘※

〔四四二四〕黑稍優れり

白十、十二。右のさゝれど、今や安し。白イと、眼を一つ作らば、上邊にや利の形勢、不利の形勢、中歷々として黑の果して十七に快封を遂ぐ。黑の形勢優る。

〔四四二五〕黑優勢

白八なれば黑卽ち九に追蹈す。九は手筋なり。白十、此場合八以下の四子を鈍重の形と化する意味あつて好まず。

七ッグ

〔四四二六〕白大敗

白十四と常形に泥みしは、惡し。黑十七、十九、而して疾く二一によつて、風枯葉を拂ふが如き快勝！白若し二でイなれば、手筋なり。白十二、此場合八以下の四子を鈍重の形と化する意味あつて好まず。

七ッグ

〔四四二七〕黑手段面白し

白二二。黑卽ち三以下に手段だ。甚だ面白し。加之黑は隅を活く。四三に中央を犧牲のチャンスを獲得せり。黑ス二、白ハ、黑ニ、白ホ、黑ヘ、白九、黑ト。

〔四四二八〕勝

敵を知らず己を知らずば戰ふ毎に必ず敗れ、敵を知り己を知らば戰ふ毎に必ず勝つ。白十、黑十一に正に之を知る。而して黑十二、白十三の出擊！白遂に潰滅する。

七粘

〔四四二九〕白善し

黑十五は拙也。ローマニに衰を乞ひ、ハンバルカルタゴニに死後も似たり。進みて敵を擊つべき擊ち、天罰覿面、白十六以下の進擊、千里無きの概！

〔四四三〇〕黑可なり

白十。黑十一に天王山を奪つて起つ。黑十七堅くして宜し、ワーテルローし、奈翁を擊破せしルーカルタゴニも似たり。進みて敵を擊つべき擊ち、天罰覿面、白十六以下の進擊、千里無きの概！

〔四四三一〕黑優れり

黑十七と密着して白の首を押さんとす。前圖に比して黑手強方面。白二十の急擊。黑二十一以下正に天下を呑んとするの概。

〔四四三二〕黑、一策なり

黑い十七と、敵の連絡線に衝いて絞り、遂に二一に黑三一。此戰、作ら黑惡しからず。

七ッグ

〔四四三三〕白大勢を失す

將門、將を出だすと。凡庸の着想。然り凡好果を求めんとす。難し。白十六、見よ、白遂に小隅を屠つて中原の大利を白惡に奪はる。

〔四四三四〕黑形勢を失ふ

嗟乎、死すべき時に死せざれば、死すべき恥あれば、死に勝るとは、黑二三に求めず、所志を貫下隅と活をかに。黑十七と、白徹せんに二四に、天下を奪はる。

〔四四三五〕場合による

白い十中邊に志を馳せ十二に赴く。前揭諸圖の、白十二より白十八よりも白優れり。

七ッグ

〔四四三六〕前圖と同意

白十二もあり、前圖のイと略同意なり。黑ロた同じく、以下の變化は前圖と略同じ。

七ッグ

〔四四三七〕黑善し

白四は嫌手に似たり、黑五、好まず。以上變化宜し。但し一九圖參照。三一は間夾圖、白二二圖の場合は、三一又十二の一間夾圖の場合は、惡しければ稍緩き位のもの。

〔四四三八〕白好まず

白二は、前圖三に如かず。尤も黑イと略同意なり。黑ロた同じく、以下の變化は前圖と略同じ。

〔四四三九〕時に黑可なり

黑い十七と、敵の連絡線に衝いて絞り、遂に二一に黑三一。此戰、作ら黑惡しからず。

七ッグ

【四四四〇】
黒勢稍優る

白六。黒乃ち武田信玄が甲州流兵学に則り、自全の策を先にして七。の策を確なり。されど黒七では㋑、白㋺、黒ハもあり。（次々圖）

【四四四一】
黒必勝の勢

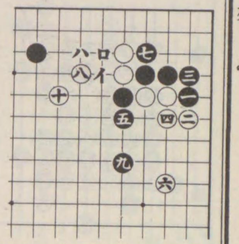
白、十一の景勝を近くに望みながら、八の低卑に赴く、悪し。黒九、白十の封撃に遂に喘々の焉たり。此形隅に再び起ち難し。白軍勢

【四四四二】
黒稍優れり

白四なれば、黒㋑に活路残るの故、黒㋑の打ち易し。即ち白六と迫るも黒で十四と追るも黒で十一。尋は神色自若十一。白十九なれば黒㋑、白㋺なれば黒ハと活く。

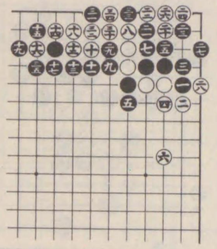
【四四四三】
黒勝

白十なれば、黒は鐵壁をもて猛威、十一の突破、黒十一、十三のピンチの快打にも似たり、善し。黒十五に至つて攻合黒勝なり。



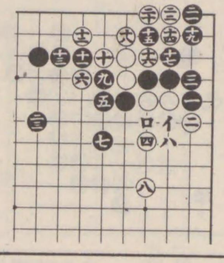
【四四四四】
黒好まず

黒一なれば、白二に既に四にて好調。以下此要點を先占す。多少の變化あれど結果黒好まず。



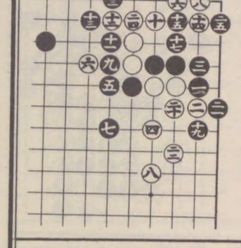
【四四四五】
白有利の分れ

黒いま九。白即ち十にて宜し。白十三と包撃し来るも白は平明の攻合勝なり。十八に至つて



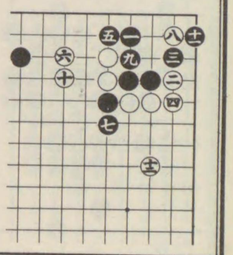
【四四四六】
形勢互角

白八。黒九の手筋面白し（次圖）若し此手を㋑なれば、白㋺、黒ハへ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒トの時白断乎十の切。黒七花入の嘆を見む。



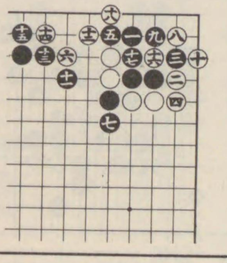
【四四四七】
劫勝負の如何

白十なれば、黒十一、十三と下、以下白既に多少の變化あれど結果黒好まず。



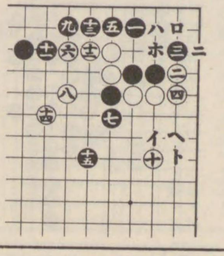
【四四四八】
白味悪し

白二は、前圖の如く七にて宜し。黒一果せる哉、九、十一、十二に逃るも黒七に遂に包撃し来るも白は平明の攻合勝なり。



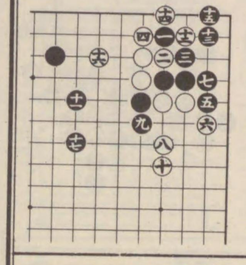
【四四四九】
要點約言

白八、黒㋑に約へれば、白㋺なるを常形とす。而して八は手筋より見るも、又其結果よりも見るも、又其結果よりも及ばず。（次圖）



【四四五〇】
要點約言（上）

黒五、七の出切りは、㋑の一間夾に互角の一分となるべく（次圖）



【四四五一】
劫勝負の如何

白十なれば、黒十一、十三と下、以下白既に多少の變化あれど結果黒好まず。

【四四五二】
白味悪し

白二は、前圖の如く七にて宜し。黒一果せる哉、九、十一、十二に逃るも黒七に遂に包撃し来るも白は平明の攻合勝なり。

【四四五三】
形勢互角

白八。黒九の手筋面白し（次圖）若し此手を㋑なれば、白㋺、黒ハへ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒トの時白断乎十の切。黒七花入の嘆を見む。

【四四五四】
要點約言（下）

（第四六型㋺）

即ち、此時白㋑或は㋺の約へにて種々の變化あれど形なる互角。此手場合によつては黒面白し。

【四四五五】
定石

黒七、九の飛び及び白四以下十四と隅に治まる。手、尚ほ圖の變化は二間夾三一六九圖以下（參照）

【四四五六】
黒可なり

此形黒七と逆撃に出づるも悪しからず。黒十五は氣宇宏豁、可なり。而も此手強手なり。

【四四五七】
黒稍優れり

白いま十六。黒即ち十七に先手を活き、十九に転じ遂に一包撃す。白の形黒を殲滅す。此形黒稍優れり。

【四四五八】
振替り黒有利

白十二。此時黒十三、十五の眼形を奪つて燃ゆる闘志の奮撃なり。白十八の応撃に黒十九を二十に飛び、白三なれば黒十二、白二十一、黒劫提り黒十八。

【四四五九】
黒堅實善し

白十二。黒乃ち十三、更に十七、意氣天衝く。黒二十三。黒の陣容は厳層々相重なる天険に似たり。堅實無比。（三二〇一圖參照）

【四四六〇】
黒安全の形

白十二なれば、黒十三に一隅安堵の形となるも而して圖のごとくせば四五圖より黒は地を得、且つ白の根據を破る故黒善し。

【四四六一】
場合による

黒十三に攻撃陣を張る。但し、白にも十四、十六以下二二の好手ある故、黒としては右邊に形勢を張らんよりは前圖の外は前圖の方安全なり。

【四四六二】
黒稍可なり

白六、緩弱。黒七に白の跡あり、立び、健して九の立ち、剛無比の陣立なり。

【四四五一】
要點約言（下）

（第四六型㋺）

即ち、此時白㋑或は㋺の約へにて種々の變化あれど形なる互角。此手場合によつては黒面白し。

【四四五二】
基本圖

（第四七型㋑）

白四は黒三の夾撃を緩和するとつて三に先手を取つて三と共に黒を逆襲せんとするの手段なり。白四は黒三が㋑の二間夾にある場合※

【四四五三】
基本圖

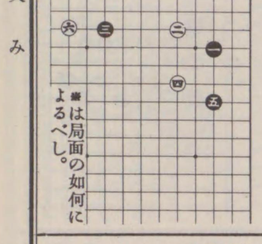
（第四七型㋑）

黒五は定形にして最も穏當の手なり。最も蓋し黒五の意は徐に地歩を占めて然る後白の二、四を攻撃せんとするに在り。

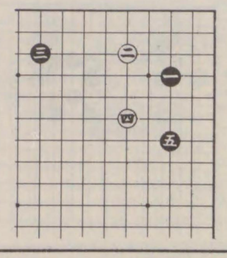
【四四五四】
基本圖

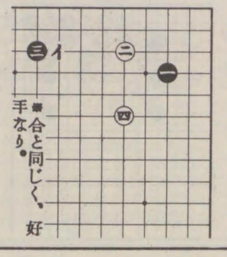
（第四八型㋑の一）

白六は前に白四と打ちし時よりの定石の策戦なり。尤も此六の夾は猶一路遠くして一路返す。三と其他に二手段あり。可否※

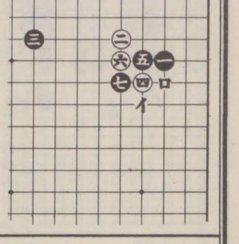


※は局面の如何によるべし。



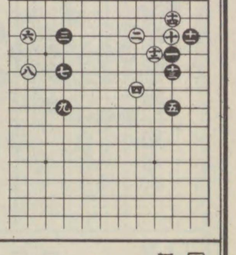


※合と同じく、好手なり。



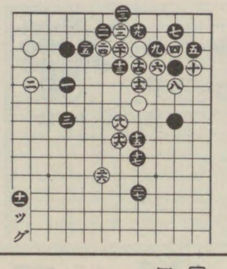
【四四五五】
定石

黒七、九の飛び及び白四以下十四と隅に治まる。手、尚ほ圖の變化は二間夾三一六九圖以下（參照）



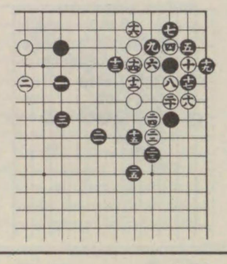
【四四五六】
黒可なり

此形黒七と逆撃に出づるも悪しからず。黒十五は氣宇宏豁、可なり。而も此手強手なり。



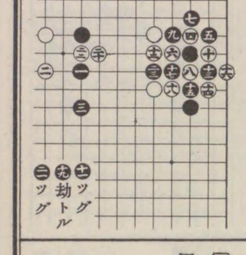
【四四五七】
黒稍優れり

白いま十六。黒即ち十七に先手を活き、十九に転じ遂に一包撃す。白の形黒を殲滅す。此形黒稍優れり。



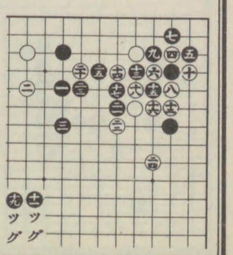
【四四五八】
振替り黒有利

白十二。此時黒十三、十五の眼形を奪つて燃ゆる闘志の奮撃なり。白十八の応撃に黒十九を二十に飛び、白三なれば黒十二、白二十一、黒劫提り黒十八。



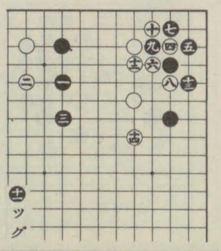
【四四五九】
黒堅實善し

白十二。黒乃ち十三、更に十七、意氣天衝く。黒二十三。黒の陣容は厳層々相重なる天険に似たり。堅實無比。（三二〇一圖參照）



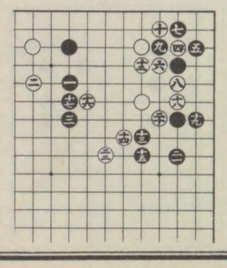
【四四六〇】
黒安全の形

白十二なれば、黒十三に一隅安堵の形となるも而して圖のごとくせば四五圖より黒は地を得、且つ白の根據を破る故黒善し。



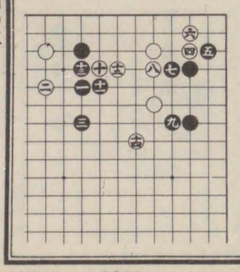
【四四六一】
場合による

黒十三に攻撃陣を張る。但し、白にも十四、十六以下二二の好手ある故、黒としては右邊に形勢を張らんよりは前圖の外は前圖の方安全なり。

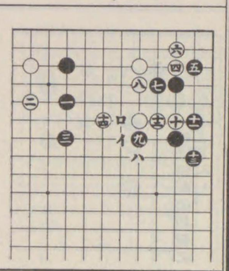


【四四六二】
黒稍可なり

白六、緩弱。黒七に白の跡あり、立び、健して九の立ち、剛無比の陣立なり。

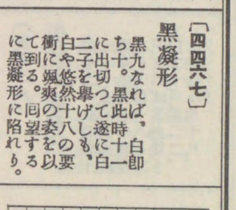


【四四六三】
形勢互角



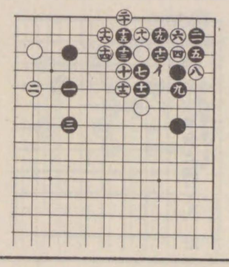
黒九も亦魅惑に富む一躍は、魅惑に富む進、可なり。此手をイ、黒ハに十二、白ロ、黒香しに十二、本圖には黒悪しといふにはあらざるも、前圖よりは黒劣る。

【四四六四】
黒厚し



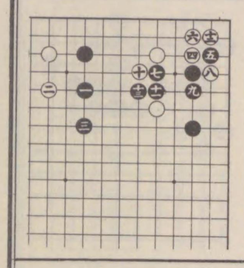
白十は稍調子外れの懸あり。黒一で十一に白十二、白の意圖は圖成るを挫く、黒中邊に形勢を得たり。

【四四六五】
黒悪し



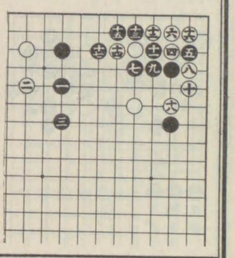
黒七は前圖黒イに比して、一見輕快にも好手に似たれど實は浮なり。白八の薄手を衝かずして二の虚に乗ぜしもの。黒七は悪し。

【四四六六】
白大勢を失す



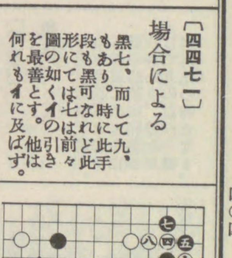
黒七、白八、黒九、白十、黒十一、白十二、黒九が九仮の功、将に成らんとして面白し。あゝ、魔多く、事、好かれと思ひしが、卒然悪手を得たり。大勢既に白を去れり。

【四四六七】
黒凝形



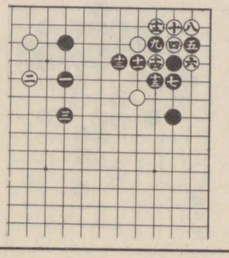
黒九なれば、白即ち十。黒此時に出切つて遂に白一、二子を挙げ悠然十八の要衝に飛び、同時に白三の委を以て黒凝形に陥れり。

【四四六八】
白手段に陥る



白八悪手なり。即ち黒九と粘くに至つては黒七の暴挙や今や柴を以て白三十一の二段烈地に陥る。

【四四六九】
黒大勢を占む

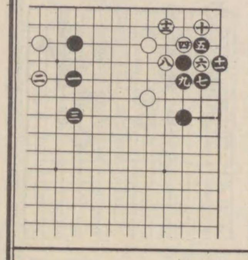


白六、黒を凝形に陥れんと事多くの場合の如く好形なし。白八の結果遂に悪形に陥る。

【四四七〇】
白趣旨貫徹

黒七は白の頭指に甘んずるもの、白遂に八と好形を成すに十一と追ひ込んで徹底的宕舞雀躍の奏功なり。

【四四七一】
場合による



黒七、而して九、而も此時に白一段も可なり。此手は前々段にては七の引きの如くイの方最善とす。他は何れもイに及ばず。

【四四七二】
黒有利且堅し

能く泳ぐ者はよく溺るゝとか。白い策に誤り、結果白却つて悪し。黒は迎へ、七、九と簡明の棋路。

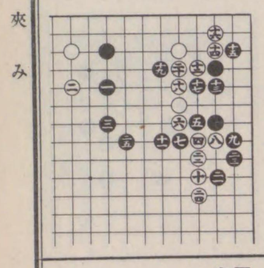
【四四七三】
黒へコミの形

崎嶇の途を光明の彼方に辿り着く、また難き設！黒七、九と強ねて連絡せんとして遂に低く、卑しくも醜状を曝すは初心者の如き形歩なり。必ず悪し。

【四四七四】
黒善し

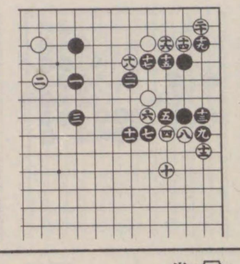
黒七の激突！黒手強くして面白し。白八なれば即ち九に躍り入つて遂に十、十一、此形假令白振替りに手あるとも黒優勢なり。

【四四七五】
黒有利の形



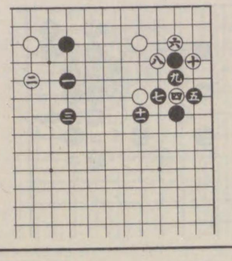
白八、黒乃ち九。黒九は、前々圖の如き恥多き低卑の盤なり。非ず、黒好形三一七二と同形なれど三一七二圖より黒一、二三の位置善し。

【四四七六】
黒優勢



白いま四を先にて六。黒七に善し。此一着の後に先ず圖成り、後に相手の違ひを呼ぶ。後や先や、後なる手順や錯綜研究者、三思を要す。

【四四七七】
黒優勢

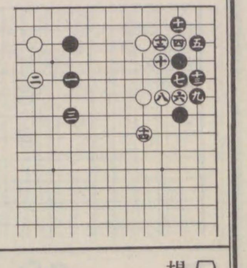


これやこの、身命を賭すに値する戦に、白四は暴なり。白無き黒の一、三は或は可能なれど、此形にては遖つては白支ふる能はず。

【四四七八】
黒の勢善し

白単に十二なれば隅の白は安全なれど羽ばたき眼形に在り。黒遂に二一に下の白一、四以下の前途に厓洋！無き茫漠無きを歎す。

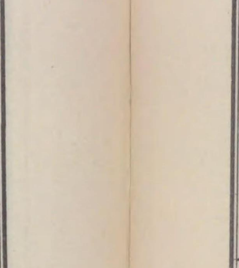
【四四七九】
場合の手段



先番 鈴木秀子四段
勝 小島春一四段

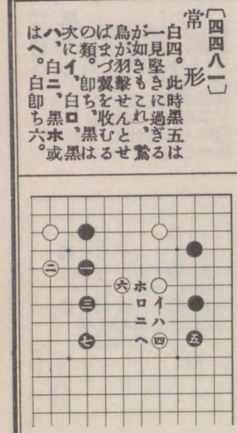
機に臨み変に應ずとかや、白即ち大刀を振翳して二の奄撃。勇や巴上隅前か、左上隅か、此一手厚き場合の白が手筋から黒七、白六、手筋を八なれば白七の筋七にて前圖の如く白ハなれば白ロ。黒二右の九の時は白左上隅を隔てて撃つ。然らば白の堅壘は効果薄く然も白の黒進退兩難に陥らむ。

【四四八〇】
常形

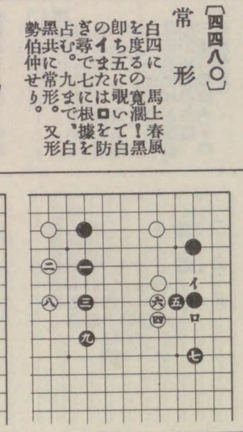


白四を度るの即ち五の覗いて白をぎゃ尋むで九まで根據を占めて黒共に常形。又形勢伯仲せり。

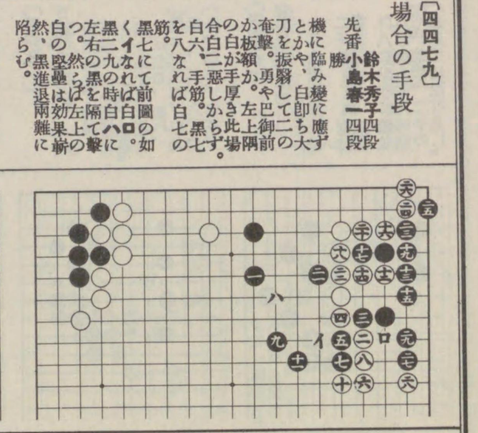
【四四八一】
常形



白四。此時黒五は一見堅きに過ぎるが如くも羽ばたきせんとして鳥ぜば牧を翼むるは即ち頬。白ロ、黒ホ或は黒イ、白ハ、大に白ニ。白即ち六。

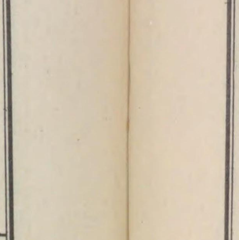


馬上春風黒黒！寛濶の覗白五には白ロを防ぎ尋で七まで根據を白占めて黒共に常形。又形勢伯仲せり。



【四四八二】
黒厚し

黒は圖の如く五と打つ中原を厚く。黒七、白八を黒イ、白一、黒ロ、白二、黒ハ、白一、黒ニ、白木、黒ヘ。



【四四八三】
白悪し

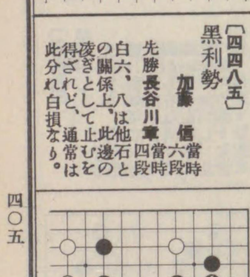
黒は圖の如く十一と切る善手あり。此場合黒イなれば白十二、黒ロ、白十三、黒十四、白十五、黒十六、白ハ、黒ニ、白十七に黒守し簡明、黒確かなり。白善し、白之を忘れば黒即ち白全を入れ錠を挿し、つて断然イに白を兩断して戦よ。

【四四八四】
黒堅し

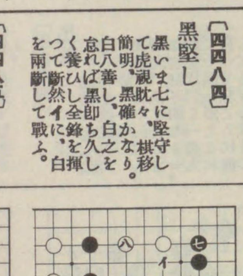
黒いま七に堅守し、て虎視眈々棋移。白八なれば黒即ち九に躍り入つて遂に白十三と切る善手あり。此場合黒イなれば白十四、黒ロ、白十五、黒十六、白ハ、黒ニ、白木、黒ヘ。

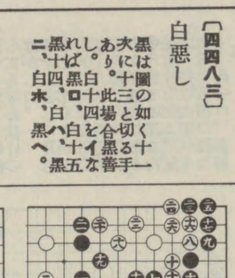
【四四八五】
黒利勢

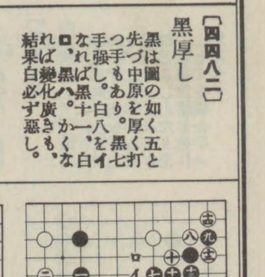
先勝 長谷川章四段
加藤 信六段



白六、八は他石との關係上、此邊を止むを得ざれど、通常は此分れ白損なり。







【四四八六】定石

白いを四に竝飛す。黒即ち三まで呼應して五以下、隅を守りつゝ白を競り立つ。黒の棋歩、健剛。次に黒十一、十三穩健の好着なり。

【四四八七】黒厚壯

黒十一、無理筋に似たれど二までの厚みを利せし急攻、此形に限り面白し。白十二手筋。九、次に三一には厚手なり。イに劫殘れども此石は既に小なり。

【四四八八】白優勢

黒直ちに十三もあり。黒十五を十六、白ハなれば白ロ、又黒ロを白イ、黒ロを白ニ、黒木、十五、白への切り、此形は征に關係あり。若し征惡しき場合はトへの切にてノゾクべし。先づ

【四四八九】黒善し

白十、十二と、三まで鋭く綽す。黒塞抹も屈せず十一と入る。尋て十五、十七。黒手厚く善し。三一二六一圖以下比較。㊟粘

【四四九〇】黒厚し

白十二。黒乃ち十三に叩いて白を隅に活かし、自ら黒の外厚を致す。遂に三一までの形、後手なれど厚壯。黒が簡勁の棋移、不識の情趣名手の面影髣髴。

【四四九一】互角の形勢

黒十三は、神餒え氣疲れしか、稍緩なり。白十四、手筋。卽ち黒十五をイなれば白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白劫提り、黒ト、白十六、白チ。

【四四九二】參考圖 正形

本因坊秀哉名人 二子 篠原正美 三段 當時

【四四九三】黒堅し

先番 加藤 信 六段 當時
勝 宮坂栄二 六段

黒九は淡々と香氣滿つ。而かも此一着、白のイの意味を解消し、且つ黒ロの盤りを含む。黒最も堅實なり。

【四四九四】黒善し

先 加藤 信 七段
勝 村島誼紀 五段

加藤氏曰く「白八で九、黒イと換るは善惡不明なり」。村島氏曰く「黒九で十は形こゝに在つて魂こゝに籠らざる氣合抜けの感がする。」黒十三善し。乃ち白已むなく十四に守り、黒十五以下守りし時機熟す。今や黒の攻撃。白十六の刺は右上隅に發せる邊地にまたがる黒の反撃を加ふ。堅實味を發せる白地、散之地、此分れ、何れも委しく盡せり。

【四四九五】白場合の一策

黒五の時、白イに行びずに尖む手あり。之には形より見て白イに及ばざるも、黒ざるのれど急を免れ追撃を免れる場合の一策なり。

【四四九六】一得一失あり

白八の時黒九と挺進夾撃に赴きしは白の形を鈍重ならしめんとするなり。されど黒は征に關係あり。白へ五、黒木、此形は黒九可否は專ら四圍の狀勢如何による。

【四四九七】黒厚壯

白十。此時黒は明朝つ。㊟刺十一と跳躍、蓋し手筋なり。白二惡し、之は十三に粘ざ、黒イ、白ロと尖み附ける位のもの。

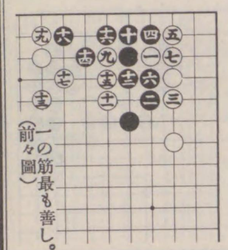
【四四九八】黒の形好まず

詩と夢のローマンス卷の都ならぬ血戰、激刺の手段をこそ！望しけれ。さるに黒十一は氣の利かぬ手なり。黒十一は前圖の如く十四が善し。

【四四九九】互角の形

宮下秀洋 初段 當時
苅谷一雄 初段

黒八を手拔きせし時白ヨより此黒を攻めるには九、十



【四五〇〇】互角の形

篠原正美 當時 四段
先番 小島春一 當時 三段
勝

黒十三惡しからざれど、四九は四七圖の如く十四に切つて白イには※

【四五〇一】常形

黒イに尖み附けずして單に五、緩きが如くして而も含蓄の香り高し。卽ち十三までの形、黒何となく手厚くして可なり。

【四五〇二】互角の分れ

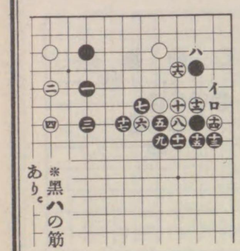
五段 橋本宇太郎 四段
先番 井上一郎
勝

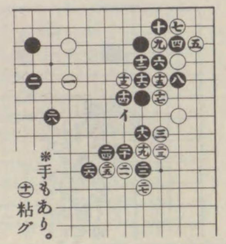
白四、六。此時白七と逆撃に出でゝは此場合最も適切なり。白十三は強イに強襲する。※

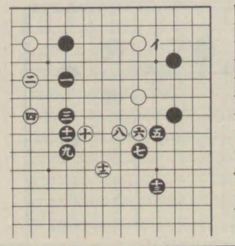
【四五〇三】黒厚し

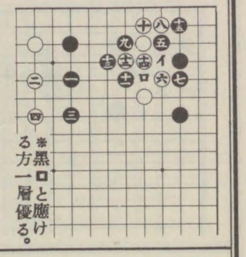
七段 加藤 信
六段 林有太郎
先番
勝

黒五、七に烈戰を挑む。黒は隅を白に委ねて外を厚く打たんとす。面白し。尙ほ此形、隅に白ロ、※









【四五〇四】黒厚く善し

黒五は前圖に見るも八の尖附けて、先づ中の黒の守りを兼ねて攻撃。今や上隅に發せる邊地にまたがる黒の反撃を加ふ。堅實味を發せる白地、散之地、此分れ、何れも委しく盡せり。

【四五〇五】常形

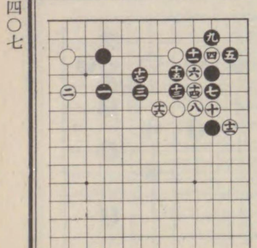
白六、好適。黒七。まで八なれば白七、黒七。まで八なれば白の如く十と騒崖を駈け下る如き形勢が如くして却て白を安全に導くの手筋なり。

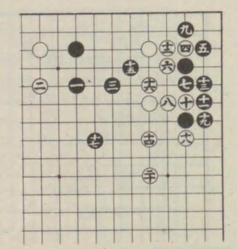
【四五〇六】形勢互角

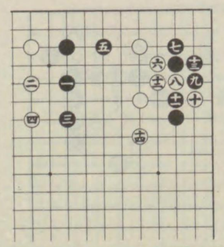
黒いま三と高きに攻つて次に十を狙ふ、六の附越しを策なり。これまた一一圖以下白八も黒も參照、十六に備へしもの、此形の常用の手筋なり。

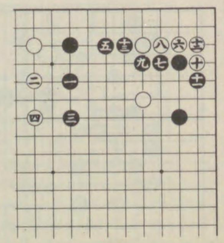
【四五〇七】黒隅を守る

兵は正を以て合ひ、奇乃ち十一を以て勝つべし。黒は白の意外に出づ。此振替り、互に失あり。可否一場得一合になるには黒三七に此手一圖には黒八段無し。









〔四五〇八〕
白稍優る
宮坂栄二六段　先番
鈴木秀子三段

黒十七は白を厚くせしむるの不利あり。十七では後手なれど単に二一に曲るる方善し。

〔四五〇九〕
手段面白し
中川新四段　先番
鈴木秀子四段

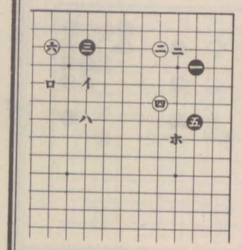
此形黒は左上隅が厚き故に専ら之を活用し得るの局勢に導かんとし、又白は反対に之を抹消し去らんと努む。

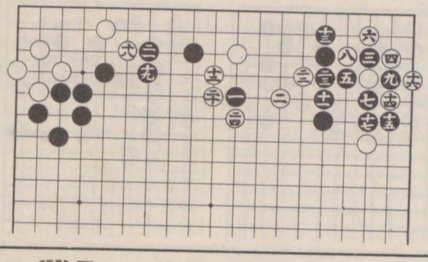
白六と反撃して先手を取り、而して十二、次に二十。黒は此の善闘即ち左上隅の厚を特んで右辺に十七の相譲らざる十五と作す。黒一、白二以下両軍の手段面白し。

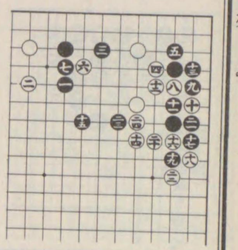
㊥ 粘グ

〔四五一一〕
要點約言
（第四七型イの一）

白六は四の飛より白イ、此時は黒ハが常形。而して白ロ、黒ニの尖に附するは白ホの尖みにて白を痛撃すべし。

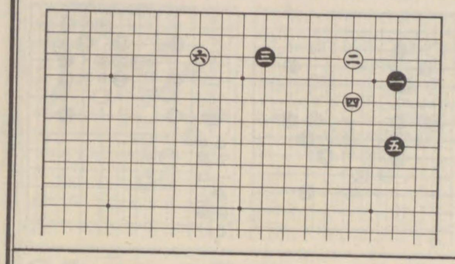


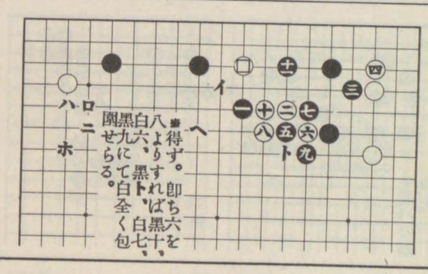




〔四五一〇〕
黒優れり
三十段連棋　黒勝の局

此形に於て白一と飛ばずに手抜きせば黒一の圧迫急攻可なり。漸く遮棋なれど単に二一に曲るる方善し。





〔四五一二〕
基本圖
（第四七型イの二）

白六と一路遠く夾返す手は左辺に打つ手に比して其の変化及び意味は略前圖及び前二圖以下の場合と同じ。

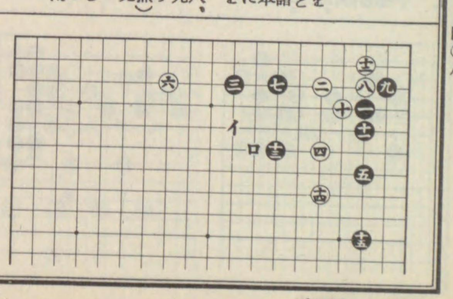
〔四五一三〕
定石

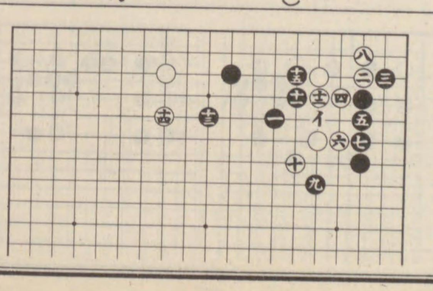
黒七とは矢張りイを常形とし、その変化は前掲諸圖以下に止めあるは故に本圖之を簡単に其他の手段をも掲ぐ。

黒七と十と繋がれば白は八、黒九と打つ手あり。（四五〇四圖參照）白は十と手抜きすれば黒は八、故に白は附けて先（四五〇五圖參照）

〔四五一四〕
黒堅實

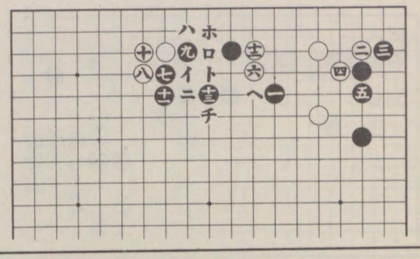
黒一時に面白し、蓋し黒次に伏イを得ず。即ち六を八より打てば黒ト、白七、黒九にて白全く包囲せらる。

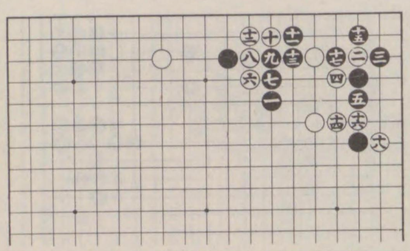




〔四五一五〕
無事の分れ

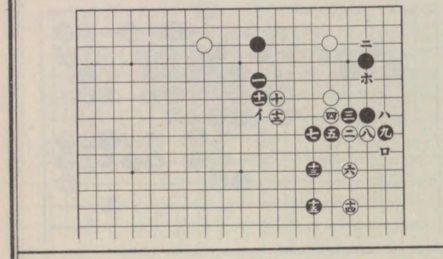
白六に敵の強硬なハザマを黒此時白の外勢を鋭く衝く。白イと切るに対しては種々変化あれど二圖以下參照）三五七間夾むべし。此處輕妙。手筋甚だ面白し。白八を若し輕く出ば黒九と引せば白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白一、黒チ。先づ互角の形勢なり。

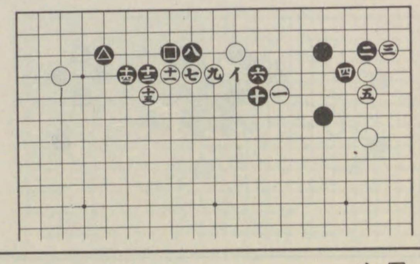




〔四五一六〕
白外勢好し

黒七白六なる氣負ひもの一着夫向ひ双鋭しを避けんとせば兵を乗ずるは然も緩の黒七の筋にて五で白を大きく粘るのみ。





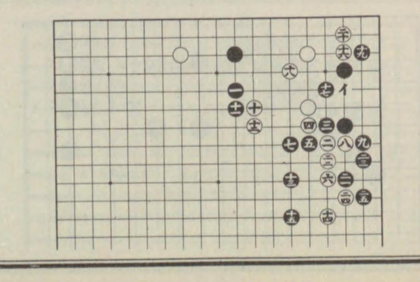
〔四五一七〕
常形

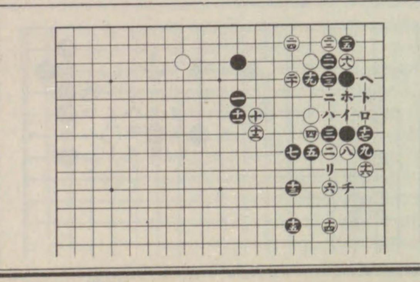
勝著者　当時七段
先番　加藤信　六段

黒ま□の友軍と呼応して六、八のハザマを白の黒軍の優勢を看取して七に転じたるは機宜に適ふ如く前圖一接せば黒は十、白七と比して白の形マヅシ。

〔四五一八〕
常形

黒一の一間飛、次に白二とカケ此形黒は無論三出切。白四と出切れば黒は下の如く五に乗じ、白六に出でて黒七と交換するを常形とす。白ハと黒七に切り白イに対しては黒ロと交換するを常とす。白ホは此處にツケ黒ニ或は猶方良なるが如き種々なる手段あり。（次圖以下）



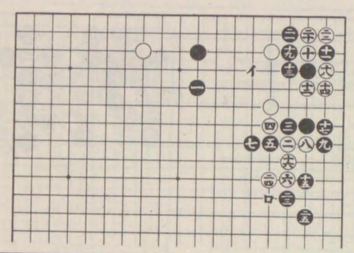


〔四五一九〕
白好まず

（前圖の如く）黒十五まで白の妙機、其の所在は兩軍の潜めるに悉く煩雑を避けてを以て省略す。唯此處は要點にて白十六の要むる處にて黒七は白を十分に交換するを常とす。白ハと黒七とは交換して白の勢力を増すを以て黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ、白ル、黒ヲ、白ワ、黒カ、白ヨ、黒タ、白レ、黒ソ、白ツ、黒ネ、白ナ、黒ラ、白ム、黒ウ、白ヰ、黒ノ、白オ、黒ク、白ヤ、黒マ、白ケ、黒フ、白コ、黒エ、白テ、黒ア、白サ、黒キ、白ユ、黒メ、白ミ、黒シ、白ヒ、黒モ、白セ、黒ン、白ス、黒ヱ、白ン、黒ヒ、白ン、黒ン、白ン、黒ン、白ン、黒ン

〔四五二一〕形勢不明

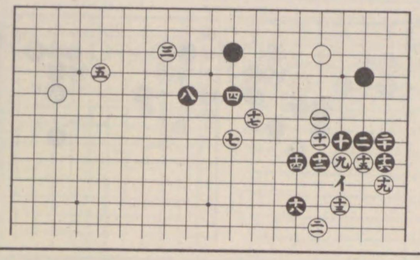
黒十二と深く入しては黒の十一が敵に突破を許す。此時白は一寸の蟲も蓋着には無理な形。普通一二三と乗切れば白勢十分。殊に黒は一目の断点を二ヶ所も失せ、特に武士の情で白のみ一ヶ所の手抜を許すなど途端に反撃の出来る様な弱点を作つてゐる。今や大勢は白に傾いたが、尚ほ漠然たる戦線の変化無限。互に茫々たる大戦を要す。



〔四五二二〕黒善し

勝　瀬越憲作　當時六段
先　林　徳蔵　四段
六手抜

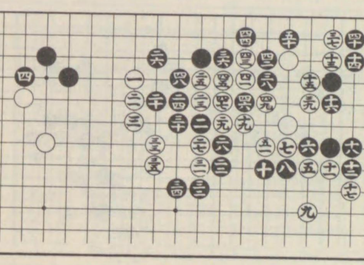
此形黒六を手抜きにして白七と冠せるが黒の形勢既に好し。今や白勢やゝ低調。黒十を敢行せずして二と出るなら白は切つて黒勢大に振はず。黒の稍ゞ安定を得たるに反し白は無理筋なるを以て黒善しと言ふべし。



〔四五二三〕白好まず

中押勝
先番岩本　薫　六段
林有太郎　當時五段

黒二のある此形勢に在りては黒六、八に出るは十三以下善しと雖も白は三以下に無策なり。白十三と出るは黒乏しき時なれば白快着にして黒戦に不利。二の陥穽なり。



〔四五二四〕互角の形勢

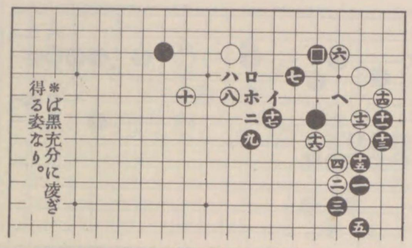
黒一と二間飛びに陣固めをなし白乃ち二に備へたるは薄味なり。イ、ロの狙ひ勿論あるも時に白論ずれば黒三と出で白四と黒五と交換して白好形。黒イは白ロと二間に備へたるが故に白ハと黒ニとの交換は白ホと黒ヘとの交換に比し白好形。黒ニに白ホと黒ヘ

【四五三三】白悪し

白三、五無理なり。黒六、若し此手を打つ時は白八、黒六と一間に崩るゝ。白七と一間に打てば黒七と突当りて白ロの陣形良し。尋で黒イに取りて粘るも、黒ニにて迄に白ハと突当りて黒三の時、白ホと切るゝ時は白潰滅の勢なり。

【四五三四】白優れり

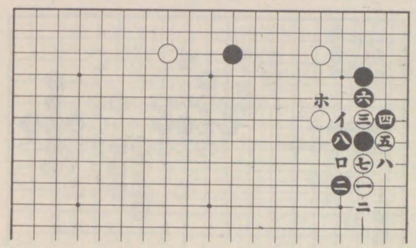
勝　前田陳爾　当時四段
先番　異　清源　当時三段



黒五に来黒元掛粘げば白無理なり。白八が軽く折れば黒七と捌かんとせしも白段に重く黒九に取りて白十と黒十の劫を得るからず。但し白十七と白十一を交換したる後、黒ロと白十七とを交換したれば白十一を手筋。若し白十一を黒イと白十七とを交換したれば白十一を手筋。若し白十一を黒イと白十七とを交換したれば白十一を手筋。

【四五三五】混戦の形

先　小野田千代太郎　六段
勝　前田陳爾　当時四段

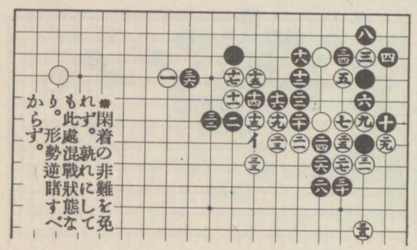


白一連絡に突入す。敵の殊死戦の決意、烈しく、千載の壮観なり。白八と黒六と崩るゝ陣形、白七と一間に打てば黒七と突当りて白ロに取りて白ハと突当りて黒三にて迄に粘るも、黒ニにて迄に白ホと切るゝ時は白潰滅の勢なり。

【四五三六】黒攻勢に出づ

白若し手を抜けば黒は先づ白の根據を奪つて三五に一間に善し。而して尋で白六に執なば黒七に追撃を続く。白六此処、先後比較なれば四五二図の如く非常に差異を来す。注意あれ。

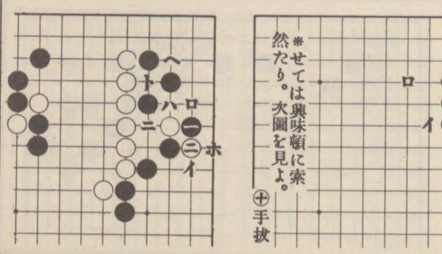
【四五三七】常形



黒七。此時、白もまた中空の軽快なる姿善く、若し白八と黒七とを交換したる後、白ロと抜きて黒は機を見てイに掩撃すべし。

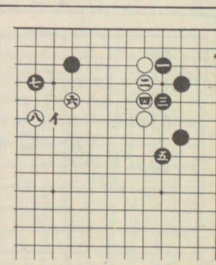
【四五三八】白好まず

先番　林有太郎　当時三段
勝



白十を手抜きして黒に十一と切さるゝ。断さるゝは痛しと雖も、四本立の白俄然、黒の鋒鋩の下に全身を暴露するに至れり。故に白ロと打つ。而して黒イと打つに応ずれば、白十一と切れて二、四と接続の断点を補ひに十一を求めざるべからず。白ロと粘らざれば黒ニと二十一と二十と交換して黒ら悠々たり。

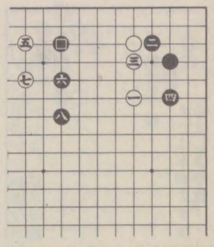
【四五三九】白に手段あり



此形、白二に切る筋あり。白意気揚然。生気溌剌。為に杼上に黒ロと出でゝ黒イなれば白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、又黒ハをニなれば白ト。

【四五四〇】参考圖

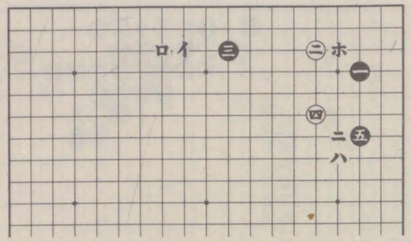
場合による



黒二、四は發展力に乏しきも、堅きも、時に手なり、時に白面に転ずるも、白かくの如く黒を夾むは攻撃なり。その意味なれば前圖と大同小異なり。

【四五四一】要點約言

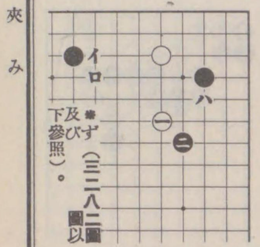
（第四七型イの二）



白四なれば、黒五、夫に白イ、黒ロと及びハのカケと白イとの交換最も宜しく、此中なれば白ロと打つ時は黒ニと拡がるも宜しからず。白ロと打つ時は黒ニと拡がるも宜しからず。

【四五四二】基本圖

（第四七型ロ）



黒二の應けは、イの二間夾或はロの二間夾にては可なり。圖の如くに高夾されたる時は白ハの三間夾にては白ニと出切られ、黒ニと出切られたる時は白無理。又白ホに黒も宜しく、尖みに附すれば白無理。又白ホに黒も宜しく、尖みに附すれば白無理。又白ホに黒も宜しく、尖みに附すれば白無理。

【四五四三】黒の形好まず

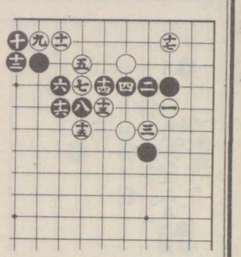
此形白一たび誤らば白系統の人の如く國破るゝの悲しみを見む。此白五は生彩焕発の好着筋。白一は（但し隅に厳しき時は上辺に二間夾の手無し）。

【四五四四】白の厚み優る

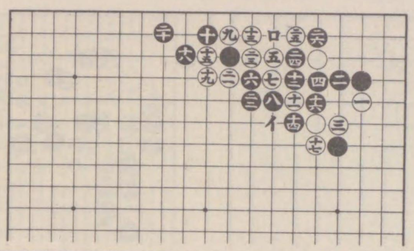
黒いま直ちに八に白即ち九に整形して宜し。尋で黒十。白乃ち一に至る。黒十に至つて白十一と交換して黒十一に至つて白十一と交換して黒十一に至つて白十一と交換して黒十一

【四五五〇】黒面白からず

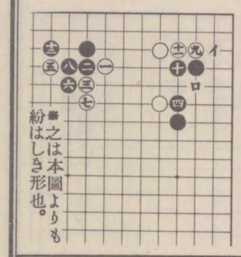
黒いま勝全からんとして蹲しぬ。白十二以下十七好手筋、二以下の黒無條件には取られざるも得ざるもかくなっては如何に變化するも白悪しからず。



【四五五一】黒勢可なり



或は發剌或は憎體、非段のいま醍醐味を盛り手段のいま鼓に在りて突は白十一を先に！白十三にて角二を先にせば黒十二にてイを先に白十四善し。白十五、黒十六、白ロ、黒二、白十七と二に粘いでは次に十二と二四の兩ニラミ。黒十八の一面白ニ七と二四とに突出て形勢共に外勢及び隅の白十二。黒ロ



【四五五二】白、一策なり

君子は危きに近づかずとか、白いま戰ふ低迷の東邊を一策たるを失はずとか、黒一ロ、白十二。

【四五五三】共に其形確實

白は先づ五、而して六の形よりも見て七し白は先づ五、而して六の形よりも見て七し、白ロの尋で白十二と黒十三と追れば白ハの時黒ロの尋で白十二と黒十三と追れば白ハの時黒ロの尋で白十二と黒十三と追れば白ハの時黒

〔四五六九〕形勢互角

白二十は前變化の如く二を先にすべし。此形、白イ、黒ロ、白ハに切る時は黒ニの筋あり。夫れ迄の上到る處蹉跌の機多し、愼まざるべからず。

〔四五七〇〕白稍可なり

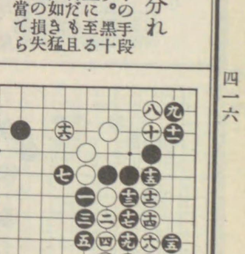
黒二五の當てを先にする手もあり。以下の形も亦變化多様なるも、遂に白三八。此形隅は劫または持なり。

〔四五七一〕白有利の劫

黒三三。危機迫る！白三四、佳手なり。爲に俄然白の有利ある劫爭となる。白三四をハイとれば黒ロ、白ハイと劫抛あり。白ホなれば黒ニと打缺く劫なり。

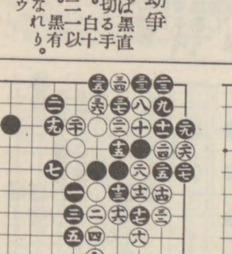
〔四五七二〕攻合黒敗

黒七、打過ぎなり。白即ち無限の快味を喫す。八の形のキメツケ。然れども黒の形勢俄然白優勢となる。黒二五を白二五にて之も攻合黒敗なり。



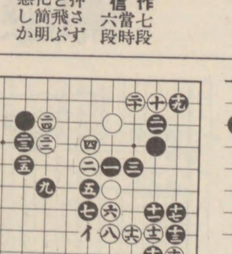
〔四五七三〕白劫勝

白十、十二は八に續く快打好撃。黒十五に快騙して白イに疾驅し出れば白十六を十七に置くも遂に三十に至つて白先劫提り。



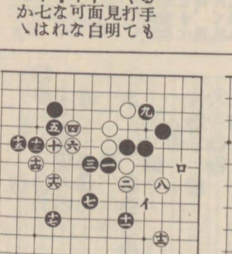
〔四五七四〕雙方打てる形

白六は守備に偏す。此手は當に前圖の如くイに打たざるべからず。此形黒七に約へ、白八、黒九と打つて黒惡しからず。以下比較圖。



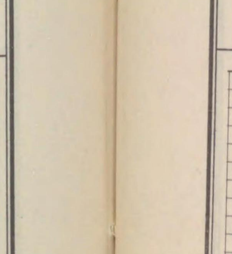
〔四五七五〕黒稍優る

白いま十。黒乃ち十一以下十五に先めて表門を固む。十六以下十手を以て裏門の一轉へ黒十七に加む。此形黒稍優る。四五六七圖



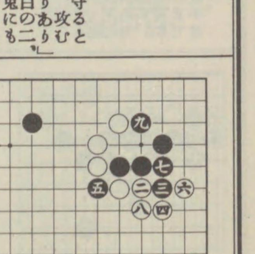
〔四五七六〕白優れり

黒九好まず。此手は當に前圖の如く白先づイに打つべし。此手は當に緩し。白イに疾驅して白十六を十七に置くも遂に三十に至つて白先劫提り。



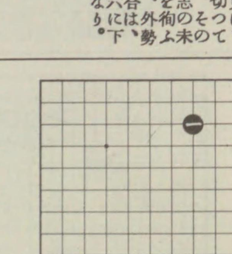
〔四五七七〕黒有利の分れ

白十四以下の手段宜しからず。黒十三以下二五に至る突破。鬼神だも避くる猛威。此圖白の損失漠大、眼も當てられず。



〔四五七八〕黒有利の劫爭

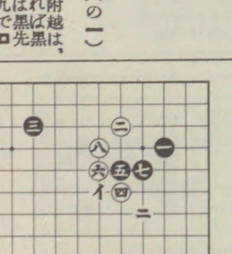
白十六なれば黒直ちに十七に切る手順に非ず。要なり。白十八、黒十一に尋で黒十三まで。白十七に利の劫爭となれり。



〔四五七九〕形勢互角

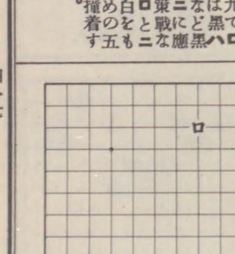
潮越寫作 七段
先番加藤 信 當時六段

黒九はイに押さず圖の如く九と飛ぶ手あり。變化簡明結果また黒惡しからず。



〔四五八〇〕形勢互角

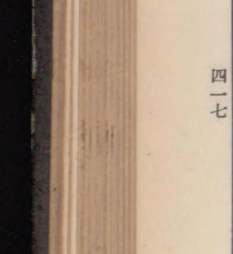
黒三に行びあれど、斯く打てば白四の一見明瞭。白八の一面白十不可なし、即ち黒イに行かば白ロ、黒十七となれば此場合氣合のかゝり手なし。



〔四五八一〕常形

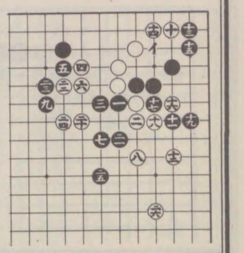
木谷實 九段

孫子曰く「守るときは足らず攻むるときは餘りあり」と。乃ち白の二、四の時黒五には切つて攻勢を示し、物々交換も未だ闘志の衰へざるを知る。尤も外勢白優れる場合は、黒五の位置は穩當なり。



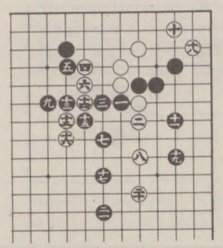
〔四五八二〕黒優れり

白十二、好まず。見よ、黒は十三、容れず十三に切断す。今十七の黒も絶好の急所に在り、黒二五を白二五にて黒イとなれば白十六に打てば黒イ。此處見合の要點なり。



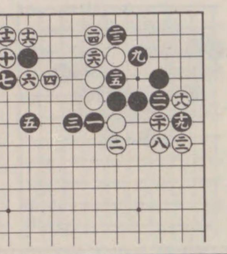
〔四五八三〕形勢互角

黒五、七も一策なり。白十八、九に先手を取り一轉して黒二五に變じ、白十二、三、形勢互角。黒は二三、二五を普通に見るべく、蓋し黒は白を固めて此場合白既に形の整ひ今は故意に凝手を打つて白ツブレの筋あり。夫れ迄の上到る處蹉跌の機多し、愼まざるべからず。



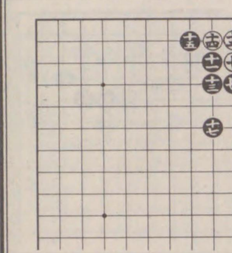
〔四五八四〕白の勢宜し

黒五に猛虎の咆哮を偲ばせ、九に九猫も殺す氣力を忽ち狸猫の無氣力を思はしむ。前後撞着黒九今位置なれば、白ろと打つて五に守れば白イに守るも方策なし。白を堅くせざるだけ宜し。



〔四五八五〕黒勢稍可なり

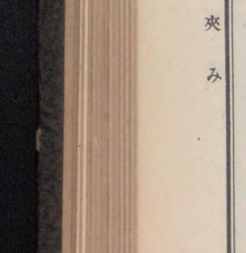
白六惡し。黒乃ち七。見よ、七の一着能く廣漠たる白の出路を封ずると同時に下邊の五の三子との連繫を全うす。七は蓋し一擧兩得の好着なり。



〔四五八六〕黒勢振はず

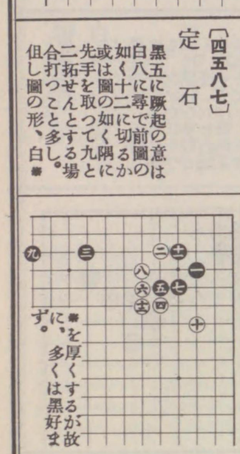
勝 向井一男 四段
先 高橋重行 二段

黒六なれば、白乃ち鋭き。次を狙ひイを伏して追る。十二までの形黒勢振はず。



〔四五八七〕定石

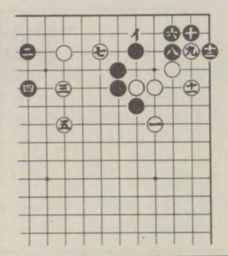
黒五に蹶起の意は白八に尋で前圖十二に切るかの如く隅に先手を取つて九と打つこと多し。或は白ハと拓せんとする場合は圖の形、白イ。

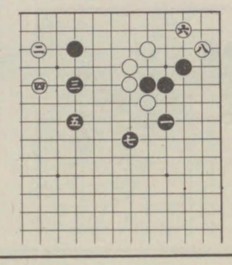


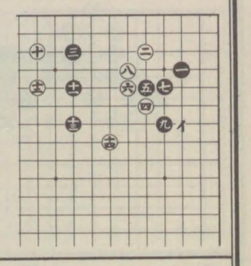
〔四五八八〕要點約言

（第四七型八の一）

黒五、七の附越は、次に白八なれば黒先。イの切又は黒ハで九を取つて手拓き。或は黒ロに應じ、此ロと白ハの交換は初めの五の堅味と意味着手の厳あり。







〔四五九〇〕基本圖

（第四七型ハの二）

白八は、直接三の黒に挑戰し、黒の應手如何により白はイに堅く粘つてがんとする手段なり。

〔四五九一〕定石

黒十三をイに粘るも、白は矢張り十四・黒は其時ロに拓くべし。此變化は、二間夾の部に變化もあれど多少異れり。（三二七圖以下參照）

〔四五九二〕白優勢

黒三、五重き筋なり。黒三、五手筋なれば、白七をイなれど、斯くなれば黒一切り趣旨徹底し初めて白の時黒ハとなし、白八の附け切りるる位置なり。黒ニのなれど、此時白ホへ行かれの時は白ヘの切れるとなり。黒取るる手筋なり。

〔四五九三〕白の形可なり

黒五經經妙、此場合の六の行びより次に白は先ず六に線込む手順なり。若し六を前圖の如くイに掛粘ざれば黒九となりて後は黒三、●の二子を取るもイと重複し、其形白好ならず。黒九にてロに掛粘げば、白ハ、強硬黒九十粘ずしをはぎ圖なり。

〔四五九四〕白厚き形なり

白四に粘るも大六の行びと、イのカケとの兩ニラミにて白好形なり。然し斯かる形は兎に角前圖の如くイに掛粘ざれば黒九となりて後は黒三、●の二子を取るもイと重複し、其形白好ならず。黒九にてロに掛粘げば、白ハ、強硬黒九十粘ずしをはぎ圖なり。

〔四五九五〕黒確なり

小岸壯二六段
小野田千代太郎六段
先番勝

白三と行びるも黒は四に一子を確掛す。黒の形確かなり。

〔四五九六〕場合による

黒一と綿出すも筋あり。白が黒の銳を避けて二に敵の弱石を挑みかけへ場合最も善し。黒三も亦白の銳錄を外して戰はんとするも白の虛實、神の如き手筋なり。白八、黒九に共に強し。遂に白十四に切る。以下局勢の歸趨、逆賭にし難し。尚ほ黒九は別法あり。

〔四五九七〕互角の岐れ

志は須く遠大なるべし、黒は先ず輕擧を自ら愼めて自重の計を爲すべし。即ち黒堅實を旨とせば、遂に九に白十四に比し、較綿動を沮すも意の二下しは手意の二下し。ホ

〔四六〇一〕白稍好まず

白二なれば黒卽ち三と隅を堅守す。交換は白稍重きの意味あり。前圖の如くイと二と好まず。黒ハ、白二、黒イ、白ロ、黒ハにて此形白甚だ拙し。

〔四六〇〇〕黒攻め勝

白八以下無理乃ち勝關を揚げつゝ一つ下の九を追擊！白十六を十七に追れば黒十八、白十九、黒イ、白ロ、黒ハにて此形白甚だ拙し。

〔四五九九〕黒堅、但互角

黒五と粘ざしも亦餘韻深し。白の時黒は血風を唸らせて九に殺到す。白肝易巡を逐すも即ち十に抱へる位の黒乃ち今や甚だ堅し。

〔四五九八〕白稍優る

黒三、五手筋なれど、白も六、八と打つて好形を得たり。其勢壯なれど白も邊の要點に先着し十四と得たり。白稍優る。

〔四六〇二〕黒有利の形

白二、四に急攻し黒五！患を貽せり。白の心臟に寒し。黒は以下理を先にし十一を替りも損失少なからず。

〔四六〇三〕白の勢優る

黒五以下俗筋、好手なるも白十以下四まで勢に乘じて急に黒接を壓し、寸を尋で轉ぐ厚十六に兵を一邊に集中し、黒十七と止むるも白十八と手厚く、黒十九と此手筋を拔き、白二十と拔けば黒ニ、白ホに隅の二を起結ばれ、黒イ、白ロに隅の二を起結ばれ、

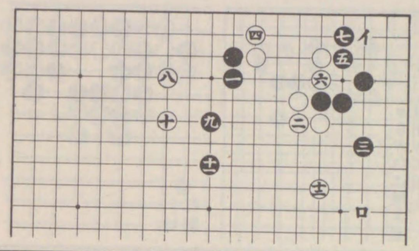
〔四六〇八〕
形勢互角

黒三と斜に守らず、勇を鼓して攻めるも手堅し。黒五、七と普通の方面へ打つ。其時白イとなれば、八は八の方面へ打つのが善し。ロに夾み、総撃つて斯く最も黒十の根據を奪ひ且つ隅に攻めるのは我シノギとなるも一つは此方面に勢を張りて又一つは一手と能も手を盡しなる一手と能も意味を蓋しなる一手と能も種々なるが故なり。

〔四六〇九〕
常形

勝橋本宇太郎四段
先小島春一四段
番

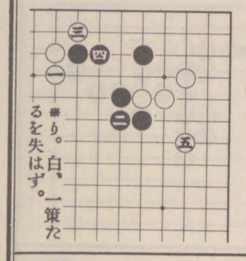
白五、七は黒の根據を奪ひ且つ隅に地を得る好點なりと。白五は■

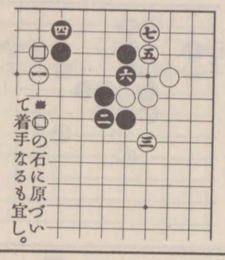


〔四六一〇〕
白、一策なり

勝鳴村利雄當時三段
先田中不二男二段
番

白はまづ三に黒の脚下を掬つて黒の三を妨げ、而して五と守る手もあり。白、一策たるを失はず。





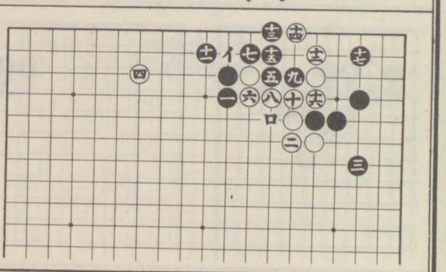
■の石に原づいて着手なるも宜し。

〔四六一一〕
黒可なり

白七に守らず、勇を鼓して四に攻めるも手段あり。黒五の急所を扶る、急なり。若し白五とせば、黒は七とつれて、此形を無駄なく打てる腹は手段にて又地を破りし上打てる白強し。

〔四六一二〕
白優勢

黒十一、隅の小利に眩惑して遠き戦、果せる哉、烈々火を吐く十二、如何に相願みが黒十五を失ふ。此時は黒軍の移すべき色なし。以下白十七の綿密にして必至の手段にて無しの二十六、黒イに切れば、白ロと打つて先手を取り、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チの手段にて又黒リ、白ヌ、黒ル、白ヲ、黒ワと飛び、白カと此二子を逃げる手無し。



〔四六一三〕
形勢互角

黒いま一圖イと比較するに、之を前圖と同じく六にしねばなるも故に斯く綿密なる黒一點なり。白二と粘りて黒一は白のせばの厚みに近寄らざるの意味あり。白四も此場合も矢張り前圖と同じく黒五は斯くしねばなるも故に斯く綿密なる黒一點なり。白二と粘りて黒一は白のせばの厚みに近寄らざるの意味あり。白四も此場合も矢張り前圖と同じく六に

【四六二五】
基本圖
（第四七型ホ）

黒は時に拓いて、先づ二間に三間夾の六を堅くする手段もあり。場合によれども此三間夾の六に白が一子を活動せしめの黒五時に面白し。即ち黒は大して三の黒に影響を及ぼすことなくして黒一

【四六二六】
定石

これは、黒直ちに一と打つて隅を活きし形なり。さし抜き、一は猶手を抜くも、白は一手にて此隅の黒を取り。（四六三圖以下）。猶ほ大圖も參照。

【四六二七】
白の形確なり

三目勝　林有太郎六段
先番　福田正義五段

白四以下、此方面の整形面白し。黒五、七止むを得ず。五を七なれば白イ、黒ロ、白ハの死を遁る。

【四六二八】
定石

黒七、九と隅を活きる手もあり。白八、十、十二共に正着なり。

【四六二九】
常形

勝　增淵辰子三段
先番　島村利博當時三段

白いま六。次に白七は鋭し。即ち黒七は外無し。此形征關係にて黒イと切る手殘れり。

【四六三〇】
白儉れり

黒一、三、たる落花に譬へ、一兵卒の死か、一隻の如きは敢て顧みざるの打方。輕く此手なくしてあらねど、多くは黒薄くなる故、好まず。（八ツグ）

【四六三一】
黒低く悪し

黒九の掛粘さも、（一）方面との關係上、時に或は止むを得ざらむ。されど白に十四と取られては、黒は低卑の醜態、白は厚富の壯觀。（八ツグ）

【四六三二】
黒悪し

勝　鍋島　一郎四段
先番　高須清之輔三段

黒二、四、は（A）の凌ぎに止むを得ず打ちしものなれども、黒十二までと低く屈するに

【四六三三】
場合による

白二は四六二八圖の如く黒が無雜作に活きるを嫌ひしものなれど、元來四六二八圖となりても、白の外勢優れる故に特殊の形勢以外には、白二と打つの要無し。

【四六三四】
黒有利の形

白六は盧俊の一着、かくの如き包圍は効乏し。即ち黒一は旣に活きたび七に切つて顧ふや、大勢へ轉じ、然るに從へて、白八は形なり。但し、黒九は手筋。

【四六三五】
白好まず

白四、多くは好まず。此處隅は、元來白が黒よりも多くの手數を費せる所なれば、假令此處が互角の分れとなるも白面白かるべし。まして、黒七と

【四六三六】
黒悪しからず

黒は三もあり。白四と、黒一と（圖）との連絡を遮斷しる黒も、秋毫も驚かず、五、七、而て九まで、平易に活を得たり。黒悪しからず。

【四六三七】
互角の分れ

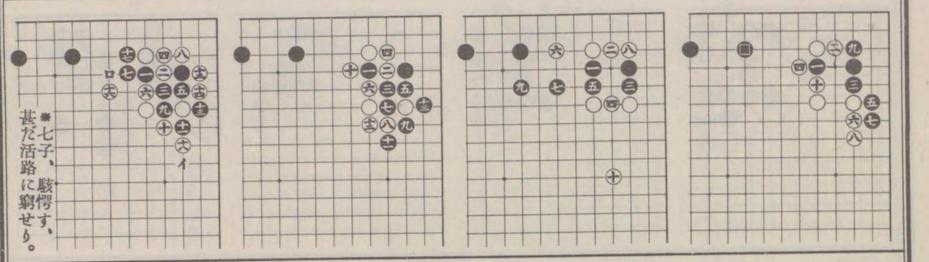
白四なれば、黒五に粘ぐ。五は蓋し形なり。黒九は穩なれど、これは健なれど、手強く十より攻撃する手もあり。

【四六三八】
黒良し

白二は、前圖と同じく黒の無雜作に活きを妨げ、且つ連絡の機を乘ぜんとせしもの。（五圖）前參照。十一、十三、共に黒打つ。さるれど黒十一は拔となつては、黒稍有利の分れなり。

【四六三九】
黒ツブレ

黒七、無理。白十二、妙。黒十七は逃ぐるの外なきも、然らば白ロにて、黒悪し。白十三に逃ぐる位置にて、同じく十八に黒を討つ、愈よ急なり。黒の



七子、駭愕す、甚だ活路に窮せり。

【四六四〇】
白厚し

黒は一、三、而して五と、活きる手もあり。六までで白、途に後手となれり。されど、白の厚味は美むべく、且つその委勢は濃刺として侮り難し。

【四六四一】
黒形を得たり

白二は、却つて黒を固むる、結果となる、悪し。黒十一までの形宜し。黒宜しく、此時に白イと切れば、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白トの時、黒チで宜。

【四六四二】
定石

前述の如く、黒は此隅猶一着を手抜する方容易に死せず。即ち白八に黒九と綿込む筋あり。黒躍々として生動を始む。

【四六四三】
白悪しからず

白は五と約へる手あり。十三までの結果後手にて、白悪しからず。

【四六四四】
互角の分れ

白五と外より約へる手あり。黒六、以外に是れ十手無し。白九、これ十一、三氣盛んに、但し一鋒鋭なり。二四までの結果白は地を得、黒は外勢厚を致せり。

【四六四五】
黒好結果を得

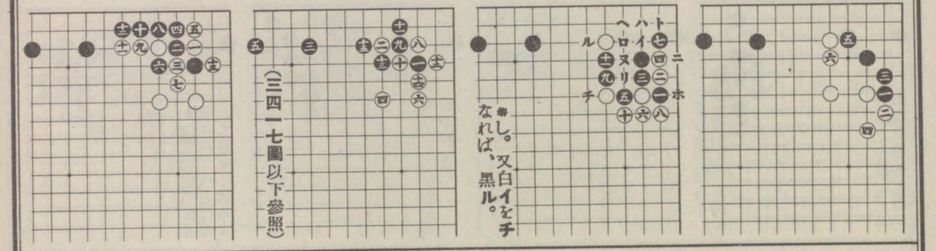
白九は、前圖イの強靱なる劣れり。黒即ち十二まで、平易に活く。隅に白子も先着せば、黒好結果を得たりといふべし。

【四六四六】
白攻勢に出ず

白三、五と黒の根據を奪つて狩り出し、北ぐるを追ふて利を收めんと、する手段もあれど、斯かる手段となれば白は追ふ形となれり。白は追ふ擊の間に隅取易に損失を容易に取返し得るものなり。

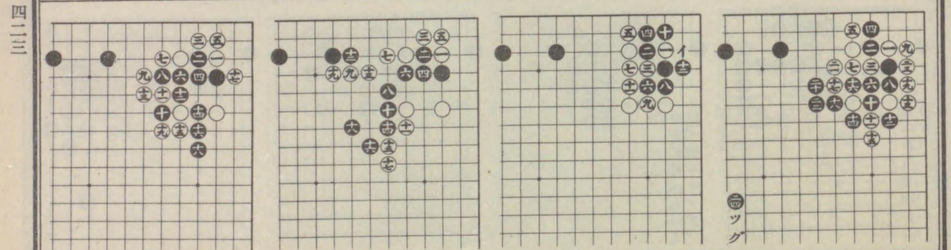
【四六四七】
黒悪し

黒八、十と駄目詰めるの手筋を敢て天下の望に背き、平氣で黒が離れて、とが兆し漸く現れ、十八と見よ。敗れよ。十八の形黒は徒らに圖の石を作りしのみ。



（三四一七圖以下參照）

若し。又白イをチなれば、黒ル。

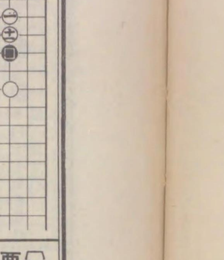


ツグ

〔四六四八〕
當然の形

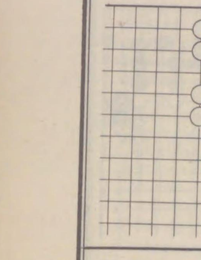
岩佐 銓 當時六段
林有太郎 當時四段
先勝

白一と綁込み、以下七、九と逃げ出したる手良し。若し黒八を九なれ※



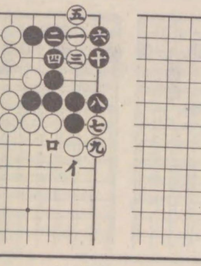
〔四六四九〕
常形

白一。黒乃ち二に突當りて、此形も黒に死なし。白十一でイに圖入し來るも、黒はロにて宜し（次圖以下）。



〔四六五〇〕
先づ持

圖の結果、白はイに粘いでロに打ち、結局劫とする手あれど其は餘程遠き劫なれり。猶白七を、八に曲れば、黒ニにて持。

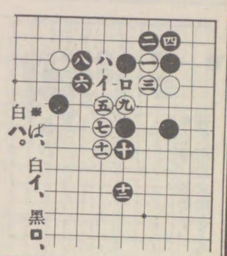


〔四六五一〕
黒 活

白五に下れば黒は六に附けて宜し。白九を十に打てば黒イ、白ロ、黒九。

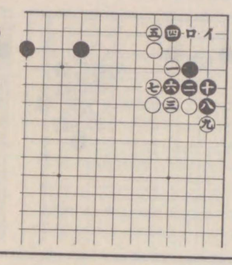
〔四六五二〕
黒 活

白三なれば、黒先づ四、六にて出で、而して八にて宜し。白はイに斷點あり。白乃ち九と此の傷手を癒せば、黒忽ち十に活くると共に、ロの斷點また相躍いでの生ず。※



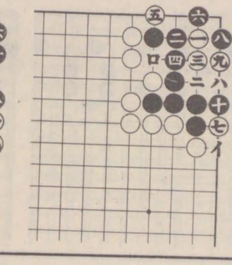
〔四六五三〕
白好まず

白は深く思ひ決めし一念、如何にしても黒を取挫いでくれんずと九。然らば、黒十、十二而して十四と活く。此形、時機一たび到らば黒イに切※



〔四六五四〕
白味宜し

黒六、八と活きれば、八は快味滿點なる十一の粘ざが先手利き。これは白の外勢確かなり。

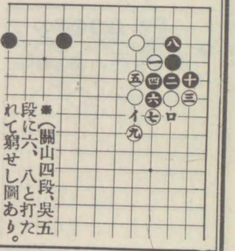


〔四六五五〕
黒善し

黒二、此時白は迷つて三。黒四の綿！斯くては白が哀れ。斯くては白が秋よりも深し。白が此隅に子も先着せし効力は、今や春光を放びし淡雪の如く※浴

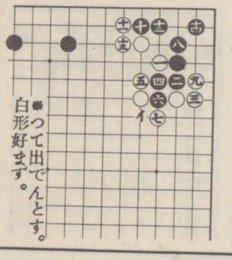
〔四六五六〕
黒善し

黒は場合により八と替る手段もあり。十一まで白の形を見るに、白□の一子全然駄着と化せり。



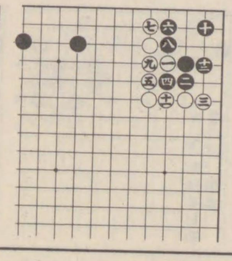
〔四六五七〕
黒可なり

白一は、味悪しき手なり。黒八は、愁形に似れども、此場合は擔魔の堅甲にも譬ふべき良着手。白十一を若しイと綽れば黒ロを、白十四と切りて宜し。



〔四六五八〕
黒善し

白三なれば、黒は四、六、八、十五で善し。白十一は、味悪しき普通右邊の白を弱めて惡しきも、此場合は止むを得ず。蓋し、黒より十三、また※

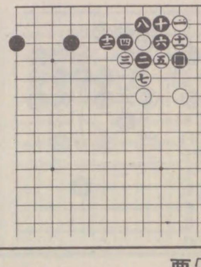


〔四六五九〕
白攻合敗

白五、形悪しく甚だ無理なり。黒六と八に攻合の尋で十の準備なし。尋へば風の如く前に思ひたる白が二。燈に似たる運の命かな。黒遂に二十。沒落の哀れ※

〔四六六〇〕
場合による

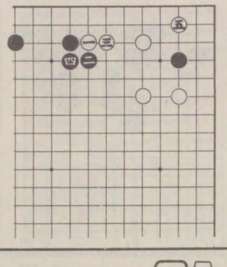
黒四は、振替りの手筋。■を逃出すも黒面白からざる場合は、此手段黒面白し。



（次ッグ）

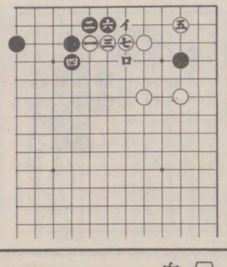
〔四六六一〕
隅に手段無し

白一、三と附引いて、次に五に走れば、隅の黒には段なし。故に黒は手段なく隅を取られて惡しき場合は、他に手段あり。（次圖以下）



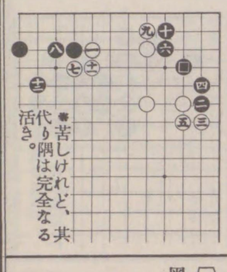
〔四六六二〕
場合による

黒二と下より拂ふも、白五と走り、尋で黒六に白七と結び粘（略ぼ前圖と同じ。果ば前七をイに約へ又白七をロにノ時は黒ロに曲れる形は稍※惡し。



〔四六六三〕
黒隅に活

■の黒を殘滅せめんと、白一の激突！此時、關とて死せるが如き突如馬の靜さに突如黒十一！機は敏なり。白七に黒八と届したる形は稍※苦しけれど、其代り隅は完全なる活き。



〔四六六四〕
要點約言

（第四七型ホ）

白の時、黒は右邊の拓きを是非必要とする形勢にては、斯く五と打つ手あり。白六によりて隅の黒一は包圍されたれども、※

〔四六六五〕
基本圖

（第四七型ヘ）

黒五の手段あまりに俗なり。結果、假令黒は隅を占領するとも、白は外厚くせられては、黒好まず。

〔四六六六〕
白優る

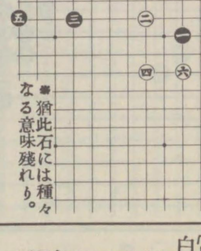
黒四の切に黒■に附けし時既に戰より豫定の作なり。白五、七而して九と掛ぎし、簡明にして且つ厚富の委なり。

〔四六六七〕
黒大に惡し

黒十、十二、大に惡し。白は十一及び十三へ外勢益々厚壯。黒十四嵌りなり！黒十四はイに守る位のもの。

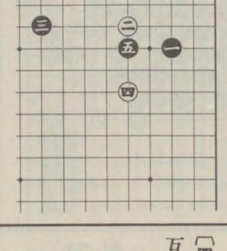
〔四六六八〕
白優勢

白十一は、一歩進みたる如くにして却て後手を加へたるもの。黒は十六まで成せり。さに好形勢は、白之に應じて黒十六まで成せり。さに好形勢は、白矢張り好形勢。蓋し、白黒及び十などの惡しきため。白※



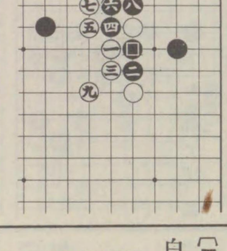
〔四六六九〕
互角の形

白九は、前圖のイに及ばず。また白十三以下は、手筋にして厚き打方なれど、單に十八邊へ攻むるも、右邊には別に黒より好手無し。



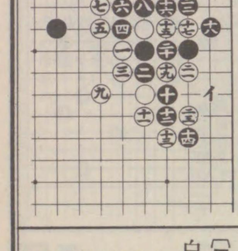
〔四六七〇〕
白稍優れり

黒十も要點なれど、白より十一に夾撃され遂に十七の好所に先鞭されては、黒面白からず。



〔四六七一〕
白敗戰

白七、九と打つて宜しき場合もあれど、此形にては吶喊の音は起らず。黒十一にて遂に活劇！混戰亂搏の末、黒十四嵌りなり！黒十四はイに守る位のもの。



【四六七二】黒の悪手成功

既述の如く、黒㊀は卑俗も甚しく好ましからず。されど白七悪しかくては白疲りなり。十五手目は白は漸く地を得たるも外勢は悉く黒に帰せり。

【四六七三】黒優る

白十三而して十五なれば、黒十六の約なり。厚味殆ど無限可なり。これは前圖と略ぼ同じく、且つ黒には白ロには黒イ、（次に白十七にて十八）の鬼手殘れり。

【四六七四】白分裂す

白九なれば、黒十に堂々の整陣を張る。此結果、白は隅に小活を得たれど、黒に十六と切らるゝに至ては白分裂の姿となれり。

【四六七五】黒形勢を得

白九手筋を十一に踏まれど黒は十二に十三と張り、白十四に十六。黒可なり。後段無し。白十七にて十八、白十なれば、黒イなれば、黒ロ。また※

【四六七六】中の白弱し

白い手に五。之は前圖よりも趣あり。されど黒若もこれ黒善し。結果白六、七を犠牲にして十二を得れば、白ハ、黒ニの時、白ホの鋭厳（次に黒ヘは白勿論ト）。黒※

【四六七七】征如何による

白九と先づ攻勢に出でし手順宜し。肝要の切り。今や黒イを遂ぐ。中原殺氣天に滿ち、鬼氣人を衝く。此形白十三の征宜しき場合は互の角の分れ。（反對に、※）

【四六七八】黒優る

黒は棄子取勢

前圖の黒悪しきは、征の黒二と行びて時は強く戰ふ手あり。白十一以下十三と共に一手も被はるゝ、兵氣の殘るに、毎に敵愾の氣燄を加へ、毎に一彈を放つ。譬へば獅子相搏つの壯觀。白三は四の外無し。黒四をば五三と征宜しき勢なり。

㊀枯グ

【四六七九】黒要石を取る

黒十八！物凄い手筋。白い日の夢破るゝ憶駭爲す所を知らず。尤も、白十九を二に四なれば、黒二五に打てれば、征悪しき時は、征悪しき時は、故に、若し黒※

【四六八〇】黒稍優る

白三一、正着なり。白九の先手約へ、嚴しく黒三八の好點を占めたり。若し黒三九なれば、白イ、黒ロ、白ハの鬼手！

【四六八一】形勢互角

白十三と中央に尖むを保留して直ちに白ヘの肋とはせず。黒十八以下、淡々として一着よりも着かも陣容を整ふ。黒二二、二四、二七と綿ねば、白ロ黒二五なれば、黒ハにて白は死活従つて隅の二、三なり。

【四六八二】要點約言（第四七型㊀）

黒五は打過ぎ。強ひて紛糾を求めて白の失着を期待すべき所謂る權道の着手なり。即ち、白の應答正しくば結果黒悪し。

【四六八三】要點約言（上）（第四七型全部）

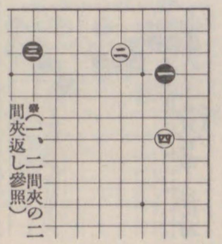
白四の二間飛びは、黒三の攻を緩和し且つ次にイに逆撃せんとす。此四は二間夾の四の飛とは同じく三間夾にても白可なり。

【四六八四】要點約言（下）（第三七型全部）

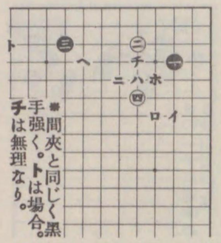
次に此形黒の應手は、イ、黒ロ（ハ白ニ、黒ホ）、ト、チの六種あり。此中、黒イは定型。ロは黒二間夾と異て好ならず。ハは二※

【四六八五】基本圖（第四八型）

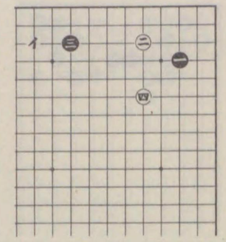
白四と二間に夾返すは手あり。此夾返すは、一間二間夾にも、圖にあれど三間夾に於て最も佳着となるなり。※

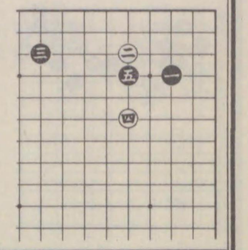


※一、二間夾の二間夾返し參照）



※間夾と同じく黒手強く。トは場合チは無理なり。





【四六八六】基本圖（第四八型イ）

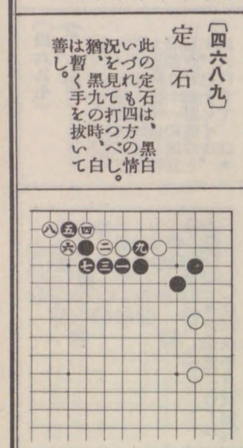
白四なれば、黒五の尖が定型なり。其他黒五でイ、ロ手段あるは、ハなどの一、二間夾の場合と同じ。

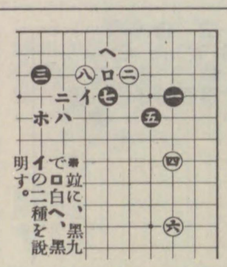
【四六八七】基本圖（第四八型イの一）

黒五なれば、白六と二間拓して根據を作り置く手善し。一、二間夾にては、黒にイとカケられて白の形好ざれど、三間夾※

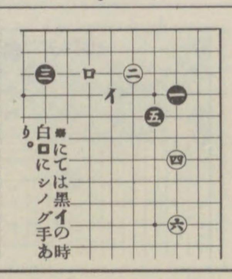
【四六八八】基本圖（第四八型イの一變化）

黒七、白八定型。次に黒の手段に手抜きの六法あり。先づ、此第一變化にては黒九でイ※

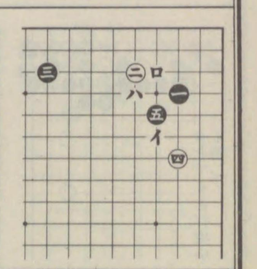




※竝に、黒九で白ロへ、黒イの二種を設明す。



※にては黒イの時白ロにシノグ手あり。

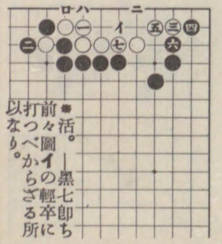


【四六九〇】黒場合を得

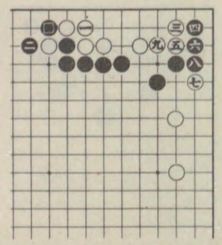
此形、黒イの突出しを保留して直ちに白ロの尖むるの如く、左隅方面に低くしてロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、トと進むは、例本圖の一、三、五、七、九、十一と壓して白の固きを破り、白の最も善きものを重複なるに、黒イ、白ロの時、黒手抜きし宜し。

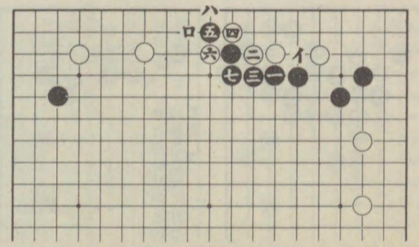
【四六九一】黒善し

白一なれば、黒二と抱へる。黒㊀即ち前圖には、此征宜しきことと黒の要條件とす。白必ずしも省略すると、白九は省略し得ず（四六九八圖と比較參照）。



※活。前々圖イの輕卒に黒七と打つべからざる所以なり。





【四六九二】黒先手

白五なれば、黒六。次に白七なれば、黒イ、白七、黒ロ、白ハ、黒ニにて白死。（但し初めに黒七と白イとの交換を了し居らば、黒六の時白手抜きしても※

〔四六九三〕黒丸損素裸體

黒五は、恰かも、深窓の美女、世の荒波に耐えざるにも譬え、世渡りに寸善も無し。見よ、黒は一物の獲る所無くして、*

〔四六九四〕黒好まず

黒三は、例へば田舎相撲の大關の如き譬的の甚だしく手なれど、其受くる結果を見るに、黒好まず。加之、白先手なり。白十二にてイの後、手活に甘んずるも、白八。*

〔四六九五〕場合による

黒いま十一に堅守すやうに、白乃ち今イの切りあらず。白乃ち十二に活く。黒は、白の七は、白の附け越しをも兼ねて防ぐ、佳着なり。

〔四六九六〕黒外勢劣る

黒いま九。白乃ち十、叩を加へて、轉じて一十四以下二十に治まる。此形、黒は優れど、外勢に隅れる。場合によると劣るべし。

〔四六九七〕常形

黒いま一、而して三。此變化は、以下塗り附けて三ム意味也。但し此征宜しきを、必要條件と、白十を、イと白、黒次に十で、*

〔四六九八〕常形

黒一は前圖の十三。此に視れば右邊□なれど、その代りに得る所、五七の次の綽々かせる以上、多此一物の利あり。蓋し黒に價多き先手で、白に伴ひ

〔四七一六〕要點約言

（第四八型イの一變化）

黒九は外面包圍の手段、時に可なり。されど、次に白イに走られて、其根據を奪はるゝ、故に多くの場合黒損なり。

〔四七一七〕基本圖

（第四八型イの一變化）

（第四三型イの化）

黒は九と尖みの形にて、白を包圍する手もあり。前形イと略ぼ同じきも、此尖みにはまた自ら獨特の趣あり。

〔四七一八〕定石

此形、十一、十二、十四の手順要。其の中白の出は、考慮が妙藥に類ふべき、命の綱。白これを怠れば、四七二圖參照。（四活きず。）猶ほ、次圖に。

〔四七一九〕白　活

白□ある時はよし。黒外圍堅く、且つ先手を下すとも、此白活なり。黒一、三、手筋。黒一直ちにて活。一目取返ス

〔四七二〇〕白　死

白四型、爲に、此一團の白、遂に四が馬蹄の如くなるべし。又四、黒イ、白四、黒ロ、白イ、黒ニ、白イ、黒ハ、白イ、黒ロ、白穴を白七に眼無しに粘げば、黒ロ、白イ、黒六、白イ、黒ニ、白イ、黒ハ、白イ、黒ロ

〔四七三九〕要點約言（第四八型イの變化）

外面包圍の手段と、黒九に尖むし形善し。此時白イ、黒ロ、白ハとを活きる手と、白イ、白ロとを二黒ホ、白ロと二段に約へて隅※

〔四七四〇〕基本圖（第四八型イの一變化）

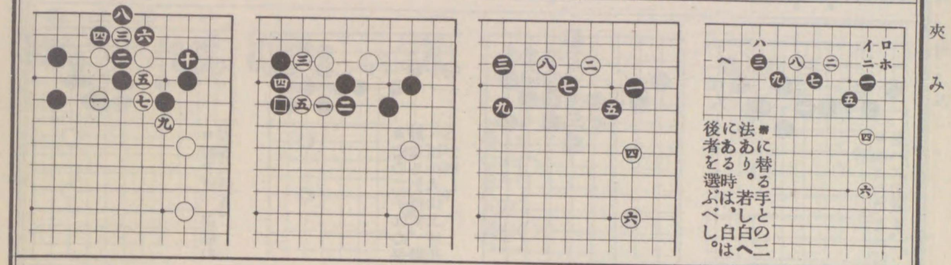
黒九と、一間に飛ぶ手あり。一變化の手段、時に黒面白し。

〔四七四一〕常形

黒■の時に限つても白一は手抜きするも宜し。猶ほ、白一は黒■の包圍作戰に黒の攻力を張らせざる意味の、手筋なり。

〔四七四二〕形勢互角

黒二、四もあり。此時白が三の一子を棄てて五に出で、蓄深は、棋歩輸達、含遠初の範と心の所。黒八はすべき悪じかららにしても肝要なり。



〔四七四三〕黒力戰を要す

黒八は勁手、凛乎として犯すべからざるもの。あり。買はざるを得ず、暗嘯即ち九。遂に十九。形勢逆睹すべからず。雌雄の決、中原に在り。

〔四七四四〕黒嵌手に陷る

夫れ、滅びに入る門は廣し。黒いま雀躍して、二、四に突破して、忽ち白の伏に陷る。黒十二、隅を活きんとするなれど、筋逢ひなれ、即ち此の覗き止むるを得ず。

〔四七四五〕白利勢

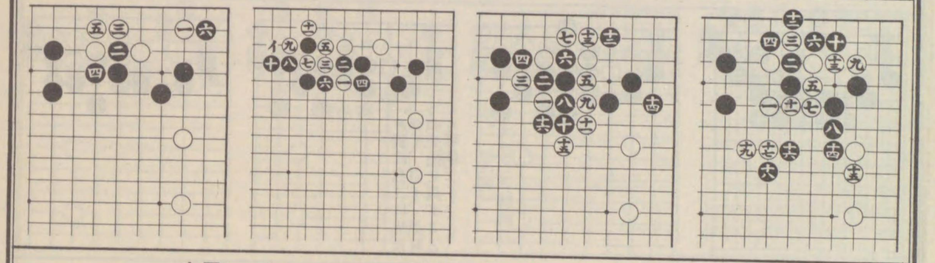
此時、黒愕然として、身に迫る危險を感知ぬ。黒即ち四。白は五、次に七にて宜し。猶ほ、若し白イにあり。此形更に打易し。

〔四七四六〕黒外形可なり

白一、此場合好まず。黒乃ち二、四と、而して後六。黒の勢中央に厚きを築けり。白の陣容萎靡振はず。（四七〇四圖と比較參照）。

〔四七四七〕黒厚し

白五、筋違ひなり。黒、間髪を容れずして六の鋭斷。可なり。白の陣營、俄に搖らぐ。白七、白ロ、黒ハ。



〔四七四八〕白輕妙の形

前圖白一を手拔。若し白ロにあれば、黒はイ或はロを見て手拔きするも宜し。次に黒一と尖して附け、時初めて白二に飛ぶべし（四七四一圖以下變參照）。

〔四七四九〕黒の形好まず

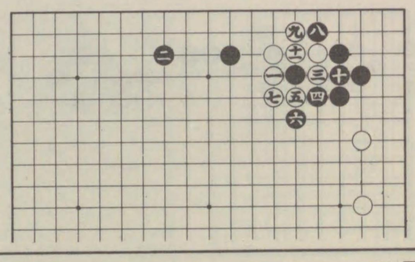
黒一、三。此時、白四、妙手、棋歩順精なれば、黒五を六。十白形。此時白は隅を三手拔も白二、十にて宜し。猶ほ、若し白イにあり。而かつて黒はイ、ロまたはハに至の斷※

〔四七五〇〕白稍可なり

黒一は所謂イモ筋。白二は黒の常手を偵ひ、此場合、即ち此形を特に嫌ふ。黒風れむ。

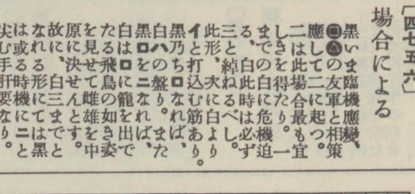
〔四七五一〕白緩し

白三、而して五は堅きに過ぎて緩し。黒即ち、六、八と先手他方面に固めたり。厚き形あり。白手を抜ばれ、黒に五と行びられ、此に石をめたては攻ジとらヘず見ワと此石の眼取ナりる時に打つ手なり。



〔四七五二〕場合による

黒いま臨機應變、■の友軍と相策。應■と二宜しく最つて一場を得たり。機迫必ず。白の時は必ず三と、綿ねて白よりイと打込む筋あり。此形、而かつて黒はイ、ロまたはハの斷※



〔四七五三〕定石

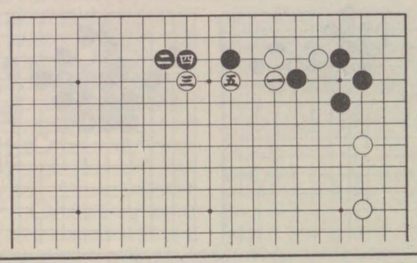
黒七に掛。白が八に應なければ、其形の重くなりし。黒そを見て上に、白の機に乗じて九と、白を狩り取りはいまは、こめ敵はじ。黒は十と押出は上隅にれ十は左に白の一勢は定したれ、着手は假なる反對に合の勢は黒のたれる勢と黒十のみで形勢は四九圖以下實參照）。

〔四七五四〕基本圖（第四五型イの一變化）

黒九は此形に於ての最も穩健の着手なり。

〔四七五五〕常形

先んずれば人を制す。白三、星に單騎し、白四に屈する白は吾が意とする所なり。白は遂に五にげたり上邊の黒を覆壓す。正に形整多く、三、今や白が外勢の手段なり。白可なり。（實みの中の五〇圖以下參照）。

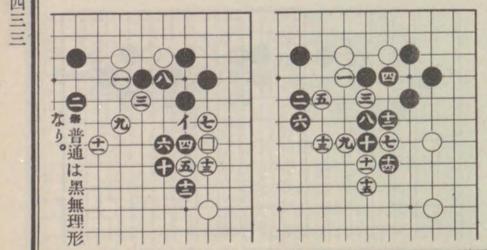


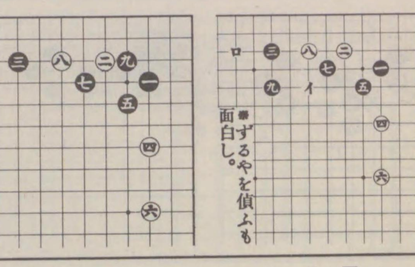
〔四七五六〕白輕妙なり

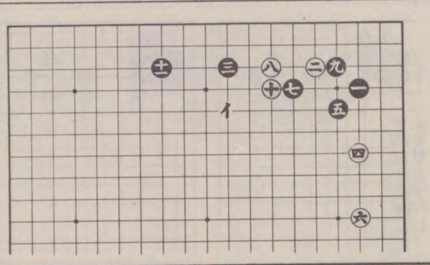
黒四は白の眼形を奪ふ。應じ急攻手段なり。白七以下十五まで黒の鋭鋒を、サラリ〳〵と躱す、白甚だ可なり。

〔四七五七〕黒強行手段

黒四、六而して八は右邊の白に絡みつく、此々として中の白を狙ふ。時に此手段を可とすれども、事もあり。此形白イの切れ殘るが故に※







〔四七五九〕 場合による

黒二は要點なり。黒イ或はされど、黒は不利の無きを看破して三、五に備へ路を定めしなり。此形、四圍の形勢如何により互に可否あり。

〔四七六〇〕 黒實利を收む

白い、九。黒乃ち十に、敵の生擒す。普通は白九と二子を棄てて中原に鋒鋩を向ける。此處形可なれど、白イ、黒ロと締める形拙き。

〔四七六一〕 白手強し

黒八、蓋し白を十に粘がしめて黒九の絶好の姿を現成せんとす。されど當て事は外れの鬼手！白九、十一は外れの手。次は黒イなれば、白ロ。又黒イをロなれば白イ。

〔四七六二〕 白の形善し

黒二、四は俗筋なり。白三、五宜し。白が兵鋒、堅且鋭。圖の黒いと半死の狀に墮つ。

〔四七六三〕 黒、分裂の兆

黒四、無理なり。白以下十五まで力戰甚だ厚し。黒は不退轉の闘志を示せり。イと征取るは黒の形勢を分裂して甚だ惡し。

〔四七六四〕 白優れり

白直ちに三に突破す。黒即ち四に接し、軍兩分以下兩軍至戰十五まで鼓に至つて五に順へば、黒に利を得ざるや遙かなり。

〔四七六五〕 定型

白一、三手筋にして五の下を打てば、黒ロの如く、白イ、白ハの交換と黒四の交換とは黒が次は三の急所を占めたるを以て白イ、白ハの交換は黒が次は三の急所を占めたるを以て白イ、白ハの交換は黒が次は三の急所を占めたるを以て白イ、白ハの交換は

〔四七八〕白戰敗る

白いま一の一子を吝みて五に遁竄を企つ、俗手甚だ惡し、見よ、黒六、十、八に急追、尋で十、三まで今や釜中の白子は二の魚となれり。加之、右邊の白も未だ形勢は安からず。

〔四七九〕黒稍不利なり

黒四は形なれど、以下必然の棋移白十三に至つて黒四形薄し。之れ黒四の好ましからざる所以也。

〔四七〇〕黒嵌手に陷る

白いま三、五、九と虎狼の爪牙を擬して進む。後蓋しも十五の鋭断を含めり。苟且にも虎狼迫る、黒は一進一退に細心の注意を要す。然るに黒意十四惡し。

〔四七一〕白優れり

黒二六は攻防兼備の良着。さきに十四と黒既に一たび失す、今に至つては此良形も挽回の途無くして、白の威徳益ん盛なり。

〔四七二〕白　勝

黒二、四、二六と打てば、白は二七に攻合勝なり。又黒二六を二七なれば、白二六に活。之に反して隅の黒には活無し。

〔四七三〕黒大に善し

黒十四は、扞禦具さに備はるの巧着なり。白三、五、九以下の無理手段、遂に馬脚を露はす。圖の形となりては如何に變化するも必ず白惡し。㊀劫㊁仝㊂粘

〔四七四〕黒嵌手に陷る

黒十二と反撃に出でしは、勇餘りある慨あり。果せるかな白遂に十五に駒を早めて鋭断し來る。黒潰滅し了んぬ。

〔四七五〕白勢振はず

白既にイを狙ひつつ九に激突す。十は、白の作戰を見事破せり。可なれば黒十一、此形はなれ白二、死となるのみならず、

〔四七六〕黒可なり

白三、手筋なり。黒四は凡されど、而かも好防なり。十二まで黒惡しからず。又白五をイに切れば四七と同じ。

〔四七七〕黒術中に陷る

黒二勇猪突して五の七手順至つて白三而して白絶好。遂に白士氣頽る、再び起つては黒軍の士氣頽る、再び起ち難し。黒四を五なれば白は四の好形。

〔四七八〕黒完封す

黒△の尖附けに對して、白は二子の救援を圖らずして、一、三と運ぶは、隅方面に□△の如き締りなどの利を擧げて左方の大なる地を劃する方針なり。後白イと雄呼相應じて猶此形、白ロに切つて黒ハと出しは

〔四七九〕黒可なり

白一は、重き筋なり。白逃げるときは輕く四まで者てるとイに二と備へて白五を拍子に黒六と出しは

〔四七九一〕黒厚し

白いま□を活躍せしむべく急ぎ駛して一と衝く。蓋し白の肩を黒一に蓋して法なり。但黒の長壁を築に二以下の白は左上隅方面の狀勢に、故に左方面と上方面との考慮を要す。

〔四七九二〕白、一策なり

白は一と掛けて□の手もあり。白三と綽放しも遺憾あり。白三と綽放しにせしは深味甚し。蓋しは右方面を見て利かせるも左は□に役立ちまた白ハ方面の策

〔四七九三〕黒悪しからず

白□にあり。黒は此白の厚みを抹消するの作戰を中央に黒の勢力を張る一、三、下に、五。黒即ち面白し。應ければ黒は無論七の筋。以下黒十五まで共に必然の應接なり。

㊀ッグ

〔四七九四〕黒形勢を張る

㊀㊁手抜 白若し手抜きすれば、黒は機を見て二に鵬翼を張り、又更に白三を忘れば黒は四、六と翼進む。黒は此手段壯なり。

〔四七九五〕常形

黒二、四は常形なれど、八までの黒形芳しからず。黒は前圖の如く三に迫り、白二に走路を取る時、黒は拍子に乘じてイに出る用兵の妙を用ふる。

〔四七九六〕黒確なり

白五なれば、黒はまづ白のイに備へて六、而し八。黒の棋十歩、建剛なり。白三に劫を提れば黒十四に劫を提れば黒十三に切つて白一辈に潰滅す。

〔四七九七〕黒形勢を張る

㊀㊁手抜 白若し手抜きすれば、黒は機を見て二に鵬翼を張り、又更に白三を忘れば黒は四、六と翼進む。黒は此手段壯なり。

〔四七九八〕黒悪しからず

白□にあり。黒は此白の厚みを抹消するの作戰を中央に黒の勢力を張る一、三、下に、五。黒即ち面白し。應ければ黒は無論七の筋。以下黒十五まで共に必然の應接なり。

㊀ッグ

〔四七九〇〕要點約言（第四八型イの一變化）

黒九實戰の常形なり。前型の黒イ、ロ、ハなどは白を包圍する手段なれど、實利は黒九の尖附けに及ばず。

〔四七九一〕基本圖（第四八型イの二）

黒四は、隅の實利を占むると同時に白の根據を奪ふ。□の攻めは立つるの意。黒イと前型のカとの可否は黒イと白ロとの交換

※黒不利なりと見たる時、黒は只四に尖附くべし。

【四七九】形勢互角
瀬越憲作七段
先番前田陳爾四段勝

黒四は私かに白の⑦に備へると共に白の脚下を拂ひ手なり。白五の時黒六、八、十宜し。

【四八〇〇】要點約言
（第四八型イの二）

黒七はイを常形とすれど、時に此手あり。次に白ロに逃げるか、又ハに切りて、中央に位を取るも可なり。

【四八〇一】基本圖
（第四八型イの三）

⑦手抜

黒七は局面の形勢によりて、手を抜く場合もあり。然し平常の形にては（四八型イの一）に模様を張る。

【四八〇二】定石

黒七手抜の時は、白に八、及びイの手あり。圖の如く白八なれば黒は無論九。白は十五にて黒は備へると同時に中央に模様を張る。

【四八〇三】常形

白五なれば、黒六。次に白七の時黒八は又断つ手もあれど（四八二六圖參照）以下參照）圖の形は黒損なれど、黒は儼として犯。

【四八〇四】中央戰となる

黒五と外圍を遶らすも効乏しき形勢にては即ち二と追撃すべし。尤も黒二は横にイと、白の腹部を衝く筋もあり。變化三六（五圖參照）

【四八〇五】形勢互角

白一に尖みて、次に八の完封を目論む。黒乃ち二に脱出を遂く。白十四まで黒手順宜し。

【四八〇六】黒優れり

白いま單に七と驚駭と包圍を諷す。此時黒八と拔く。白九と苦しき手に辛うじて脱出を衝く筋も變化三六（五圖參照）

【四八〇七】黒小可の形

白いま五、此時黒八の粘り、手を普通とすれば又斯く打つ手もあり（四八二六圖參照）以下參照）圖の形は黒損なれど、黒は儼として犯。

【四八〇八】黒の形稍優る

白三の先手にて㊀の急を凌ぎ、尋で五而して七と隅に根據を奪ひ、白悉く實利を收めしが如きも、畢竟黒乃ち八、尋で兵。

【四八〇九】常形

白一なれば黒二、四と先手の押しによって左邊の厚を導き、白五に至って㊀の急を告げ來るや黒即ち六の要點を先占す。

【四八一〇】黒好形

黒二、而して四もあり。白五は確かなれど、黒六、尋でとかくては好形に就かれるより寧ろ明らかに白五は無策

【四八一一】定石

黒七、善し。此形後に機を見て黒イ、白ロ、黒ホ、尋で黒ハ、白ニ、斯くの如き隅邊の黒地甚だ大なり。

【四八一二】參考圖

白六或はイなどに廣く拓けば、黒は九以下七、九の手段を選び、四、八、十の一段に直ちに二に突入。白二、白十の時に二と一と交換す。白陣潰亂。白戰必ず利あらず。

【四八一三】要點約言
（第四八型イの三）

黒七手抜なれば、白にイ、ロ及ハの三つの手段あり。其中イは確かなれど、黒は上邊に行び出して黒と

【四八一四】基本圖
（第四八型ロ）

白六と飛ぶ手は、右下隅方面に白の配置あり、邊に形を張り合に打つ手なれど、然し多

【四八一五】定石

黒七、善し。此形後に機を見て黒イ、白ロ、尋で黒ハ、白ニ、黒ホ、斯くの如き隅邊の黒地甚だ大なり。

【四八一六】常形

前圖の如く、黒イと張り來るを白が嫌へば二に打ちて黒を白二に封じ、且つ孤立せしむるの形となりては白可なり。白が包圍の網を縮めんとすれば黒ハと出て逐ふ。斯くの如く黒イ、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ、黒リ、白ヌ、黒ルと進むも宜し。

【四八一七】黒、一策なり

白ロのイにある時は、△のイと守るの外なし。黒の二、三の堅壁も此較的効果乏しにあり。白ロ、黒ロ。白の應手を偵みて黒イ。

【四八一八】黒場合の良計

高橋重行二段當時
先番增淵辰子初段勝

黒は前形の如く、三、五と壓迫して、遂に黒十三に至る。黒十五は確なれど、

【四八一九】基本圖
（第四八型ハ）

白六と直ちに隅に走る手あり。之は右下隅との配置の關係上、イの拓きを必要とせざる場合の手段なり。

【四八二〇】定石

黒七より十までは絶對の手順なり。黒十一の約へは、左隅方面に黒の勢力ある場合の外は此形間夾みに普通見る定石に

【四八二一】常形

黒は先づ九と綿ねて白の應手を偵みに應ければ、黒ロ。又圖如く十一に應けれ、黒十二の掛け粘ぎ。

【四八一八】黒場合の良計

高橋重行二段當時
先番增淵辰子初段勝

黒は前圖の如く悉くは黒に要點を奪はるゝに稍鑑み、五は蓋し此無理なれど、此場合權變の一着、決して可なり。雌雄は全く中央戰の如何による。

【四八一九】基本圖
（第四八型ハ）

黒七手抜なれば、白にイ、ロ及ハの三つの手段あり。其中イは確なれど、黒は上邊に行び出して黒と

【四八二〇】定石

黒七より十までは絶對の手順なり。黒十一の約へは、左隅方面に黒の勢力ある場合の外は此形間夾みに普通見る定石に

【四八二一】常形

黒は先づ九と綿ねて白の應手を偵みに應ければ、黒ロ。又圖如く十一に應けれ、黒十二の掛け粘ぎ。

【四八二二】定石

黒七手抜の時は、白に八、及びイの手あり。圖の如く白八なれば黒は無論九。白は十五にて黒は備へると同時に中央に模様を張る

【四八二三】常形

白五なれば、黒六。次に白七の時黒八は又斯く打つ手もあり（四八二六圖參照）以下參照）圖の形は黒損なれど、黒は儼として犯。

【四八二四】中央戰となる

黒五と外圍を遶らすも効乏しき形勢にては即ち二と追撃すべし。尤も黒二は横にイと、白の腹部を衝く筋もあり。變化三六（五圖參照）

【四八二五】形勢互角

白一に尖みて、次に八の完封を目論む。黒乃ち二に脱出を遂く。白十四まで黒手順宜し。

【四八二六】黒優れり

白いま單に七と驚駭と包圍を諷す。此時黒八と拔く。白九と苦しき手に辛うじて脱出を衝く筋も變化三六（五圖參照）

【四八二七】黒小可の形

白いま五、此時黒八の粘り、手を普通とすれば又斯く打つ手もあり（四八二六圖參照）以下參照）圖の形は黒損なれど、黒は儼として犯。

【四八二八】黒の形稍優る

白三の先手にて㊀の急を凌ぎ、尋で五而して七と隅に根據を奪ひ、白悉く實利を收めしが如きも、畢竟黒乃ち八、尋で兵。

【四八二九】常形

白一なれば黒二、四と先手の押しによって左邊の厚を導き、白五に至って㊀の急を告げ來るや黒即ち六の要點を先占す。

【四八三〇】黒好形

黒二、而して四もあり。白五は確かなれど、黒六、尋でとかくては好形に就かれるより寧ろ明らかに白五は無策

【四八三一】黒、一策なり

白ロのイにある時は、△のイと守るの外なし。黒の二、三の堅壁も此較的効果乏しにあり。白ロ、黒ロ。白の應手を偵みて黒イ。

【四八三二】黒場合の良計

高橋重行二段當時
先番增淵辰子初段勝

黒は前形の如く、三、五と壓迫して、遂に黒十三に至る。黒十五は確なれど、

【四八三三】基本圖
（第四八型ハ）

白六と直ちに隅に走る手あり。之は右下隅との配置の關係上、イの拓きを必要とせざる場合の手段なり。

【四八三四】定石

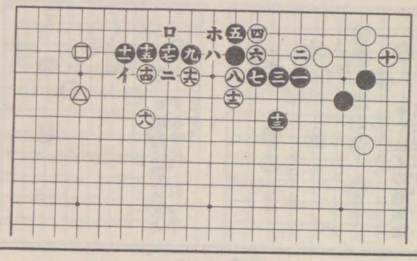
黒七より十までは絶對の手順なり。黒十一の約へは、左隅方面に黒の勢力ある場合の外は此形間夾みに普通見る定石に

【四八三五】常形

黒は先づ九と綿ねて白の應手を偵みに應ければ、黒ロ。又圖如く十一に應けれ、黒十二の掛け粘ぎ。

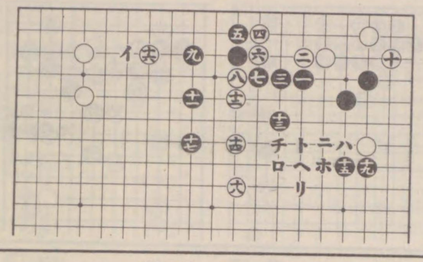
〔四八二二〕
白の勢善し

若し白□△に締りのある場合は、黒は八と一着して白を入れる手あり。此形に於ては黒は直ちに取るを危惧する念ざの如きは全く無用なり。寧ろ此の如く出で去りて白の腦を攻むるの鋭きに如くはなし。果して黒一種々考を要する手段あり。白善十六、七、十八と出でば黒は十五と曲れ、白十七に粘込みて黒ニ、白ホ。



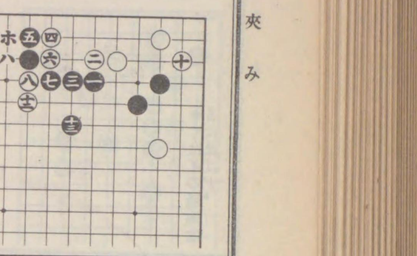
〔四八二三〕
場合による

黒十一は同じく十二と行びて次に左右は攫つて十四と出でば白は十五を以て黒を攻むるの鋭きに如くはなし。黒は一種々考を要する手段あり。白善十六、七、十八と出でば黒は十五を以て黒を攻むるの鋭きに如くはなし。



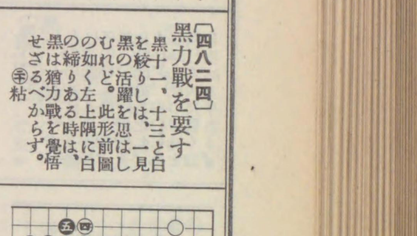
〔四八二四〕
黒力戦を要す

黒十一、十三と白を絞りて黒の活路を塞ぐの如くするも此形に於ては白は圖の如く左上隅に前圖の締りを覺悟して黒の攻撃を緩くせざるべからず。㊀粘



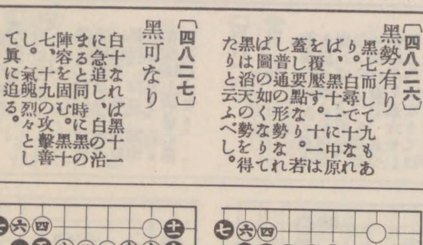
〔四八二五〕
黒堅し

左上隅に白の勢力あるを最も堅實とす。黒五、七も最も堅實にして全然實利なり。尤も黒は不滿足とせば三間夾むか又は一間掛けより再考を要す。



〔四八二六〕
黒勢有り

黒七而して九もあり。白尋で十に中原に一着して黒十一、白十二と壓迫し黒は十三と出でば白は十四と出でて黒勢有りとす。

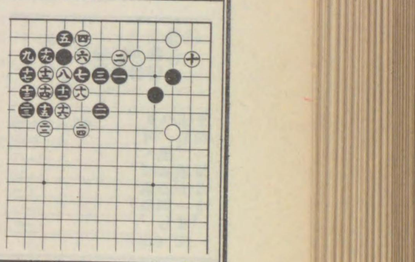


〔四八二七〕
黒可なり

白十なれば黒十一と急進し白十二と出でて黒の治まるを待つ。白十二と同時に黒は七と陣容を固めて白の攻撃を緩くせば黒は九と出でて氣魄烈々として眞に迫る。

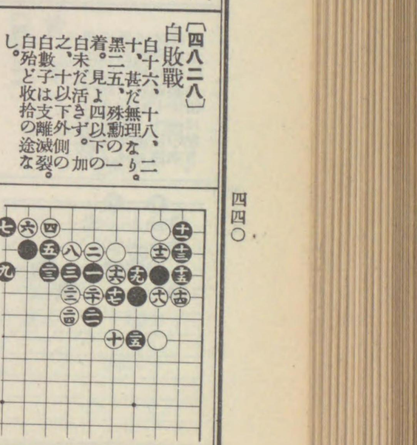
〔四八二八〕
白敗戦

白十六、黒十七、二、十八、無理なり。黒十五、二、四と出でば白は十六と着。未だ活きず。下の一、二、三以下の加勢十以外側の白數子は支離滅裂の途なし。



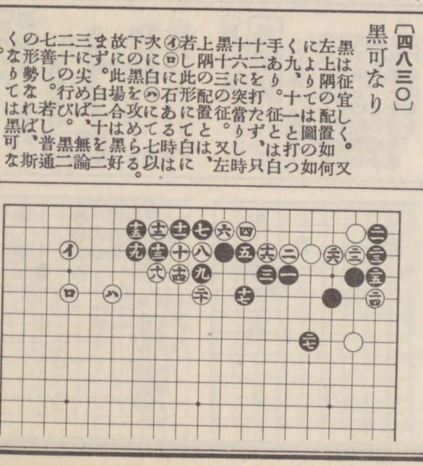
〔四八二九〕
場合による

白八に切る手あり。さすれば黒は圖の如く替りて宜し。黒十九要點なり。



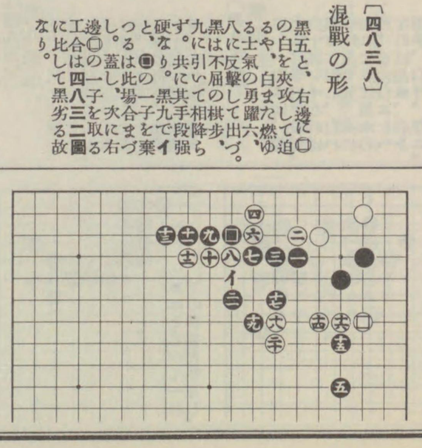
〔四八三〇〕
黒可なり

黒は征宜しく左上隅の配置如何にによりては圖の如く九と打つて十一と征つは白の手段あり。又左時只一着にて黒十二と打つたりとも云ふべし。



〔四八三八〕
混戦の形

黒五と、右邊に□の白を挟撃して迫るや、白は勇躍燃ゆるが如く黒は士氣反撃の届出づ。黒九に引いて相棋降ら共に手段強ら硬ずなり。黒三と出でて白十六に打つて黒劣勢なり。



〔四八四一〕
黒手強し

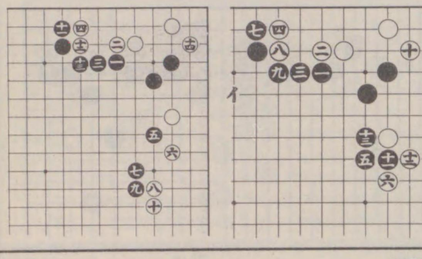
黒七は以下の黒五と同じく嚴しき筋なり。若し右隅を下ると白は黒イの厚き場合は白ハに瀕すべし。

〔四八四〇〕
黒厚し

白六の一時寛厚の一着。黒七は鮮鋭豊かなる厚味を擁して而も寛厚ならしめざるの手段なり。但し黒は手拔きすることもあるも白は七と拔きたる時は強く白イ、黒ロに照つて黒危殆に瀕す。

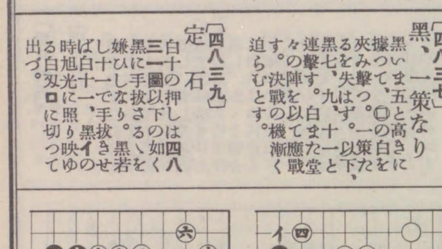
〔四八三四〕
黒大勢を占む

黒いま七に尋で九に擴げ、翼を一擴と、割策す。黒イに押切りさまざまに立ちて決勝を此作戰面白し。



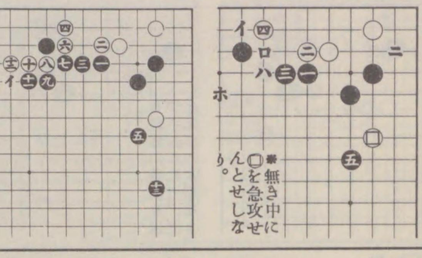
〔四八三三〕
黒の形良し

白六と應けれ、黒七而して九に着。今や五の一着既に黒乃ち粘りて略して十一、十三と壯大雄渾の形勢を築かんとす。黒イの掛あり。中原面白し。



〔四八三二〕
黒悪しからず

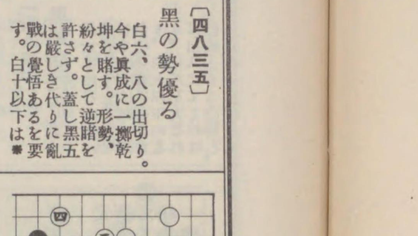
若し白に左上隅に締二、三圖參照、白四と八に切而しば黒六、八に而しば黒九、十と出でば黒は十三と此分れ。此時黒十三と惡しからず。着イに押すも宜し。黒五は白ニの■に役立つ。故に黒は白ニの■



■無き中に□を急攻せんとせしなり。

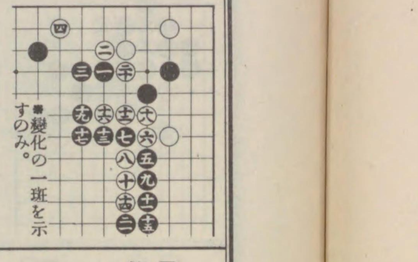
〔四八三五〕
黒の勢優る

白六、八の出切り。今や眞成に形擴乾坤を紛々とす。黒七而して九も亦已むを得ず。逆賭として黒五と出でば白十以下は■



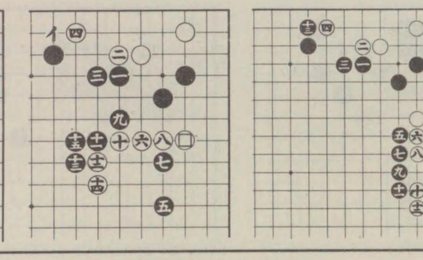
〔四八三六〕
白の形重し

白六は凡庸、唯々從として黒乃ち十一と出でふ。黒中原に厚を以て連壓し白は一轉して致す。黒の意悉く拒ぐ。勝敗の數既に明かなり。



〔四八三七〕
黒、一策なり

黒いま五と高きに白を夾みて□の一策たるを以て白は十と出でたるを擊つ。黒九は十一と以下連擊の決戰を擧す。白十二と黒は十三と應ずるの機漸く迫らむとす。



〔四八三九〕
定石

白十の押しは四八圖三に手拔きて嫌ひなし。黒十一と拔きたるも白十二と出づ。

〔四八四二〕
形勢互角

勝　加藤　信　當時六段
先番　福田正義　五段

白四の時黒手抜きは多に於て二と拓き得るも白五と夾撃をし二十三となれば黒七と出で白六と三の如く走るも白十二と重しと十一と稍重形勢互角なり。

〔四八四三〕
要點約言

（第四八型ロ、ハ）

黒五の時白イの拓は黒ロの堅実な手段にして白ロの時黒ハの拓は白イの堅実な手段にして白ロの時黒ハの拓は白イの堅実な手段にして白ロの時黒ハの拓は白イ

〔四八六〇〕
常形

以下諸圖は、黒に前圖イの二間拓きのあるもの、と假定しての變化なり。

黒二は一に對する應答。必然の八共に善し。黒六

〔四八六一〕
黒善し

白七なれば、黒先づ八に夾攻し、白九に出て拍子に粘る。黒十と粘ぐ。之を黒八で十、白八となるに比すれば、その差まさに千里懸絶せり。

〔四八六二〕
黒、一策なり

白九。一策なり。黒十二も亦之に先だつて十一と交換するも、遂げては妙。前圖と順序の可否は、局勢如何にも黒の形善し。

〔四八六三〕
黒の形堅實

白イなれば黒ロと封ぜらるるを嫌つて、此場合中央六、五の鍔合中の鍔、庸に攻合も敗なり。白有利。

〔四八六四〕
黒好形

黒まづ白十一に強ひて善尋ねて白十二に手を戻し、黒十四、白十五次に黒十二をイに對して白十三まで蠻形にして却つて黒十二なれば白十八に突破されんとして黒ホで、黒イ陷れば

〔四八八三〕
黒好調

白一も惡し。黒直ちに二に出動、白を分離して一ヶ所を攻め、黒の威勢を殺して白を壓す。白九の時、黒十二、十四、手順宜し。

〔四八八四〕
黒勢稍可なり

白一なれば、黒二と打つて宜し。五〇八圖（以下參照）白五を六なれば、黒五にて結果白惡し。

ハッグ

〔四八八五〕
黒善し

白一、此形にては特に穩着。黒二、下に隔てゝ伐つや、一着毎によく前後の連絡を考へて當る。まことに、黒は一石二石鳥の好調、初め玆に至つて奏功せり。

〔四八八六〕
要點約言

（第四八型ホ）

白四の二間夾返しに對して黒五の尖附は、白の眼を奪つては強く攻撃するも、意ある着なるも、此手段多く無理なり。（二間夾の場合も同じ）

〔四八八七〕
基本圖

（第四八型ヘ）

白五は下手（黒）を紛らはせるため、段に約へ可なり。以下黒の不結果必ず黒優るべし。（四〇〇四※）

〔四八八八〕
常形

白ロに覆壓し來りし時、黒一、三及び白二、四は共に必然の着手なり。黒五での他に種々なる手段あれど、最も穩健なる。白六、堅實。本圖※

〔四八八九〕
黒の形亂れず

白は次にイの包擊に躍出づ。黒七は絶對なり。白十四に對して黒乃之を目論見つゝ、六に至つて□の一子、敵の重圍に落つ。されど□の黒に種々なる味あり。（次圖）

〔四八九〇〕
黒に手段あり

黒□の一子、既に敵圍に落ちたるも未だ命脈を絶たず。黒乃ち之を内に呼應して、外相ひ三、五。黒の棋威燄遂に死せしも、三子黒※

〔四八九一〕
黒、一策なり

黒七を先にするも、面白し。十九の二段に約へは十手筋に映ゆ。白二一なれば黒ハイ、白ロなれば黒ホ。

〔四八九二〕
白潰滅す

白十は大惡手なり。黒十一以下の息も吐かせぬ猛攻連撃。白軍應戰の甲斐なく、大石遂に潰ゆ。

〔四八九三〕
白の要石死す

白六、輕卒なり。黒七、たゞ一に造んで次に黒イと下るに及び、白十の狙ひ急なり。白十、黒乃ち一に斷つ。白の連絡の途を今や無し。生還の

〔四八九四〕
隅に手を生ず

白十なれば黒十一。白十二を十四なれば、黒五にて劫。黒十三、妙じく劫を生ず。白十四と攻合なれば、黒イと五の手を數を延し、尋で白ロの時、黒十四にて黒宜し。

〔四八九五〕
黒豫定の策戰

黒五、而して七、九は兵神速、不識庵の用兵を彷彿とせしむ。黒後に十三の鋭を出切りを伏せり。

〔四八九六〕
白大敗

白十八、二十惡し。黒二五に至つて白は泥濘に足を陷れしが如く動き取れず。又白八も十手を十九に綿れば、黒十八、白イ、黒ニにて此形も黒良し。

〔四八九七〕
黒優勢

白十を先にせば、黒乃ち十一に押し、白十二の時、黒十三に輕快の無雙の武者振りを示す。三の打拔きにて三ヶ所に利きを持つて一に競り立て白十二の時黒十三に治まつては黒の形良し。

〔四八九八〕
黒形働きあり

白十は確かなれど稍緩し。黒乃ち十一に立て白十二に治まつては黒の形良し。

〔四九〇一〕
定石

黒二以下一間夾、二間夾の場合と全く相同じ。參照のこと。たゞ一間夾より一間夾は二間夾よりは三間夾の方が遠ざかるだけ黒有利と知るべし。

〔四九〇二〕
互角の分れ

白三なれば、黒四。いま白五は兩軍垂涎の地點。黒若し此處に白イの狙ひ急なり。

〔四九〇三〕
場合の手段也

此形、一間夾、二間夾の一部を參照。白十一に中原翔飛を遂ぐ。白次にイに黒ロの挑を含んで此處は輕き意味にて手段すること妙あり。

〔四九〇四〕
白も打てる形

黒四に逆撃、意氣敵を呑む。四は結果一間夾にては多くは可なれど二間夾にては白□にあり。三間夾にては白□にて打過ぎる形となる。黒時。白七に粘ぐ手此場合宜し。八粘

〔四九〇五〕
白優れり

白九。黒の常套を脱して十、十一。部黒線異狀あり。東十二に突破す。黒見有利なるが如し。されど白二に至つて觀望、反つて白は一石を之、黒三分せら※

〔四九〇六〕
常形

白一、三。黒も亦寛厚、隨つて行ぶ、宜し。白五に黒六、一瞬要衝、共に緩急を許さず。白肝要、且つ密かに白次にイを狙ふ。

〔四九〇〇〕
基本圖

（第四八型ト）

黒五の斜走は前の一間、二間夾の中間にもあり。之は四にも迫りながら二の白を廣く包圍せんとする手段なり。※

〔四九〇九〕
要點約言

（第四八型ヘ）

白五の附けは好ず。此時は黒イ、白ロ、黒ハ、白ニとなつて次に黒ホと段あり。ホは確實の手段にて何れも其結果黒惡しかからず。

〔四九一〇〕
黒の一手

白一、二間夾、黒乃ち十一に押し、白十二の時、黒十三に競り立て白十四に治まつては黒の形良し。

〔四九一一〕
黒形働きあり

白十は確かなれど稍緩し。黒乃ち十一に立て白十二に治まつては黒の形良し。

〔四九一二〕
黒豫勢

白十を先にせば、黒乃ち十一に押し、白十二の時、黒十三に輕快の無雙の武者振りを示す。三の打拔きにて三ヶ所に利きを持つて次にロの三二の兩脫み。

〔四九一三〕
白大敗

白十八、二十惡し。黒二五に至つて白は泥濘に足を陷れしが如く動き取れず。又白八も十手を十九に綿れば、黒十八、白イ、黒ニにて此形も黒良し。

〔四九一四〕
黒豫定の策戰

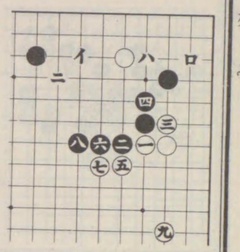
黒五、而して七、九は兵神速、不識庵の用兵を彷彿とせしむ。黒後に十三の鋭を出切りを伏せり。

【四九〇七】白は隅を覗ふ

黒いま二。白三と黒四の交換は白働けり。黒十では、イ位のものになれど、イ又黒イをハにても然らば白ロの筋。白ロの意味は未だ消えず。

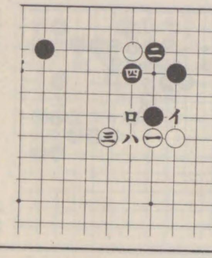
【四九〇八】常形

白一。黒二もあり。白三を四なれば黒イ、白ロに切つて戦ふ。黒ハ間に夾三九八三圖以下参照。想へ黒二は退守に似て而も後日の伏せるを。鋭攻を

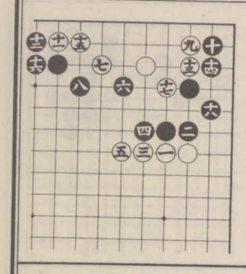


【四九〇九】互角の分れ

黒二と約へ込む手あり、先ず自ら根據を固うして鋒を養ひ、而して後鋭鋒に能く千里の威を用ひんとの外に白三を四なれば白五をイなれば*



*黒直ちに切つて戦はんとす。



【四九一〇】黒厚し

黒六にて兵甲を列ねて圍みに攻む。白が一間に高く東へ備へを卒然七に閉ぢ一路にに赴きねて救ひしは正に豹を見てるざるを。白は前圖を堅り。白は前圖を堅り。白は前圖を堅り

〔四九三〇〕白稍厚し

白若し征を五なれば白六の征）宜しけれ出す手あり。黒九にて十一、白イ。

〔四九三一〕黒善し

白六の筋、重し。爲に黒七への絶好のチャンスを握る。かくて黒一、三も躍動し始めぬ。黒以下向よろ前無きの棋威、蓋し偶然ならず。

〔四九三二〕黒打てる形

白二なれば、黒三が筋なり。黒九は寄に躍る絶妙の一手。棋歩。白若し十一でイに打てば黒ロで黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ、白＊。

〔四九三三〕白難戰

白八なれば、黒九。黒十三、十五宜し。此形、白大にイなれば黒ロをハなれば黒ロに白イに白ホ、黒ニに白ヘに尋で黒ホに躍進して東西より白を攻め撃つ。白難戰なり。

〔四九三四〕黒不敗の形

白十なれば、黒十一に掩撃す。白十二に出れば、黒ロの筋。黒十七に至つては陣容優としてすべからざるもの有り。黒不敗の地に立てり。

〔四九三五〕黒可なり

黒一と輕崎を縦つ。此時、白二と退守せしは、驚風の儘者に類せり。黒三となつては此形四九二八圖より黒優る。白四なれば黒五。又白四をイなれば黒ロ。

〔四九三六〕要點約言

（第四八型チ）

黒イ及びロは四の白に接し、つゝも其の眞意は白の二を大きく包圍せんとする手段。手筋として稍無理と場合によりては面白し。

〔四九三七〕要點約言

（第四八型全部）

白四の二間夾返しの攻好着緩和する唯一の好なり。次に此形に黒イにて黒ロの尖常形なれば白ホ、黒ニ、白ヘ、黒ハ、白ト、黒ヌ、白＊。

〔四九三八〕要點約言

（第四八型全部）

白六では白イ常形なれど、別法として中を打たとするにはイをロとするには主とするにはハ。又地を黒を隔て戰ばんとするにはニ或は＊。

〔四九三九〕要點約言

（第四八型全部）

黒イの尖附は嚴しけれど稍無理筋。ロは筋違ひの意味あり。次に黒ハ、ホは皆四に迫りながら實はニを廣く圍まんとす、場合の手段なり。

〔四九四〇〕基本圖

（第四九型）

白、四の一間夾返しはイの二間夾返しよりも急激なり。白は蓋し黒の一の動き見て右邊に形勢を得んとする手段なり。（四の＊圖）

〔四九四一〕基本圖

（第四九型イ）

黒五は變化簡明にしてなほ最も好形なり。猶黒五にはイ（五〇〇八圖）又はロ（五〇六圖）の手段もあり。

〔四九四二〕定石

既にして黒五。白六而して十に八に構ふ。黒で尋ね。黒十一に守し、黒ロに補の備と鍬れり。此は正に形、黒の方打易し。

〔四九四三〕黒優れり

白いま五に廣拓す。黒六をイも手筋なれど六に比せば稍輕。黒六は蓋し厚手なり。

〔四九四四〕黒大に優れり

黒既に十。虚々實々危機百出。然白十一！黒卽ち二善し！意沖二天！十三、十四まで！は十五は無理なり。イの補ひし二は缺は正着なり。

〔四九四五〕白慘敗

白一は、断崖の上に立ちて見得を切りながら如く暴な一瞬顚落し。黒二！白ニ、黒ヌ！大慘敗へ。白七、黒八！白十二、黒十一に無理。白をイな＊。

＊れば黒七。（白一は前圖十三）

〔四九四六〕黒有利の持

白一。黒二は急所の一撃！白仰天す。白三にて、白は黒三から我を穴に陷るる亡滅の淵！白十なれば黒理劫なり。（七ッグ）

〔四九四七〕黒優れり

白三、五。黒は水の逝出するが如き勢六！白七を八れなれば黒に揚るて、黒イにて凱歌！（白七よりの變化は、天圖）。

〔四九四八〕黒勢確なり

白七、九。黒は二と四を秋の打捨てゝ十に肝要の三子を救ふ。黒遂に六八に南北に整ひ中央白の一團に陣成る、衰れさそふ秋風ぞ吹く。

〔四九四九〕場合による

白九以下十五もあり。白十七にて白イは黒ロにて白惡し（次圖）黒十八にて黒惡し。白十八、黒九。＊圖の結果白イなれば、黒ロ。

〔四九五〇〕白潰滅に近し

白十七惡し。黒二十にて二一もあり。白二一で二八なれば、白二九。今や黒抛を要、白五の興。此一劫に劫あり。黒敗す。黒三十絶好の劫抛！（三ッグ劫トル）

〔四九五一〕白惡し

黒三十の劫抛に前圖絶！乃ち白はその劫抛を無く十五の堅ためた。黒も然ら堅し。二十で宜し、此形は黒堅くなり、粘ば、黒利を占む。且つ實、白味惡し。反之、

〔四九五二〕黒稍優れり

風雅必ずしも可ならず、粗野ず。黒二以下不可なら八まで月花を餘所にせし、粗野健剛の足どり、白惡しも黒惡し斯くの打つも黒惡しからず。

＊先手なれど黒も隅を確定し得たり。（七ッグ）

【四九五三】
黒軽快なり

黒二は組んづ転び合つの捉ひ避けもの。尤も黒三も軽妙。面白し。黒イの如くなれば段厳し。白イの逃出し手筋要注意肝要なり。

【四九五四】
黒悪しからず

黒四以下、二の一子を徴妙なる犠牲として奔逃す。黒の手段面白し。果然黒十二と下に厚味を加へ、一転十。四と上を整形せり。尤も黒十四はイ※

【四九五五】
要點約言（甲）

（第四九型イ）

以上、白十六の稍無理なる白を知るべし。即ち白十と廣く拓せば時は黒十一五までを可とす。

【四九五六】
黒優れり

黒八は急所致命の（七）手抜撃。白陣應動搖す。白九はイで㋺せり。白は何れも戦跡を爲に誤を誘なり。（次圖以下）

【四九五七】
白凝形なり

黒一は前圖八。白二なれば、黒三にて宜し。尤も黒三雫崔飛ぶ空の朗かさを示すも亦佳なり。

【四九五八】
黒厚壮なり

物の哀れは桐一葉に知らるといへど、白六、八はあるに甲斐なき我身かなと泣きたいやうな詰らぬ手を打つ。白イ、白㋺、黒イで、白軍崩る。

※或は他にも種々打方あるべし。

【四九五九】
白小可の形

黒三は白をして四で五に粘がしめ、尋で黒イに脱兎が網を破る。の勢を見せんとす。されど白果て黒三は緩。白果て、四の好防。稍緊へり。

【四九六〇】
黒優れり

白二もあり。黒三は必然。黒五、七は間もなく白生動し、地を得たり。約八目の勢なり。可黒イにて白の陣容崩る。

【四九六一】
黒面白し

白八、十。十は蓋し形なり。黒十一は曲り。白㋺はいまや厚極まる瀕死の苦しみんで此形十まで攻撃さるるは黒の危機。未だ全くは去らず。

【四九六二】
黒大いに利

白六、黒乃ち七、九。黒軍の拙歩澁渕、白は根據を失ひ、黒は地を得たり。よしや白一手の手抜きをなすとも白の損害は其の位には代へ難し。

【四九六三】
黒稍利勢

黒五、七も悪しからず。さるれば白七と前圖の如く黒を先はるるに宜。白八、黒十二、白十四し、黒十五の手順なり。白の故に大道をは㋺減する。

【四九六四】
白稍可なり

黒五、七手順悪し。白は要點之を白八目の約に加へ、地を得たり。七まで四の白生動し、黒稍弱し。此形一圖參照。白イの逃出厳し。

【四九六五】
黒勢優る

白二は、無恥か厚顔か、窮餘に出でしか、策か、蓋し佳観にあらず。黒尋で三あり。花笑ひ、風薫るの好調、又初白二をイなども白㋺に拓きし一子働きをなさず。

【四九六六】
要點約言（乙）

（第四九型イ）

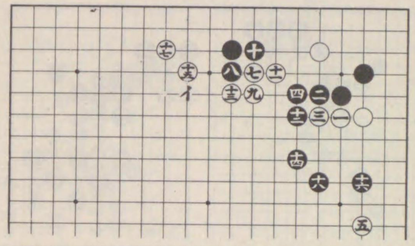
白十と廣く拓き、黒十一。此時白手抜きするは無謀なり。黒十三は急所を抜き、黒十三は苦し、白は一撃、白は血を吐く思ひ不如歸。（主）手抜

【四九六七】
黒低く好まず

（六）手抜

黒六で手抜きするは絶好のチャンス。七に奔馬の如く躍り出づ。俄然右辺の白四子生動する。黒四の一子危機漸く迫る。黒十四で十五の覆壓の切違ひ、非常用手筋。此に於ける黒十六、十八の二十の二悪形に陥れば、白は十七、十九の二以下黒八、白は十七、十九

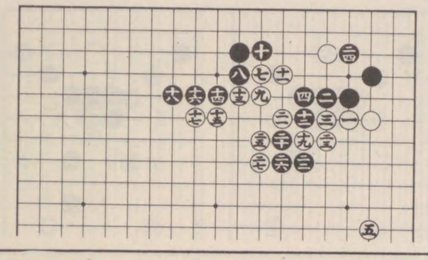
〔四九七二〕 正形



六手抜

白十五！黒は之に倍する勢。空間に風を成して切り下す。即ち十六。黒可なり。

〔四九七三〕 場合による



前圖二十二より變化二三と當て然る方白二三の粘さ愚形なれど白より二五、二七となりて黒の三子重くなるなり。故に斯く白に二一と切截されては黒まずさらはし。

六手抜

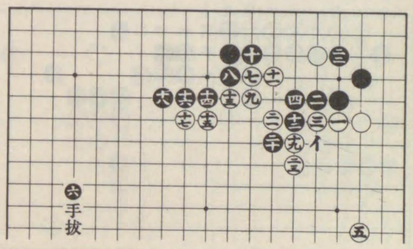
〔四九七四〕 白の形整ふ

黒いま十四。白乃ち十五、十七の後十九に封鎖を策す。白二隅に切断！黒此時二一に退き守る。白三三、白軍二皇に尋で三三に旗甲鮮麗、外勢白壮んなり。

〔四九七五〕 黒先着の效有

白直ちに五と遁竄を圖りしは、黒十に暗し。遂に黒十八の強壓を喫ふに至つて、白は烈風の前のバラックの似たるか、動搖甚し。

〔四九七六〕 白敗る



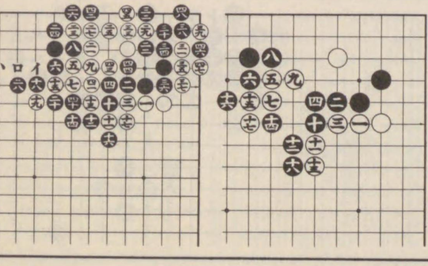
六手抜

驕る者如何で久しからんや、白十三と兵になり。驕れる無理を白十九と手なれば、白二十なれば黒二二。白二四、黒四三にて同じく白寄劫。

〔四九七七〕 黒攻合勝

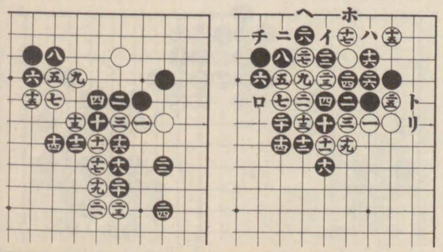
白二、三、二六、善。黒九を四十なれば、白一、二三、黒三三、黒四一、九、白二、九、白イ、二、十、九、黒ロに曲るも又二一、九、白三三、九十と附けて前變化と略同じ。白三六の綿。黒若し此を綿に粘して四九と延ばせば、黒二と四の一手を綿げば、白ハ斯く綿粘して其手數は圖に比して黒遙かに多し。

〔四九七八〕 白慘敗す



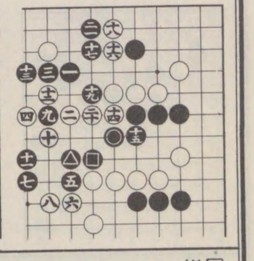
白十五惡し。黒十六銳し。是より後白の運命は急坂を轉る石の落ち行く慘果で、即ち白二九の凋。白ニは黒ロ、白ニ以下黒リまで。

〔四九七九〕 黒小利を負る



黒十六は逆なり、惡し。かくて黒二四まで一以下の二白三子を生擒せるも中央の黒十二と十四の二子は果敢、加之運命未だ遣味少からず。

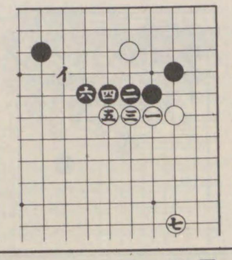
〔四九八〇〕 黒可なり



先勝 **關田正義** 五段
關山利一 四段

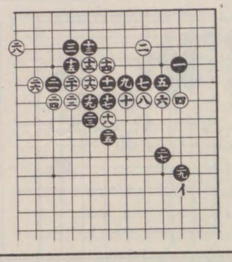
此形、黒◉㊀あり。即ち、黒一の時、白二と出路を求めしも黒三と強腹して黒◉㊀の効果爍然たり。

〔四九八一〕 場合



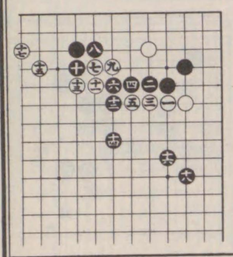
白五、七は右下隅白小目(四の十七)黒小桂馬懸り(三の十五)の場合など働き最も著し。此形猶上隅には白イの手段あり。

〔四九八二〕 定石



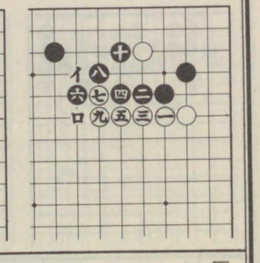
白十而して直ちに十二の如何にも逸出。局勢實戰に最も多く見る形。以下本海戰！黒二で二八なれば白も二九。

〔四九八三〕 分れ黒稍有利



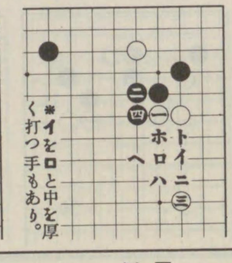
白十三。黒十四に明朗濶達の躍進！白十六で大きく善し。黒は十七、黒十八、共に堅實。十八まで略同じ形に前圖と共に黒稍優る。

〔四九八四〕 場合



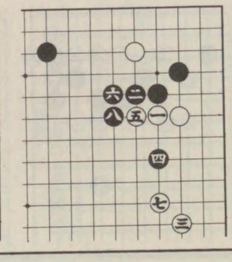
黒六は白のイを防ぐ。黒十まで得を牧めしも、白も亦七、九に厚を加へ、且つ白ロの利れる殘れるに隅に利し、白は勢を得。黒六は主隅従央の手なり。

〔四九八五〕 黒堅實なり



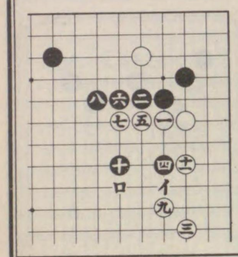
白一、三と拓けば黒は無限の厚味につき四に曲る。黒四は遺味深遠、次に白イ、黒ロ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト。又は黒＊

〔四九八六〕 常形



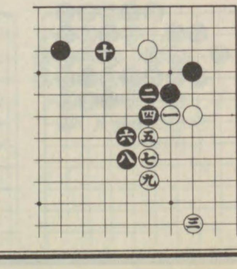
白三と、四間に拓く。此時黒四に一石を投ずるは蓋し秀策。白五の好調を得む。黒六の時に惠まれ、黒七と押して即ち五に後手を引く。黒十輕妙。其時はイに重くして善し。

〔四九八七〕 互角の形勢



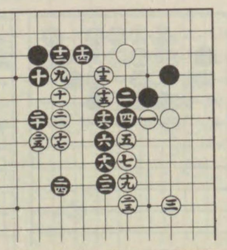
黒既に四。白境或は阿呆の巷と化せんとす。鼓噪して最も愼むべし。於て即ち五に更に七と押して後十を輕妙。其時はイに封鎖す。

〔四九八八〕 黒打易し



黒いま四、六更に八。而して轉鋒黒十に上隅の守りを固うす。かくなるも黒は隅の地大なり、且つ勢も厚く、黒さして打易き形なり。

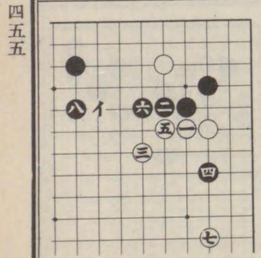
〔四九八九〕 黒可なり



先林 **小林鐵次郎** 當時六段
番勝 **秀榮** 當時六段

白九は常形なり。黒十六の缺陷を防ぐに先だつ白十五との交換を遂げしは手順善し。黒二四、要點なり。

〔四九九〇〕 常形



白三もあり。黒四好着なり。蓋し、白五を得むを好まず、而も黒六の時に惠まれ、黒七と押して即ち五に後手を引く。黒十輕妙。其時はイに封鎖す。

〔四九九一〕
白悪し

虎を畫いて猫に類す。白五は佳手に似て惡手なり。黒六、八、あい、白七肺腑を抉る！白七にて八なれば黒□、白九でイは黒ニ。

〔四九九二〕
黒堅實なり

白、直ちに七。黒は八、十に左の一手、尋で十二に虎鉗を負ふ！尤も黒十二はイも宜し。此形白九、三共に愚化せり。

〔四九九三〕
黒の形好まず

黒十も一策なり。されどこれは魔つた魚の如く、味惡し。白十七でイは□と二手あり。イは中央を厚く打出しを狙ふ手。ロはハの突つ。

〔四九九四〕
黒好まず

黒四と白の□を包むとも、黒は胸の□に危惧なし。黒四は蓋し拙みなり。

〔四九九五〕
特種の手段

棋鋒北を指せばまた南にも脅威あるべし。倘、黒一、次に北、白□を睨む。黒時に此手段あり。

〔四九九六〕
場合の手段

突如揚る北海東隅の烽火！即ち白三！三形なり。黒六で七は惡し。（次々圖）黒十二はイもあり。蓋し十二はイは急攻手段も稍緩なり。

〔四九九七〕
黒堅且地あり

黒二の時、戰機□の邊に白熱す。然るにかく白三と退げしは聲かけられて逃げしが如き、向ひもせず、生綾手なり。黒四と離取す。黒隅の利大なり。

〔四九九八〕
白正味を取る

黒六好まず。白はイの切斷を狙ひつつ先づ七、九と□の一團を成す。一團の沈着穩健也。白七は敵の固めを破る。白イは無理。白直ちに十五を十六なれば黒□。

〔四九九九〕
白面白き形勢

黒八。此時、普通は、白イと押すべし。倘、黒イと此形にては□を綽ねられて白九を窮す。白は延いて避けしもの此場合面白し。

〔五〇〇〇〕
互角の勢

白九。黒果して十二の緊形なり。但し、黒十二で直ちにイ、白十二と強く攻むるも黒□と手段なく、攻切れば白には未だ眼形無し。

〔五〇〇一〕
白優れり

黒八は□と五との三子を駄目詰まりとす。然し黒取せずして其形重し。白遂に左十九と右十九とを一手にて連絡す。黒好形なり。

〔五〇〇二〕
黒の非望成就

白七、九は敵を咎むるに急にして猪突破滅の淵に自ら進む。白三で一手寄劫となり白二を取れば黒二六は黒二三。

〔五〇〇三〕
白敗慘

白二一に權變を弄すれば、黒ま二に逆撃。黒善し。黒二六は頂門の一針。白目詰めに乗じて十手段を反撃。白二取れば、十なれば、沈着の佳手なり。白の三六の約を妨げ且つ三四へ一目取を見る。黒一目切處に決勝を握る。白三五を黒三二に約れば、白六に善勝なり。

〔五〇〇四〕
黒劫勝

白十七。此時黒は□の白の一團の駄目詰めに乗じて反撃の強手段を取る。白二十なれば、黒四、十一、黒□にて黒勝なり。

〔五〇〇五〕
場合

白一の着意は此手を二と押して□を弱に孤立せしめ、且つ白の形勢を好まざるに乗じ、白の右邊に形を張るを好まぬ場合に用ふる手段なり。黒二では※イもあり、然らば白□。

〔五〇〇六〕
要點約言（丙）（第四九型イ）

黒六にてイは白□但し、白□にて直ちに黒八と急攻せば却て黒に乘ぜらるる。此所勝敗の轉變は掌を返すよりも速かなり、心せよ。

〔五〇〇七〕
要點約言（第四九型イ）

白六までは定型。次に黒にイと□とあり。次にハは定型。白七にイとニとを見る。蓋し場合の手段なり。

〔五〇〇八〕
基本圖（第四九型□）

黒五の頂あり。此手前型の如くイれば白より右邊に形勢を張らん場合にて面白からぬ場合に、打つ手なり。二六三八及び※

〔五〇〇九〕
基本圖（第四九型□の一）

白六の時、黒に二法あり。七とイとの二法あり。七は本型の着、イ戰闘本型の横寢せる手、既に其着意異れり。

〔五〇一〇〕
定石

白八は、太鼓の皮の如く最も多く打たるる手なり。但し此手はイまたは□或はハ、而して白九時黒十一、蓋し白の形なり。

〔五〇一一〕
場合

黒二は、先づ守つて後攻勢に轉ぜんとするの作戰なり。白三で黒イは黒ニ。白ハをホなれば、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ。

〔五〇一二〕
黒堅し

白五、以下黒六、白七。黒十と行びし日は堅守して徐に他に轉ずるなり。但し黒は前圖の如くイもあり。

〔五〇一三〕
黒一策なり

黒六もあり、以下白七、十二、十三、白十四、黒は必ず黒可なり。

〔五〇一四〕
場合の手段

黒二に飛べば白三、五大に七の跳躍、實戦に常に見る形なり。黒二十肝要。之をイは白ロにて隅の黒味悪し。

〔五〇一五〕
常形

一目勝　林有太郎六段　當時
先番關山利一三段　當時

黒二手抜、白三、五なれば黒は六、八次に十に守る手此形白イなれば※

〔五〇一六〕
黒活

黒いは一と飛込みし泥沼の二と打たれて、些か抜差しなるも氣味合ひ。白三以下の盤上十四まで辛し。黒の勢容盤んなり。反之、右邊の白未だ薄弱なり。

〔五〇一七〕
互角の利勢

白一と堅く粘る手も一應あり。黒二は邊疆獨張の位取、時に此手段もあり。黒八は厚壯。されど隅堅守の策もあり。

〔五〇一八〕
参考圖

常形

黒二で白の三を導き、尋で四もあり。白七で黒はイ、或はロの拓き、或は直ちにハまたはニに活動を起すも一つに形勢如何による。

〔五〇一九〕
形勢互角

白一は、恰かもそれ古武士の風格、實に剛健、枚を銜んで堅持するに似たり。黒は尋でイ位のものかく打てば逃り居し白、△が一線の命脈遂に絶ゆ。

〔五〇二〇〕
黒稍善し

白一、三は形、路今や前に開かる。黒六にて九は悪し。（參圖）黒八でしも（五〇圖）には一三圖あり。

黒十四は好點！風颯々雲茫漠、東邊今や天地暗し。

〔五〇二一〕
白反噬の猛威

地の利も人の和にも各子の和を缺けるも如かず。黒六は無理なり。白七にて先手を得、十、七、十二と蓋して三に飛ぶの外なし。黒八は好手順なり。白二の翼を出せば勢好ましからず。

〔五〇二二〕
黒優れり

白一而して三、五手順悪し。黒乃ち六、八果然白二の九まで左右兩遂に黒石のみ。辛活の厚壯！三十に夾撃はイもあり。二八で

〔五〇二三〕
黒稍善し

白七、黒八をイなれば、五〇二〇圖の如く白活。乃ち黒八に變化の機を呼んで出撃す。黒十亭で善し。黒十二は黒稍好まず。（參圖）

〔五〇二四〕
白稍可なり

榮辱？勝敗？白九の時、黒は遂に損得鼓路に立つ。黒十に赴く。黒天下なり。白七は形勢不利。第一の要衝！此一子に猶ほ活動の餘地あり。

〔五〇二五〕
黒確なり

白七。黒八をイなれば、五〇二〇圖の如く白活。乃ち黒八に變化の機を呼んで出撃す。黒十亭で善し。黒十二は黒稍好まず。（參圖）

〔五〇二六〕
黒優れり

白一、三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一〇一、一〇三、一〇五、一〇七、一〇九、一一一、一一三、一一五、一一七、一一九、一二一、一二三、一二五、一二七、一二九、一三一、一三三、一三五、一三七、一三九、一四一、一四三、一四五、一四七、一四九、一五一、一五三、一五五、一五七、一五九、一六一、一六三、一六五、一六七、一六九、一七一、一七三、一七五、一七七、一七九、一八一、一八三、一八五、一八七、一八九、一九一、一九三、一九五、一九七、一九九、二〇一、二〇三、二〇五、二〇七、二〇九、二一一、二一三、二一五、二一七、二一九、二二一、二二三、二二五、二二七、二二九、二三一、二三三、二三五、二三七、二三九、二四一、二四三、二四五、二四七、二四九、二五一、二五三、二五五、二五七、二五九、二六一、二六三、二六五、二六七、二六九、二七一、二七三、二七五、二七七、二七九、二八一、二八三、二八五、二八七、二八九、二九一、二九三、二九五、二九七、二九九、三〇一、三〇三、三〇五、三〇七、三〇九、三一一、三一三、三一五、三一七、三一九、三二一、三二三、三二五、三二七、三二九、三三一、三三三、三三五、三三七、三三九、三四一、三四三、三四五、三四七、三四九、三五一、三五三、三五五、三五七、三五九、三六一、三六三、三六五、三六七、三六九、三七一、三七三、三七五、三七七、三七九、三八一、三八三、三八五、三八七、三八九、三九一、三九三、三九五、三九七、三九九、四〇一、四〇三、四〇五、四〇七、四〇九、四一一、四一三、四一五、四一七、四一九、四二一、四二三、四二五、四二七、四二九、四三一、四三三、四三五、四三七、四三九、四四一、四四三、四四五、四四七、四四九、四五一、四五三、四五五、四五七、四五九、四六一、四六三、四六五、四六七、四六九、四七一、四七三、四七五、四七七、四七九、四八一、四八三、四八五、四八七、四八九、四九一、四九三、四九五、四九七、四九九、五〇一、五〇三、五〇五、五〇七、五〇九、五一一、五一三、五一五、五一七、五一九、五二一、五二三、五二五、五二七、五二九、五三一、五三三、五三五、五三七、五三九、五四一、五四三、五四五、五四七、五四九、五五一、五五三、五五五、五五七、五五九、五六一、五六三、五六五、五六七、五六九、五七一、五七三、五七五、五七七、五七九、五八一、五八三、五八五、五八七、五八九、五九一、五九三、五九五、五九七、五九九、六〇一、六〇三、六〇五、六〇七、六〇九、六一一、六一三、六一五、六一七、六一九、六二一、六二三、六二五、六二七、六二九、六三一、六三三、六三五、六三七、六三九、六四一、六四三、六四五、六四七、六四九、六五一、六五三、六五五、六五七、六五九、六六一、六六三、六六五、六六七、六六九、六七一、六七三、六七五、六七七、六七九、六八一、六八三、六八五、六八七、六八九、六九一、六九三、六九五、六九七、六九九、七〇一、七〇三、七〇五、七〇七、七〇九、七一一、七一三、七一五、七一七、七一九、七二一、七二三、七二五、七二七、七二九、七三一、七三三、七三五、七三七、七三九、七四一、七四三、七四五、七四七、七四九、七五一、七五三、七五五、七五七、七五九、七六一、七六三、七六五、七六七、七六九、七七一、七七三、七七五、七七七、七七九、七八一、七八三、七八五、七八七、七八九、七九一、七九三、七九五、七九七、七九九、八〇一、八〇三、八〇五、八〇七、八〇九、八一一、八一三、八一五、八一七、八一九、八二一、八二三、八二五、八二七、八二九、八三一、八三三、八三五、八三七、八三九、八四一、八四三、八四五、八四七、八四九、八五一、八五三、八五五、八五七、八五九、八六一、八六三、八六五、八六七、八六九、八七一、八七三、八七五、八七七、八七九、八八一、八八三、八八五、八八七、八八九、八九一、八九三、八九五、八九七、八九九、九〇一、九〇三、九〇五、九〇七、九〇九、九一一、九一三、九一五、九一七、九一九、九二一、九二三、九二五、九二七、九二九、九三一、九三三、九三五、九三七、九三九、九四一、九四三、九四五、九四七、九四九、九五一、九五三、九五五、九五七、九五九、九六一、九六三、九六五、九六七、九六九、九七一、九七三、九七五、九七七、九七九、九八一、九八三、九八五、九八七、九八九、九九一、九九三、九九五、九九七、九九九、一〇〇一、一〇〇三、一〇〇五、一〇〇七、一〇〇九、一〇一一、一〇一三、一〇一五、一〇一七、一〇一九、一〇二一、一〇二三、一〇二五、一〇二七、一〇二九、一〇三一、一〇三三、一〇三五、一〇三七、一〇三九、一〇四一、一〇四三、一〇四五、一〇四七、一〇四九、一〇五一、一〇五三、一〇五五、一〇五七、一〇五九、一〇六一、一〇六三、一〇六五、一〇六七、一〇六九、一〇七一、一〇七三、一〇七五、一〇七七、一〇七九、一〇八一、一〇八三、一〇八五、一〇八七、一〇八九、一〇九一、一〇九三、一〇九五、一〇九七、一〇九九、一一〇一、一一〇三、一一〇五、一一〇七、一一〇九、一一一一、一一一三、一一一五、一一一七、一一一九、一一二一、一一二三、一一二五、一一二七、一一二九、一一三一、一一三三、一一三五、一一三七、一一三九、一一四一、一一四三、一一四五、一一四七、一一四九、一一五一、一一五三、一一五五、一一五七、一一五九、一一六一、一一六三、一一六五、一一六七、一一六九、一一七一、一一七三、一一七五、一一七七、一一七九、一一八一、一一八三、一一八五、一一八七、一一八九、一一九一、一一九三、一一九五、一一九七、一一九九、一二〇一、一二〇三、一二〇五、一二〇七、一二〇九、一二一一、一二一三、一二一五、一二一七、一二一九、一二二一、一二二三、一二二五、一二二七、一二二九、一二三一、一二三三、一二三五、一二三七、一二三九、一二四一、一二四三、一二四五、一二四七、一二四九、一二五一、一二五三、一二五五、一二五七、一二五九、一二六一、一二六三、一二六五、一二六七、一二六九、一二七一、一二七三、一二七五、一二七七、一二七九、一二八一、一二八三、一二八五、一二八七、一二八九、一二九一、一二九三、一二九五、一二九七、一二九九、一三〇一、一三〇三、一三〇五、一三〇七、一三〇九、一三一一、一三一三、一三一五、一三一七、一三一九、一三二一、一三二三、一三二五、一三二七、一三二九、一三三一、一三三三、一三三五、一三三七、一三三九、一三四一、一三四三、一三四五、一三四七、一三四九、一三五一、一三五三、一三五五、一三五七、一三五九、一三六一、一三六三、一三六五、一三六七、一三六九、一三七一、一三七三、一三七五、一三七七、一三七九、一三八一、一三八三、一三八五、一三八七、一三八九、一三九一、一三九三、一三九五、一三九七、一三九九、一四〇一、一四〇三、一四〇五、一四〇七、一四〇九、一四一一、一四一三、一四一五、一四一七、一四一九、一四二一、一四二三、一四二五、一四二七、一四二九、一四三一、一四三三、一四三五、一四三七、一四三九、一四四一、一四四三、一四四五、一四四七、一四四九、一四五一、一四五三、一四五五、一四五七、一四五九、一四六一、一四六三、一四六五、一四六七、一四六九、一四七一、一四七三、一四七五、一四七七、一四七九、一四八一、一四八三、一四八五、一四八七、一四八九、一四九一、一四九三、一四九五、一四九七、一四九九、一五〇一、一五〇三、一五〇五、一五〇七、一五〇九、一五一一、一五一三、一五一五、一五一七、一五一九、一五二一、一五二三、一五二五、一五二七、一五二九、一五三一、一五三三、一五三五、一五三七、一五三九、一五四一、一五四三、一五四五、一五四七、一五四九、一五五一、一五五三、一五五五、一五五七、一五五九、一五六一、一五六三、一五六五、一五六七、一五六九、一五七一、一五七三、一五七五、一五七七、一五七九、一五八一、一五八三、一五八五、一五八七、一五八九、一五九一、一五九三、一五九五、一五九七、一五九九、一六〇一、一六〇三、一六〇五、一六〇七、一六〇九、一六一一、一六一三、一六一五、一六一七、一六一九、一六二一、一六二三、一六二五、一六二七、一六二九、一六三一、一六三三、一六三五、一六三七、一六三九、一六四一、一六四三、一六四五、一六四七、一六四九、一六五一、一六五三、一六五五、一六五七、一六五九、一六六一、一六六三、一六六五、一六六七、一六六九、一六七一、一六七三、一六七五、一六七七、一六七九、一六八一、一六八三、一六八五、一六八七、一六八九、一六九一、一六九三、一六九五、一六九七、一六九九、一七〇一、一七〇三、一七〇五、一七〇七、一七〇九、一七一一、一七一三、一七一五、一七一七、一七一九、一七二一、一七二三、一七二五、一七二七、一七二九、一七三一、一七三三、一七三五、一七三七、一七三九、一七四一、一七四三、一七四五、一七四七、一七四九、一七五一、一七五三、一七五五、一七五七、一七五九、一七六一、一七六三、一七六五、一七六七、一七六九、一七七一、一七七三、一七七五、一七七七、一七七九、一七八一、一七八三、一七八五、一七八七、一七八九、一七九一、一七九三、一七九五、一七九七、一七九九、一八〇一、一八〇三、一八〇五、一八〇七、一八〇九、一八一一、一八一三、一八一五、一八一七、一八一九、一八二一、一八二三、一八二五、一八二七、一八二九、一八三一、一八三三、一八三五、一八三七、一八三九、一八四一、一八四三、一八四五、一八四七、一八四九、一八五一、一八五三、一八五五、一八五七、一八五九、一八六一、一八六三、一八六五、一八六七、一八六九、一八七一、一八七三、一八七五、一八七七、一八七九、一八八一、一八八三、一八八五、一八八七、一八八九、一八九一、一八九三、一八九五、一八九七、一八九九、一九〇一、一九〇三、一九〇五、一九〇七、一九〇九、一九一一、一九一三、一九一五、一九一七、一九一九、一九二一、一九二三、一九二五、一九二七、一九二九、一九三一、一九三三、一九三五、一九三七、一九三九、一九四一、一九四三、一九四五、一九四七、一九四九、一九五一、一九五三、一九五五、一九五七、一九五九、一九六一、一九六三、一九六五、一九六七、一九六九、一九七一、一九七三、一九七五、一九七七、一九七九、一九八一、一九八三、一九八五、一九八七、一九八九、一九九一、一九九三、一九九五、一九九七、一九九九、二〇〇一、二〇〇三、二〇〇五、二〇〇七、二〇〇九、二〇一一、二〇一三、二〇一五、二〇一七、二〇一九、二〇二一、二〇二三、二〇二五、二〇二七、二〇二九、二〇三一、二〇三三、二〇三五、二〇三七、二〇三九、二〇四一、二〇四三、二〇四五、二〇四七、二〇四九、二〇五一、二〇五三、二〇五五、二〇五七、二〇五九、二〇六一、二〇六三、二〇六五、二〇六七、二〇六九、二〇七一、二〇七三、二〇七五、二〇七七、二〇七九、二〇八一、二〇八三、二〇八五、二〇八七、二〇八九、二〇九一、二〇九三、二〇九五、二〇九七、二〇九九、二一〇一、二一〇三、二一〇五、二一〇七、二一〇九、二一一一、二一一三、二一一五、二一一七、二一一九、二一二一、二一二三、二一二五、二一二七、二一二九、二一三一、二一三三、二一三五、二一三七、二一三九、二一四一、二一四三、二一四五、二一四七、二一四九、二一五一、二一五三、二一五五、二一五七、二一五九、二一六一、二一六三、二一六五、二一六七、二一六九、二一七一、二一七三、二一七五、二一七七、二一七九、二一八一、二一八三、二一八五、二一八七、二一八九、二一九一、二一九三、二一九五、二一九七、二一九九、二二〇一、二二〇三、二二〇五、二二〇七、二二〇九、二二一一、二二一三、二二一五、二二一七、二二一九、二二二一、二二二三、二二二五、二二二七、二二二九、二二三一、二二三三、二二三五、二二三七、二二三九、二二四一、二二四三、二二四五、二二四七、二二四九、二二五一、二二五三、二二五五、二二五七、二二五九、二二六一、二二六三、二二六五、二二六七、二二六九、二二七一、二二七三、二二七五、二二七七、二二七九、二二八一、二二八三、二二八五、二二八七、二二八九、二二九一、二二九三、二二九五、二二九七、二二九九、二三〇一、二三〇三、二三〇五、二三〇七、二三〇九、二三一一、二三一三、二三一五、二三一七、二三一九、二三二一、二三二三、二三二五、二三二七、二三二九、二三三一、二三三三、二三三五、二三三七、二三三九、二三四一、二三四三、二三四五、二三四七、二三四九、二三五一、二三五三、二三五五、二三五七、二三五九、二三六一、二三六三、二三六五、二三六七、二三六九、二三七一、二三七三、二三七五、二三七七、二三七九、二三八一、二三八三、二三八五、二三八七、二三八九、二三九一、二三九三、二三九五、二三九七、二三九九、二四〇一、二四〇三、二四〇五、二四〇七、二四〇九、二四一一、二四一三、二四一五、二四一七、二四一九、二四二一、二四二三、二四二五、二四二七、二四二九、二四三一、二四三三、二四三五、二四三七、二四三九、二四四一、二四四三、二四四五、二四四七、二四四九、二四五一、二四五三、二四五五、二四五七、二四五九、二四六一、二四六三、二四六五、二四六七、二四六九、二四七一、二四七三、二四七五、二四七七、二四七九、二四八一、二四八三、二四八五、二四八七、二四八九、二四九一、二四九三、二四九五、二四九七、二四九九、二五〇一、二五〇三、二五〇五、二五〇七、二五〇九、二五一一、二五一三、二五一五、二五一七、二五一九、二五二一、二五二三、二五二五、二五二七、二五二九、二五三一、二五三三、二五三五、二五三七、二五三九、二五四一、二五四三、二五四五、二五四七、二五四九、二五五一、二五五三、二五五五、二五五七、二五五九、二五六一、二五六三、二五六五、二五六七、二五六九、二五七一、二五七三、二五七五、二五七七、二五七九、二五八一、二五八三、二五八五、二五八七、二五八九、二五九一、二五九三、二五九五、二五九七、二五九九、二六〇一、二六〇三、二六〇五、二六〇七、二六〇九、二六一一、二六一三、二六一五、二六一七、二六一九、二六二一、二六二三、二六二五、二六二七、二六二九、二六三一、二六三三、二六三五、二六三七、二六三九、二六四一、二六四三、二六四五、二六四七、二六四九、二六五一、二六五三、二六五五、二六五七、二六五九、二六六一、二六六三、二六六五、二六六七、二六六九、二六七一、二六七三、二六七五、二六七七、二六七九、二六八一、二六八三、二六八五、二六八七、二六八九、二六九一、二六九三、二六九五、二六九七、二六九九、二七〇一、二七〇三、二七〇五、二七〇七、二七〇九、二七一一、二七一三、二七一五、二七一七、二七一九、二七二一、二七二三、二七二五、二七二七、二七二九、二七三一、二七三三、二七三五、二七三七、二七三九、二七四一、二七四三、二七四五、二七四七、二七四九、二七五一、二七五三、二七五五、二七五七、二七五九、二七六一、二七六三、二七六五、二七六七、二七六九、二七七一、二七七三、二七七五、二七七七、二七七九、二七八一、二七八三、二七八五、二七八七、二七八九、二七九一、二七九三、二七九五、二七九七、二七九九、二八〇一、二八〇三、二八〇五、二八〇七、二八〇九、二八一一、二八一三、二八一五、二八一七、二八一九、二八二一、二八二三、二八二五、二八二七、二八二九、二八三一、二八三三、二八三五、二八三七、二八三九、二八四一、二八四三、二八四五、二八四七、二八四九、二八五一、二八五三、二八五五、二八五七、二八五九、二八六一、二八六三、二八六五、二八六七、二八六九、二八七一、二八七三、二八七五、二八七七、二八七九、二八八一、二八八三、二八八五、二八八七、二八八九、二八九一、二八九三、二八九五、二八九七、二八九九、二九〇一、二九〇三、二九〇五、二九〇七、二九〇九、二九一一、二九一三、二九一五、二九一七、二九一九、二九二一、二九二三、二九二五、二九二七、二九二九、二九三一、二九三三、二九三五、二九三七、二九三九、二九四一、二九四三、二九四五、二九四七、二九四九、二九五一、二九五三、二九五五、二九五七、二九五九、二九六一、二九六三、二九六五、二九六七、二九六九、二九七一、二九七三、二九七五、二九七七、二九七九、二九八一、二九八三、二九八五、二九八七、二九八九、二九九一、二九九三、二九九五、二九九七、二九九九、三〇〇一、三〇〇三、三〇〇五、三〇〇七、三〇〇九、三〇一一、三〇一三、三〇一五、三〇一七、三〇一九、三〇二一、三〇二三、三〇二五、三〇二七、三〇二九、三〇三一、三〇三三、三〇三五、三〇三七、三〇三九、三〇四一、三〇四三、三〇四五、三〇四七、三〇四九、三〇五一、三〇五三、三〇五五、三〇五七、三〇五九、三〇六一、三〇六三、三〇六五、三〇六七、三〇六九、三〇七一、三〇七三、三〇七五、三〇七七、三〇七九、三〇八一、三〇八三、三〇八五、三〇八七、三〇八九、三〇九一、三〇九三、三〇九五、三〇九七、三〇九九、三一〇一、三一〇三、三一〇五、三一〇七、三一〇九、三一一一、三一一三、三一一五、三一一七、三一一九、三一二一、三一二三、三一二五、三一二七、三一二九、三一三一、三一三三、三一三五、三一三七、三一三九、三一四一、三一四三、三一四五、三一四七、三一四九、三一五一、三一五三、三一五五、三一五七、三一五九、三一六一、三一六三、三一六五、三一六七、三一六九、三一七一、三一七三、三一七五、三一七七、三一七九、三一八一、三一八三、三一八五、三一八七、三一八九、三一九一、三一九三、三一九五、三一九七、三一九九、三二〇一、三二〇三、三二〇五、三二〇七、三二〇九、三二一一、三二一三、三二一五、三二一七、三二一九、三二二一、三二二三、三二二五、三二二七、三二二九、三二三一、三二三三、三二三五、三二三七、三二三九、三二四一、三二四三、三二四五、三二四七、三二四九、三二五一、三二五三、三二五五、三二五七、三二五九、三二六一、三二六三、三二六五、三二六七、三二六九、三二七一、三二七三、三二七五、三二七七、三二七九、三二八一、三二八三、三二八五、三二八七、三二八九、三二九一、三二九三、三二九五、三二九七、三二九九、三三〇一、三三〇三、三三〇五、三三〇七、三三〇九、三三一一、三三一三、三三一五、三三一七、三三一九、三三二一、三三二三、三三二五、三三二七、三三二九、三三三一、三三三三、三三三五、三三三七、三三三九、三三四一、三三四三、三三四五、三三四七、三三四九、三三五一、三三五三、三三五五、三三五七、三三五九、三三六一、三三六三、三三六五、三三六七、三三六九、三三七一、三三七三、三三七五、三三七七、三三七九、三三八一、三三八三、三三八五、三三八七、三三八九、三三九一、三三九三、三三九五、三三九七、三三九九、三四〇一、三四〇三、三四〇五、三四〇七、三四〇九、三四一一、三四一三、三四一五、三四一七、三四一九、三四二一、三四二三、三四二五、三四二七、三四二九、三四三一、三四三三、三四三五、三四三七、三四三九、三四四一、三四四三、三四四五、三四四七、三四四九、三四五一、三四五三、三四五五、三四五七、三四五九、三四六一、三四六三、三四六五、三四六七、三四六九、三四七一、三四七三、三四七五、三四七七、三四七九、三四八一、三四八三、三四八五、三四八七、三四八九、三四九一、三四九三、三四九五、三四九七、三四九九、三五〇一、三五〇三、三五〇五、三五〇七、三五〇九、三五一一、三五一三、三五一五、三五一七、三五一九、三五二一、三五二三、三五二五、三五二七、三五二九、三五三一、三五三三、三五三五、三五三七、三五三九、三五四一、三五四三、三五四五、三五四七、三五四九、三五五一、三五五三、三五五五、三五五七、三五五九、三五六一、三五六三、三五六五、三五六七、三五六九、三五七一、三五七三、三五七五、三五七七、三五七九、三五八一、三五八三、三五八五、三五八七、三五八九、三五九一、三五九三、三五九五、三五九七、三五九九、三六〇一、三六〇三、三六〇五、三六〇七、三六〇九、三六一一、三六一三、三六一五、三六一七、三六一九、三六二一、三六二三、三六二五、三六二七、三六二九、三六三一、三六三三、三六三五、三六三七、三六三九、三六四一、三六四三、三六四五、三六四七、三六四九、三六五一、三六五三、三六五五、三六五七、三六五九、三六六一、三六六三、三六六五、三六六七、三六六九、三六七一、三六七三、三六七五、三六七七、三六七九、三六八一、三六八三、三六八五、三六八七、三六八九、三六九一、三六九三、三六九五、三六九七、三六九九、三七〇一、三七〇三、三七〇五、三七〇七、三七〇九、三七一一、三七一三、三七一五、三七一七、三七一九、三七二一、三七二三、三七二五、三七二七、三七二九、三七三一、三七三三、三七三五、三七三七、三七三九、三七四一、三七四三、三七四五、三七四七、三七四九、三七五一、三七五三、三七五五、三七五七、三七五九、三七六一、三七六三、三七六五、三七六七、三七六九、三七七一、三七七三、三七七五、三七七七、三七七九、三七八一、三七八三、三七八五、三七八七、三七八九、三七九一、三七九三、三七九五、三七九七、三七九九、三八〇一、三八〇三、三八〇五、三八〇七、三八〇九、三八一一、三八一三、三八一五、三八一七、三八一九、三八二一、三八二三、三八二五、三八二七、三八二九、三八三一、三八三三、三八三五、三八三七、三八三九、三八四一、三八四三、三八四五、三八四七、三八四九、三八五一、三八五三、三八五五、三八五七、三八五九、三八六一、三八六三、三八六五、三八六七、三八六九、三八七一、三八七三、三八七五、三八七七、三八七九、三八八一、三八八三、三八八五、三八八七、三八八九、三八九一、三八九三、三八九五、三八九七、三八九九、三九〇一、三九〇三、三九〇五、三九〇七、三九〇九、三九一一、三九一三、三九一五、三九一七、三九一九、三九二一、三九二三、三九二五、三九二七、三九二九、三九三一、三九三三、三九三五、三九三七、三九三九、三九四一、三九四三、三九四五、三九四七、三九四九、三九五一、三九五三、三九五五、三九五七、三九五九、三九六一、三九六三、三九六五、三九六七、三九六九、三九七一、三九七三、三九七五、三九七七、三九七九、三九八一、三九八三、三九八五、三九八七、三九八九、三九九一、三九九三、三九九五、三九九七、三九九九、四〇〇一、四〇〇三、四〇〇五、四〇〇七、四〇〇九、四〇一一、四〇一三、四〇一五、四〇一七、四〇一九、四〇二一、四〇二三、四〇二五、四〇二七、四〇二九、四〇三一、四〇三三、四〇三五、四〇三七、四〇三九、四〇四一、四〇四三、四〇四五、四〇四七、四〇四九、四〇五一、四〇五三、四〇五五、四〇五七、四〇五九、四〇六一、四〇六三、四〇六五、四〇六七、四〇六九、四〇七一、四〇七三、四〇七五、四〇七七、四〇七九、四〇八一、四〇八三、四〇八五、四〇八七、四〇八九、四〇九一、四〇九三、四〇九五、四〇九七、四〇九九、四一〇一、四一〇三、四一〇五、四一〇七、四一〇九、四一一一、四一一三、四一一五、四一一七、四一一九、四一二一、四一二三、四一二五、四一二七、四一二九、四一三一、四一三三、四一三五、四一三七、四一三九、四一四一、四一四三、四一四五、四一四七、四一四九、四一五一、四一五三、四一五五、四一五七、四一五九、四一六一、四一六三、四一六五、四一六七、四一六九、四一七一、四一七三、四一七五、四一七七、四一七九、四一八一、四一八三、四一八五、四一八七、四一八九、四一九一、四一九三、四一九五、四一九七、四一九九、四二〇一、四二〇三、四二〇五、四二〇七、四二〇九、四二一一、四二一三、四二一五、四二一七、四二一九、四二二一、四二二三、四二二五、四二二七、四二二九、四二三一、四二三三、四二三五、四二三七、四二三九、四二四一、四二四三、四二四五、四二四七、四二四九、四二五一、四二五三、四二五五、四二五七、四二五九、四二六一、四二六三、四二六五、四二六七、四二六九、四二七一、四二七三、四二七五、四二七七、四二七九、四二八一、四二八三、四二八五、四二八七、四二八九、四二九一、四二九三、四二九五、四二九七、四二九九、四三〇一、四三〇三、四三〇五、四三〇七、四三〇九、四三一一、四三一三、四三一五、四三一七、四三一九、四三二一、四三二三、四三二五、四三二七、四三二九、四三三一、四三三三、四三三五、四三三七、四三三九、四三四一、四三四三、四三四五、四三四七、四三四九、四三五一、四三五三、四三五五、四三五七、四三五九、四三六一、四三六三、四三六五、四三六七、四三六九、四三七一、四三七三、四三七五、四三七七、四三七九、四三八一、四三八三、四三八五、四三八七、四三八九、四三九一、四三九三、四三九五、四三九七、四三九九、四四〇一、四四〇三、四四〇五、四四〇七、四四〇九、四四一一、四四一三、四四一五、四四一七、四四一九、四四二一、四四二三、四四二五、四四二七、四四二九、四四三一、四四三三、四四三五、四四三七、四四三九、四四四一、四四四三、四四四五、四四四七、四四四九、四四五一、四四五三、四四五五、四四五七、四四五九、四四六一、四四六三、四四六五、四四六七、四四六九、四四七一、四四七三、四四七五、四四七七、四四七九、四四八一、四四八三、四四八五、四四八七、四四八九、四四九一、四四九三、四四九五、四四九七、四四九九、四五〇一、四五〇三、四五〇五、四五〇七、四五〇九、四五一一、四五一三、四五一五、四五一七、四五一九、四五二一、四五二三、四五二五、四五二七、四五二九、四五三一、四五三三、四五三五、四五三七、四五三九、四五四一、四五四三、四五四五、四五四七、四五四九、四五五一、四五五三、四五五五、四五五七、四五五九、四五六一、四五六三、四五六五、四五六七、四五六九、四五七一、四五七三、四五七五、四五七七、四五七九、四五八一、四五八三、四五八五、四五八七、四五八九、四五九一、四五九三、四五九五、四五九七、四五九九、四六〇一、四六〇三、四六〇五、四六〇七、四六〇九、四六一一、四六一三、四六一五、四六一七、四六一九、四六二一、四六二三、四六二五、四六二七、四六二九、四六三一、四六三三、四六三五、四六三七、四六三九、四六四一、四六四三、四六四五、四六四七、四六四九、四六五一、四六五三、四六五五、四六五七、四六五九、四六六一、四六六三、四六六五、四六六七、四六六九、四六七一、四六七三、四六七五、四六七七、四六七九、四六八一、四六八三、四六八五、四六八七、四六八九、四六九一、四六九三、四六九五、四六九七、四六九九、四七〇一、四七〇三、四七〇五、四七〇七、四七〇九、四七一一、四七一三、四七一五、四七一七、四七一九、四七二一、四七二三、四七二五、四七二七、四七二九、四七三一、四七三三、四七三五、四七三七、四七三九、四七四一、四七四三、四七四五、四七四七、四七四九、四七五一、四七五三、四七五五、四七五七、四七五九、四七六一、四七六三、四七六五、四七六七、四七六九、四七七一、四七七三、四七七五、四七七七、四七七九、四七八一、四七八三、四七八五、四七八七、四七八九、四七九一、四七九三、四七九五、四七九七、四七九九、四八〇一、四八〇三、四八〇五、四八〇七、四八〇九、四八一一、四八一三、四八一五、四八一七、四八一九、四八二一、四八二三、四八二五、四八二七、四八二九、四八三一、四八三三、四八三五、四八三七、四八三九、四八四一、四八四三、四八四五、四八四七、四八四九、四八五一、四八五三、四八五五、四八五七、四八五九、四八六一、四八六三、四八六五、四八六七、四八六九、四八七一、四八七三、四八七五、四八七七、四八七九、四八八一、四八八三、四八八五、四八八七、四八八九、四八九一、四八九三、四八九五、四八九七、四八九九、四九〇一、四九〇三、四九〇五、四九〇七、四九〇九、四九一一、四九一三、四九一五、四九一七、四九一九、四九二一、四九二三、四九二五、四九二七、四九二九、四九三一、四九三三、四九三五、四九三七、四九三九、四九四一、四九四三、四九四五、四九四七、四九四九、四九五一、四九五三、四九五五、四九五七、四九五九、四九六一、四九六三、四九六五、四九六七、四九六九、四九七一、四九七三、四九七五、四九七七、四九七九、四九八一、四九八三、四九八五、四九八七、四九八九、四九九一、四九九三、四九九五、四九九七、四九九九、五〇〇一、五〇〇三、五〇〇五、五〇〇七、五〇〇九、五〇一一、五〇一三、五〇一五、五〇一七、五〇一九、五〇二一、五〇二三、五〇二五、五〇二七、五〇二九、五〇三一、五〇三三、五〇三五、五〇三七、五〇三九、五〇四一、五〇四三、五〇四五、五〇四七、五〇四九、五〇五一、五〇五三、五〇五五、五〇五七、五〇五九、五〇六一、五〇六三、五〇六五、五〇六七、五〇六九、五〇七一、五〇七三、五〇七五、五〇七七、五〇七九、五〇八一、五〇八三、五〇八五、五〇八七、五〇八九、五〇九一、五〇九三、五〇九五、五〇九七、五〇九九、五一〇一、五一〇三、五一〇五、五一〇七、五一〇九、五一一一、五一一三、五一一五、五一一七、五一一九、五一二一、五一二三、五一二五、五一二七、五一二九、五一三一、五一三三、五一三五、五一三七、五一三九、五一四一、五一四三、五一四五、五一四七、五一四九、五一五一、五一五三、五一五五、五一五七、五一五九、五一六一、五一六三、五一六五、五一六七、五一六九、五一七一、五一七三、五一七五、五一七七、五一七九、五一八一、五一八三、五一八五、五一八七、五一八九、五一九一、五一九三、五一九五、五一九七、五一九九、五二〇一、五二〇三、五二〇五、五二〇七、五二〇九、五二一一、五二一三、五二一五、五二一七、五二一九、五二二一、五二二三、五二二五、五二二七、五二二九、五二三一、五二三三、五二三五、五二三七、五二三九、五二四一、五二四三、五二四五、五二四七、五二四九、五二五一、五二五三、五二五五、五二五七、五二五九、五二六一、五二六三、五二六五、五二六七、五二六九、五二七一、五二七三、五二七五、五二七七、五二七九、五二八一、五二八三、五二八五、五二八七、五二八九、五二九一、五二九三、五二九五、五二九七、五二九九、五三〇一、五三〇三、五三〇五、五三〇七、五三〇九、五三一一、五三一三、五三一五、五三一七、五三一九、五三二一、五三二三、五三二五、五三二七、五三二九、五三三一、五三三三、五三三五、五三三七、五三三九、五三四一、五三四三、五三四五、五三四七、五三四九、五三五一、五三五三、五三五五、五三五七、五三五九、五三六一、五三六三、五三六五、五三六七、五三六九、五三七一、五三七三、五三七五、五三七七、五三七九、五三八一、五三八三、五三八五、五三八七、五三八九、五三九一、五三九三、五三九五、五三九七、五三九九、五四〇一、五四〇三、五四〇五、五四〇七、五四〇九、五四一一、五四一三、五四一五、五四一七、五四一九、五四二一、五四二三、五四二五、五四二七、五四二九、五四三一、五四三三、五四三五、五四三七、五四三九、五四四一、五四四三、五四四五、五四四七、五四四九、五四五一、五四五三、五四五五、五四五七、五四五九、五四六一、五四六三、五四六五、五四六七、五四六九、五四七一、五四七三、五四七五、五四七七、五四七九、五四八一、五四八三、五四八五、五四八七、五四八九、五四九一、五四九三、五四九五、五四九七、五四九九、五五〇一、五五〇三、五五〇五、五五〇七、五五〇九、五五一一、五五一三、五五一五、五五一七、五五一九、五五二一、五五二三、五五二五、五五二七、五五二九、五五三一、五五三三、五五三五、五五三七、五五三九、五五四一、五五四三、五五四五、五五四七、五五四九、五五五一、五五五三、五五五五、五五五七、五五五九、五五六一、五五六三、五五六五、五五六七、五五六九、五五七一、五五七三、五五七五、五五七七、五五七九、五五八一、五五八三、五五八五、五五八七、五五八九、五五九一、五五九三、五五九五、五五九七、五五九九、五六〇一、五六〇三、五六〇五、五六〇七、五六〇九、五六一一、五六一三、五六一五、五六一七、五六一九、五六二一、五六二三、五六二五、五六二七、五六二九、五六三一、五六三三、五六三五、五六三七、五六三九、五六四一、五六四三、五六四五、五六四七、五六四九、五六五一、五六五三、五六五五、五六五七、五六五九、五六六一、五六六三、五六六五、五六六七、五六六九、五六七一、五六七三、五六七五、五六七七、五六七九、五六八一、五六八三、五六八五、五六八七、五六八九、五六九一、五六九三、五六九五、五六九七、五六九九、五七〇一、五七〇三、五七〇五、五七〇七、五七〇九、五七一一、五七一三、五七一五、五七一七、五七一九、五七二一、五七二三、五七二五、五七二七、五七二九、五七三一、五七三三、五七三五、五七三七、五七三九、五七四一、五七四三、五七四五、五七四七、五七四九、五七五一、五七五三、五七五五、五七五七、五七五九、五七六一、五七六三、五七六五、五七六七、五七六九、五七七一、五七七三、五七七五、五七七七、五七七九、五七八一、五七八三、五七八五、五七八七、五七八九、五七九一、五七九三、五七九五、五七九七、五七九九、五八〇一、五八〇三、五八〇五、五八〇七、五八〇九、五八一一、五八一三、五八一五、五八一七、五八一九、五八二一、五八二三、五八二五、五八二七、五八二九、五八三一、五八三三、五八三五、五八三七、五八三九、五八四一、五八四三、五八四五、五八四七、五八四九、五八五一、五八五三、五八五五、五八五七、五八五九、五八六一、五八六三、五八六五、五八六七、五八六九、五八七一、五八七三、五八七五、五八七七、五八七九、五八八一、五八八三、五八八五、五八八七、五八八九、五八九一、五八九三、五八九五、五八九七、五八九九、五九〇一、五九〇三、五九〇五、五九〇七、五九〇九、五九一一、五九一三、五九一五、五九一七、五九

【五〇三六】
定石

黒九、堅實。黒十一ではイもあり。黒十九を手抜きも宜し。但次にロと切れば黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ、黒リとなつて此形黒にイに切つて活とする手殘る。

【五〇三七】
場合による

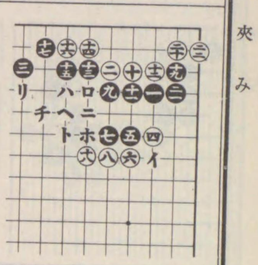
黒三もあり。白六の點は兩軍垂涎の大所なり。黒七善の白イと先鋒を九の時白八を九へ高を前むる手もあり。これも外勢如何による。

【五〇三八】
黒好まず

黒七と慌てゝ□を取らし手は、風の音にも心驚かれぬべき小心翼々、笑ふべし。白果せる哉八。黒爲に九に屈辱の形。白十要點なり。

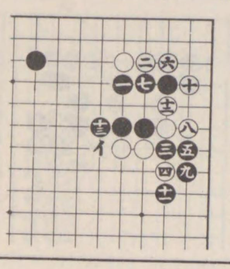
【五〇三九】
黒利勢

それ頭は理想の天空には現實の大地を離れ實に踏むの高踏にして、白二は黒三に取られたる白稍不利。



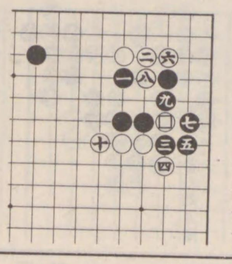
【五〇四〇】
參考圖
白稍重き手段

白一と粘ぎたる形△の白と相俟つて稍鉗重の感あり。されど場合によつて此手堅くして宜しき事もあり。



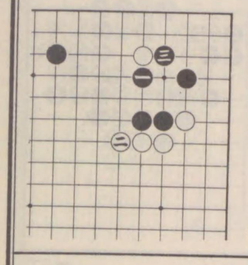
【五〇四一】
定石

白八に堅粘せば、黒は無論九と附けて此形を五〇三六圖に比較するに、同じく定石なるも五〇三六圖の方、中の勢白可なり。



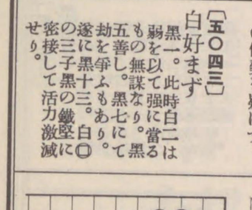
【五〇四二】
黒の勢優る

白騎馳突して二に到る。黒三で宜し。尤も、黒三では四も一策なり。尋で黒イ、白ロ、黒ハ、白三となる。黒九、黒既に此要點に迫る、黒の優勢を疑はず。



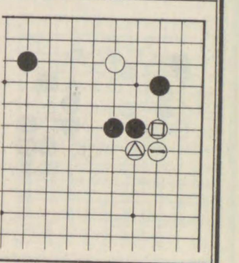
【五〇四三】
白好まず

黒一、此時白二は弱を以て強に當る。黒の無謀なり。黒五善し。黒七にて黒も劫を爭ふもあり。遂に黒十三。白□にて活力激減せり。



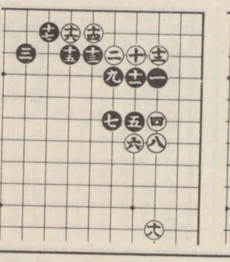
【五〇四四】
白惡し

あゝ、層破れて惡し。黒寒し。一子を抜きて十と四せらるゝや、ポン抜きの全軍に危機遽に到る。之に先だつて十三、十五善し。



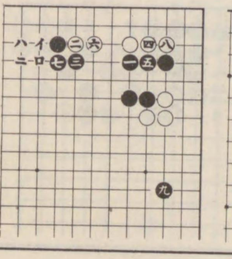
【五〇四五】
黒稍優る

黒七もあり。白八をイになれば、黒劫を拠りて宜し。黒十三にて宜しき形なり、常斯の手段なり。白十四要、黒は肝要、共に好點なり。



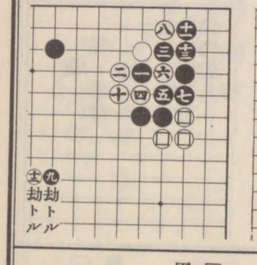
【五〇四六】
上邊の白弱し

白八。黒乃ち劫提り。十一、十三、白十八善し。黒八、白七に至つて黒一八と守り、手順なり。白十九、黒二十と守り、手段なり。白十一、黒十二、白十三、黒十四の劫提なり。白十五、十七止むを得ず。若し白十七、白十五なれば、白イ、黒十八、白イ、黒ロ、白ホの時、黒十九。白の一子以下の數子は捨石となるも、黒は二以下かゝりの白へ攻めるの形勢なり。



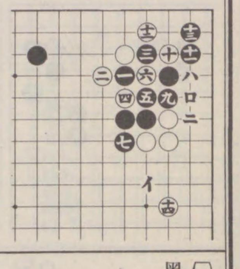
【五〇四七】
黒大に善し

白十四に粘いで次に十六、黒十八。白十九とれど此形勢向ふ數目に打ち上げられて白は二十の所へ崩れ込む。黒二一は急所で白の心臓寒し。



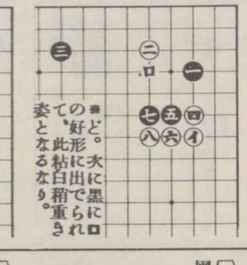
【五〇四八】
形勢互角
（三圖前變化）

黒十三。白乃ち十四、黒イに宜し。此形黒イに攻撃の好機を逸せず。加之、白ロ、黒ハ、白ニと黒の眼形を奪ふ手殘る。



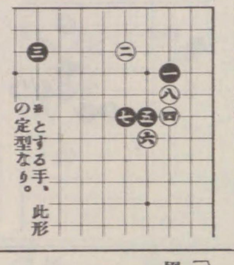
【五〇四九】
要點約言
（第四九型ロの二變化）

黒七の時白八は先づ右邊に形勢を張らんとする手段。又白八、黒④に驅られ、しかも白二の活を許す事は黒一手の間隙を狙ふ手なれ。



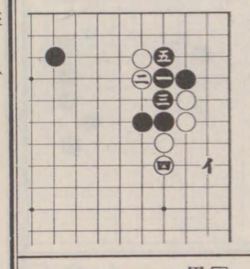
【五〇五〇】
基本圖
（第四九型ロの二變化）

白八は最も多く用ひらるゝ手段にして、かくして先手を取り、尋で白二の活動の機を提へん。



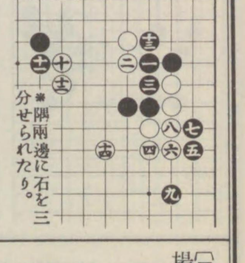
【五〇五一】
常形

白二は賞然、黒一は紛れなれば、黒三は紛れなしとも斷言し難し。黒五は出でゝ宜しき手段なれど、黒イは裏剣の早手なども、わざ〳〵之を稍打過ぎの嫌あり。（次圖）



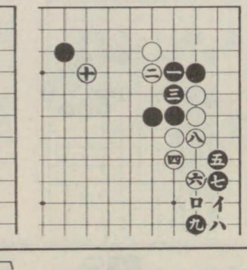
【五〇五二】
黒無理形

氣に逸る黒軍單騎五に進む。白稍打過ぎなり。白善し、譬へば馬を躍らせて出づる馬上の英姿！白左右に遂に黒を封殺せり。黒は白十四。



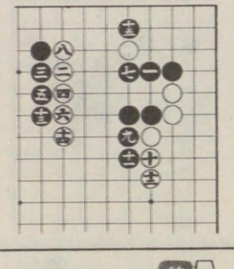
【五〇五三】
黒無理なり

白六而して八、常形には非ざれど、此場合此變化は着、此時白一は弱を以て強に當る無謀なり。黒五善し。黒七にて黒も劫を爭ふもあり。遂に黒十三。白□にて活力激減せり。



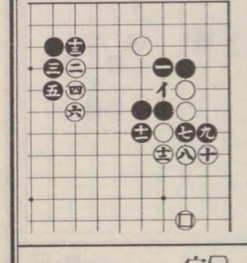
【五〇五四】
黒打易し

黒一の時白二も好まざれど、此場合黒九は普通なり。蓋し白の連絡を絶ち、且つ黒三の押を利かしたる欲なり。黒十三の利き。



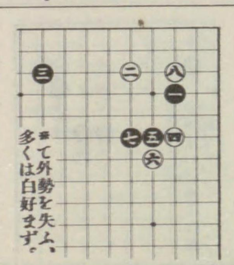
【五〇五五】
黒面白し

白□の守りある此場合、黒七と切りを我慢の高等戰術。黒重つて白□を補強せしめたる十一に至つて黒の武器を奪ひ、且つ敵の形を攻撃する利あり。



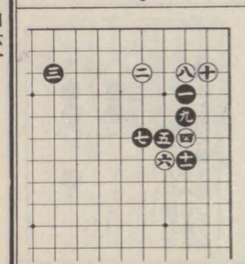
【五〇五七】
基本圖
（第四九型ロの二變化）

白八と附けるは無論黒を定め、白隅に根據を定めんとするにあれど、あまり隅に偏し。



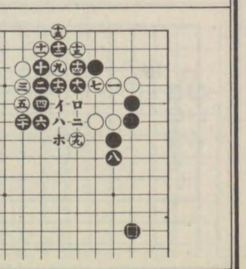
【五〇五八】
定石

白八の時黒九最も善し。兩双の戈と雖も、此十の手なくんば、黒の狙ひ、たゞ今や盍に一へ十の一手は盍に偏在の場合に於ては好まざる故に、白隅に意味は無論あり。隅に偏するにあらざれど、白隅に根據を定め、黒二一は急所で白の心臓寒し。



【五〇五六】
場合の手段

先番黒□に二一子あり。故に黒二以下白七に至つて黒八と守り、手段なり。白九、黒十と守り、手順なり。白十一、十三、白十八善し。黒八、白九で十の劫提なれば白十場合なれば白十一劫抛つて劫抛あるイなれば白十場合は二五と劫抛無きも劫抛あるも、此形勝本因坊秀哉名人、林有太郎六段の分れる白稍不利。



〔五〇五九〕
参考圖
黒の勢善し
此形、白直ちに一寸實なり且つ後に黒の筋を狙ふ手あり。（二間夾四〇七三圖及び一間夾二六四七圖參照）

〔五〇六〇〕
中央戰の形
黒二は强手なり。白三と五！黒遂に十二と中原に跨ぐ。白十三と左右に戰機を孕んで出づ。此形可否場合によれど黒としては好んでかく打つの要なし。

〔五〇六一〕
黒面白し
白三、好まず。見よ、黒より四と叩かれて白五に早届し。黒六の次に更に白七と低廻す。此形、白は前掲諸圖に及ばず。白一は前型一、二間夾にもあれど何※

〔五〇六二〕
黒善し
白三も好まず。黒見よ、遂に六と蟄陣す。黒遂に惡手と化せり。

〔五〇六三〕
場合による
黒二、惡しからず。此形、五〇六圖以下手順の前後を玩味すべし。白三なれば黒四、六と振替るべし。

〔五〇六四〕
黒打てる形
黒二、而して白三の時黒四。蓋し黒の手順含蓄深し。黒十は强手なり。儼々たる黒の眼光、鋒の如き黒の鋭殺氣滿枰、黒の打てる形なり。

〔五〇六五〕
參考圖
黒一而して三の手順好まず。白は敵失に乗じて六以下十四。尋で白十六に黒の■を夾攻す。白善し。

〔五〇六六〕
白面白し
黒五なれば白六に打抜いて宜し。白十、十二のボン抜き、厚し。十三なるも黒は地でなくなりて利せず。加之、■の黒八はツグ惡し！

〔五〇六七〕
黒好まず
黒一、三は稍損な手順（大斜掛け五三參照）。黒七、堅實なり。此手をイと進むは後に白ロと逃走の手殘る。

〔五〇六八〕
要點約言
（第四九型ロの二、第三變化）
黒七の時白④は常形。ロの附は黒④にて白は隅に偏し。又初め黒七をハ、或は黒五にて直ちにハは、場合に※

〔五〇六九〕
基本圖
（第五十型）
白四と三間に夾返す手あり。黒次にイなれば白四の位置ロの二間よりも優れど黒イは尖附なり。白ロと間を詰めて黒イを生ずるも面白き手なり。種々の變化あり。可否ハに遁かずんば二間夾、及び一六圖、二七圖、二八圖、一四圖夾、其意味各異れり。

〔五〇七〇〕
基本圖
（第五十型イの一）
白四に三間夾返しの時。黒には■と五とあれど優る。黒イは白四の常形（四八型參照）。若※

〔五〇七一〕
基本圖
（第五十型イの一）
黒五の時、白には六とイの掛けの二法あり。六なれば變化簡明。さればイは奇雲の隨つて奇峰を生ず※

〔五〇七二〕
定石
白八では九もあり。此時黒イに跳起するか或は黒イで八に疾呼して三一子と東西相呼應するか。即ち黒は局勢に應じて擇ぶべし。

〔五〇七三〕
白一惜しき手
白一と黒二との交換は、何時にても白より利く形なり。但し早く此交換をなすは白の爲に採らず。白一は時にイの筋もあればなり。

〔五〇七四〕
白に手段あり
黒一、三に擊つて出れば、白は四でイと凌ぐ。猶ほ黒ハ、白ニで黒ロあれど之は專ら四圖の狀勢如何による。

〔五〇七五〕
白の勢善し
黒三は凝つては思案し能はざるも俗筋にして多く好まず。白四、六、八變化簡明。さればイは時に五と約へる手もあり。

〔五〇七六〕
白、一策なり
白四。黒五、七以下は激流の隙間より逃り出る如き勢。黒九。怒濤の如き威勢の猛ぶまや呑まれしか、白危しと見て一瞬、十一を輕妙なり。黒十二と躱せば白十三なれば白■の一を捨てて十三と振替りて白遂に十六と今や白の形勢相當急迫せり。即ち可否は外せる如何によるべし。

〔五〇七七〕
白時機を見よ
黒若し手抜せば白一以下五での利得あり。されど之を戒むるも色々と慾人と慾とに、あり、あるかや。此形、白の外勢堅固なる場合の外は白多くは面白からず。

〔五〇七八〕
互角の分れ
先番二目勝　當時五段
木谷實　四段
白■黒■あり。黒四、六の手あり。白七をイなれば、黒八。これ圖に比して白味惡し。※

〔五〇七九〕
場合による
黒二。白三はあい。何らの巧手ぞ！黒四已むを得ず。白七と一子を犧牲に打抜く。されど此白遂に好調を辿るに非ず。白三、五以下遂に十三。此時黒二と起ち來れば白盜賊を見て縄をなふの愚立ち後れなり。白三、五以下遂に十三。此一時に解消し、白可なり。

〔五〇八〇〕
白可なり

【五〇八一】
定　石

黒七は前圖の如く白に包圍さるゝをきらひしもの。蓋し嫌ひし闘志磅礴たるも銳意敵を隔てゝ伐つに作戦なり。黒七にて一段落。（二）間夾の同形參照。

【五〇八二】
形勢互角

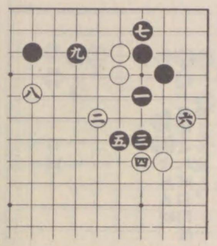
魚は釣り、兎は網す。棋鋒まさに用ふるに所あり。此形、白二、四は黒五の東隅城守堅しにして精兵守れども降らず。

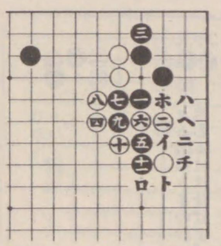
【五〇八三】
白の形崩る

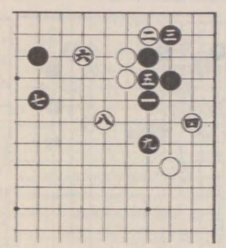
白二。黒乃ち三。黒五、敵の肺腑を衝く。白六は黒七の一手。白十一位の勢非なり。白イは黒ロ。白十二でハは黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白ロ。

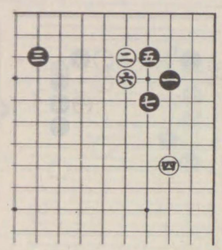
【五〇八四】
白薄し

白二なれば黒即ち三に敵を隔て伐つ。白八は薄きことを嫌ひ、寧ろ月影の如く寫るゝ此場の止むを得ざる白九。黒十以下工夫は堅し。白は捌く事の肝要。









【五〇八五】
場合の手段

本因坊元丈八段　先
安井　知得八段　番
勝

黒七、十二、場合の手なり。十二までの形、白は外勢を得、黒は隅に地を張る。先づ互角の分れ。

【五〇八六】
要點約言
（第五十型イの一）

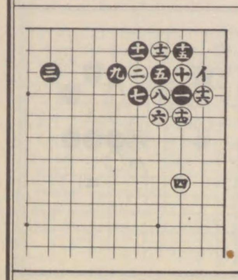
白四と三間に夾せば黒五定型。黒に白六の時、イとロの塵けあり。イは堅實。ロは白を隔てゝ攻め、又は攻めるの意味をも兼ぬ。黒多くは種々手段あり。

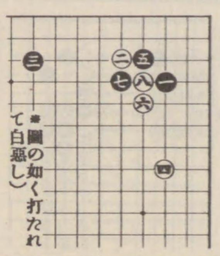
【五〇八七】
基本圖
（第一型イの二）變化

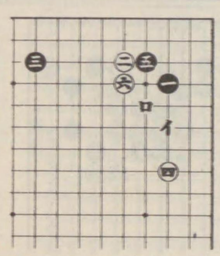
白は六と斜走にカケル手あり。變化の手段、面白し。然し場合は黒に大々※

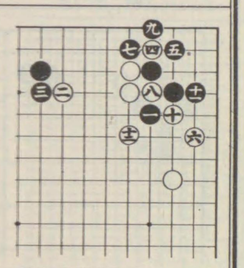
【五〇八八】
定　石

黒十を白一なれば黒十一に白甚だ悪し。黒の如く粘らず、圖の如く多く黒は二三で血戰に出づべし。（圖）ッグ









【五〇八九】
征如何による

白二の征悪くして、黒三と透出し一と得る。此形、白は底無し。如何に足を這らせ、三進も行かざるも進むなり。斯立せずば場合は白〇成。

【五〇九〇】
黒必勝の勢

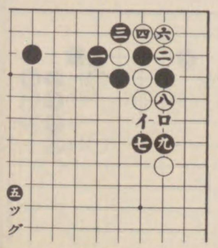
白二、四軍し。黒三、五以下の逐に武門の哀れを此處に止めたり。白六を七なれば、黒イ、白一、黒八。

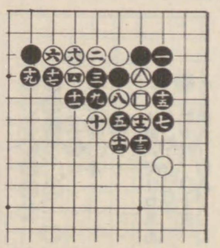
【五〇九一】
白潰滅の委

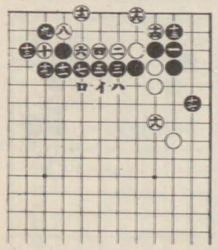
白〇の二子を救ひ、八に趨きて牛角をなせば、黒ホと殺せんとして果なれり。如き其理なし。黒逐に十九上下の白潰滅に瀕せり。（ツ）ッグ

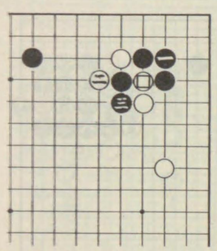
【五〇九二】
黒強硬手段

白六、棋聖の所謂ざる一貪つて勝を得ざる征宜しきものゝ如く、白八と打ちて謝手あり。黒乃ち八に白兩斷して大氣を昂る。









【五〇九三】
黒可なり

白六出せば變化簡單。黒七に綽即ち白イ、黒ロ。白イ、黒ロを征宜に粘れば黒ハ斯。※

【五〇九四】
劫

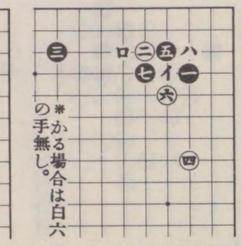
黒一もあり。黒七輕易せば悔永へに盡きじ。即ち白八、黒八、白イに犬で時、黒ロの征宜しきことを。黒七の前提とを。白十二のまゝ、黒他に轉じて宜し。

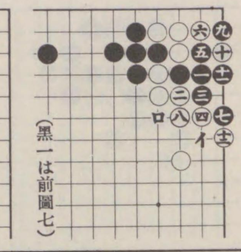
【五〇九五】
要點約言
（第五十型イの二）變化

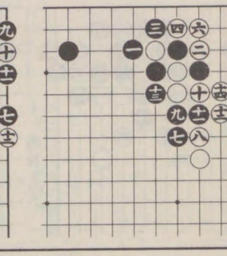
白六の時黒七に綽出せば變化簡單。即ち白イ、黒ロ。白イに粘れば黒ロを征宜に粘けて白惡し。※

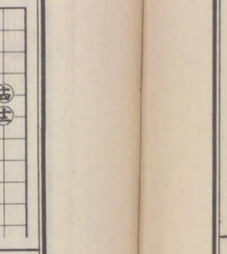
【五〇九六】
基本圖
（第五十型イの二）變化

黒七、九手強し。白八は時と外す手あれど白四に着手とせざるべからず。※









【五〇九七】
風滿堂決戰！

黒軍既に兵を磨きて決死、ルビコン河を渡る。白一は黒を邀へ擊つ！最も善し。其他の手段は何れも白好ず。決戰近きに在り矣。

【五〇九八】
形勢急なり

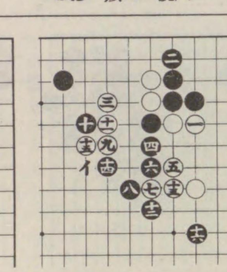
黒二及び此手をイは共に其結果悪しからざれど、黒ロ以下四に至る白三移遂に黒ロ以下十六に吳かゝ越か、雲か山か優劣遽に判ずべからず。

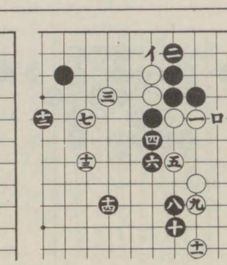
【五〇九九】
白包圍さる

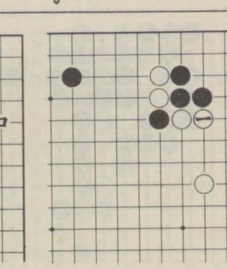
白七に誤叩！次に黒十二の鋭又は十一の一手！網打ち氣横然として顫ふ。黒八此形遂に十六あり。黒重圍を脱するの策無し。

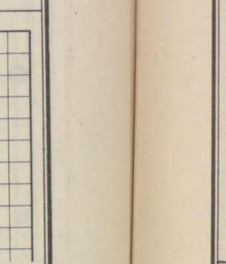
【五一〇〇】
白稍可なり

黒六、鵜の真似する鴉の類！蓋し六の點急所なれど未だ熟せず。白機微破つて出づ。白軍黒に利あらず。









【五一〇一】
白壓迫さる

白五惡し。黒六、白七をイなれば、黒七にを白はは十一牢破らねど此處に圍み、黒八、白十二宜しなれば黒十一を合一。

【五一〇二】
黒善し

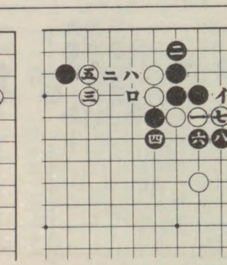
戰熱す、兩軍精鋭を競ふ。白苦心經營、黒此時五つ七と且つ手裏劍なり。白十二の早業八！黒は左の形！右共に眼形なし、非勢厳ふべからず。

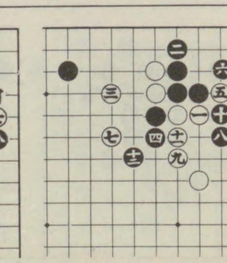
【五一〇三】
白惡し

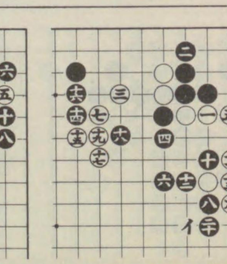
義經の八艘飛びならぬ白三は飛び過ぎなり。黒四！白軍策盡きたり。白五を若しイなれば黒ロ、白ハ、黒ニ。

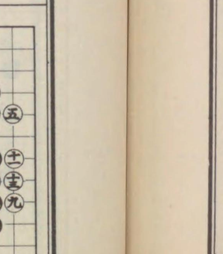
【五一〇四】
黒可なり

黒一も結果悪しからず。白三、烈しき筋なり。若し白イなれば黒三に前圖と同じ。否却て前圖よりも黒優る。









〔五一〇五〕 白一手段なり

白七は前圖の如く九と飛ぶよりも優る。以下兩軍、人智を盡して十八迄攻守競優劣は神のみぞ知るべからず。未だ逆賭すべからず。

〔五一〇六〕 白面白し

黒八は的を外れし弓矢の狙ひ。敵に白が響かず。緩し。依て九は、旭光に向ひ會心の笑ひ。活潑潑地の好形！

〔五一〇七〕 黒遂に嵌る

黒二、時に實戰の如く見るも可なるが惡手にして實は惡手なり。白三、五、手段以下陰陽相補ふ。表裏相助け巧なる哉！白は棄石遂に大勢を占む。

〔五一〇八〕 黒、非勢なり

白九、黒此時イで白十。乃ち十一に兵を引くの脫み。ロと十一に夾て十五に化簡明つて前圖と略同じき黒甚だ惡し。

〔五一〇九〕 黒の形崩る

白十一、十三も宜し。白が戰勝に十九と飛ぶよりも優る。以下兩軍、人智を盡して十八迄攻守競優劣は神のみぞ知るべからず。未だ逆賭すべからず。

〔五一一〇〕 白優れり

黒十、十二。白乃ち十三に探りを入れ黒遂に敵狀に二手を費して辛勞多くして効之に伸びず。黒の戰跡哀れなり。

〔五一一一〕 黒好まず

黒十なれば白先づ十一に出で。黒四止むを得ず。白十五、十七に整形。黒十六を十七になれば白ロ。黒イ、白可なり。

〔五一一二〕 白可なり

中原第一の絶勝我を隆くと、黒乃ち十四。白十五、十七の驚きの脆き命を危くするの十一手外勢を持つて白可なりと加之の意味。

〔五一一三〕 形勢互角

白ロは愚筋。黒一、三、形運べし、凡人も享受し得べし、之を得る彼岸に導き得る偉人なり。

〔五一一四〕 黒勝

白一惡し。斯かれば黒即ち、勝利の榮冠を指顧の間に望む。即ち以下多少の變化あれど大勢既に決す。白再起難し。

〔五一一五〕 黒勝

白一、三、同じく惡し。黒即ち四、白の軍動搖す。四、聖日く、兵は全軍一陣動け。皆潰ゆ。黒六は白十七で征を防ぐ。故に不征の宜しくば黒六は不要。

〔五一一六〕 黒有利の形

夫れ醫師は臨機應變の藥に應ずべし。白二に約して一切ら黒白二に約して窮すべし。白一場合、白一に打つべし。蓋し白可なりと止むを得ざる四までの形の着。黒有利なり。

〔五一一七〕 要點約言（第五十型イの二）（第二變化）

黒七、九の強硬手段は時に面白し。然るに白八には必ず黒イと應ずべし。此時黒イ、ロ、ハの中黒イとロは可なり。其れど黒ハ＊は白に不利。

基本圖（第五十型イの二）（第三變化）

〔五一一八〕

瞬

〔五一一九〕 定石

白八。後れば千日の悔あり。白十は一目なり。白點なれば十四を確かなれど前に似て木の錠前に似て弛めに對し、又黒イの切は要せざるも、黒イに利を與へざるべからず。

〔五一二〇〕 常形

黒四もあり。併し一利一害は物の表裏の關係にして離れざる形。即ち此點が如し。即ち此點が必ずしも白ロに打ふを要せざるべからず。忍

〔五一二一〕 場合による

黒四に反撃す。白は五且つ七。但し喰七は征關係にて白の大敗に歸する圖後以下參照。

〔五一二二〕 白攻合勝

黒八、十一で攻合勝。白乃ち十二を十四は、白十三、黒十二で白イは白ロ。又黒イを黒ハは白ヘ。或ひは黒＊

〔五一二三〕 白勝

白遂に十五の黒屠られたるも、而かも許すに未だ白ロに打ち、黒征宜しく十六でイ（次圖）。

〔五一二四〕 白潰滅

白征宜しからずして白軍六の切一利一害は物の表裏の關係にして離れざる運命！譬へば休火山の如し。即ち此點が必ずしも白ロに打ふを要せざるべからず。忍

〔五一二五〕 黒攻合勝

警報到る！白軍、中央危しと。即ち救ふ。白二に一に赴きしと、白が落日の如く呼び知さるも、悲運、術もあらず。黒二、二、二六を利かせ、三十。攻合黒勝なり。

〔五一二六〕 黒必勝の勢

夫れ猪は肩背を順みざるの憂あり、白十九、二一に二一に及ばず。氣敵を屠つて而も後に悔見に遂に下三六、黒が鋏ぶ。見よ、黒二四以中原に遨る無限の疑厚富を！

〔五一二七〕 白大敗

白十七なれば黒十八の後二十に追蹤す。白窮す。白十一、黒十九。白二七で、黒十九は黒何の劫提り、次に黒の劫抛にもキカズニ

〔五一二八〕 白善し

黒十四、十六。白乃ち黒イ、で勝。次に黒の勝ロに打ち、白ロは黒イを白ニは白ホ。又た劫なれば、これは劫なれば、劫提りなれば白善し。

〔五一二九〕
劫

白十一は、攻合にては一手短くなる意味あり、悪し。黒猶豫なく十二に爆弾投下！轟然炸裂、遂に劫なり。而して此劫は黒有利なり。㊟劫トル

〔五一三〇〕
白善し

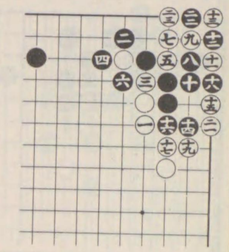
黒十を先に攻合の意味にて稍異せば攻白十五鋭し！一着能く黒を駄目を破す。白若し十六に十五に約へれば黒十五にて攻合白まづし。

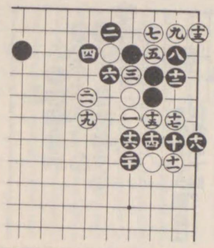
〔五一三一〕
黒稍可なり

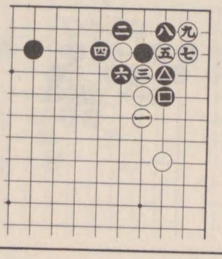
白七を八に下り、五一二四圖の如くなりて白征悪しき場合は白は圖の如く黒七の外無し。此形△は敵の重囲に落つ、而も黒に若干の遺味あり。

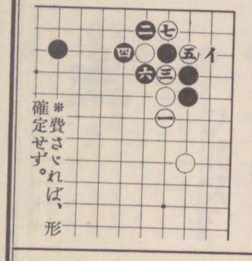
〔五一三二〕
場合による

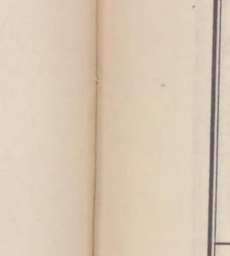
白七は、引き絞りたる枠弓の馳みなき也。黒若し粘らば白次にイにて前圖より優るべし。







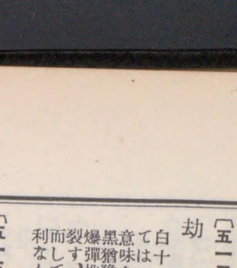


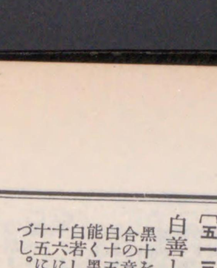


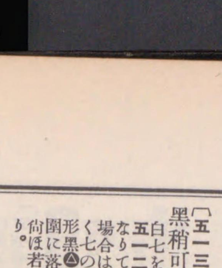
※費さざれば、形確定せず。

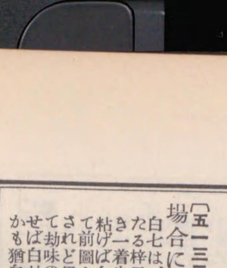
〔五一三三〕
白善し

黒二は誇永の秋の哀れを行承の治楽にし恥じて平氏の末路に似たり。無気力、白三、五、七。黒㊟遂に孤立す。※









〔五一三四〕
定石

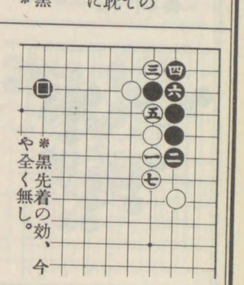
黒一は寄身の激攻なり。八！蓋し手筋なり。九にて五一二〇圖と同じ。種々なる手段あり。

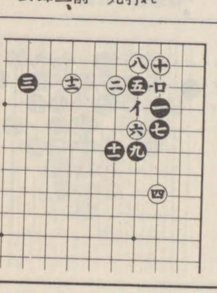
〔五一三五〕
黒優れり

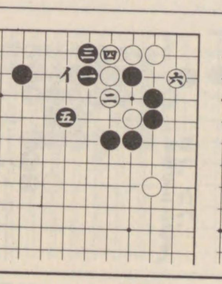
前圖白十二、を手抜き、黒は機を見て殺到す。一の横撃！黒遂に五まで攻囲を遂ぐ。外勢黒厚し。

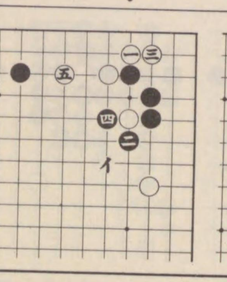
〔五一三六〕
黒好まず

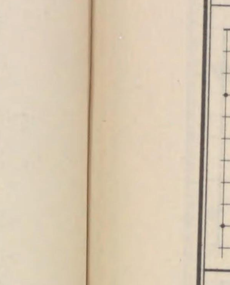
黒四、面白からず。見よ、白五の後、白イに好の攻撃点を與ふ。絶好の地は波瀾數を突いて蛇、骨折つて損する傘屋の商賣に似たり。











〔五一三七〕
白低し

黒四の時白五は緩急を誤る。尺八の如し。黒六、あゝ白遂に低く俯地に堕ちたり。吟の慘！白の武威

〔五一三八〕
形勢互角

黒四、六、八快風満帆、好晴の夏の静波に、ヨットを駈る如し。十に至り、黒厚くなりたれど九に白も絶好の点を優先す。先づ互角の形勢なり。

〔五一三九〕
黒可なり

此形白△□の伏兵あり。名将は敵の武器を転じて以て己れを利す。黒四、六とは切り違ひしは即ち白七、九の意なり。白七、九以下已むを得ず。白△と稍重複の形に陥る。遂に黒面白十一を白十六なれば黒イ、白十二、黒ハにて白敗。黒二善し。黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ、黒リ。

※黒先着の効、今や全く無し。

〔五一四〇〕
定石

身不寄身寄身の激攻なり。八！蓋し手筋なり。九にて五一二〇圖と同じ。種々なる手段あり。

〔五一四一〕
常形

黒十。白乃ち十一。また白一では白ロとは取れず。黒十四。此形も右辺の後手も黒粘れば白十四。白ハ。黒十三。また白一、黒イ、白十四。黒イ。

〔五一四二〕
白九に敗る

白九、悪し。黒十と白九とは交換となりたれば白は味も薄く、黒は味も厚し。白十一にて黒十二、白十四。黒ハ。また白一、黒イ、白十三。また黒八、白十四。白ロ、黒イ、白一、黒十二、白十。

※ロにて圖の形と略同じ。

〔五一四三〕
白優れり

黒いま八、九、白三と子を乗て厚く外を固めたり。白ち十三、黒ト、白十一、黒十二、白※

〔五一四四〕
黒厚し

先番 藤加 七段
勝 小野田 六段

黒八の手あり、時に白し。六まで三子、よや異境に骨を埋むとも遺勤千載に芳し。

〔五一四五〕
要點約言

（第五十型イの二）（第三變化）

黒七、堅き手なれど緩し。次に此形白イに、ロ。何の不手段あり。非ざれども可なるに其中イは穏當。※

〔五一四六〕
基本圖

（第五十型ロ）

白四を夾返せば黒イは無論五が善し。白は無論五と打ち上ぐ。されど圖の如く一路遠く夾返せし時は、黒五は稍緩し。

〔五一四七〕
前變化と同じ

白三となりし形、以下の變化は四六、八八圖以下と同じ。たゞ此形白ロが黒◉に遠かるだけに白可なり。

〔五一四八〕
前變化と同じ

此圖も四八一九圖以下、其意味及び變化共に同じ。

〔五一四九〕
常形

勝 岩本 薫 六段
先 向井一男 四段

此形は四八二〇圖と同形。然し前說明の如く白一路遠く黒ロが黒◉の先鋒にかゝるだけに白有利なり。

〔五一五〇〕
定石

白六、相撲でいへば敵の聲につゝて立ち上り委さず。白の三間夾みの尖手にては黒五と立ち上り、白の六の形にては白八、十の返し、黒五の善手あり。白ハ、十の荊棘の道を開く、宜し。

〔五一五一〕
黒無理なり

焦燥は、敗戦の前奏曲に過ぎず。黒八は焦慮打過ぎの形也。白は優曇華に咲く雀躍思ひ、十一の鋭断！十七にては、黒◉及び※

※二以下は荒海の捨小舟の如く、危なげなり。

〔五一五二〕
場合による

黒いま、六而して八。果然、黒十二まで右邊に優勢。白七に至つては□の黒に危機漸く近づく。前圖に比し、互に一長一短あり。

〔五一五三〕
黒善し

白先づ五。黒六に今や、白イにても黒ロにて些の痛みを損し。此形、白は地を加之五まで前途甚だ多難なり。

〔五一五四〕
黒可なり

白三、五の手順悪し。黒六の險要を先取して三に逐に□の一子を輕く拾つ。自在、黒の技、變化神に入る。黒の顧みて一着の先。

〔五一五五〕
黒の勢善し

白三、五。黒六に敵の八に擊形する可。黒二を稍十まで、黒の形惡しきも、取るにはイの先手切も中央の白も弱し。

〔五一五六〕
形勢互角

但し、此形にて黒四は白イにて一氣直ちに□に切る。即ち、□の白も俄然黒威灼々。一瞬にして敗兆歴々。

〔五一五七〕
黒可なり

白一、手筋重し。（四八〇五圖參照）黒四と敵を狩出すに先だち二に尖兵を縦つ。進退法に適へり。黒四は一擧して、攻守及び地の三者を併せる緊要の一着。

〔五一五八〕
黒一手段なり

黒六、また一策なり。白七。此形戰雲低迷して未だ去らず。機一たび到らば黒イ！次に白ロは黒ハ、白ニ、黒ホ。また、白ロを白ト、ハは、黒ヘ、

〔五一五九〕
黒確なり

白三。黒乃ち四に山嶽の崩るゝが如き猛威を以て四に壓す。白五を六は黒イ（三六〇三圖參照）。また、白ロを黒五に五を七は黒六、白八、黒厚くして宜し。

〔五一六〇〕
至難の形勢

黒直ちに二、手順惡し。白乃ち三。黒四、以下、短兵相接す。亂刃十數合して、遂に白先未だ容易に判じ難し。

〔五一六一〕
參考圖

黒五を手抜きせば白六以下は必然の進移なり。故に黒が五で他を打つ時は、かく十まで形を假想して下すを要す。

五手抜

〔五一六二〕
參考圖

黒十一の時、五手抜白は前圖の如く手を抜く事もあれど又斯く十二、十四も宜し。又黒十一を十二に尖附ければ、白ロ、黒イ、白ロ、※

※後に、百變の機を孕めるを思へ。

〔五一六三〕
參考圖

白十。白の壓迫急なるも亦缺陷生ず。白乃ち十一に甲を守し、機を伏せて堅ら黒イまたは白ロに鋭撃せんとす。

五手抜

〔五一六四〕
白の形厚し

勝 瀬越憲作七段
先 木谷實五段

黒八以下十二の趣向は、黒を薄くせしむる故白からず。三二までの結果、

〔五一六五〕
要點約言

（第五十型ロ）

黒五確なれど、白の三間夾返しは稍緩を意味あり。次に白には□、ロ、ハ、ニの手段あり。此中イ、ニの先手段は常形。ハは重くニは面白し。

〔五一六六〕
基本圖

（第五一型）

白四の手段あれど、變則の意表に出で、黒の驚愕の隙に乘じて形勢を占めんとす。白時に面白し。

〔五一六七〕
基本圖

（第五一型イ）

白四の時、黒五、イ、ロまたは□には其他の應手あり。但し黒五は定形。堅實なり。此變化は黒三の有無により結果異れり。

〔五一六八〕
白可なり

白一なれば、黒二。此枕移以下、黒平明なり。黒十は場合善し。白の七の□あるを慮りなり。若し白□なれば白ロ、黒ハを□なれば白ニで、黒悪しし。

〔五一六九〕
黒善し

黒六の時白七、九と出切る。黒は此時大局より打算して十一形。更に白十二に尋で黒十四に雄大の盤。黒の地と陣と勢白を凌駕せり。

〔五一七〇〕
黒悪しからず

黒六なれば白七に一旬して黒八の時。白九と右邊に拓。黒は稍緩れるも然し圖の形と厚富を擁し、外勢壯なり。

〔五一七一〕
黒堅實なり

白一。此場合、黒二の守し最も善し。白三は六一策なり。白五又圖の形ば黒五。白イに盤らんとの手あり。（置碁の※手す形れな善黒

〔五一七二〕
黒好まず

黒二なれば白三。白□の一子は●●の一子を迫る。此黒二は黒ハ抜今や斯き、失ひし宜れ抜き、哀れな鳥の如き、境涯にも似たり。

〔五一七三〕
黒面白し

白一なれば、黒二と出づべし。白三の時黒四の包囲善しの。白五を六攻なれば黒イ邊に夾むなれば白五にて□は黒ハの突破にて白は悪し。

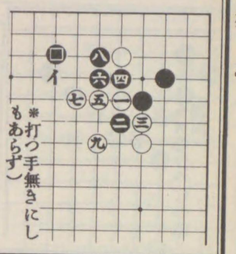
〔五一七四〕
黒優れり

白三、黒四の時白五。黒乃ち六、八後十衝いて進む。然る後十一に宜し。白イなれば黒ロ。また白イなれば黒ニに完封す。

〔五一七五〕
黒堅實なり

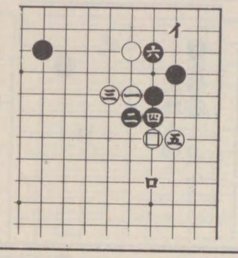
白一なれば黒二、四。但し而して黒八の守りに先だつて一着六と偵ば、白イに騎り、白五又圖の形は、黒五。白イに盤らんとの手を避く、手順の封鎖を避く、手順の封鎖の妙也。

〔五一七六〕
黒稍有利の形

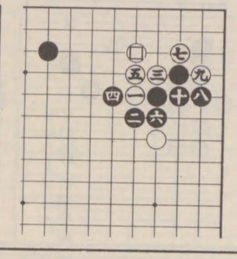


白一、無理。此の如き弱敵を討つは鑑一觸のみ。以下八、即ち二六巻目二宋部參照。同圖外しの部參照。黒無きにては故に白九はイに＊

〔五一七七〕
白の形悪し

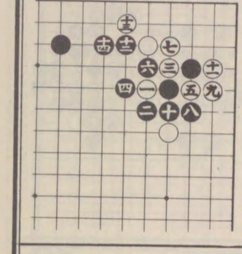


白一の無理、而して黒二の反撃に白三と仕ひ。前後矛盾撞着。黒四に至つて白の悪し。白の廊る、白五をイなれば黒□。



〔五一七八〕
黒大に善し

白三も悪し。黒四と叩いて粘らず、白徐儀なく五に粘らや、黒は□の愚に冷嘲を浴せつゝ六。尋で白七に隅に纏ひ、此形活厚を獨占せり。黒外



〔五一七九〕
黒中原厚壮

白五、黒六。白接合遂に十三に至る。此白千里十約の中に優勢なり。白の大

〔五一八〇〕
黒優れり

黒三は形なれど、白四は變則の夾返しなり。時に此手段あれど黒三の結果多く好まし。

〔五一八一〕
要點約言
（第五一型イ）

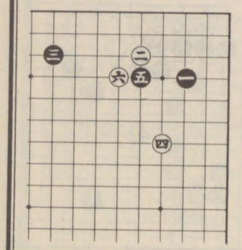
白四は變則の夾返しなり。時に此手段あれど黒三の結果多く好まし。

〔五一八二〕
基本圖
（第五一型ロの一）

黒五は直接二の白にには當りつゝ、間接にはあはよく四地に陥れんとする手段に紛れ多けれど、黒時に面白し。

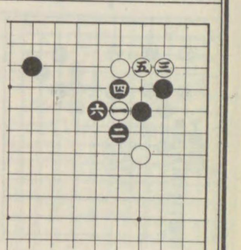
〔五一八三〕
基本圖
（第五一型ロの一）

黒既に五。敵双、前に下らんとす。白拱手せば、身首忽ち處を異にせん。即ち起つて相應じ止むを得ず。



〔五一八四〕
黒面白し

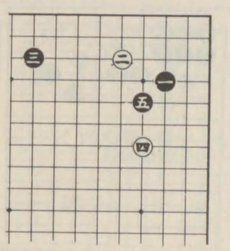
黒一は當然。白四は戰機の巷に於て拳定的の形勢に拘泥する惡手。黒七に至つて黒の形堅しに



＊打つ手無きにしもあらず）

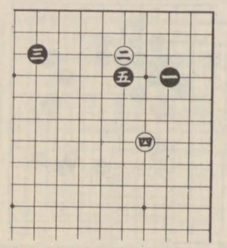
〔五一八五〕
黒善し

白四は此の動機の臨機の處置。黒五は巧着。白六の光輝凡一着五百點の價値あり。



〔五一八六〕
白無理なり

白一、三、五無理。黒六の一着に白が事凡て志を違ふ。白七は八或は十なれば黒イ。まだ白十一でロは黒ハ、白ニ、黒はホの粘ぎへの兩睨み。

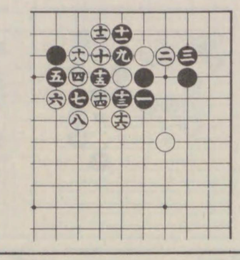


〔五一八七〕
形勢互角

如露如電、假りの進退、何とてめくべき跡をこそ顧みざるべき。

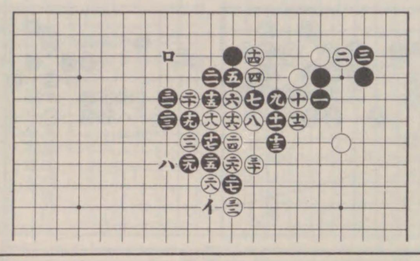
〔五一八九〕
黒悪し

黒十三。白乃ち十四にボン抜き、黒十五は若しの形崩れたり。白十四を十五は黒十四と潰れたり。此形白殆ど十八、宜しく大勢既に盛に白に歸せり。



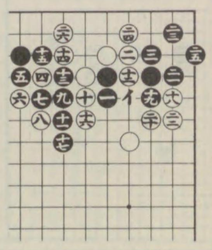
〔五一九〇〕
白優れり

黒直ちに九。白乃ち十に向ふは所悉く破竹の勢。黒十一破れず、黒十三破れず、黒十五破れず、黒十七此時破綻生ず。黒イなれば白二に一と先手を引き、白ロの形甚だ拙し。



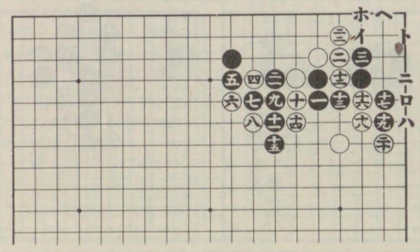
〔五一九一〕
白悪し

白十二は黒イ、白十六、黒十七を導いて十九。白十六に夾いて黒十九を狙ひ、三、好着に、白は二六に至つて黒十、八の二子愚化せり。



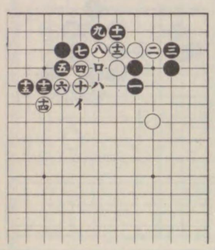
〔五一九二〕
黒死

陽炎の果敢なき影、葉末の露の命、禍福の轉易の間に在り、一瞬の間に十三悪し。白十六にて黒徒然傾倒す。黒十九は打たずして二一に打つべし。即ち斯く打つて、次に白二打つて、黒イ、白九、十然るに黒ロにて劫なれば、白二、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白トにて黒死なり。



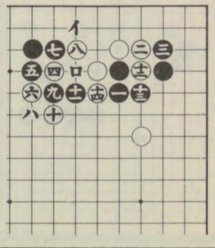
〔五一九三〕
場合の一手段

黒七、意味大。白面白し、深海よりも深し。白十に尋で一、白十一に九へかくなれば果然黒ロにて九へまた黒ロなれば黒イを効燦なり。



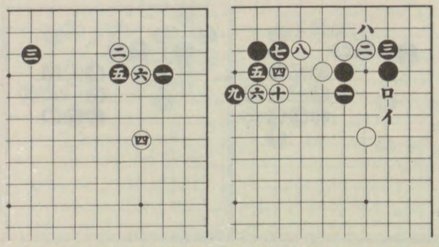
〔五一九四〕
黒悪し

黒イを怠つて直ちに九。白十に至つて黒遂に起たず。（變化參照）。一九圖以下白七は八或は十なれば黒イ。まだ白十一でロは黒ハ、白ニ、黒はホの粘ぎへの兩睨み。



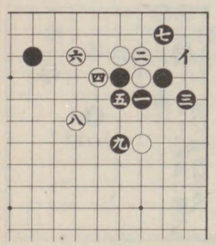
〔五一九五〕
白好形

兵勝は機に乗ずるに在り。然るに九と打つて白に十と粘がれり。次には好機去れり。次には此形で白イ、黒ロと黒の眼を奪ふ手あり。



〔五一九六〕
基本圖
（第五一型ロの二）

白六もあり。行手多くの變化を望見る。此手段白亦面白し。



〔五一九七〕
互角の分れ

黒三の掛ぎ面白し、波漸く近きを思はしむ。黒七は要點。黒之を忘れて白イに東行。白は眼と地とを得かす。

〔五一九八〕
互角の勢

白四は、黒五をイに、白六の好調を望む。黒ニ、白ホに不利。白四は、黒ロ、白五の好調を望む。白十四を善しとして起る。即ち、白十四をハ、黒ヘとなりて白に不利。

〔五一九九〕
白惨敗

白四、無理。白八を十五まで二、三と活路を見て先五を以下十一、十九と打つ。黒十三。黒十九、王手の常用の手筋なり。

〔五二〇〇〕
黒不利

黒三、悪し。黒五をイに打つは白六の時ロに粘るなり。白七、九は此形好形なり。黒七は十一と打つ。白十は黒五、三間夾の定石比較)

〔五二〇一〕
互角の分れ

黒五、七。遂に黒は敵国に合計三子を取られて死せしも、黒は厚みを得たり、此結果前図に比するに黒優る。

〔五二〇二〕
白有利の分れ

黒一、悪し。白二。今や白に機敏に攻めらるるに至りては黒は用なし。白四の妙手筋なり、白六、八と打つれば、変化簡明且つ此分れ白有利なり。

〔五二〇三〕
白厚し

黒征宜しきを得ず。白十二にて(征とは粘げば、以下白五まで)一に二子を取り黒十一に至りては白の外勢厚し。

〔五二〇四〕
白厚壮、優勢

白一以下隅に活路を求めしも悪し。譬へ求めて田舎で隠遁生活をするも黒八厚如きも味豊かなるの一子は群の離れし孤雁の如き哀れさ。

〔五二〇五〕
要點約言
(第五一型ロの一と二)

黒五と附けれ白イ、黒ロ、白ハ常形。又白はイをニと締込む手もあり、面白き筋なり。

〔五二〇六〕
基本圖
(第五一型ハ)

黒五は奇手にして多くは用ひられず。白四の動き如何によつて妙機を捉へんと※

〔五二〇七〕
白稍利勢

白一は、一策を案じ、黒二以下、此絶対の棋移なり。白は隅に厚く黒は外に利を得、場合によれば、黒損の形となり。

〔五二〇八〕
白稍好まず

白七悪し。黒虚に乗じて八、十而して後十二、此形を、前図と比較するに、後白七と黒十二と交換し且つ白の一手あるの方黒善しと何れも本図一換。

〔五二〇九〕
白悪し

大悠に似たり。白いま無欲にして黒に八と壓せられつつ七に負ひ、後生ず。平、駆亦ばざるの嗟。

〔五二一〇〕
基本圖
(第五二型)

白四と一路遠く夾み返す手あり、古来打ち来し手段。時に甚だ面白し。

〔五二一一〕
基本圖
(第五二型イ)

黒五は最も堅実なれど、稍緩し、白四は、恰好の点と化せり。猶ほ此變化は、白四がイにある形と類※

〔五二一二〕
定石

黒既に五。此時、白に六或はイまたはロの前變化と同じ。十一まで黒堅実。白も亦サバケたる形なり。

〔五二一三〕
常形

白一と上隅を顧みずして、右邊に備ふ。黒乃ち二、四は常道なり。白五は手抜きし、黒に一手をかけさせて、三と□の二子を棄つる手段もあり。

〔五二一四〕
基本圖
(第五二型)

白一、三好まず。白五。好形を成す。あな黒窮す。地に陥ると思ひきや黒に防がれて白七、九は此形好まず。遂に十一、三間夾五、三六圖以下定石比較大斜掛

〔五二一五〕
基本圖

白一、三好まず。白五。好形を成す。あな黒窮す。地に陥ると思ひきや黒に防がれて白七、九は此形好まず。遂に十一、三間夾五、三六圖以下定石比較大斜掛

〔五二一六〕
定石

黒五は最も堅実なれど、稍緩し、白四は、恰好の点と化せり。猶ほ此變化は、白四がイにある形と類※

〔五二一七〕
常形

白一と上隅を顧みずして、右邊に備ふ。黒乃ち二、四は常道なり。白五は手抜きし、黒に一手をかけさせて、三と□の二子を棄つる手段もあり。

〔五二一八〕
場合

白五の時、黒六と左上邊に展開するも宜しく、か、ば杵上未だ決戦には程遠き月花の境。分和の互角なり。(此変化四九圖以下にあり)

〔五二一九〕
基本圖
(第五二型ロ)

黒五と斜走する手も有り。五とイとの意味は、四五圖以下の尖と、八四五圖以下斜走との意味と略同じ。

〔五二二〇〕
白術中に陥る

白一の押し、重くして悪し。爲に黒二に至つて□と二との白は柔態鈍重一加之二のために危険加はれり。黒□に此形白八は上に進退共に如意。

〔五二二一〕
黒の形好まず

先番 前田陳爾五段 當時 四段

黒一、三、五は低く好まず。假令黒一をイなれば、白ロと好形を得らるゝ形勢なり※

〔五二二二〕
要點約言
(第五一型ハ)

黒五は徒らに手筋を弄し奇を好むの嫌み。次に白にイの單に黒不利なり。簡替らず。但し白イ以外の手にては何れにも打※

〔五二二三〕
黒好まず

黒八と切る。白十三に至つて黒先手なり。其形を見よ、黒悪しく低卑、加之白より□の挑戦に白形好しと雖も、黒ロ亦サバケたる形勢なり。

〔五二二四〕
黒利勢なり

白一!突如、湧き起る一剣、戦の聲。黒乃ち二、而して四と反撃す。黒八の粘ぎ、肝要(一〇〇七圖以下参照)。

〔五二二一〕
黒緩し
黒四、白五。嗟乎、悲むべき第一歩！白は征知らず一二の黒を受く。此形の黒甚だ悪しと云ふに非らざるも黒＊

〔五二二三〕
黒厚し
白一、三。悪し。黒乃ち二、四に撃つて白を低坦に陥るる。利の大道を歩むに似たり。簡明、八に至つて黒中原に厚し。

〔五二二四〕
互角の分れ
黒四稍紛糾の虞あり。白七面白し。遙に、白イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホの雄図成るの日を待つ。此形可否は場合によれど已に見ゆ。けだし互角の分れなり。

〔五二二五〕
互角の分れ
黒十も亦た一手。白乃ち十三に危し。黒十一、十二ちとも機に応じ、追ひ来らんとす、即ち白十四を以て黒イを制す。（次図）黒十五、白十六軽妙なれば黒十七、白十五を以て黒ハ、白ロにて白稍厚し。

〔五二二六〕
黒潰れ
黒十四、無謀。嗟乎、悲むべき第一歩！白は征知らず一二の黒を受く。此形の黒甚だ悪しと云ふに非らざるも黒＊

〔五二二七〕
黒優れり
新感覚の行兵！白三と切るも、結果黒を固むる。白多く好まず。黒四、六穏健且つ正着。（一間夾一間に比較）二三六四圖と全圖は黒□がイにあり又は□と□と無し）。

〔五二二八〕
黒堅し
黒四もあり。九。自即ち五、七、九。自白如き形を為し打抜が好きも、黒庫堅し。加拔き、黒庫堅し。白□は敵の堅に近寄りし孤の所の無み、時に武用ふるに白好まず。

〔五二二九〕
劫關係の手段
黒六、白七、一手に黒八。嗟乎、一着に決せんとす。此の争ひ全く劫戦！勝敗は劫材の多少に因る。即ち白イに黒屈し、黒ロとなる形となれば黒可なり。

〔五二三〇〕
黒稍可なり
黒十四、無謀。嗟乎、悲むべき第一歩！白は征知らず一二の黒を受く。此形の黒甚だ悪しと云ふに非らざるも黒＊

〔五二三一〕
要點約言（第五二型ロ）
白三なれば、黒はイが善く、ロは紛れ多くして黒好し。又白三をハとすれば黒イが穏健なれば黒イが穏健なり。又ニと一子を取るも黒の形確なり。

〔五二三二〕
基本圖（第五二型ハ）
黒五は、隅に利を収めつゝ二の白を攻む。蓋し攻守両様の着なり。

〔五二三三〕
基本圖（第五二型ハの一）
黒五の時、白には六とあり。六はイとあり。イは黒の鋭鋒を外なり。

〔五二三四〕
古風の定石
白六。黒乃ち七に堅守して白の虚と接攻の間白ら蟄を窺ふ。白八は敵陣を策するの意図にして、然も黒十二は其の弛めを防ぐ宜し。

〔五二三五〕
白面白し
兵は由来神速を尚ぶ。黒の時白八と伐ちしは僂儸、黒九と伐ちしは白面し。黒九正着、白九を十なれば、白十三となり黒イは黒十三と交換して味は悪し（次図）。

〔五二三六〕
黒味悪し
黒九味悪し。白十二は宜しからず。白イは黒ロの遺味漸く黒に渝し。白十四、黒十六手筋。白十六、黒十七を白ハは黒十七を白ニに黒十七にて六に低し。白十五にて黒ホなれば白ヘなり。

〔五二三七〕
征可否に決す
白征（即ち白十場合は黒イ）宜しからず。白イは大悪。尤も白征は大悪。白十二にても黒ロ、白十四、黒十三、白ホ、黒ヘ、白ト、黒ニにて、三子＊を拾てるも白悪しからず。

〔五二三八〕
黒優れり
黒七危機に到る。白は當然八でイ（前圖）に切るべし。然る、白十の好機草を成して白の再び来るべくも無し。

〔五二三九〕
白悪し
白四悪し。天譴立ちどころに至る。即ち黒乙と突破する中原一朝にして左辺の黒の勢力圏化す。八まで無く、又□の白眼形未だ無し。

〔五二四〇〕
黒打易し
白二、而して四。黒乃ち五にて守りを固うして尋で転じて上辺七に黒は後手なれども打易し。

〔五二四一〕
要點約言（第五二型ハの一）
黒五、七と打つ手あり。先づ隅の根據を定めて白の四を恐化せしめ形の上より反撃を得たり。

〔五二四二〕
基本圖（第五二型ハの二）
白六は、黒の五の来襲を避けてその鋭を避けしものの。白八は敵の間白ら蟄を窺ふ。白九は敵陣を策するの意図にして、然も黒十二は其の弛めを防ぐ宜し。

〔五二四三〕
定石
虚か実か。さればとて不惜身命不退転、白六の撥の時黒七と反撥の時黒尋で黒棋を移す。黒簡明な九。白十を以て黒十一にて白一なれば、白十二の時黒は手を抜いて打つ手も含みにて打つ手も

〔五二四四〕
白稍可なり
黒一なれば白二。次に黒三なれば、白六に先づ肝要の極所。此れ附け分れ黒確なり。白好点なり。次に黒イは好点なり。白十六、次に黒イは今直ぐに打つ處にも非ず。

十結

〔五二四五〕
黒不利の分れ
黒五は、血氣の勇。黒九と粘りて、損なり。十のために一白を屠るをも、慮足らず。黒は九に挑まれず、黒は九に粘れず。悉の誤を免れて十に勁の機を窺ふ。宜し。九ッグ

〔五二四六〕
黒可なり
白二好手。激流が岩の間隙を衝いて逃るが如く、卽ち三と白の間隙に乘ず。五に至つて黒の棋歩濶達、白低卑なり。

〔五二四七〕
黒緩し
黒三緩し。白遂に飛ぶ。あゝ四六。鳥川の濶瀬の絶ゆる間もよく、移り變りの世の習ひにより、黒が前に攻めに出でて守勢に立てり。

〔五二四八〕
白稍可なり
黒一次に三、三に遂に七。此形のみにて、黒イが他にあるの外は金くイと相同じ。五二四と綿ね、白又四と打抜き、三を四と定石變化し、五は二四三と打ちて守勢に出でて、黒ロと攻めや。易へ。

〔五二四九〕
黒稍可なり
白二、黒三、白四、黒五、白六、黒七、白八、黒九、白十、黒イ、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ、黒リ、白ヌ、黒ル、白ヲ、黒ワ、白カ、黒ヨ、白タ、黒レ、白ソ、黒ツ、白ネ、黒ナ、白ラ、黒ム、白ウ、黒ヰ、白ノ、黒オ、白ク、黒ヤ、白マ、黒ケ、白フ、黒コ、白エ、黒テ、白ア、黒サ、白キ、黒ユ、白メ、黒ミ、白シ、黒ヒ、白モ、黒セ、白ン、黒ス、白ヱ、黒ヘ、白ホ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ロ、黒イ

〔五二六九〕
黒稍可なり
黒九、類勢を支ふ。穏健なれど外勢に失し、黒稍後手なれど初勢に優る。又六と掛くるも五と粘くるも十一と掛くるも十六と同形となるべく、何れにしても白一以下の手段は好まず。

〔五二七〇〕
要點約言（上）
（第五二型全部）
白四と高く且つ遠く夾返したる手は緩急宜しきを得且つ位を失はず。時に面白き手段なり。

〔五二七一〕
要點約言（中）
（第五二型全部）
次に白四の時黒イロハニの四つの手段あり。此中イとロは穏健にして白の二及び四を攻むる意味。此二着は隅に多少其手段を異にすれど。

〔五二七二〕
要點約言（下）
（第五二型全部）
次に黒イ先づ隅に悲据を得て、白の缺陥を窺ふ手は、ロは明瞭に白の攻むる手にして、此手は隔て攻むるに如かず。白を堅くすれど、黒も亦其※

※形を確定し得、場合の手段なり。

※ども先着を利したる好手なり。

〔五二七三〕
基本圖
（第五三型）
白四の大斜は先定石中の定石一耳。凡ゆる手筋、凡ゆる變化の精髄は、此含さを悉る。此中に包含さる變化の異る點を區別せり。

〔五二七四〕
基本圖
（第五三型イの一）
白四の大斜にはイ、黒、ロ、ハなどの應ありイ之れは次卷大斜千變同じ。此中の應手と略五の附け正着なり。

〔五二七五〕
基本圖
（第五三型イの一變化）
白六に綽込めば以下白十二までは雙方必然の棋移なり。此時、黒は十三の手と此手をイに※

※綽ね白ロ、黒ハに飛ぶ應けとあり。

※事を主とする時は次々圖の定石によるべし。

※正形に比するに黒打易し。

劫提ル
劫粘グ

〔五二七六〕
定石
三間夾の大斜
白二十まで大斜正形と全く前圖同じ。されど此時に至つて黒三の一子あるに即ち黒は二一或は其他好點を選ぶべく、随つて前※

〔五二七七〕
參考圖
大斜正形
黒七。所謂悲喜交もの千變、活劇は、げに此一手より以下黒十七となるまでの道程には白より手段の機無數。故に、一般に無※

〔五二七八〕
定石
白六に綽込めば以下白十二までは雙方必然の棋移なり。此時、黒は十三の手と此手をイに※

〔五二七九〕
參考圖
大斜正形
黒局面の紛擾を避けに無事を欲せば、七にイに切るべし。七は身を確かに護る。黒の結果となるが普通なり。

※の石となる故に白イは多く好まず。

〔五二八〇〕
參考圖
三間夾の場合
黒七は前形と異り稍緩し、蓋し黒□があれば充分戰ひ得るにて、加之白十四まで黒□は孤軍白の堅城に近寄れり※

〔五二八一〕
參考圖
大斜正形
黒若し九の征宜しく先手を取つて他の好點に先着せんとするの時は、圖の如く五と上を粘くるも白十一と粘くるも十六と同形となるべく、何れにしても白一以下の手段は好まず。

〔五二八二〕
參考圖
三間夾の場合
黒四にある時は、五と上を粘くるも白十一と粘くるも十六と同形となるべく、何れにしても白一以下の手段は好まず。

〔五二八三〕
參考圖
以上數圖に示す如く、同じく白イの有斜にても黒□の結果に多少の相違あり。又黒三がロ或はハにある時は、白ニ變化また異ら六四九圖及び※

※あり（五三七七圖以下參照）。

參照。三四七圖以下大斜掛けの比較

※るの不利に歸す。
七劫提ルヨツグ

〔五二八四〕
定石
黒二一は六圖前の定石の如くイに應けるも正形とすれども場合により黒二一或は其他の點を選ぶも宜し。

〔五二八五〕
定石
黒征闘係悪しき場合！黒十七を忘れば白十五を忘れて十八をイ（次圖）にて、黒を以下イに破す。黒二三、黒二五なれば形簡明なり。

〔五二八六〕
黒大敗
黒二十を怠つて單に二乃ち白三と奮躍して尋で五と出づ。黒陣爲に搖ぐ。白十一の時踏んで深く入れば薄氷を踏むに臨む。黒十二は漏！に落つ。

〔五二八七〕
白優勢
黒十二、虎口を脱す。十四の時機を誤る。前々圖を以て十二と逃るとも白に七と壓せられ、黒は武運拙き低卑の黒惡し。

〔五二八八〕
白善し
黒愕然として現實の危機に覺む。八、十、されど白十三となりては黒不利。また黒十二を白ロ、黒ハ、白ニ、黒十三にて本圖と略同じ。

〔五二八九〕
征、黒善し
若し黒征宜しく黒六而して八。黒千里前無さ鋭軍！大勢既に決す。黒の外勢豪且つ厚。蓋し白三、五の手段無し。

〔五二九〇〕
定石
白二十は前圖イの正形なるに反し、之は機變の着なり。從つて可否場合による。黒二三も可なり、着意は五二八四圖以下と同じ。

〔五二九一〕
黒稍低し
白五の時、黒は左邊の一位を主とする場合、稀に六と進むも手あり。されば白に七、これ九と壓せられて、黒は武運拙き低卑の黒惡し。

七ノ處打カウ
粘トル
黒征惡しき場合

〔五二九一〕
白強硬

昔、ローマ人シセロは「海を制する者は世界を制す」と言ひ今日ローマの都に君臨せるムッソリーニは「海を以て伊太利の絶叫の翼をおほへ」と空を覆へ、海か、嗟乎、之を知らず。空か吾れか、さればこそ白九と翔け、猛鷲羽撃して翔け、愉快絶倫の壯観し、蓋し、中央の位を占む。

〔五二九二〕
黒打過の形

黒八、十一、十打過ぎ。白十、十三の手順善し。黒二十止むを得ず。若し、此手をイなれば白ロの次に白二に活路無し。㊟粘

〔五二九四〕
黒無理形なり

白十九、二一共に善し。黒二四にて二七に俗なれば白二六。黒九に至つて右の黒死なれど形勢険悪なり。白ロの次に白易に㊟粘を許さず。

〔五二九五〕
黒味悪し

黒二十なれば白二一に振替つて宜し。若し白二一の手にて直ちにイに打ち、黒ハ、白二、黒ホにて絶対劫。斯くなつては白悪し。㊟粘

〔五二九六〕
場合により

白直ちに五もあり。黒六は自陣を繋へると共に白の三子を駄目詰めにし、その活力を奪ふ。此形白七では㊟手抜きかまたはイ。

〔五二九七〕
常形

白五は機変の手段とれど、機変則の手段に黒六堅して白の薄味を狙ふ。虎視耽々。白九でイなれば黒ロ。白イをハなれば黒ホ。

〔五三〇〇〕
白潰れ

浅慮短見、遂に大軍を覆滅し、単ぬる白の最期を痛ましむ。白十七悪し。黒二十に先つて黒破竹の勢なり。

〔五二九八〕
黒勝

黒六好點。白七の出撃氣鋭し。黒八に呼応して宇内に漲る。白二六は形の悪しきも此場を防ぐに三四で善よりの征く白「軍」唱刀。兵の意氣眉に迫り、黒が決戦を遂に折れ矢尽き刀折れ、然と雖も宜しく黒四三を征して黒四五、白二二、黒二五、白二六と運び、黒二四、白二三の時黒二四、白二六と運び、黒二四、白二三の斯く好形なり且つ勿論黒勝なり。

〔五二九九〕
黒利勢

白十五。兵情騒然、白兩軍の危機交も到底黒六とすんなり善しとせず。白九、此場合打過ぎ十、黒イなれば白ロで白イに輕く走れ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ、黒リと白を中に黒六を取れ白十五まで黒の大勢定まる。

〔五三〇一〕
白苦戰

白七。黒十八、二十。白二一と機に乗じ一方に血路を開かんとせしも後門の狼を逃がしたるやうなもの、黒虎口を受く。白苦戰なり。

〔五三〇二〕
黒大勢を定む

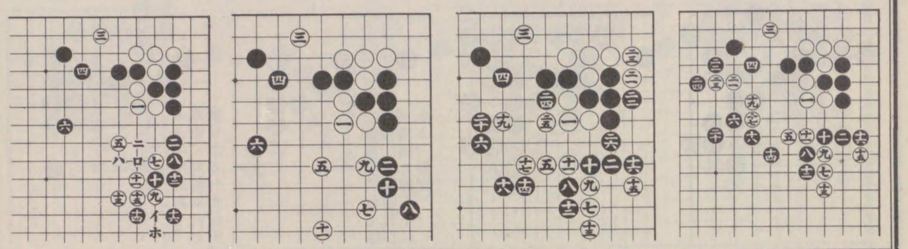
白二一、二三。黒卽ち二四、二六にて善し。見よ黒十八、二十まで遂に逸遁したる外圍！白は無條件にかくなつては右邊の黒を取られざる限り白甚だ悪し。

〔五三〇三〕
黒壓せらる

黒八、緩し。白遂に九、十一に整陣を張る。黒は八、十に低き卑の憾あり。爲に一方に兩翼を張られ兩翼も備はざるに乏し。

〔五三〇四〕
黒悪しからず

白七なれば黒八。次に十二に打つて宜し。黒十一に白十五を若し白ロなれば黒ロの筋。イなれば黒ホ。又白ハを黒ハ。



〔五三〇五〕
黒確かなり

白五も、手筋なり。黒六、次に八、確かなり。黒六は一挙に敵の肺腑を衝くが如きも白ロの好防あり。黒ハ、白ニの時黒四七圖以下と略同意。

〔五三〇六〕
黒優れり

黒征悪しき場合
増淵辰子三段
先番島村利博三段

黒二では先づイが可。白三、黒五が可。白十一は先づ十三が可。黒十二は※白十五。

〔五三〇七〕
白大に優れり

白十五、而して十七、用巧妙。兵を將の佾宛として名を成すの機會を逸したる敗因は唯人情に反復の雖あらず、在り移り、棋ふの機徹に在り、戦機を逸したる敗因は唯人情に反復の雖あらず、在り移り、棋ふの機徹に在り、心せよ。蓋し白は悪しき征。白ロ、黒ホ。白ニ、黒十七、白ヘ。

〔五三〇八〕
黒の勝勢定る

勝 先番 三段 治
飯田春吾
柴山文吾
勝 六段 藏
岩本
二子 當時段
鈴木秀子
三段

白十九、此場合打過ぎ十、黒イなれば白ロで白ハ、黒ニ、白ホ、黒ロ、白イ、黒ハ、白ニ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ト、白ヘ、黒ホ、白ニ、黒ハ、白イ、黒ロ、白ハ、黒イ、白ロ、黒ニ、白ホ

〔五三一〇〕 要點約言（第五三型イの一一變化）（甲）

黒三まで斜變化の定型。大斜に白十四に征關係にて黒はイに粘げば、次に圖の綿肝要。白七となりし時白にロ、ハ、ニ、＊の手也。

〔五三一一〕 種々變化あり

凡そ戰は正を以て合ひ奇を爲して勝つ。黒二は權變の強硬手段なり。尤も之は征關係に依りて可否分る。白三、五は蓋し必然の手也。

〔五三一二〕 白可なり

黒八に次で、白が九に次で、九の征宜しき場合の如き征は初め黒二の込み。遂に白一の約へ最初の勢いは黒が二の處にあるも、龍頭蛇尾の黒が戰跡を哀れなり。

〔五三一三〕 白善し

黒いま吹き捲くる戰の嵐に身を委ねて乃ち十九、二十。此形後手持勢白優る。

〔五三一四〕 白悪し

白征悪しき時は圖の如く九と引くの外白征不可。黒一時は斜變化には打つ手なく、元來變化の定型にて粘げられるなり。此變化は白が見做して宜しく、手段あり。白十五は他に手なし。

〔五三一五〕 白潰滅

熱戰、酣戰、兵双相接する所、一毫一瞬の緩急あらば、一一の虞あり。白七悪し、敗俄然として定まる。白二一をイなれば黒無論ロ。

〔五三一六〕 白善し

黒二六で取り得ぬ圖の如く打つては白宜し、黒は此征にて可定め、白二九の要あり。白二一の時に見做して宜しく、ロと八の兩脫み。

〔五三一七〕 黒確なり

若し白六、及び二の征共に悪しき時は、白十五と引き、黒一一まで白征不可。黒一結さ果れ、隅は黒優る。故に初勢立ず。黒二の強手成。

〔五三一八〕 黒善し

白十七に傳法鐵火命知らずの應戰。黒軍の旗鼓や堂々兵を麾いて十八、二十の次に二二の劫拋！嗟乎、天翻り地覆る。白の大厦遂に倒る。

〔五三一九〕 白優れり

勝小杉丁四段 先番菊谷數雄初段

白十四の時若し黒征ケ所の劫しくは、隅十五と約へ、前變化の如くなりて可なり。

〔五三二〇〕 黒優れり

白いま直ちに七と二段連打、黒ロ即ち白九の征宜しき本局に於ては黒十無理なり。黒八が善し。黒十、遂に二四が善し。黒よし。三十、隅の白を屠り＊

〔五三二一〕 互角の分れ

白單に九と切りしも悪し。白イ、黒ロ、白ハの味は黒前圖と同じきも、黒はニの切りを嫌ひ、たゞ前圖に比して外形白好ましからず。

〔五三二二〕 白の形拙し

白七。十二。黒八、十、十二にて秋毫柔れざる整陣也。黒十九を二十なれば一五、黒十一七イの第三參照以下黒圖に此形ロの絶好の劫抛あり。

〔五三二三〕 要點約言（第五三型イの一一變化）（丙）

黒十三なれば白イ、此手をロ悪なれば黒ハにて白常形。黒十三、此手をロ悪なれば黒ハにて白常形。又白イの時黒ニとハの手あり。ニとハは征に關係の手。

〔五三二四〕 基本圖（第五三型イの一一變化）

黒十三と絡ね、白十四と飛ぶ手あり。時に五にこれは古風の打方にして前形にしても黒の外形薄し。

〔五三二五〕 白劫勝

黒既に白一を抉り、鮮血淋漓、悲聲天に聞ゆ。黒十六、此時白十八、ゆさぶり筋な手段にて遂に白劫提り。粘二、黒悪し。先劫に白三に

〔五三二六〕 黒善し

水靜かになれば則ち腐敗す。白九に征宜しき場合の如き征は文して一一の社は穏して弱の十一遂に穏くるの例なり。甚だ悪し。二の込みに白二一。遂に約へ最初の勢いは黒が二の處にあるも、龍頭蛇尾の黒が戰跡を哀れなり。

〔五三二七〕 白可なり

黒八に次で、白が九に次で、九の征宜しき場合の如き征は初め黒二の込み。遂に白二一の約へ最初の勢いは黒が二の處にあるも、龍頭蛇尾の黒が戰跡を哀れなり。

〔五三二八〕 白悪し

白ま二の所を粘に一。黒即ち二の所に粘ずして直ちに一。白衝いて二、二。而して白征宜しく黒四、白若し三、五にて逼走を企つれば黒ロ、白ハ、黒ホ。

〔五三二九〕 黒有利の形

白一無理。黒二。二、嘘乎。黒地に躍り出る心利。白一歸せと攻めを動かしたる大將鋭氣の如く勝を定む。

〔五三三〇〕 黒優れり

白ま直ちに七と二段連打、黒ロ即ち白九の征宜しき本局に於ては黒十無理なり。黒八が善し。黒十、遂に二四が善し。黒よし。三十、隅の白を屠り＊

〔五三三一〕 白の形拙し

白七。十二。黒八、十、十二にて秋毫柔れざる整陣也。黒十九を二十なれば一五、黒十一七イの第三參照以下黒圖に此形ロの絶好の劫抛あり。

〔五三三二〕 要點約言（第五三型イの一一變化）（丙）

黒十三なれば白イ、此手をロ悪なれば黒ハにて白常形。黒十三、此手をロ悪なれば黒ハにて白常形。又白イの時黒ニとハの手あり。ニとハは征に關係の手。

〔五三三三〕 基本圖（第五三型イの一一變化）

黒十三と絡ね、白十四と飛ぶ手あり。時に五にこれは古風の打方にして前形にしても黒の外形薄し。

〔五三三四〕古風の定石

黒十五の時、白十六、要也。此形順手に三、十七につぐ十八、隅の小車のそ代に二の二の圧迫を十、二の二の圧迫を被れり。

〔五三三五〕黒潰れ

白一の時、黒二は自ら墓穴に入るの愚なり。比較（五三一一）図以下の変化は白九以下の変化と同じ。（五三二四）図以下参照。

〔五三三六〕白悪し

縄の如し。白二に粘くべきを誤って一。黒即ち二、四。白芒だ悪し。（五三二八）図以下参照。

〔五三三七〕黒重圏に落つ

黒いま三図前の敵厭を嫌って八に、白即ち九、一の後。白即ち馬首の要撃。黒重圏に落つ。白遂に苦戦を免れず。（次図）

〔五三三八〕白善し

黒既に進退の法を誤って白より十七、二十に黒十八、攻合の外無し。白イの劫を残して二五と劫材の大を老をして巧也。

〔五三三九〕黒陣形を整ふ

白十一の時。右に黒左に戦雲漠々、応酬十字街頭に惑ふの時なり。黒遂にまた左右を整陣、二十に左を整陣、此棋移無事平穏、黒も亦悪しからず。

〔五三四〇〕黒優れり

心は矢竹に逸るとも、カこれに伴はずんば百事成り難し。白七はこの一例打過ぎ。白九は黒イ（次図）を避けしものなれど黒十二と換りては白好まず。

〔五三四一〕黒優勢

白五の夾攻は勇気無理筋也。黒十四、此処に黒初めの整陣、二次に粘ぎし利あり。白十七を怠れば黒五三八図の如き手段あり。

〔五三四二〕優劣未定

先赤因坊丈和名人
因徹七段
此形の現れし対局は丈和の名人の地位を確定せるもの。
のち六一年徳川十二代。二は保六年将軍家慶の代。てはオレ蓋し世の英雄ナポレオンが一世の大運命を決せしワーテルローの戦と相距ること僅に十年なり。黒十、当時此型十二行。
黒は井上因徹二段
井上幻庵因碩門下の高足なり。
黒は一門の研究に於て
は「隅に損する※

〔五三四三〕黒善し

先づ十四に取れば黒十三に挑ぬ。此劫は白に蓋し、此劫抜かるるも、黒に些の痛痒なし。イと打抜かずんば黒の作戦を可とす。

〔五三四四〕黒好形

白いま十一、十三。黒は十二に更に十四以下の上手形を加ふ。白下らざれば泣つらに蜂、踏まれし如き形！

〔五三四五〕白善し

勝先　村瀬秀甫八段
黒田俊節五段

黒十一の時は白十二而して白十四の筋も時あり。白十二の筋も黒二一を二二と狙ひつつ二一なれば白十二の切り進！五三イに圧迫彼我勢力の関係今消長を所にては大重石の如く彼参照！五三七図の如き形、白良し。

〔五三五一〕黒緩し

勝　小泉不二松三段
三子田中　憲吉

黒九緩し、イを可とす（五三七図参照）。此形白八と右に利し、更に十と整形、白良し。

〔五三五二〕黒大に悪し

白九。今や大樹既に傾れんとす。白一一非ず、黒十と出るも白十五。天を逐に躱げて白に帰せり。

〔五三五三〕常形

黒八までは五三三四図定石。黒八を白イは、白ロとなつて白中原に厚威無限。黒十二以下の手段良し。

〔五三五四〕白善し

勝先　村瀬秀甫八段
黒田俊節五段

黒十一の時は白十二而して白十四の筋も時あり。白十二の筋も黒二一を二二と狙ひつつ二一なれば白十二の切り進！五三イに圧迫彼我勢力の関係今消長を所にては大重石の如く彼参照！五三七図の如き形、白良し。

〔五三五五〕黒緩し

勝　小泉不二松三段
三子田中　憲吉

黒九緩し、イを可とす（五三七図参照）。此形白八と右に利し、更に十と整形、白良し。

〔五三五六〕黒大に悪し

白九。今や大樹既に傾れんとす。白一一非ず、黒十と出るも白十五。天を逐に躱げて白に帰せり。

〔五三五七〕常形

黒八までは五三三四図定石。黒八を白イは、白ロとなつて白中原に厚威無限。黒十二以下の手段良し。

〔五三五八〕白善し

白二十、黒二一、共に定形なり。白二二。黒二三、二二。二五、二七宜し。二七図の如く石の如く打つ手は緩し。

〔五三五九〕黒嵌手に陥る

大慾は無慾に似たり。黒六に食つたら白九以下の猛撃に黒は完膚無きまでに破る。黒六で六イと劫とするも白十六で劫抛無し。

〔五三六〇〕定石

白二十、黒二一、共に定形なり。白二二。黒二三、二二。二五、二七宜し。二七図の如く石の如く打つ手は緩し。

〔五三六一〕黒嵌手に陥る

大慾は無慾に似たり。黒六に食つたら白九以下の猛撃に黒は完膚無きまでに破る。黒六で六イと劫とするも白十六で劫抛無し。

〔五三六二〕白逸出す

黒十、十二はポロ網の如し。白十三も以下に逸出の途あり。但し白十三は場合を見て取るを怠れば黒十二、黒ニ、白ハ、黒イ、白ロ！

〔五三六三〕白可なり

黒八面白からず。白二包囲蓋するも味悪し。黒十三で宜しく、手抜きも十三以下十七までの振替りも白有利なり。

〔五三六四〕白手順宜し

黒十の時白十一に利し尋で転鋒十三に急襲。これ傳統千年あいこれ至りて棋界に峻厳なり。如く発ユングフラウの丈立つ、和四門下の因後の坊秀和の本手なり。此手見先の手なりカシ置けば次に黒イに凌ぎ易し。来るも白怠れば黒二を、白ハ、黒ニ、白十二の鬼手！

〔五三五五〕
要點約言
（第五三型イの一變化）
黒十三、二變化ければ白ハ、黒ニまで白ロ、以下定型。局面の推移如何によつて種々なる妙機あり。

〔五三五六〕
基本圖
（第五三型イの一變化）
黒十三の約込み急劇手段なり。征宜しく黒は斯く打つ手もあれど其の結果は多く好まず。

〔五三五七〕
白稍優れり
白一而して三は、扇のかなめ孟の底最も肝要参照。（五三六一圖参照）此結果、黒は二子を白は三子を互に打抜く。形勢白稍優る。

〔五三五八〕
前形と略同じ
白單に七もあり。白十一を黒イ、白十二、黒ハば前圖に比せば、此形の徴に利し、白は右邊隅の形稍可なり。

〔五三五九〕
黒潰れ
黒八、大惡手なり。白九にて一瞬、黒絶命。白一、一挟を十一なれば黒十、肺一、痛し深く、黒閉絶す。（五三二四圖参照）

〔五三六〇〕
黒敗
此形、初め黒四、六の手順肝。四を六なれば白四にて黒潰ゆ。黒八惡策盡く。白九にて黒萬策盡く。白十二にて黒イに挑せば後圖續かず。㊀粘

〔五三六一〕
白跨蹟大破す
白一に頼落しぬ、無間奈落の淵！黒は名刀の切れ味か手裏劍の早業にも似た二、四且つ六、而してまた十、十二！

〔五三六二〕
白敗
黒六の時白の命數業に極まれり。白七の如き今は詮の際の努力も所詮の礫に過ぎず。十二の時既に遅しと矣。

〔五三六三〕
要點約言
（第五三型イの一二變化）
黒十三まで白九、十五と應ければ白ハ、黒ニまで白ロ、以下定型。局面の推移如何によつて種々なる妙機あり。

〔五三六四〕
基本圖
（第五三型イの一四變化）
黒十一も有り。但し此手は三の一に黒と呼應して手強く打ちしもの。三の大斜の無き普通の場合の形。＊

〔五三六五〕
定石
黒十一、十三手強し、若しなれば五十三をイと同じ。次に黒十一、白五の時、十三、四、十七、其の中十三、十四法あり。手強く、十七は稍＊堅く、十五は稍＊

〔五三六六〕
互角の替り
亂離幾合。白いま卒然鞭を揚げて十二を振宜し。遂に黒乃ち四。此形地勢と共に黒稍優れど、其代り黒一手多し。

〔五三六七〕
黒稍優れり
白九、十一。此形白の活路全も、これ沙門にれ入つて生を貪るの怯にも似たり。黒は二子を白は三子を互に打抜く。形勢白稍優る。

〔五三六八〕
白打てる形
黒六常形なれど、爲に白は七、十一を得たり。合に好形を蓋し、黒六は場合十二を十三なれば白十二、黒十二、白ロ、黒十六、白十四の筋。

〔五三六九〕
形勢逆睹難し
黒十二好點なれど白も亦逆撃に出づ。嗟乎地上の龍に雲を得たり蛟龍竟に雲雨を得ず。即ち十五、形十五、未だ逆賭すべからず。但し通常は黒打過也。

〔五三七〇〕
白の形惡し
嗟乎、斜陽原頭、夾撃の時違ひを見よ。白三の筋四變化、黒十、白一の子を粘がずば粘げずば悲惨。白イの切返し、黒は、白イの時黒ロを強く手段に於ける定石の大斜の切返しは、白十三と攻めんとするも亦全く反對なり。

〔五三七一〕
白も亦可なり
白三、堅し。黒四また厳の堅持に應じて、守備おさおさ怠り無し。又黒四を、イなれば白ロ、黒劫取、白七、黒劫粘、白ハ。此時、＊白既に七。

〔五三七二〕
互角
黒四もあり。白即ち、三までの石の活路を達観して五、七、而して後、十一、十三に形を成す。此形白は次に、イとロとを見る。（五三六七圖参照）

〔五三七三〕
白損
頗氣東隅久しく寂寥！白三、狂か怯か、黒をして自ら十二までの瓦富を得せしむ。假令白三と攻撃の利後に十一を占むるも白は右邊の損を償ふに足らず。

〔五三七四〕
要點約言
（第五三型イの一四變化）
黒十一の切返しは、白イの時ロを強く手段に於ける定石の大斜の切返しは、白十三と攻めんとするも亦全く反對なり。

〔五三七五〕
基本圖
（第五三型イの一五變化）
黒は九と上を粘く手あり。大斜定石の時、即ち其意味略同じ。中邊に勢を得んとする手段なり。

〔五三七六〕
定石
黒九なれば、白は黒無論十三と切るべし、黒十三は若し可なる征惡しの手、時は初めの九まで粘惡しき時は黒の十七まで中原厚壮の場合の手段なり。

〔五三七七〕
形勢互角
白は五、七と打つ手あり。（次大斜参照）走掛の中同化を化して白十二、黒イ、白ロ、黒二、白十三、黒十二、白十四、黒十三、白十五、形に泥みし黒甚だ惡手なり。白十六、黒即ち急激の挑劫。白十七、黒二、嗟乎天命か黒二腸断の劫抛つて白！！又白十八、黒劫粘、白ハ、黒劫取、白ニ、黒劫取、白ホ、黒劫取、白ヘ、黒劫取、白ト、黒劫取、白チ、黒劫取、白リ、黒劫取、白ヌ、黒劫取、白ル、黒劫取、白ヲ、黒劫取、白ワ、黒劫取、白カ、黒劫取、白ヨ、黒劫取、白タ、黒劫取、白レ、黒劫取、白ソ、黒劫取、白ツ、黒劫取、白ネ、黒劫取、白ナ、黒劫取、白ラ、黒劫取、白ム、黒劫取、白ウ、黒劫取、白ノ、黒劫取、白オ、黒劫取、白ク、黒劫取、白ヤ、黒劫取、白マ、黒劫取、白ケ、黒劫取、白フ、黒劫取、白コ、黒劫取、白エ、黒劫取、白テ、黒劫取、白ア、黒劫取、白サ、黒劫取、白キ、黒劫取、白ユ、黒劫取、白メ、黒劫取、白ミ、黒劫取、白シ、黒劫取、白ヒ、黒劫取、白モ、黒劫取、白セ、黒劫取、白ス、黒劫取、白ン、黒劫取、白ヰ、黒劫取、白ヱ

【五三七九】
白潰れ

白十五も悪し。黒一氣、十六、十八、二十と衝を敢てして終に二子の救ひなり。而かも此形に絶対の劫！白、潰滅し畢んぬ。又白十五を十八な。*

【五三八〇】
場合による

白七は低けれど撕く打てば黒よりイと來らるゝせられず。黒八では黒無し。黒八では手抜きして宜し。白七辯物として今の雌伏に後の雄飛を期するものの如し。

【五三八一】
互角の分れ

先番 篠原正美 五段
歸山利一 四段

黒八而して十と打ちしは確かなり。此分れ隅は黒損なれど外勢厚壮。後手なれど先づ互角の分れなり。

【五三八二】
基本圖

（第五三型イの二）

白は六よう綽ねる初手あり。此手は段めの四、變化の手段にして意味相反す。白六は四を捨てゝ隅*を取らんとす。されど白隅に偏して多く好まず。

【五三八三】
定石

白六と綽れば黒七以下一まで必然の應答。此中黒九は關係にて約へる手。（五三九二圖參照）無きに假令黒征ぐらねど宜しくも其結果黒好まず。

【五三八四】
黒外を封鎖す

（六）手抜

黒五までの形となりて、白は手抜くも多し。此時は黒或時機に九、十一と外を封鎖する手善し。見よ白は隅の小天*。

【五三八五】
黒邊を守る

白六。黒乃ち七に據つて、白の八、十に誘ひ九、十と好調の補強。黒一の用兵巧みなり。又白六以下打たずとも黒七を取る事あり。手段と

【五三八六】
黒堅し

白十二。黒乃ち十三、十五に堂々の歩武を示す。白八を手抜けば黒八を手抜く。黒イ、白ハ、黒十三、白イ、黒ニ。此形黒若し劫抛棄なる時は黒ホ*。

【五三八七】
白の形重し

白六と□の逸走を圖りしは重し。黒七、白八と八の盤下の白□以下の草の根無き浮き石の果敢なき命。白之の損失を逃げる爲の□を救ひ*

【五三八八】
白無理なり

白八、あゝ赤手虎、狼の窟に入るの愚。甚だ無理なり。黒九、十一と連撃の重ねて無理。白此手は三一、黒十、白イ位のもの。三十。

【五三八九】
黒稍可なり

黒二五もあり。三一肝要之を怠つて白に此處を叩かれては黒右邊崩る。黒遂に陣容の厚味を得、其中に形勢の白の利を逐かに凌ぐ。

【五三九〇】
黒劫勝

黒十五の十六か、七か、天か、猶ぼ鞠は早し！好き漢、天の時に自重！然らば黒十七の秋急。

【五三九一】
黒勝

白二二なれば黒一三の巧手。白二四に白征ぐれば黒ロ時イに切れば黒ロ。此時白ハの攻合は黒ニ。此後ホと切る筋あつて勝。

【五三九二】
白稍優る

黒三、悪し。白四、黒六は鋭の觸角！蓋し面白き手段、此形白宜しくば、十一にて十。又白征ぐれば黒十一にて圖の如く白潰れ、白十八まで圖となるも白の勢稍優る。

【五三九三】
外勢白優る

夫れ國大なれども戰ひは好む時は必ず滅ぶ。黒七以下弄ぶも遂に干戈を交へざるに近し。以下黒の變化多岐なれど無理破綻なく延て白日の下に暴露*

【五三九四】
要點約言

（第五三型イの一）

黒ロと白ハに尊で手は黒イを厚く得れ、白イをホに四。

【五三九五】
基本圖

（第五三型ロ）

白四の大斜に定型なれば、黒イの附定なれど他の應は或はニになるべく、何れも合形*

【五三九六】
定石

此形、大斜變化の多く見る定石の一にして黒が無事を希ひ且つ地を主とする場合。然らば白十四に適す。普通は定石なり。黒低く合つて好まず。

【五三九七】
黒手段面白し

加藤三七一 三段 當時
先 島村利博 初段

白十の次に黒は十一或は手抜も善し。黒二一、二三を交換せば黒二七と出る筋無し。白二四は兎に角、黒イに打ち置かざるべからず。黒ロよりニ七の切をカセられては白悪し。

【五三九八】
白善し

黒六は這つて白ロと飛ぶべき所。白七、九而して十一。白十の棋鋒、黒十四に恨を呑む。白次に英断、氣爽十五の攻！

【五三九九】
白優れり

黒十四、悪し。白イの先手利き乍ら、乃ち白十五、十七。白十九は無論征。黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホ。又黒*

【五四〇〇】
白稍好まず

白は黒に右邊を這はれ時宜を見て損なりと白三に粘るも黒十四と斯かる手あれど斯く場合は殆んど稀に行はれ此手はイを優れりとす。

【五四〇一】
黒可なり

良馬は毛にあらず又たるるは志にはその形優れり。白五、七は遂に可なるが如き。白十四も屈し白十三に屈したる。黒十一に屈せり。

〔五四〇二〕
參考圖

黒五と尖附ける型もあり。此時は白二は七かまたは六の一途あるのみ。此圖は白四の型で六、黒五、白四に等し。（四九四二圖以下一間夾返し參照）

〔五四〇三〕
場合の手段

先番 福田正義五段 勝 山利一四段

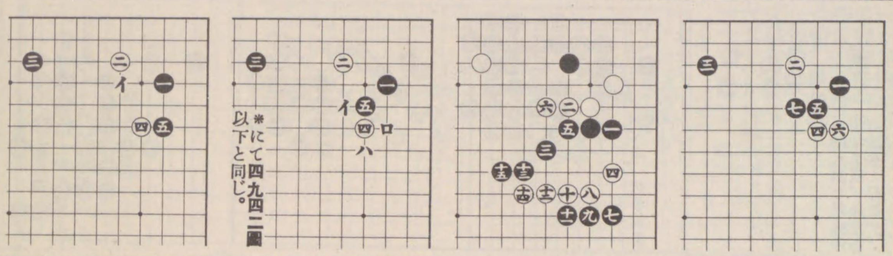
黒三の時白四に輕く騎ち、（四はイも可なり。）黒五、蓋し常形な白六。黒七以下の手段なり。

〔五四〇四〕
要點約言（第五三型ロ）

黒五は變化簡明を尚ぶの時。或は右邊に地を作らんとする時、此手段あれど。此形白イ、黒ロ、白ハとなりて黒低し。又白イをロとなれば黒イ。＊

〔五四〇五〕
基本圖（第五三型ハ）

黒は五と附ける手あり。黒イの附を不可なりと見た場合、時に此手段面白し。



＊にて四九四二圖以下と同じ。

〔五四〇六〕
定　石

白六、黒九に至つて一段落。あゝ取せよ一目の損。以下雜かしき變化も無し。

〔五四〇七〕
定　石

黒五なれば白は兎に角六とれば約へべし。黒七で白十二の筋もあり。此手を若し黒イと要點。拔すなれば手強く攻める手あり。（四九一六圖以下參照）

〔五四〇八〕
黒大に優る

白七好まず。黒乃ち八而して十、十二手順善し。黒二二と白攻め、二で二四の打拔き。嗟乎今、黒軍の武威中原を壓して掌上に見る。

〔五四〇九〕
白惡しからず

黒八、十の手順惡しきが芙蓉の花。今斷の草となる。黒十一の出を怠る。（前圖白十五、十七の巧みな轉身。此分れ白惡し。＊

〔五四一〇〕
黒優る

黒が圖南の鵬翼今ぞ奮ふべし。白一二十の時急攻。黒一二、二四。此形斯く運ぶ筋あるが故に、黒二十が佳着也。

〔五四一一〕
黒の勢善し

白七を手拔きせば黒八。白十一劍を提げて雄叫びを吐すは起つて白を逐に十二。黒逐に先手六に備へての白十一。黒十八、二は備へての手拔。

〔五四一二〕
黒可なり

白十一、十三確なり。而れど黒遂に十二、十四に各不拔。根據を占む。白は姿薄弱強國に挾まれ進退意の如くならず。（七手拔

〔五四一三〕
形勢互角

黒八と遠く攻むるも手あり。白亭いて一。此分れで九、五共に十が薄く、白十一以下敵の堅不に近づけ互角なり。

〔五四一四〕
定　石

黒九と白の十を導き、而して十一で十二之は前圖黒九で十一に比して手筋を損をするの慨あり。此結果互角。（次圖）

〔五四一五〕
白に手あり

黒前圖を手拔きせば白一以下五。但イは中味の薄つた一林の如く一見善きに似たれど、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘ。

〔五四一六〕
場合による

黒二、四。前圖の如く白の廻指に甘んずるに比せば、黒が力戰の意氣貫す。尤も斯の形は特に四圍の要あり。

〔五四一七〕
黒先手活

前圖黒十五を打拔き、白一と打拔く。此時黒二、白三の交換を了して他に赴くは黒先の鞭撻也。蓋し白尋で機敏にイに眼を取らんとすれば黒ニ。白ハの時黒イ。

〔五四一八〕
定　石

黒は五、次に七と切る手も無論征關、八十は係の手。若し八の惡き場合は征關にてイ或はロなどの手段あり。（次圖）

〔五四一九〕
後圖參照

白五、七輕き手筋にして面白し。此形は五一五圖、白を先にせし變化と全く同形なり。

〔五四二〇〕
白利勢

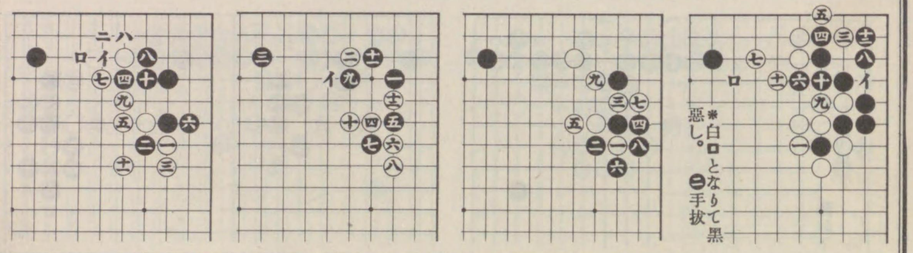
黒六。白乃ち七而して九に隅を屠つて威東海に振ふ。卽ち白の領域大に且つ陣形盤石なり。

〔五四二一〕
定　石

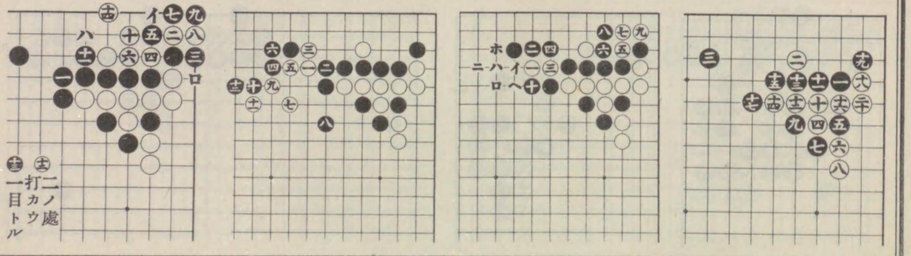
白八！此手段、白時に面白し。黒九次れば十に據つて十二の狙ひ。此替りは白得。黒は隅に地を占む。場合の外勢定石なり。

〔五四二二〕
白稍優る

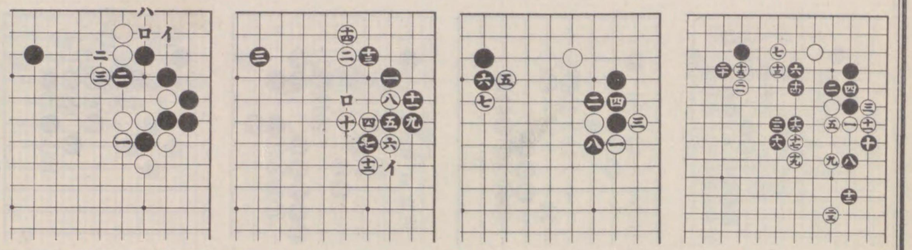
黒六好點。されど白より七の封。九の擊！前の七の蓄ひ輝き黎明に色悅ふ。黒は遂に確乎たる陣容。白十一の整ひ白ロ、二黒で白ハ、白イ。



＊しからず。九一七圖と同形（四）



二ノ處打カツ一目トル



〔五四二六〕
常形
古代ローマには遠征なりしが故にせずして不足を感ぜず富めるを威ぜず貧を恥ぢず、即ち前手と後手と此の如く下の如き手段に残らず。

〔五四二七〕
白可なり
平和とか現状維持とかはいつも富める者の地位の保存にして支配者の為めにのみ存在するものなり。戦を挑むで外交を以て無理・四六筋に似たれど変※

〔五四二八〕
白優れり
黒十白一に二か十也。三か十一。若し白一を佳手なれば黒イ、白ニ、黒ホに白ハ、黒ヘで白ト。四悪しければ黒ロ。

〔五四二九〕
黒善し
白五悪し、黒一撃を破る。黒六の容俄然と白の軍嗤と動乱す。低き陣嗤と澎湃たり、妖気は東北の天に、白ハイなれば黒ニ。

〔五四三〇〕
黒稍可なり
白五と行けば黒六をイと綽ぜず白七と掩ふ。黒八の懸形上且つ其黒二の子を失ひた活力を得。

〔五四三一〕
白の勢優る
黒四、六と、白一隅を攻めて白ロに掩ふ。黒七とハタかれて其上活力を失ひた。

〔五四三二〕
黒の勢稍優る
白は三或はイもあり。黒乃ち四、黒十六と打つ時は二の如くなれば白直ちに黒即ち十三、黒十七、白ロ、黒十五、白十七、黒攻合を以て白十三、黒反之、白十四而して白十五右辺の十四場所に有利なるものの如く黒攻を以て黒棄子一下妙し。

〔五四三三〕
黒勝
白十九悪し。悔恨に痛む白の胸は毒蛇に噛まれさされ殺にむ白の死の苦しみレオパトラを思はす。

〔五四三四〕
黒優れり
白征宜しくば、かく九、十一もあり。白七と出る最後の切札を黒以下巧妙に出られては、白ロ、黒ホ、白ヘト。

〔五四三五〕
白の勢可なり
猫か鼠か、狐か虎か？黒六は狐手、鼠悪なり。遂に鼠なるに非ず。白十一、十三、六の黒四、十二手筋ら。而かも黒は子屠る戦に上逸損の大形の勢を遂げ白ず。不利す。

〔五四三六〕
黒勢互角
黒十八の筋もあれど、此の手は五三の如く二圖以下の如くイ圖は黒二八を代りに可とす。

〔五四三七〕
古風の定石
白八より十二まで一目外勢を興ふ。加之隅には猶ほ黒より手あり。（次圖）

〔五四三八〕
黒　活
黒一以下五と活く。黒イに先手利き、黒ロは赤能く江河を守る。既に此の如く活時は打つべし。

〔五四三九〕
白無理なり
白四と強ねて黒五と屠らんとす。嗟乎悪手なり。黒七以下出で又黒撃つ、白此易抛あり。黒ロ以下十一まで残らば十七まで全く劫なし。

〔五四四〇〕
白潰れ
白二、甚だ悪し。黒三！嗟乎吹きに吹かれたる黒軍更生の意気！白六と打ちたれば、白ロを以て黒イなれば白ロ、黒イなれば白ロ、何れも白悪しと雖。

〔五四四一〕
形勢互角
白五の時は、黒六と出で白十と変化あり。黒以下白十三に至て形勢互角なり。白八と黒九、白七と黒十、白悪しと雖。其形比（五圖）

〔五四四二〕
形勢互角
黒十八の筋もあれど、此の手は五三の如く二圖以下の如くイ圖は黒二八を代りに可とす。（五四九一圖参照）

〔五四四三〕
要點約言（一）
（第五三型ハ）
白六で行けばイとロと黒イなれば白ロ、黒ホの一途あるのみ。

〔五四四四〕
要點約言（二）
（第五三型ハ）
黒五は兵法に所謂一敵二掛の大斜に作る。即ち、黒五はイに出づるも宜しからず。白ロと掛けて四の戦を外すも共に戦の作れる。所に出づるは

【五四四六】
要點約言（三）

黒七で**イ**とはあり。**イ**とは次に白**ハ**、黒**ニ**となつて白一の位置悪化するも、而かも此場合は、黒悪しからず。蓋し、次に白**ロ**、黒**ホ**と白を

【五四四七】
要點約言（四）

次に白六、黒七の切は、變化甚だ多く容易に測り難し。豫めも此大斜に對する黒の一手段たるを失はず。

【五四四八】
基本圖

（第五三型ニ）

黒は五にナラブ手あり。之れは此大斜の中央の應なるも最も堅實な應にして斜に應ぜざるも亦た可なり。

【五四四九】
定石

黒五なれば、白六定型。本圖は比較的黒稍二九に白八圖に四二九圖に劣るも自由に選び得る點に於て優れり。又本圖は黒の一手段たるを失はず。

【五四五〇】
常形

白三此時黒四と加へ右邊の守備は、白の遠き射んとして先づ弓の形、弦に滿を引く形、面白し。變化は下にあり、圖以下四六三圖以其形とは多少異れり。

【五四五一】
白稍可なり

黒四なれば白は中央を寵めつゝ五と右へ撃す。白五は形なり。次に白六は黒四との交換は白三と黒四との交換なり。

（次圖と比較）

【五四五二】
黒に實利あり

白**イ**の夾攻に先だつて三、黒即ち四。白三は其順序悪し。好點。白若し次に黒**イ**に手を拔いて、次に白**ロ**に約へれば黒は手を拔いて、次に白**ハ**となれば黒**ニ**。

【五四五三】
白面白し

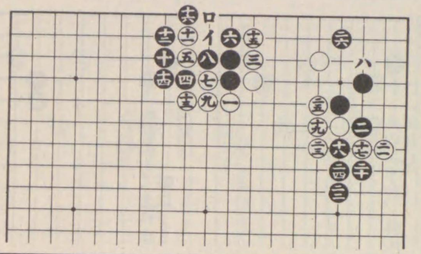
白一は變化の手段。黒二此時白三は絶好の急所。又黒二と白三とは交換なり。即ち右邊の黒五と其下の白六とを見る。以其と略同じ。圖以下

【五四五四】
形勢互角

白一策なり。雄渾の攻圍。白七にて若し十なれば、黒**イ**、白七、黒**ロ**となりて、これ白**イ**方面の形は確かならざれば、白稍無理なり。

黒四と白五は雄渾の攻圍。

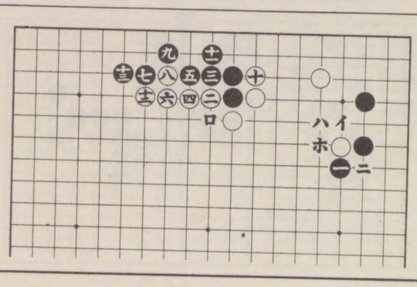
〔五四六六〕黒有利の形



白五の筋もあり。黒六は十と約へ、黒八、白、十一、黒イ、白ロ、黒七と粘ぐ手もあり。白七にて十四に綺れば、即ち、黒九にて十の好形。綺れば能く左右の白に當る。白十七の打過。但し、白此手に二五に約れば、黒は二十と打つて六、黒二十八、白九、黒可なり。黒に此手を怠れば、白ハ、黒十二と打つて黒の要點。白厚くなる。黒は

〔五四八七〕 正形

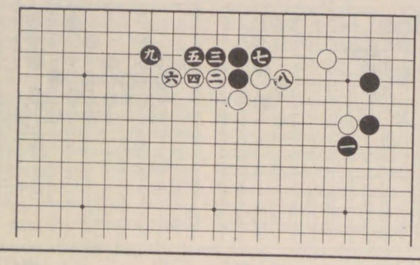
此形、黒一と綽ぬべし。若し黒一を怠れば白イと一間に飛ばれ前後の連絡を保たれて黒ロの一子が浮き出す。白イは黒ロに対する好点にして此形の急所なり。



白イに対し黒ロと受けるは悪手にして白ハと打たれ黒ニの一子を取られ白ホと黒ロの交換は白の大利益なり。

〔五四八八〕 黒可なり

黒七悪し、白八もまた悪し、輸贏の巷。にこの放心事。兩軍非に緩怠や責。免れず。今や黒七を錯に乗じ白八の果失。然り即ち黒九を地に占む。



〔五四八九〕 白優れり

黒七の失に、白八は大に善し。白は大に失に望むべし。白イと一間に飛ぶは黒ロと一間に飛ぶに比し前後の連絡を保つ点に於て優れり。

黒ロと受けるは悪手にして白ハと打たれ黒ニの一子を取られ白ホと黒ロの交換は白の大利益なり。

〔五四九〇〕 白優れり

白四の時黒五に打つも、白同じく六に打つも、黒の傾くに據る。黒軍形勢不利なり。

〔五四九一〕 形勢互角

黒三の次に白イと飛ばれて黒の重圍乃ち黒五成。

以下雲の如く雨の如く變化無數な*

〔五四九二〕 黒稍可なり

黒は猶ほ一着二三遂に比せば黒三。前圖方面に優り隅に劣る。即ち中央を大切とする局面にて黒は本圖が可なり。

〔五四九三〕 黒 勝

白二八は、傍見しも攻合れて黒二。白三攻合ひ黒勝なり。白イと、無理段あれど、これは、黒の外側堅くなるのみならず、白奇なる劫。白悪し。

〔五四九四〕 黒 勝

白二悪し。急いで仕損じては事を誤る。今眼前に活例あり、悲しき哉。白遂に恨を呑む。！黒二七肝要。白三で黒ロ、白ハで打つては地圖太を踏む。

〔五四九五〕 黒確なり

白乃ち黒九もあり、十以下二十四一瀉千里の棋。節に明を移し、白勢遂に一隅を確取に左右に拮抗す。黒又相持し兩軍の棋歩、精強なり。

〔五四九六〕 黒大に優れり

白八、十惡し。白十二を怠れば黒十一に飛ばれ白イと黒ロの二子を取られ黒ニと白ホとの交換黒大に優れり。

〔五四九七〕 黒負つて損す

黒七、九と、九を居して急に大勢を占めて白の二子を見ず。爲に黒十一と天に向ふ、重圍勿下、遂に失着。白十二と黒を取り白十四と黒一子を取り白十六と黒を成す。

〔五四九八〕 黒打過の形

白乃ち黒十七。黒十八に白十九と打つも、黒十八に白イと打つも、黒九を正に取る。白ロには黒二と出で白ハを取る。黒十八に白イと打つも、黒九を奇妙に轉ずれば白ロと黒二の交換

〔五五〇六〕
黒優れり

白十、黒征悪しき時は、黒ロ、白十七、黒ハ、白十五。また白十六を十七へ引いて、次にハとニとを見れば、黒イに引いてハとかくなつては、白甚だ悪し。

〔五五〇七〕
黒悪しからず

黒征悪しき場合は、斯く一一と打つ位、のものに二四に重圏を脱せしも、黒も亦二五に二子打抜きとなす。此結果、㊀黒悪しからず。

〔五五〇八〕
黒有利の分れ

白十六。黒乃ち十七、二一。十九。戦局迷ひに、黒既に最も慎重を要す！白は二二と損を先せば、黒は圖の如く二打なれば、白二二を二六、白二四、黒イ二八。

〔五五〇九〕
黒の勢善し

白先に八なれば、黒は九而して十一、場合。白十六に至きて、黒征悪しきは㊁而かも少しも遺憾なく、猶ほ味ある十七の絶好点に迫り撃つ！

〔五五一〇〕
黒優れり

白八、打過ぎなり。黒九、此時、白十、十二の手段あれど、此切抜筋やや緩たるに過ぎず。黒策遂になし。黒優勢

〔五五一一〕
黒善し

白十二を十三なれば、黒十一、白寄でイ、黒十二、白ロ、黒ハ、白ニなれば、黒ホの打抜きとなり、黒は三までの四子を奪はるゝとも厚味は儼として中原を制し、黒必勝の勢なり。白八に打抜きし時、黒は、十九而して二一の筋もあり。蓋し黒は十七の子を輕く見て、白㊀なれば黒ト、白チ、黒リ中原に勢を張らんとするも、氣宇大、遂に黒の敵にあらず。

〔五五一二〕
黒の勢確なり

白六は、俗臭鼻を打つては、好ず。黒ロ、白イ、黒十三と打つて十四本圖の形は現黒疵無き鉄桶の構へ。

〔五五一三〕
黒優勢

白八、悪し。軍に十七、白十武に威に堕つ。黒遂に十八、白後に十四、黒イ。白十二なれば、黒十三、白ロへ包圍すること、なるも此攻合黒勝なり。

〔五五一四〕
白面白からず

五五〇六圖の如くなりて白が征に取らるゝ場合は、斯くの如く白に取らるゝ場合は、斯くの如く六位のもの。黒安心未だ十分ならず。若し左右の白を脱せば、黒は三子の安きを得、反之、不安の隅の黒は地確定せり。

〔五五一五〕
場合による

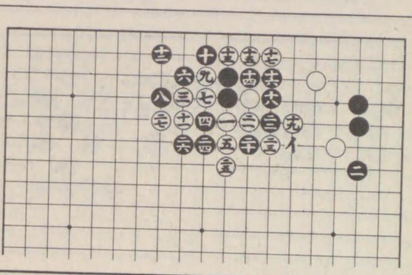
白四と綽ねる手もあり。五四六三及び五四八圖以下と同意味にして、但し其後白手筋なりは、黒圖の如く丈夫なれば、黒打易し。此方面としら面白き形の黒疵無き鉄桶の構へ。

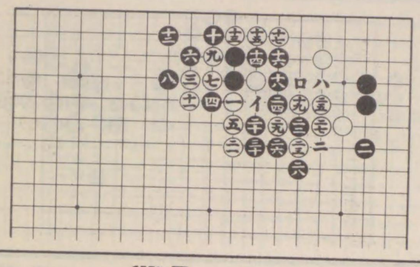
〔五五一六〕
場合による

黒イでなく十三。此形化十二圖と略ぼ同様なれば、白ロと来三五七三以下と略ぼ同様なれば、白ロと来三五七三以下と略ぼ同様なれば、白ロと来三五七三以下

〔五五二四〕
征如何による

國亂れて忠臣出づと かやら。黒十八の時に局綜ず、妙趣所在に伏着の出づべき方に秋果然、**自征宣し**！白十九にて勝なり。故にかゝる形なれば玉にては初め黒六の石の如く七と一圖定に粘ぐ二の外無し。なれば白一一にて二五逸出すべし。（次圖）黒イ





〔五五二五〕
黒圍みを破る

白二一。黒は今や二の時黒二の箭の如く重圍を破つて逸出す！倘白二三を二四なれば黒イ、白ロ、黒八に附越すれば筋あり。次に白二黒七を二九、二に行れ黒七にて二八、ハルに割込むは意味あり。黒善し。

〔五五二六〕
黒手段に陷る

黒二、四、悪し。白一、三を利して遂に五、白の宿志。黒六に白七。

〔五五二七〕
黒の戰へる形

白一、時機尚早。譬へば柿の熟するを待たで、漸て青柿を噛るが如し。黒二、四は鋭を以て敵の喜贏に當る。黒八。黒先分戰へる形なり。

〔五五二八〕
要點約言

（第五四型イの三）

黒七の應は稍ヌルキ意味あれど堅實を主とする場合時に此手段あり。次に此形白イと綽ねる筋は前型（イ）※多くは、然し此形好まず。

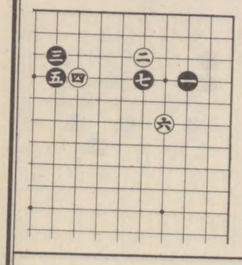
〔五五二九〕
〔基本圖〕

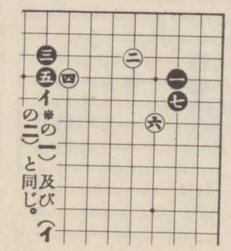
（第五四型イの四）

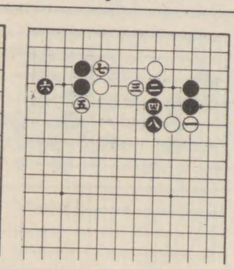
黒七と附ける筋あり（此變化は大斜定石の中には最も多し）。

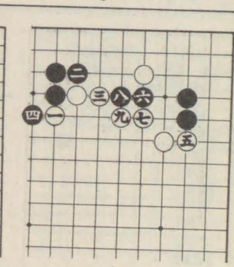
〔五五三〇〕
最善の形

白一は此形に於ける普通の着なり。黒四は五に粘ぐ所なれど此場合白に臨機の一着あるを見て出づ、黒蓋し畑眼なり比較。（五三七七圖）





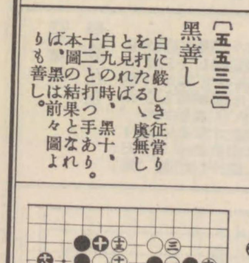


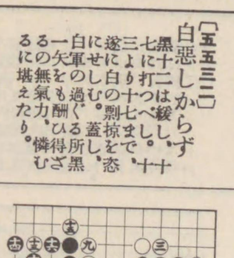


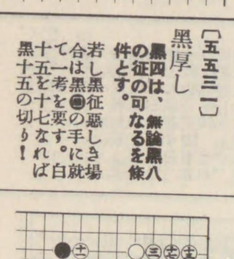
〔五五三一〕
黒厚し

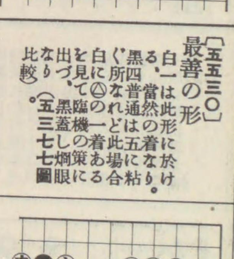
黒四は、無論黒八の征の可なるを條件とす。

若し黒征悪しき場合は黒■の手に就て一考を要す。白十五の切り！白は黒十五を十七となれば







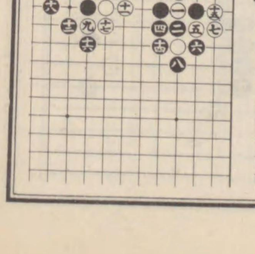


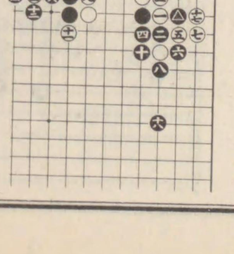
〔五五三二〕
白悪しからず

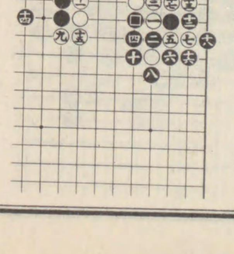
黒十二は緩し。七に打つべし。十三より十七まで、遂に白の劃掠を恣にせしむ。蓋し黒は白の弱き一子を顧みず、白軍の無氣力、憐むるに堪えたり。

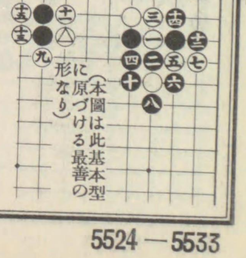
〔五五三三〕
黒善し

白に厳しき征當りを打たるゝ處無しと見れば、白九の時、黒十、白十二の結果となれば、黒は前々圖よりも善し。







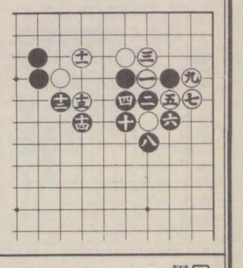


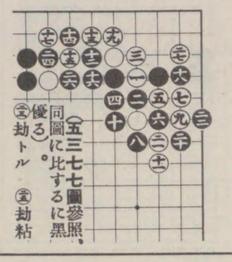
〔五五三四〕
黒稍優れり

白いま九。黒は無論十に打抜くべし。黒十二、白十四の一に猛撃す。今や黒十四の旗空を厳し、黒が外厚は之が千里の手段には苦しむ。

〔五五三五〕
黒厚し

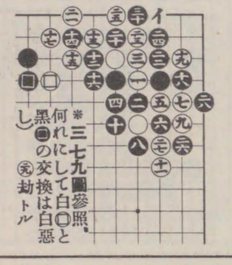
黒十一。烈抜は十二及び十四の又十八を含んで手を倒す。鬼氣人を衝く。白十九なれば黒二十。白二は本圖に比して白まづし。

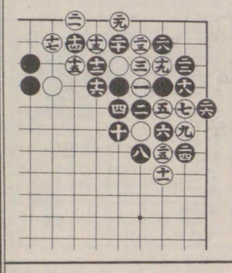




〔五五三六〕
黒劫勝

白十九、悪し。二十に挑ぎ、二十二以下辛�excl.抛て。黒卅一に尋ぬれば白一取地に塗れる。白劫提りにて白は二八の九廻するの苦しみあり。（劫トル）





〔五五三七〕
白敗戰

白十九も悪し。黒二十二に挑ぎ、二四。黒二六に抛て白二八の九廻するの苦しみあり。（劫トル）

〔五五三八〕
黒後手なり

黒十八手順を誤る。見よ、黒二六と打ち、遂に三十一と抜く。五三五圖に比して黒勢稍優れるも黒は後手なれば好まず。（劫粘六十四ノ處劫トル）

〔五五三九〕
劫抛如何

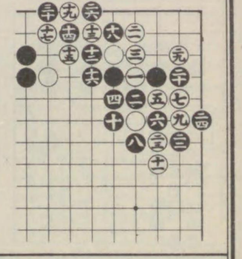
白十九と打抜き、更に二五に利を圖り、以下は五に白を放棄して他の劫を得んとするも黒は非常に善き劫抛の形にて白悪し。

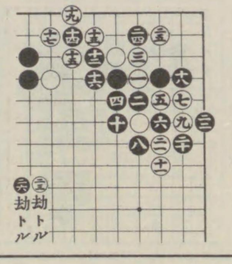
〔五五四〇〕
白善し

生兵法は大きずの大斜定石に泥みて此形に黒四。さればとて白■に接ぐ時は四圖の狀勢方あり。黒七は普通の手段なれど此形にては黒面白劫らず。（劫トル）

〔五五四一〕
參考圖

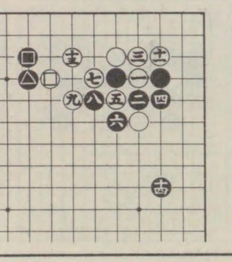
本圖は大斜掛の最も普通なる定石にして前圖よりも優る。蓋し前圖に比し黒■の弱き二子あり、之が逃走には可なりの犠牲を要する形なれば。

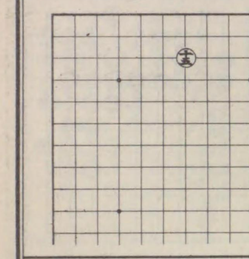




〔五五四二〕
至難の形勢

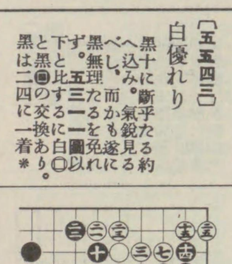
黒六に道走を企つ。行手には白■の伏あり、果せる哉、兵■は然生動し始め七に俄然白十一と逐に決。白中央の殲滅さるゝ。戰に輸贏！此形普通は黒好まず。

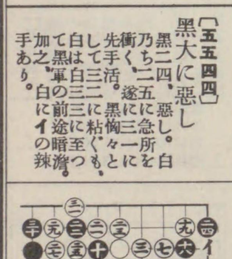




〔五五四三〕
白優れり

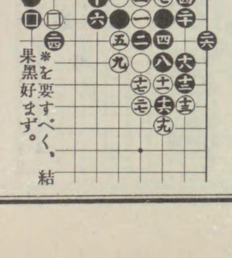
黒十に斷乎たる鋭氣の込み。而も遂に免れ黒無理を為ず。黒三一圖以下白■と比すると黒の交換は白悪し。黒は二四に一着。

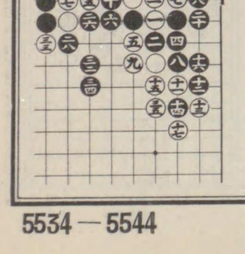




〔五五四四〕
黒大に悪し

黒二四、悪し。白乃ち二五に急所を三一に衝く。黒■と先手活。白三二に粘くも、黒は白三に途に至つて黒の前軍の暗滞。加之白イの手あり。





【五五五五】
白面白からず

黒十四の一子を白イと征に取られぬ場合は黒十の手は成立す。（此意味にて以下同じ）黒二一一、二四、二六に駒を進む。十三以下の白低。＊

【五五五六】
白嵌手に陥る

白二七悪し。白三三に甚だ優勢なり。取り喜びも、智者の悲しみの鋭手！白肝要な五子を打抜かる。白敗戦也。

【五五五七】
場合による

黒五以下の就活も亦可なり。黒十七、白十八、二十、二二は手法超過。二五を白イは、白二六、黒ロ、白ニに黒面白からず。

【五五五八】
互角の分れ

黒三、白四は軽率なり、五四八図は打つべし。右辺は静かに春風和暖。やがて其代償と痛撃！互に十得一失あり。

【五五五九】
黒好まず

黒三、好まず。一知葉。天下の勁手！次に白イは五四の秋を失する。白ロ、黒二、白ハ、黒ニ、白ロ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ、黒リ、白ヌ、黒ル、白ヲ、黒ワ、白カ、黒ヨ、白タ、黒レ、白ソ、黒ツ、白ネ、黒ナ、白ラ、黒ム、白ウ、黒ヰ、白ノ、黒オ、白ク、黒ヤ、白マ、黒ケ、白フ、黒コ、白エ、黒テ、白ア、黒サ、白キ、黒ユ、白メ、黒ミ、白シ、黒ヒ、白モ、黒セ、白ン、黒ス、白ヱ、黒ヘ、白ホ、黒ハ、白ロ、黒イ、白ハ、黒ロ、白イ

〔五五六八〕
形勢互角

先 山崎因砂五段
先 奥貫知策當時三段

黒■あり。敵の實を避けて虚を撃つ。久保松勝喜代六段や手法を異にするに至れり。雖もその精髄の一棋に歩何ても名の如く白が一一、三、五と隅に先着の利を收めてしまい、黒は上邊の堅きを避けて用戦兵巧みなり。

〔五五六九〕
黒確かなり

先 長谷川 章當時四段
勝 久保松勝喜代六段

黒二、六は變化箇所。白□に殊に此手は本圖の如く白□は黒の守りのみなり。蓋し場合によりては黒□と對して白の詰めろを避けて打ち抜くも一策なるも、好手段は無論以下九圖可なりとす。

〔五五七〇〕
黒好まず

勝 久保松勝喜代六段
二子番 鈴木 秀子四段

白三以下は脅力衆に勝れ智謀随つて出づる久保松獨得の手段なり。蓋し行機を含み二子の波瀾萬壘の碁としては白甚だ面白し。黒十は稍□に乗ぜらるゝの虞あり。此手は□に切つて振替れば安全なり。(照)イ、白二參圖黒五、黒□は確に盤無事安。＊

〔五五七一〕
要點約言

(第五四型□)

白はイの カケを先にせず、先づ六と綽ねる手あり。さと先れど之れは黒に□と曲られて、變化簡單、且つ結果黒悪しからず。

〔五五七二〕
基本圖

(第五五型)

白四及び(イ)は虚喝としたる奇利を博せんにて、結果白悪しからずとい ふ程度にて黒の應け＊

〔五五七三〕
基本圖

(第五五型イ)

此形黒に"五とイの應けあり。五は堅實、イは結果悪しきには非らざるも稍白の注文にハマル傾あり。

〔五五七四〕
參考圖

定石

黒五なれば、必然の手。黒七は先づ己れを固めてより一度起たば六までの白に目に見せてくれざるは含蓄深し。

〔五五七五〕
常形

白若し一と打てば、黒二、白三の時、黒は手を抜くも宜しく、或は□をまた直ちに左に黒二を拓するも宜し。イ

〔五五七六〕
黒時機を見よ

白若し一なれば、黒手抜きして宜し。尤も"黒より打つと、せば"二、四、六、而して、次にイの切りを狙ふ。白一と□をなれば、黒二と不敵の面魂。此形白まづし。

〔五五七七〕
黒攻勢に出づ

此形白手抜せば、黒は上邊に頑同時に更に"六"の補強と掛引を見て若しイ、白ハ、黒ロとなれば、又白四、黒ニを待てば黒ホに打。

〔五五七八〕
黒　勝

白六。黒七に□の白を拘攻す、可なり。白今更の如く下に吃驚仰天、以下殊に八九の死奪戦すれば、黒は死形に遅くして白敗となれり。

〔五五七九〕
黒　勝

白十四。黒即ち、十五に手數を延ばして白十六を二に上げにて、黒は二、二、三、二、一、二、一、二、一

〔五五八六〕
白堅し
黒二、四キカシに似たれど、白を攻めて不利。白五は肝要不可缺の一着。若し之を忘れば、黒イ、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘにて白は左右に危急迫る。

〔五五八七〕
黒可なり
白一、餘りにも平凡無策。黒は平明の棋路、二、四両しの六。黒可なり。取らるゝも黒の黒よりや黒既に二、四、六に利す。黒可なり。結果

〔五五八八〕
黒利勢
白一。此時、黒が敵多き一方面に接伏を求めず、二に味方の多き所と味を進めずして兵は衆に敵せしめ、寡の真諦に到せる「」の簡明、黒善し。

〔五五八九〕
黒堅し
白三。黒四、六善し。黒八と切つて光芒陸たり。白九をイは黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒十一。白十抜きイ黒ホを一と頑※

〔五五九〇〕
白低し
黒三と下より掬へば黒四、六と面して白九に応じ、白五は痛烈の絡出し。白九と叩いて白をイに低し、一転黒ロに兵を引く。之も白低卑、好まず。

〔五五九一〕
要點約言
（第五五型イ）
白四の時、黒三を一時放任して五と先づ隅を確にせしは善し。次に白イに打つて後黒ハ或はニの絡出しを狙ふ。

〔五五九二〕
基本圖
（第五五型ロ）
黒時に五と受ける手あり。而して左辺に黒五によりて勢を得らるゝ場合に於ては此手段最も面白し。

〔五五九三〕
定石
白五。此時黒六、八は常用の手筋なり。黒十一の時先づ、右辺黒二十二に夾攻し、造んで始めて十六、白十四と出づめ精妙、虚實入神！

〔五五九四〕
黒善し
白十三に走る。黒十四に応じ、水は低きに流れ兵は虚を伐つ。即ち、白九と十四の時、黒十五と拖撃。白十六、次に白十八、黒十七の手法堅實。又た白イをロは黒ハ。

〔五五九五〕
黒確なり
白十三、十五もあり。黒十六堅しと雖も、かくて黒は鮫の如く雲を待ち望む委勢で白十七、黒十八、攻守地を兼備へし好着なり。

〔五五九六〕
白稍無理形
白十七は疾騙して黒を奪ふ。黒十八に千鈞の重を加へ、次で攻むるは即ち、守るなり。白一と二十に攻めイは黒ロにて黒好調な

〔五五九七〕
黒稍優る
白七を先にして九。此形、黒十もあり。白七を先にして九。此形、黒は伏虎が風を呼んで起つの勢！以下必然の勢、黒厚くして白は中を取る形となる。前圖と同形。黒十をイは

〔五六〇六〕
常形
先 **鈴木知清** 當時三段
當 **奥貫智策** 五段
之は文化年間の劉局、當時の盛行局の定型なり。因つて文化の華やかなりし時代。

〔五六〇七〕
黒稍優れり
白□黒□の後白一。白が単に一の如きは普通の斜大定石なり。黒の應法自ら異なる。黒の征宜は上粘を取り、白□斯くなりては惡手と化す。

〔五六〇八〕
黒の勢優る
白十一に黒同じく絡根を得つ。白十二に黒乃ち已むを得ず。白十三と白を孤立に陥れ、黒十四と白を攻む。白十五は黒ロにて黒ハ、白イをは黒ニ、白イ、黒ホ。

〔五六〇九〕
黒優る
白十七以下も、此場合好ましからず。黒陣整然、黒二二の二子は反之、白の勢外の地大なるも黒の厚味に及ばず。

〔五五八五〕
互角
白七、而して九に短兵急攻す。九の意味は前圖の同じ。黒十一の夾返しと略ぼ同じ。白十三なれば黒十四に切つて取つて根據を築く。

〔五五八六〕
互角
白いま十三。黒乃ち十四に據つて上下を睥睨し、辛うて十六に鋏接す。以て黒二退守するも白二、二六の二子は、二、四の追撃を了せしは、鴻緻。

〔五五八七〕
白少しく有利
黒は前と同じく、十二、も三圖と同じく、十。然し、白九、あり。於ては、白十三、前で手抜せば、黒イの反之、手あり。本圖では黒イの時、白ロで、黒に手無し。

〔五五八八〕
白少しく有利
黒は三圖と同じく、十二、も三圖と同じく、十。然し、白九、あり。於ては、白十三、前で手抜せば、黒イの反之、手あり。本圖では黒イの時、白ロで、黒に手無し。

〔五六〇〇〕
白少しく有利
白いま十三。黒乃ち十四に據つて上下を睥睨し、辛うて十六に鋏接す。以て黒二退守するも白二、二六の二子は、二、四の追撃を了せしは、鴻緻。

〔五六〇一〕
黒善し
賣家と、唐様で書く三代目。白九は一以下七まで代に亘る善の闘を水泡に帰せしめ十一に粘る凡手。黒今や左右の好點！黒今や毫も活躍に堅し、白無し。跡無し。

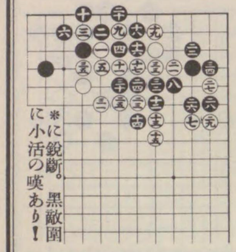
〔五六〇二〕
常形
黒四なれば、白五、七而して九に先づ一の夾攻！妙着。此形白の手順の精動す。黒五は黒五九、三圖以下略同じ宜し。黒十二は

〔五六〇三〕
場合による定石
白五。此時黒六、八は常用の手筋なり。黒十一の時先づ、右辺黒二十二に夾攻し、造んで始めて十六、白十四と出づめ精妙、虚實入神！

〔五六〇四〕
形勢定まらず
黒いま十四、十六。白十七の急攻、甚だ機宜を得たり。此時猶白はイと逃出す手あり。五九○五圖に比して一層此逃出しは酷し。

〔五六〇五〕
黒善し
勝 **久保松勝喜代** 六段
先 **向井一男** 四段

黒十六早急事を誤る。五五九五圖の如く二三に粘くべし。白遂に二三※


※に鋭斷。黒敵圍に小活の喚あり！

〔五六〇六〕
常形
先 **鈴木知清** 當時三段
當 **奥貫智策** 五段
之は文化年間の劉局、當時の盛行局の定型なり。因つて文化の華やかなりし時代。

〔五六〇七〕
黒稍優れり
白□黒□の後白一。白が単に一の如きは普通の斜大定石なり。黒の應法自ら異なる。黒の征宜は上粘を取り、白□斯くなりては惡手と化す。

〔五六〇八〕
黒の勢優る
白十一に黒同じく絡根を得つ。白十二に黒乃ち已むを得ず。白十三と白を孤立に陥れ、黒十四と白を攻む。白十五は黒ロにて黒ハ、白イをは黒ニ、白イ、黒ホ。

〔五六〇九〕
黒優る
白十七以下も、此場合好ましからず。黒陣整然、黒二二の二子は反之、白の勢外の地大なるも黒の厚味に及ばず。

〔五六一〇〕
黒厚し
白十一なれば、黒十二。白十三なれば、黒十四に二子を奪取すべし。見よ、十八抜けて至っては黒は不抜にして七、九の二子は甚だ大なり。

〔五六一一〕
黒大に優る
白十三。黒今や機熟せりと十四、千里前無きの鋭鋒あり。白六の攻撃の慨あり。白イ、黒イの次に二七、二八は黒ロの征成立する如く打って宜し。尤も黒ニ十の打抜き不可能。

〔五六一二〕
黒勝
黒前圖征の悪しき時が可。白二七、十四、十六なれば劫なれど、劫名のみ、黒ロ、白ハ、黒ニ十の打抜き大なれば白の貧行尤も善し。二四は手抜も可。

〔五六一三〕
白形甚だ無理
白十七、十九血氣に逸って思慮足らず。黒二十、而して白二〇の切取り、事遂に及ばず。黒二四は狙ひ、次圖尤も善し。二四は手、抜も不可。

〔五六一四〕
白　損
白二なれば、辛うじて活、さ程届く様に見よ、先手に辱命、先れて地を破られし如し。白甚だ損、又白二を四には、黒五。

〔五六一五〕
白潰れ
白四、五以下十一と、白のつく眼を利して滅めの惨。白四を五は黒の四にて前圖と略同じ。また、黒五、白六、黒十一。

〔五六一六〕
黒悪しからず
黒は六と枯く手もあり、之れ三間夾大斜定石と其変化略同じ。黒十二、白十五の辣手！黒潰滅に近し。（五二八）黒十六で六圖比較的白ロは白ハ。黒十一。

〔五六一七〕
黒嵌り
黒イを怠る。乃ち白十三、黒十四の時、嗟乎、黒は寝耳に水の驚き！白十五の辣手！黒潰滅に近し。（五二八）黒十六で六圖比較的白ロは白ハ。黒十一。

〔五六一八〕
互角の分れ
前圖黒征悪しき時は黒は二の外無し。十五までの形、九六圖の定石と同様にして黒低卑な白□と黒■との交換は此場合白の不利なり。

〔五六一九〕
前變化參照
黒二此場合も好手ず。白は三に附けて同時に■の黒に當るも同じく其意味は五四九圖以下と略同じ。五四五三圖以下と同じ。

〔五六二〇〕
要點約言
（第五五型ロ）
白四の時、黒五の形、黒五の応も其よりも見て決し元来悪手、白手意味は、白四に非ず。直接一接を狙に三冠せ当り、手段なり、故に黒は尖に前型な間も

〔五六二一〕
基本圖
（第五五型ハ）

黒五では、時イまたは、ロもあり。尤も是等は四圖による機變の手段にして、常形にあらず。

〔五六二二〕
常　形
黒一は最も向ふ位に低く、攻撃に精神を欠く慨あり。白二は普通の好手ず。黒二、若し白二の切取り、白四は絶好の事遂に及ばず。黒五、白六の無念、白は二で、白は虻蜂取らずの損。

〔五六二三〕
白優れり
九は戦ひ直ちに七、七は妻を懐ふて逃げ帰るの怯、緩十二に颯爽たる振り！黒は低隅辺の取り！黒此戦は線廣し！

〔五六二四〕
黒認識不足
黒五、七は實勢の認識不足、蓋し一場合の悪しき時、嗟乎、黒は寝耳に水の驚き！白十五の辣手！黒潰滅に近し。（五二八）黒十六で六圖比較的白ロは白ハ。黒十一。乃ち白十三、黒イを怠る。黒十四の虚眼を利して滅めの惨。白四を五は黒の四にて前圖と略同じ。また、黒五、白六、黒十一。

〔五六二五〕
變化廣し
黒一、三で六に嗟！先適の四切行り！武駒平歩の軍配を挙げて武味爽白の進むを快！此黒は戦線廣し！

〔五六二六〕
白可なり
先番　林鐵元四段
勝　鈴木知清四段

黒五は、次に九の切りを狙ふ。黒七の白ニ、黒ハ、白ロ、黒ホと出るを備ふ。白十二、黒十四は、此の魂胆。白十四に當るも黒十三の粘りを許すなどは、黒一悪形なり。仮令白十二を黒一に打つとも、黒ホ、白ヘ、黒ト、白リ、黒チ、白ヌ

〔五六二九〕
白面白し
勝中川龜三郎八段 當時二子鍋島一郎三段

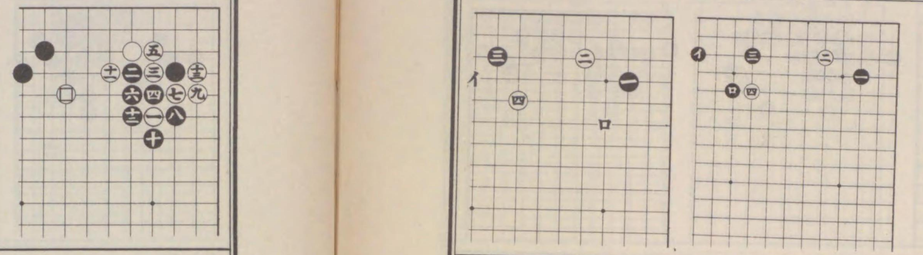
白六は、二子局殊に白四とあるに於ては、變化を廣くするの意味あり。黒七は大面白しとして、敵と見て恐れざる勇氣を以て下すべし。雖も亂麻の如き紛擾を釀し、鑑れば二子局好まず。イに拓くべし。

〔五六三〇〕
要點約言
（第五五型ハ）

白四の時黒イとロは場合の手段なり。普通イは秘くロは此に調子を與へる恐れあり。此二着共に黒好まず。

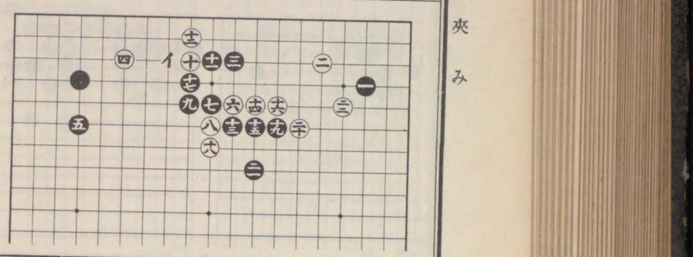
〔五六三一〕
基本圖
（第五六型）

白四は、正着には非ざるも、左イ、右ロ等に孕し。微妙なる戰機を徵む。白時に面白



〔五六三二〕
基本圖
（第五六型イ）

白四に對して、黒五、及びイ、ロ、ハの應けあり。此中五、穩健にして最も善し。



〔五六三三〕
定石

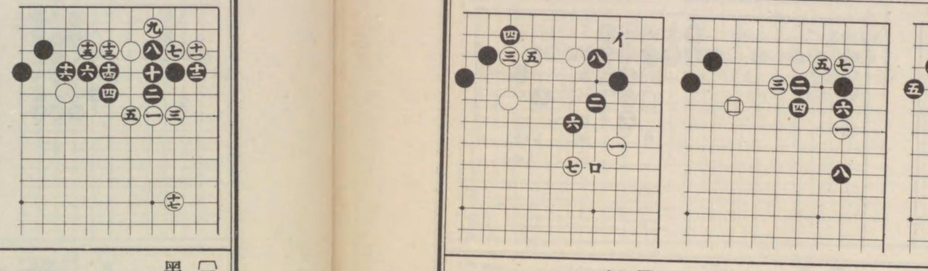
黒五なれば、白六。東邊に躍動す。白甚だ面白し。以外の手は、何れも白好まず。（次圖以下）白十二及び十四善し。

〔五六三四〕
黒善し

白一、此場合は惡し。見よ、黒二、四。白〇の一着今や閑手と化せり。

〔五六三五〕
黒の形確なり

白一なれば、黒二に尖みて、鋭鋒上下の局に當る。白甚だ面白し。三、五、已むを得ず。黒六、八を得て好し。（次圖）白七をイなれば黒ロ。（五五九四圖參照）



〔五六三六〕
黒確なり

白一、三、四し。見よ、黒二、惡し。邊の勢威を加ふると雖も、白は、三、右邊へ寄與する所段と無し。黒十は前圖の如くイでも宜し。

〔五六三七〕
黒の形拙し

黒二。乃ち白三以下五。此時、黒六好なれば白七に調ふ。黒八、十俗筋なり。白は、忍びて止むを得ざるに出づ。即ち、黒九、白十に寄するも難きに非ず。（次圖）

〔五六三八〕
黒敗

黒八、惡し。白九の切も、次に十とするも、黒十は上隅の危し。黒十、白十一、黒十二、白イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホ、綽れば白ヘ、十九に黒※

〔五六三九〕
黒陷穽に落つ

黒四、六は普通の白を無視して大斜定石を旋る。遂に救ひ難き破滅に陷る。白十六の効果燦然。

〔五六四〇〕
白悪しからず

黒は征可なれば、六と上を粘く手は、あり。十三まで下の形は、稍異れり。此時、黒は、□と十一と白の原を致すの手段無きに苦しむ。

〔五六四一〕
黒無理なり

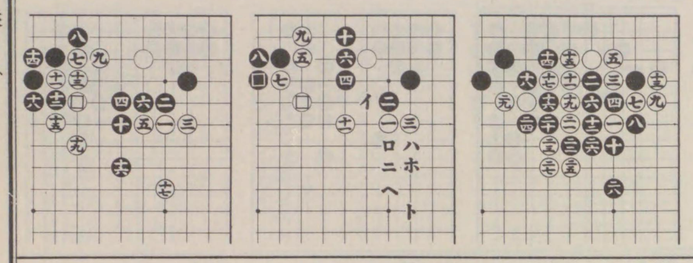
物、順に從へば菜へ、背けば十二衰ふ。黒十四、強て白を切斷せんとせば、白は天坪に背く。白遂に二九。黒上下に弱石あり。黒打過の形。

〔五六四二〕
白稍優る

黒二なれば、白三善し。白三をイでは、黒三、白ロ、黒ハ、白ヘ、黒カ、白ト。と交換。白不利に歸す。

〔五六四三〕
難形、但場合

黒四なれば、白五の後、黒七。かくては、黒の形惡しきには非ざるも、白は非ざるも、白は性能發揮と□なり。俄然躍動す。（二間夾の中一間夾の六三圖參照）



〔五六四四〕
白利勢

黒六は手筋に非ず凝つては思案に能はずとか。蓋し七、惡手なり。白七の飛附に黒が缺陷暴露。白十一、黒甚だ窮せり。白十三善し。黒十四、十三の屈辱、無念！

〔五六四五〕
黒の形拙し

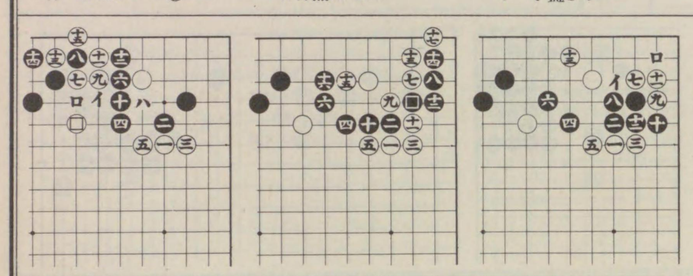
黒八。白九、十一に巧手。黒十、十二と駄目に碁歩。あゝ恨は盡きず、六の一蹶！黒十をイなれば、白はロに盤りて可なり。

〔五六四六〕
黒嵌り攻合敗

黒八惡し。あゝ露の如き果敢なき命なるかな。白九によつて□以下の黒は、今や活きて再び天日を見んこと難し。

〔五六四七〕
白善し

黒六なれば、白□を利し七、黒十をイ時は白ロ、黒十一とコツリハにて黒が破綻出の如き俗手の成功する場合は稀なり。



〔五六五〇〕
基本圖
（第五六型ロ）

黒五と尖む手あり。確なれど之れは前型五五七四圖以下と異りて同程の好結果を得ず。

〔五六五一〕
定石

黒五。白乃ち六、八に戈を執つて起つ、次にイと十二とを最も穩當手段なり。黒九、は□の切にて善し。白は俄然イの如き俗手の成功する場合は稀なり。（變化を防ぐ。）六七八圖以下參照。

〔四七四九〕
要點約言
（第五六型イ）

黒五、堅實。斜走の大筋。此時に白六の大面白し。其結果は先づ互角の分なるを普通とす。されど兎に角白の四、六は變※

〔五六四八〕
黒好まず

黒二。白三、七になれば、白九。此□を利して五〇四圖以下參照。

〔五六五二〕形勢互角

白十一、十三、尋で十五に守りを固うせしは、巧なり。即ち、黒は十六で十七、白イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホの征。又若し白征悪しき場合はイに守りて只ハ。（次圖）

〔五六五三〕場合による

初め、黒十二で十三、拔かまたは拔伸ばしたは白はイに手威張す。黒十八、二十の手順宜し。二十にて只二十一に粘らば、白十八。（本圖は、白征悪しき場合―前圖）

〔五六五四〕形勢互角

白五。黒乃ち六に守って宜しと、白七と振って躍り入る。此形、無理の尖附の有し、黒は白七の切に異れり。後の變化大に異れり。（後圖參照）

〔五六五五〕征による

黒十と強力、弛み無き壓迫。此結果の可否は全然征關係なり。即ち、黒征悪しき場合は、前圖に從うが若し、黒征宜し、白ロ。又白ハにて勝。白一をロなたらば黒十四有効の一着となるなり。

〔五六五六〕白面白し

黒■に附ければ、白は一と綽込む筋。此場合時に面白し。（白一と綽込むる變化は三五一三圖以下參照）

〔五六五七〕黒狡る

黒四。白五に切り込みて宜し。此形に黒は前圖の如く十二の尖附は此差し。黒六、八は、異なりを看過せる惡手。白九、一手差しく形り撃の下に白二を屠る、十二に切りて攻合白勝。（六粘）

〔五六五八〕黒甚だ拙し

此形初めに黒十一を、白十、黒イ、白ロ。次に黒十二、白十三以下白七に切って黒イとハを交換すれば、白二十一をに切り合白勝。シボリて攻合白勝。

〔五六五九〕互角の分れ

勝 先 久保松勝喜代 段六
番 岩 本 薫 段六

此形、黒既に左上隅に■の締りを見て、白が先づ一と右上隅に、黒二と守備を加へ、黒二が絶好の點なる四の時白好の拓す。黒六の切りの如く、此時、白は隙忍、七と下より十三までと綽ねぶ。先づ互角の分れなり。

〔五六六〇〕白善し

今や黒イの守備無く位を擧して六、八と追る。乃ち、白九、十一の巧着。次に黒イなれば、白ロ、黒ハ、白ニ。又黒イをロなれば白ホ。

〔五六六一〕黒の形厚し

白一、三は、■に稍△の間に拙し。白二の重複の慨あり。黒八を誘ひ引いて五と相呼ぶ。此形何となく黒の形手厚し。

〔五六五一〕黒有利の形

白一なれば黒も二で宜し。白三の時、黒先づ四而して六、白突破！嗟乎、白七は皮肉なり。黒八、白九を■なれば、黒十と苦しみを九へ、黒七、白十も味悪し。（但は本圖よりも）

〔五六五二〕黒に利あり

白五なれば、黒先づ六、而して八の切り。白九を■なれば、黒十と方面に種々手段を避けて堅實なる應手を以て堅實なり。此時白次に■に附ければ黒ニ、白※

〔五六五三〕要點約言（第五六型ロ）

黒五の尖みは、前型黒■の尖みに比し、白■の尖みは、■の正着にして及ばず、滅びた入る門は廣しとかや、■は白の二、※

〔五六五四〕基本圖（第五六型ハ）

此形、黒は五■また■も■あり。但し、黒五は前項ロの正着に及ばず、滅びた入る門は廣しとかや、■は白の二、※

〔五六五五〕白の勢善し

黒六。白同じく七の約へ込み。黒十二！■の白は未だしも死の狀態。即ち假ほ隅には、白■は遺味無しと雖も多少の遺味あり。白十三の要點。

〔五六五六〕黒味悪し

黒二、四、六は隅と替る手段。隅の黒■無効。隅の黒地は大なる白■に似たれど、■へ懐中に潜む敵の妻！

〔五六五七〕白の形善し

黒一、三、五、七の手順善し。白十二の■、黒■、白ニ、黒ホ、白ヘの筋。又黒イを白ト、黒イを風や何處を吹くとも、他に先鞭す。

〔五六五八〕白面白し

黒■に附ければ、白は一と綽込む筋。此場合時に面白し。（白一と綽化は三五一三圖以下參照）

〔五六六〇〕白稍可なり

黒六なれば、白先づ七と一、太刀浴せて而して後、九に行く。黒十を■べし。黒十一を■なれば白イと交換は白有利。

〔五六六一〕黒術中に陷る

黒一は白■の意中を■くも、好手の壓迫を先だち二と三と交に白手を善しとし、白逐次に順に八と壓す。今や、三は明か、に悪手となれり。

〔五六七二〕黒嵌る

黒九、十一は猪進、自ら敗を早むるものなり。而して十四、白十二まで宜し。黒乃ち二まで、絶對、烈抱、尋で二、二の先鞭。四に大勢を占む。

〔五六七三〕 黒の形クズル

黒五、七は、白又に向つて我と我が頭をブツケル如き悪手。白六、八、十の好調を見れば、黒十一、白十二にて勝。また黒は寄せも外勢も黒劣る。且つ

〔五六七四〕 黒敗勢定まる

黒十七と打つも、白十八にて、黒は進退維れ谷まる。黒二五にて若し㋑に約れば、白ロ、黒八、白ニ、黒ヘ、二白ト、白木、黒七にて、白勝。※

〔五六七五〕 場合による

以上諸変化にするに比すれば、黒は五、而も七の行切り最も善し。圖の如く、黒は隅に損を爲したるも、中に勢を得たり。場合によりては、此形黒可なり。

〔五六七六〕 白の形好し

黒三なれば、白は四に敵の虚を衝く。黒は五に虚を伐たれし屈服の已をなに出ず、之を怠れば、白七に、□の死灰再燃の虞あり。本手

〔五六七七〕 白有利の形

黒五は、浮足立つた軍勢の腰なり、悪し。白八は辛辣！但し征宜しくば、白十三も宜し。

〔五六七八〕 白の勢善し

黒七を十一なれば、白十二。かくなれば、根無し草の一子なれば、蘇じがへるの期あり。次に黒九なれば、白無論

〔五六七九〕 要點約言（第五六型八）

白四の時、黒五と附ければ、白ロに綰込む筋。（五八四）場合多少異れども（㋑なれば白ハ、黒五を攻めんと白ホにて、※黒ニ、

〔五六八〇〕 要點約言（第五六型全部）

黒三の変則の手段にして冠は㋑と或は㋺と白の変化の手段にしてする手なり。黒は三を機敏へへ、黒ヘ、白ホにて、※

〔五六八一〕 基本圖（第五七型）

黒三の時白は左邊隅の關係上四と一ツメルの手あり。又白四でも更に遠く㋑、ロなどもあり。蓋し白四、㋑また左邊に根據を作るなどは同時に黒の攻撃を制する事に對する白二のロなどは左邊に根意あり。即ち攻守兩様の好着手なり。

〔五六八二〕 基本圖（第五七型㋑）

白四の時黒に五及び㋑、ロ或は此中五の手段あり。ハは古風の定石。ロは打過ぎ厚き意味となく厚き意味あり。

〔五六八三〕 古風の定石

黒五なれば白六。以下黒十九まで白六。以古風の定石。白ヘでは黒の堅棋歩精地の損なく一點にも餘す所なく黒の出發點にも於て誤れり。白イの鴈行するを達せず。形には及ばず。

〔五六八四〕 黒の形好まず

白十三に先だつて九而して十一の手白五。順宜し、白肝要。順肝要。白十七の手を先にして十七の手を先にする時は黒十六あり。（失圖）黒十六、緩着なり。

〔五六八五〕 黒優れり

白十五と覗きを早く打てば、白十七に尋で黒は殺し十八に來る手段あり。見よ、黒八に至つて三に出ず、爲に白九の餘儀なきに出づ。四二、四の突破。白軍萎靡振はず。黒は十と八之に襲ひ既に十一れし以上は白九、白イと求むる位より外活を無し。（失圖）

圖 六劫トル 五劫トル 劫ツグ

〔五六八七〕 古風の定石

これは、古風の定石なれど、其形整然。現代に於ても以て模範とするに足る。白イ、黒ロなくしては、黒は剣の急所に追て直ちに八を按じなれば、敵の急所に追る。

〔五六八六〕 黒劫敗

白十五の正着に出でて時、黒十六と無理にカケ、白六と若しは二八と粘れば、黒七と白二六、黒三八、白ロとなる。黒イ無理形となるは三と六に劫を取りしに於てなり。此場合に於ては黒三時に白七と劫を取りしに於てなり。此場合に於ては黒三時に白七と劫を取りしに於てなり。即ち、一抛あり、彼の劫材の有無を全く顧倒せしむる白の勝なり。白四に切りて粘りを四つの劫を勝つ手もあり。

全 劫トル 全

〔五六八八〕 白打過の形

黒十一、見敵を左右に隔てて伐るの佳手なれど、時機早くば備へざるべからず。果然非難を免れず。黒白卸つて十二に棋歩の難澁を來れり。

〔五六八九〕 黒確なり

白十一、次に白イの來冠漸く急を告げ乃ち黒十四に守りしは堅實なれど、黒寶の手段に先だつて十二の白のロまたは八を防げり。

〔五六九〇〕 進むに過ぐ

白九は、進むに及ばざるの手。黒十四と強し。此手段なくば、白も此手を望をか得ざる事難し。

〔五六九一〕 黒堅し

白九と前圖の中間なれば前々圖なれば、黒乃ち十に宜しく、白は狭きに過ぐるも五六八七圖の如く、尤も、黒十で前圖の如くロの夾攻もあり。

〔五六九二〕 黒優れり

白十五なれば、白七、悪し。白十七、白イ、黒二、白六、黒ロ、黒十二、虚を奪ふ、白逐に凝形なり。白尋で白七を黒ロ、黒ニで、黒甚だ優勢。

〔五六九三〕 白の形拙し

黒六は、筋違ひなり。白五、敵の厳しき攻めに附入る。脚下の隙に崩れ形を守りしは拙し。白七は黒八を化して三の愚せり。

〔五六九四〕 黒利勢

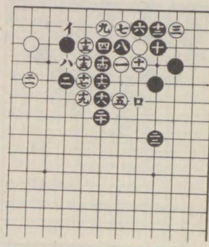
白九。黒即ち十、白十二で善し。イなれば黒十五をまた、白十七なれば、黒ロ、白イ、黒ハ。何れにせよ、白イと盤るに至つては其形低卑なり。

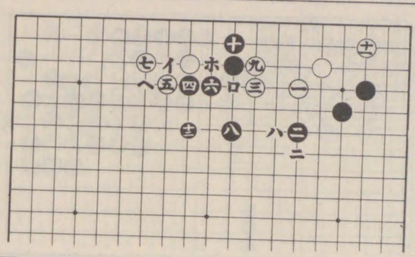
〔五六九五〕 黒時に面白し

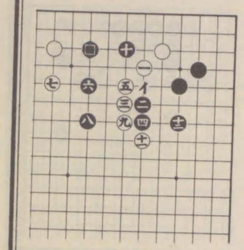
白一。黒乃ち、中原の覆厄を策して面白し。白三、黒四接上火花を發す。白五にて他に種々の變あり。此手段を引けば黒ロ、白イと黒ニ。此形黒四と白イとの交換黒有利。又白イを黒ホ、白ロは黒ヘ。黒十六、白イ、黒十二！二八の連繋未だ角不完全なれど兎に角黒外部を封鎖せり。

〔五六九六〕 黒の形善し

白もまた三と双を接して、囲の黒をして睥睨す。黒四而して六は好調。四を白イで黒悪し。黒十以下の白を緊要、此点！一手によりて據を失へり。







〔五六九七〕 前變化參照

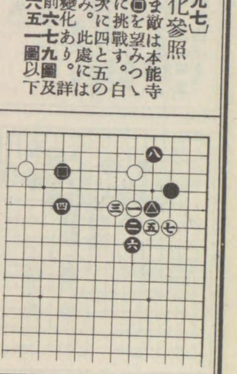
先番 本因坊秀哉名人
土屋 秀元四段

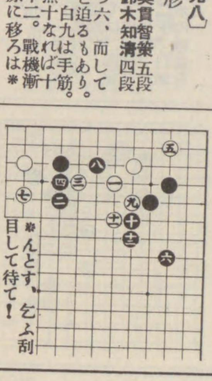
黒六、而る後八に曲りて左右の敵に向ふ。白九善し。黒十、白十一、黒十二。此時白十三急に出て黒十四、三に普通に叩かんとす、乞ふ刮目して待て！

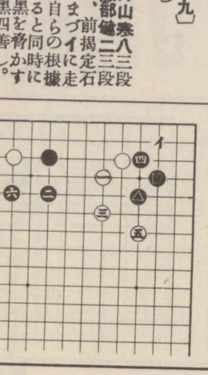
〔五六九八〕 常形

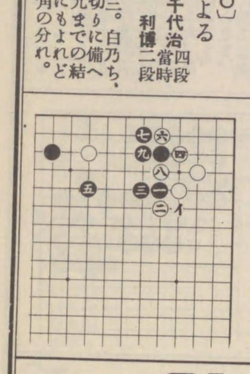
先 奥貫智策五段
鈴木知清四段

黒先づ六、而して後八と迫るもあり。此時、白九は手筋。尋で黒十二。戦機漸く中原に移ろは※。









〔五六九九〕 白薄し

先番 片山泰八三段
勝部健二三段

白三は、前掲定石の如くまづイに走つて、自らの根據を定むるを時すべし。黒四善し。

〔五七〇〇〕 場合による

鹿間千代治四段
先 島村 利博二段

黒既に三。白乃ち、イの切りに備へて四。九までに備へ果合にもよれど先づ互角の分れ。

〔五七〇一〕 白手段面白し

先番 本因坊秀哉名人
土屋 秀元四段

黒六、而る後八に曲りて左右の敵に向ふ。白九善し。黒十、白十一、黒十二。此時白十三急に出て黒十四、三に普通に叩かんとす、乞ふ刮目して待て！

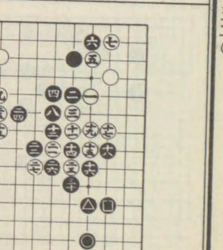
〔五七〇二〕 要點約言

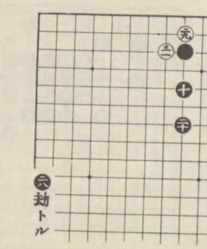
黒五は堅き應けなり。尋で白イ、黒ロとなつて、次に白イ、黒ホ、白ロとなつて、次にニが、白イに於ける最も緊要の點。又白イを黒イ、白ホ、黒ヘとなす。

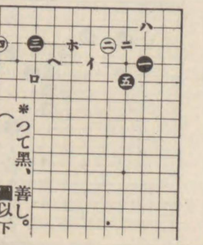
〔五七〇三〕 基本圖

（第五七型ロ）

黒五は前項イの尖みよりは風趣に富み、前途に妙機を想はしむ。佳手なり。







〔五七〇四〕 定石

黒九をイは稍敵に利かされ形、乃ち白イは黒九に拘泥せる拙策、白ロと吐いて黒十一と打ち、黒九に棋錦焉を成す。黒十三と白イ、黒ホ、白ロは